

## 業 績 目 録 集

## 解剖学第一講座

## 〈研究業績〉

## 原 著

1. Colak D, Mori T, Brill MS, Pfeifer A, Falk S, Deng C, Monteiro R, Mummery C, Sommer L and Götz M (2008) Adult neurogenesis requires Smad4-mediated bone morphogenic protein signaling in stem cells. *J Neurosci* 28(2): 434–446
2. Cui Y, Kataoka Y, Inui T, Mochizuki T, Onoe H, Matsumura K, Urade Y, Yamada H and Watanabe Y (2008) Up-regulated neuronal COX-2 expression after cortical spreading depression is involved in non-REM sleep induction in rats. *J Neurosci Res* 86(4): 929–936
3. Yasuo T, Kitaya K, Yamaguchi T, Fushiki S and Honjo H. (2008) Possible role of hematopoietic CD44/chondroitin sulfate interaction in extravasation of peripheral blood CD16(-) natural killer cells into human endometrium. *J Reprod Immunol* 78(1): 1–10
4. Wakabayashi T, Kosaka J, Mori T, Takamori Y and Yamada H (2008) Doublecortin expression continues into adulthood in horizontal cells in the rat retina. *Neurosci Lett* 442(3): 249–252
5. Buffo A, Rite I, Tripathi P, Lepier A, Colak D, Horn A-P, Mori T and Götz M (2008) Origin and progeny of reactive gliosis: A source of multipotent cells in the injured brain. *Proc Natl Acad Sci USA* 105(9): 3581–3586

## 総 説

1. Kitaya K (2008) Accumulation of uterine CD16(-) natural killer (NK) cells: friends, foes, or Jekyll-and-Hyde relationship for the conceptus? *Immunol Invest* 37(5): 467–481

## 学会発表

1. Kitaya K (2008) Natural killer cells at the fetal-maternal interface—what for? 13th World Congress on Advances in Oncology and 11th International Symposium on Molecular Medicine, Heraklion, Crete, Greece
2. 北宅弘太郎, 安尾忠浩 (2008) 卵巣ステロイドのヒト子宮微小血管内皮細胞・遺伝子プロファイルに与える影響. 第53回日本生殖免疫学会, 富山
3. 北宅弘太郎, 安尾忠浩, 本庄英雄 (2008) 卵巣ステロイドがヒト子宮微小血管内皮細胞に与える影響. 第34回免疫カンファレンス, 京都
4. 北宅弘太郎, 本庄英雄 (2008) 卵巣ステロイドのヒト子宮微小血管内皮細胞に与える影響. 第53回日本生殖医学会, 神戸
5. 高森康晴, 森 徹自, 若林毅俊, 山田久夫 (2008) ラット終脳皮質におけるネスチン陽性ミクログリアの同定. 第31回日本神経科学大会, 東京

## 解剖学第二講座

## 〈研究概要〉

聴覚中枢の中継核には興奮性、抑制性作用をもつ様々な神経伝達物質が存在し、互いに作用して多様な機能を発現している。アセチルコリンは主要な神経伝達物質の一つであるが、アセチルコリンおよびその受容体の分布局在は未知な部位も多く、現在も多分野で研究が進められている。Vesicular acetylcholine transporter (VAcHT: 小胞膜アセチルコリントランスポーター) は神経終末で生合成されたアセチルコリンを貯蔵顆粒に取り込む働きがあり、VAcHT抗体を用いた免疫組織化学の解析により、多くの組織

でコリン性入力局在が解明されてきている。私どもは以前の研究で、VACHT抗体を用いた免疫組織化学の結果、橋核には多数のVACHT免疫陽性の瘤状線維が存在すること、VACHT免疫陽性線維は橋核の吻側から尾側まで通して辺縁領域（特に内側、腹側）に高密度に認められ、入力源は両側の脚橋被蓋核と背外側被蓋核であることを報告した。つまり、これらのコリン作動性入力局在が皮質—橋—小脳路を介する運動経路を抑制的に制御していることが示唆された。一方、ムスカリン性アセチルコリン受容体は副交感神経効果器官以外に、神経節、中枢神経系にも豊富に存在して神経伝達に関与しており、m1-m5の5つのサブタイプがある。脳ではm1-m5のすべてのタイプが特異的なパターンで発現している。m1, m3, m5はGq/11タンパク質に共役して作用し、興奮性神経伝達に関与している。m2, m4はGi/Goタンパク質に共役して作用し、抑制性神経伝達に関与している。

今回私どもは脳幹において特に豊富に発現がみられたm2サブタイプ（抑制性神経伝達受容体発現）とm3サブタイプ（興奮性神経伝達受容体発現）の発現をIn situ hybridization法で解析し、VACHT抗体の免疫組織化学によるコリン性入力線維の局在と比較検討した。

8~10週齢の雄性C57BL/6Jマウスを使用した。VACHT抗体による免疫組織化学染色を行い、HRP標識2次抗体を結合し、DAB反応を経て脳幹から大脳皮質を観察した。また、ムスカリン性アセチルコリン受容体のm1-m5サブタイプにそれぞれ特異的な塩基配列をもとにdigoxigenin標識のcRNAプローブを作製し、脳幹から大脳皮質における局在をIn situ hybridization法で解析した。さらに、脳幹において特に豊富に発現がみられたm2サブタイプ（抑制性神経伝達受容体）発現とm3サブタイプ（興奮性神経伝達受容体）発現、およびVACHT抗体の免疫組織化学によるコリン性入力線維の聴覚路における局在を調べ、分布密度を検証した。

橋核ニューロンにはm2ムスカリン受容体mRNAが豊富に存在することが判明した。m2ムスカリン受容体mRNA発現細胞に関してもVACHT免疫陽性線維と同様、橋核の吻側から尾側までを通して辺縁領域（特に内側、腹側）に高密度に認められた。VACHT免疫陽性瘤状線維が豊富に認められた脚橋被蓋核、三叉神経運動核、顔面神経核、舌下神経核、迷走神経背側運動核において、m2ムスカリン受容体mRNA発現細胞が高密度にみられたが、m3ムスカリン受容体mRNA発現細胞はほとんど認められなかった。VACHT免疫陽性線維は大脳皮質聴覚野、内側膝状体、下丘腕核、蝸牛神経腹側核で高密度に認められた。m2ムスカリン受容体mRNA発現細胞は、大脳皮質聴覚野、内側膝状体、下丘腕核、下丘背側核、下丘外側核、蝸牛神経背側核で発現密度が高かった。m3ムスカリン受容体mRNA発現細胞は大脳皮質聴覚野で特に発現密度が高く、内側膝状体、下丘背側核、蝸牛神経背側核でやや発現密度高値を示した。

本研究により、中枢聴覚路におけるコリン性入力線維（VACHT）およびコリン受容体発現細胞における抑制性神経伝達（m2サブタイプ）、興奮性神経伝達（m3サブタイプ）の受容体の発現分布が判明した。これらのコリン作動性入力線維と受容体の分布局在の差異が、多様な聴覚の機能に関与していることが推察される。コリン作動性ニューロンと聴覚との関連に関し、次のような指摘がなされている。認知症では同年代の健常者と比較して聴覚障害が高頻度である。Alzheimer病患者は健常者と比較して純音語音聴力検査では差を認めないものの両耳分離脳検査において有意な低下を認める。高齢難聴者の音楽性幻聴にアセチルコリンエステラーゼ阻害薬が有効である。本研究の結果から、ムスカリン受容体サブタイプに特異的な薬物の聴力に対する作用の解析を経て、聴覚の臨床応用への道筋が考えられる。

## 〈研究業績〉

原著

1. Tsujimoto M, Goto Y, Maruyama M and Hattori A (2008) Biochemical and enzymatic properties of the M1 family of aminopeptidases involved in the regulation of blood pressure. *Heart Fail Rev* 13(3): 285-291

学会発表

1. 有坂尚美, 丸山正人, 服部 明, 辻本雅文 (2008) 点変異導入によるヒト Laeverin の His379 残基の機能解析. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
2. Stefan Trifonov, 宝谷剛志, 濱田聡子, 加瀬政

- 彦, 丸山正人, 杉本哲夫 (2008) Expression of ChAT mRNA splice variants in mouse CNS. 第84回日本解剖学会近畿支部学術集会, 大阪
3. 濱田聡子, 杉本哲夫, 友田幸一, 山下敏夫 (2008) 聴性中継核におけるコリン線維とムスカリン性受容体サブタイプ発現の相関. 第18回日本耳科学会・学術講演会, 神戸
  4. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 丸山正人, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫, 友田幸一, 山下敏夫 (2008) 中枢聴覚路におけるコリン線維とムスカリン性受容体サブタイプ発現の解析. 第26回頭頸部自律神経研究会, 大阪
  5. 有坂尚美, 丸山正人, 服部 明, 辻本雅文 (2008) ヒト Laeverin の酵素学的性状の発現における His379 残基の役割. 病態と治療におけるプロテアーゼとインヒビター学会, 大阪
  6. 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 濱田聡子, 加瀬政彦, 杉本哲夫 (2008) マウス線条体 lateral zone に GAD1 mRNA 発現ニューロンが集中する. 第31回日本神経科学大会, 東京
  7. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2008) 脳幹聴性中継核におけるムスカリン性受容体サブタイプ発現とコリン線維の分布局在. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
  8. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫 (2008) 脳幹のムスカリン性受容体サブタイプ発現 コリン線維との相関. 第113回日本解剖学会総会, 大分
  9. 濱田聡子, 堤 俊之, 山下敏夫, 宝谷剛志, 杉本哲夫 (2008) ムスカリン性受容体とコリン線維の聴覚路局在. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
- 著 書
1. 杉本哲夫, 宝谷剛志 (2008) 脳・脊髄カラーアトラス 原著第2版 1-358頁, エルゼビア・ジャパン, 東京

## 生理学第一講座

### 〈研究概要〉

#### 1) 内向き整流Kチャンネルの整流特性発現の分子機構

内向き整流 K チャンネルの整流特性は, 主に細胞内ポリアミンと Mg による電位依存性ブロックによるが, 細胞内ブロッカーを除いた場合でも, K イオンの平衡電位の 60 mV 正側では, 定常状態での開口が見られなくなり, 電位依存性開閉機構の存在が示唆された (J Physiol 548: 361-371, 2003). 今まで, 内向き整流 K チャンネル (Kir2.1) を通る外向き単一チャンネル電流の検討を, 細胞外 (電極内) K 濃度 150 mM で行ってきたが, K 濃度を 30 mM に減らして, 内因性開閉機構と細胞内ポリアミンによる抑制を検討した. その結果, 細胞内ポリアミンによる抑制は, 平衡電位の移動 (-34 mV) にともない負側に移動し, 駆動力に依存したが, 内因性開閉機構の移動は, -25 mV にとどまり, 同じ駆動力で比較すると, 開確率が高くなることがわかった.

#### 2) 新生ニューロン発達への興奮性制御の影響

新生ニューロンの発達への神経活動の影響を検討するため, 野生型 Kir2.1, 外向き K<sup>+</sup> 電流を増大させた変異型 Kir2.1 (Kir2.1-E224S), ドミナントネガティブ Kir2.1 (Kir-DN), バクテリア由来の開口時間が極めて長い電位依存性 Na<sup>+</sup> チャンネル (NaChBac) を, レトロウイルスベクターを用いて嗅脳と海馬の新生ニューロンに発現させ, その発達への影響を検討した. 新生ニューロンの生存率は, NaChBac の発現により増加し, Kir2.1-E224S の発現によって低下し, 内在性興奮性が新生ニューロン発達を制御する十分条件であることが示めされた. しかし, 野生型 Kir 及び Kir-DN の発現は, Na<sup>+</sup> チャンネルおよび興奮性, 抑制性のシナプス入力 of ホメオスタティックな変化によって興奮性が補償されるため, 新生ニューロンの生存率はほぼ同等であった. 中枢新生ニューロン興奮性の多様で弾力的な補償作用と, 発達への作用が示唆された.

### 3) 海馬における抑制性シナプス伝達の修飾

ラット海馬における抑制性GABA<sub>A</sub>受容体電流の特性を、スライス標品を使用し、パッチクランプ法とカルシウムイメージング法を併用して調べている。まず、抑制性電流の細胞内Ca<sup>2+</sup>動員による修飾について研究し、GABA<sub>A</sub>電流はATPその他のアゴニスト刺激後の細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度上昇によっては影響されず、カフェイン投与のみにより抑制されることを見出した。またこのGABA<sub>A</sub>電流の抑制が細胞内Ca<sup>2+</sup>濃度上昇に依存しないことを示した。さらに、中枢神経の抑制性シナプス情報伝達効率変化について、実験を進めている。幼若期GABA<sub>A</sub>シナプス自発電流は、シナプス後細胞の脱分極によっては一貫した増強・抑制を示さなかった。代謝型グルタミン酸受容体刺激によっては、自発電流の一過性の増強がみられる。現在、これらの修飾の機序について研究中である。

### 4) 内向き整流性Kチャンネルの膵臓導管における分布

膵臓は重炭酸イオンに富む膵液を分泌し、十二指腸に流入する胃酸を中和する。膵臓導管細胞のKチャンネルは重炭酸イオン輸送の駆動力の維持に必須である。我々はラット膵臓導管細胞に内向き整流性Kチャンネル(Kir)の機能発現を認めていた。抗cytokeratin 20および抗CFTRモノクローナル抗体を用いた免疫組織化学法により導管細胞を同定し、Kir2.1, Kir2.2, およびKir2.4蛋白が介在部または小葉内導管細胞に発現することを認めた。これらの分布はKirが重炭酸イオン上皮膜輸送に役割を果たすことを示唆する。

### 5) ミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素膜貫通部位の小胞体残留シグナル

C末端アンカー型膜タンパク質のミクロゾーム型アルデヒド脱水素酵素(ALDH)はC末端側の膜貫通部位(TMD)と細胞質ドメインに小胞体残留シグナルを有する。ALDHのTMD(LQLLLLVCLVAVAAVIV)はゴルジ体に局在するシンタキシン5(Syn5)TMD(IFLILIVFFIIFVVFLS)と同じ長さだが比較的疎水性の低いアミノ酸残基(下線部)が多い。今回、小胞体残留に関与するTMD内のアミノ酸残基の詳細な解析を緑色蛍光タンパク質(GFP)とALDHのTMDとのキメラを用いて試みた。下線を施したアミノ酸残基をLeu(L)に置換したGFPキメラ変異体をCHO細胞に発現させたところ、TMDの2, 8, 11, 14の位置にあるアミノ酸を一つでもLeuに置換した変異体はゴルジ体に移行することがわかった。以上の結果から、これらのアミノ酸残基が小胞体残留に関与すると考えられる。

#### 〈研究業績〉

原著

1. Tominaga-Yoshino K, Urakubo T, Okada M, Matsuda H and Ogura A (2008) Repetitive induction of late-phase LPT produces long-lasting synaptic enhancement accompanied by synaptogenesis in cultured hippocampal slices. *Hippocampus* 18(3): 281-293
2. Okada M and Matsuda H (2008) Chronic lentiviral expression of inwardly rectifying K<sup>+</sup> channels (Kir2.1) reduces neuronal activity and downregu-

lates voltage-gated potassium currents in hippocampus. *Neuroscience* 156(2): 289-297

学会発表

1. 武藤 恵, 松田博子 (2008) サブタイプ特異的な代謝性グルタミン酸受容体を介する細胞内カルシウム動員と海馬抑制性電流の修飾. 第85回日本生理学会大会, 東京
2. 林美樹夫, 松田博子 (2008) ラット膵臓導管細胞に機能発現する内向き整流性K<sup>+</sup>チャンネル. 第85回日本生理学会大会, 東京

## 生理学第二講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Kyuhou S (2008) Preventive effects of genistein on motor dysfunction following 6-hydroxydopamine injection in ovariectomized rats. *Neurosci Lett* 448(1): 10-14
2. 久寶真一 (2008) イソフラボンのパーキンソン病予防効果の検討. 大豆たん白質研究 11: 142-145

総説

1. 玄番央恵 (2008) 認知機能の発現と制御の脳内機序. *J of SJWS* 9(1): 20-45

学会発表

1. Kyuhou S (2008) Preventive effects of isoflavone on motor dysfunctions of the animal model of Parkinson's disease in the postmenopausal period. 8th International Symposium on the Role of Soy in Health Promotion and Chronic Disease Prevention and Treatment, Tokyo
2. Kyuhou S, Amaya Y, Matsuzaki R and Nakao K (2008) Molecular alternations in the motor cortex and behavioral recoveries after hemicerebellectomy in mice. 第31回日本神経科学学会大会, Tokyo
3. 久寶真一 (2008) 大豆イソフラボンによるパーキンソン病予防効果の検討. 第8回エクオール研究会, 大塚製薬株式会社 大阪本部 大会議室

4. Nakamura K, Nakao K and Matsuzaki R (2008) Effects of differently sized or delayed rewards on dorsal raphe neuronal activity in monkeys. 平成20年度 特定領域研究「統合脳」5領域 冬の公開シンポジウム, 合同領域班会議, 一ツ橋学術総合センター
5. 中村加枝 (2008) ドパミン系とセロトニン系における報酬・コスト情報の統合. 平成20年度 特定領域研究「統合脳」5領域 冬の公開シンポジウム, 合同領域班会議, 一ツ橋学術総合センター
6. 久寶真一 (2008) イソフラボンによるパーキンソン病の予防効果. 第6回日本予防医学会学術総会, 東京
7. 市川 純 (2008) ラット骨髄間質細胞のP2Y2受容体活性化による増殖効果と血清. 2008年度生理学研究所研究会「病態と細胞外プリン—治療標的としての可能性を探る」, 岡崎市
8. 中村加枝 (2008) 縫線核による運動制御と意思決定. 日本生理学会 若手の会サマースクール, 東京
9. 久寶真一 (2008) イソフラボンのパーキンソン病予防効果の検討. 第11回不二たん白質研究振興財団研究報告会, 大阪
10. 久寶真一 (2008) 小脳変性モデルマウスにおける神経細胞死のメカニズムと運動機能についての研究. 第8回抗加齢医学学会総会, 東京
11. 中村加枝 (2008) Reward-dependent modulation of neuronal activity in the primate dorsal raphe nucleus. 京都府立医科大学セミナー, 京都

## 医化学講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Watanabe K, Ito S and Yamamoto S (2008) Studies on membrane-associated prostaglandin E synthase-2 with reference to production of 12L-hydroxy-5,8,10-heptadecatrienoic acid (HHT). *Biochem Biophys Res Commun* 367(4): 782-786
2. Katano T, Furue H, Okuda-Ashitaka E, Tagaya

- M, Watanabe M, Yoshimura M and Ito S (2008) N-ethylmaleimide-sensitive fusion protein (NSF) is involved in central sensitization in the spinal cord through GluR2 subunit composition switch after inflammation. *Eur J Neurosci* 27(12): 3161-3170
3. Matsui K, Nishizawa M, Ozaki T, Kimura T, Hashimoto I, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama

- Y, Ito S and Okumura T (2008) Natural antisense transcript stabilizes inducible nitric oxide synthase messenger RNA in rat hepatocytes. *Hepatology* 47(2): 686–697
4. Moriuchi H, Koda N, Okuda-Ashitaka E, Daiyasu H, Ogasawara K, Toh H, Ito S, Woodward DF and Watanabe K (2008) Molecular characterization of a novel type of prostamide/prostaglandin F synthase, belonging to the thioredoxin-like superfamily. *J Biol Chem* 283(2): 792–801
  5. Tanaka H, Uchida Y, Kaibori M, Hijikawa T, Ishizaki M, Yamada M, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> exchanger inhibitor, FR183998, has protective effect in lethal acute liver failure and prevents iNOS induction in rats. *J Hepatol* 48(2): 289–299
  6. Ohnishi T, Okuda-Ashitaka E, Matsumura S, Katano T, Nishizawa M and Ito S (2008) Characterization of signaling pathway for the translocation of neuronal nitric oxide synthase to the plasma membrane by PACAP. *J Neurochem* 105(6): 2271–2285
  7. Uchida Y, Kaibori M, Hijikawa T, Ishizaki M, Ozaki T, Tanaka H, Matsui K, Tokuhara K, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2008) Protective effect of neutrophil elastase inhibitor (FR136706) in lethal acute liver failure induced by D-galactosamine and lipopolysaccharide in rats. *J Surg Res* 145(1): 57–65
  8. Takagi K, Okuda-Ashitaka E, Mabuchi T, Katano T, Ohnishi T, Matsumura S, Ohnaka M, Kaneko S, Abe T, Hirata T, Fujiwara S, Minami T and Ito S (2008) Involvement of stem cell factor and its receptor tyrosine kinase *c-kit* in pain regulation. *Neuroscience* 153(4): 1278–1288
  9. Yoshida H, Kwon AH, Kaibori M, Tsuji K, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Edaravone prevents iNOS expression by inhibiting its promoter transactivation and mRNA stability in cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(2): 105–112
  10. Tokuhara K, Hamada Y, Tanaka H, Yamada M, Ozaki T, Matsui, K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Rebamipide, anti-gastric ulcer drug, up-regulates the induction of iNOS in proinflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(1): 28–36
  11. Habara K, Hamada Y, Yamada M, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Pitavastatin up-regulates the induction of iNOS through enhanced stabilization of its mRNA in pro-inflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(1): 19–27
  12. Yoshida H, Kwon AH, Habara K, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Edaravone inhibits the induction of iNOS gene expression at transcriptional and posttranscriptional steps in murine macrophages. *Shock* 30(6): 734–739
  13. Ishizaki M, Kaibori M, Uchida Y, Hijikawa T, Tanaka H, Ozaki T, Tokuhara K, Matsui K, Kwon AH, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Protective effect of FR183998, a Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> exchanger inhibitor, and its inhibition of OF iNOS induction in hepatic ischemia-reperfusion injury in rats. *Shock* 30(3): 311–317
  14. Miyasou T, Kwon AH, Tsuji K, Qiu Z, Okumura T and Kamiyama Y (2008) Edaravone prevents Fas-induced fulminant hepatic failure in mice by regulating mitochondrial Bcl-xL and Bax. *Shock* 30(2): 212–216
  15. Hijikawa T, Kaibori M, Uchida Y, Yamada M, Matsui K, Ozaki T, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Insulin-like growth factor 1 prevents liver injury through the inhibition of TNF- $\alpha$  and iNOS induction in D-galactosamine and LPS-treated rats. *Shock* 29(6): 740–747
  16. 西澤幹雄, 奥村忠芳 (2008) アンチセンスRNA ふたたび! 生化学 80(8): 747–751
  17. 伊藤誠二 (2008) 疼痛治療の新しいアプローチ 局所麻酔薬と侵害受容器. *日薬理誌* 131(5): 309
- 総説
1. 松村伸治, 阿部哲也, 芦高恵美子, 伊藤誠二

(2008) 【痛みのメカニズムとその制御】 痛みにおけるNOの関与. *Bio Clin* 23(5): 397-403

2. 荘園雅子, 南 敏明, 伊藤誠二 (2008) アクロメリン酸と痛み. *ペインクリニック* 29(3): 351-364

#### 学会発表

1. Ito S, Mabuchi T, Matsumura S, Katano T, Ohnishi T, Kunori S, Okuda-Ashitaka E, Endo H, Nakazawa T and Yamamoto T (2008) Involvement of phosphorylation of NR2B subunit NMDA receptor at Tyr1472 in maintenance of neuropathic pain. The 12th World Congress on Pain, Glasgow, UK
2. Minami T, Soen M, Tatsumi S, Mabuchi T, Shirae A, Furuta K, Suzuki M and Ito S (2008) A synthetic kainoid serves as a novel anti-allodynic agent for neuropathic pain. The 12th World Congress on Pain, Glasgow, UK
3. Ito S (2008) Characterization of signaling pathways for the translocation of neuronal nitric oxide synthase to the plasma membrane by pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP). The 3rd Asian Pain Symposium, Fukuoka
4. Ishizaki M, Kaibori M, Uchida Y, Hijikawa T, Tanaka H, Ozaki T, Tokuhara K, Matsui K, Kwon AH, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Protective effect of FR183998, a Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> exchanger inhibitor, and its inhibition of iNOS induction in hepatic ischemia-reperfusion injury

in rats. American Transplant Congress 2008, Toronto, Canada

5. Ozaki T, Kawaguchi Y, Matsui K, Tokuhara K, Tanaka H, Kitade H, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Effect of IPE roxo, medicinal plant extract, on the induction of inducible nitric oxide synthase in pro-inflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. American Society for Parenteral and Enteral Nutrition Clinical Nutrition Week, Chicago, USA
6. 伊藤誠二 (2008) 慢性疼痛機序解明に向けた基礎的アプローチ. 福岡ペイン(日本ペインクリニック学会第42回大会, 第30回日本疼痛学会), 福岡
7. 徳原克治, 浜田吉則, 田中宏典, 羽原弘造, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2008) 炎症性サイトカインによる肝細胞のiNOS誘導に対する fluvastatin の効果. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
8. 伊藤誠二 (2008) 慢性痛の発生維持機構—治療のための疼痛の分子メカニズム. 第9回近畿緩和医療研究会, 大阪

#### 著書

1. 伊藤誠二, 大西隆之 (2008) 慢性疼痛の発生・維持の機序. 慢性疼痛の理解と医療連携 (宮崎東洋, 北出利勝編) 57-69頁, 真興交易, 東京
2. 片野泰代, 伊藤誠二 (2008) 慢性痛における生化学的变化. 疼痛の理学療法 第2版 (理学療法MOOK 3) (鈴木重行編) 31-40頁, 三輪書店, 東京

## 薬理学講座

### 〈研究業績〉

#### 原著

1. Kanatsu-Shinohara M, Lee J, Inoue K, Ogonuki N, Miki H, Toyokuni S, Ikawa M, Nakamura T, Ogura A and Shinohara T (2008) Pluripotency of a single spermatogonial stem cell in mice. *Biol Reprod* 78(4): 681-687
2. Hattori N, Nakayama Y, Kitagawa K, Ishihara T, Saiki Y and Inagaki C (2008) Anti-prolactin (PRL)

autoantibodies suppress PRL bioactivity in patients with macroprolactinaemia. *Clin Endocrinol (Oxf)* 68(1): 72-76

3. Yang L, Nakayama Y, Hattori N, Liu B and Inagaki C. (2008) GABA<sub>B</sub>-Receptor Stimulation Activates cAMP-Dependent Protein Kinase via A-Kinase Anchoring Protein 220. *J Pharmacol Sci* 106(4): 578-584
4. 服部尚樹, 北川香織, 中山靖久, 稲垣千代子

(2008)【アルツハイマー病の基礎理論と臨床現状と課題】アミロイドβタンパクの神経毒性機構. 日薬理誌 131(5): 326-332

#### 学会発表

1. 中邨智之 (2008) The role of DANCE/fibulin-5 and its cleavage in elastic fiber assembly. 21st FECTS (Federation of European Connective Tissue Societies) meeting, Marseille, フランス
2. 熊正 梅, 北川香織, 稲垣千代子, 中邨智之 (2008) 非毒性アミロイドβ蛋白断片 (Aβ32-34) のアミロイドβ蛋白海馬神経細胞毒性に対する保護効果. 第81回日本薬理学会年会, 横浜
3. 中邨智之 (2008) 弾性線維の劣化が老化を招く!?. 東京テクノ・フォーラム21ゴールド・メダル賞受賞記念講演会, 東京
4. 三宅良平, 竹本剛司, 菅 豊明, 井上唯史, 中邨智之, 楠本健司 (2008) 背部弾性線維腫の2症例およびその分子生物学的検討. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
5. 大谷ひとみ, 安藤性實, 河合健蔵, 荒木宏昌, 稲垣千代子, 中邨智之 (2008) プロテアーゼ活性化受容体1刺激による心筋細胞肥大誘導効果. 第81回日本薬理学会年会, 横浜
6. 中山靖久, 中邨智之 (2008) アミロイドβ/グルタミン酸誘発アポトーシスにおけるAVP4-9のERK1/2およびAkt経路を介する保護作用. 第81回日本薬理学会年会, 横浜
7. 中邨智之, 平井希俊, 堀口真仁, 大林徹也 (2008) LTBP-2はDANCE/fibulin-5と結合して弾性線維形成を調節する. 第81回日本薬理学会年会, 横浜
8. 服部尚樹, 中山靖久, 北川香織, 大谷ひとみ, 中邨智之 (2008) GABA-C受容体による下垂体ホルモン分泌調節. 第81回日本薬理学会年会, 横浜
9. 中邨智之 (2008) 弾性線維形成因子の同定とその応用. JSTイノベーションプラザ京都シーズ発表会, 京都
10. 中邨智之 (2008) 弾性線維形成におけるDANCE/fibulin-5の役割. 第1回FANTASY, 東京
11. 中邨智之 (2008) 弾性線維再生能と老化関連疾患. 血管障害フォーラム, 東京

## 病理学第一講座

### 〈研究概要〉

#### 〈新しい骨髄移植方法による難病の治療〉

我々は種々の難病をアロのBMTにより治療したいと考えて研究して来たが, 最近, マウスを用いて骨髄内骨髄移植法 (“IBM-BMT”) を開発した. この方法をヒトに応用するため, サルを用いてT細胞の混入の少ない灌流法を開発した. この“灌流法”を用いた“IBM-BMT”の特徴は, i) 従来の吸引法では末梢血が混入 (T細胞>20%) するため, GvHDが発症するが, この灌流法ではT細胞も6%以下で, GvHDが発症しない. ii) 間葉系幹細胞 (MSC) も効率良く採取でき, ドナーのMSCを効率良くレシピエントの骨髄内へ移植できるため, 造血能の回復が速やかである. iii) MSCが移植されるため, 放射線量を減量しても生着不全が起らない. 従って, この方法は, 臓器移植にも, 再生医療にも有力な武器となり得る. 実際, 臓器移植では, 皮膚, 脾臓, 心, 肺, 下肢の移植で有効性を確認している. また, 再生医療の面では, 老化促進マウス (SAM) の骨粗鬆症の予防並びに治療にも成功している. この移植方法によって, 従来のBMTでは治療できなかった難病 (肺気腫, 糖尿病等) も治療可能になる.

さらに, 我々は難病中の難病である悪性腫瘍 (癌, 肉腫等) の治療にも, IBM-BMTにドナーリンパ球輸注 (DLI) を併用することによって, GvHDを抑制するが, GvT (移植片対腫瘍) 反応を促進することを発見した.

この新しい移植方法 (灌流法+骨髄内骨髄移植) は, これまでの移植・再生医療を根本的に変える画期的な方法で, あらゆる難病の治療に役立つものと確信する.

以下に, 平成20年 (2008年) の研究等によって得られた, 主な知見を紹介する.

2007年10月に大阪国際会議場で開催されたCOE meeting “Novel BMT Methods for Intractable Diseases: From Benching to Bedside” の内容が、自己免疫の分野では、一番I.F.の高い“J. Autoimmunity”の2008年5月号にSpecial Issueとして掲載された (J. Autoimmun. 30: 108–115, 2008).

ラットを用いて、異所性のアロの心臓移植の系に、骨髄内骨髄移植を併用することによって、1年以上免疫抑制剤も使用せずに、慢性拒絶反応を抑制し、生着させることに成功した (Transplantation 85: 93–101, 2008).

骨髄移植の前処置として、放射線や抗癌剤が用いられるが、これらの副作用として、骨粗鬆症や卵巣機能不全が問題となっている。骨髄内骨髄移植と併用したアロの卵巣の移植は、これらの副作用を予防できることを証明した (Transplantation 84: 1459–1466, 2008).

先天性胆道閉塞症の発症機序として、母親のリンパ球が胎盤を介して、子供に移行し、移植片対宿主病 (GvHD) のように、胆管を破壊するということが病理組織学的に明らかにした (Pediatrics 121: 517–521, 2008).

ヒトで、自己免疫性の膵炎 (AIP) が注目を浴びているが、モデル動物がなくて、解析が進んでいなかったが、WBN/Kob ラットが AIP のモデル動物であることを見出した (Clin. Exp. Immunol. 152: 1–12, 2008).

骨髄内へ末梢のT細胞を注入すると tolerance が誘導されて、GvHD が発症しないことを見出した (Clin. Exp. Immunol. 152: 153–162, 2008). この事実は、骨髄中のストローマ細胞 (主として間葉系幹細胞) が tolerance を誘導している可能性があり、重要な発見である。

超致死量の放射線被爆事故に対しては、造血幹細胞の移植に加えて、新生児期の胸腺移植が有効であることをマウスで明らかにした (Bone Marrow Transplantation 41: 659–666, 2008).

①骨髄細胞 (造血幹細胞+間葉系幹細胞を含む)、②胸腺、③レシピエントの (微小) 環境の3つが異なったマウスの系においても、各々に対して tolerance が誘導されることを証明した。この事実は、将来、脳死者から、高齢者に対して骨髄内骨髄移植をする際、人工流産した第三者の胎児胸腺移植を併用することにより、高齢者の難病治療に役立つ重要な発見である (Transplantation 85 1151–1158, 2008).

ドナー由来の造血系細胞を長期間維持するためには、静脈内移植よりは、骨髄内骨髄移植の方が優れていることを証明した (Stem Cells and Develop. 17: 291–302, 2008). すなわち、“真”の造血幹細胞を同定する、Long-term reconstituting ability (LTRA) の assay には、従来の静脈内移植よりも骨髄内移植を用いる必要があることを意味している。

G-CSF の投与に引き続いて、骨髄内骨髄移植を行うと、アロの骨髄細胞の生着を早めることをマウスで明らかにした (Immunobiology 213: 427–4435, 2008).

骨移植 (ドナーの間葉系幹細胞を補充する目的) と骨髄内骨髄移植の併用はドナーの骨髄細胞の生着を促進することを見出した (Immunobiology 213: 455–468, 2008).

肝移植に骨髄内骨髄移植を併用することによって、アロの肝の長期間の移植に成功した (Stem Cells and Develop. 17: 629–639, 2008).

ヒトと同様にサルでも、造血系の維持には、NCAM が重要であることを明らかにした (Ann. Hematol. 87: 797–807, 2008).

コラーゲン・ゲルに suspend した骨髄細胞を骨髄内に注入することによって、ドナーの造血系の細胞とドナーの間葉系の細胞が骨髄内に、効率よく trap され、造血回復能が促進されることを発見した (Stem Cells 26: 2211–2216, 2008).

骨髄内骨髄移植をすることによって、ドナー由来の間葉系の細胞が胸腺へ移住し、胸腺上皮に分化することを見出した (J. Autoimmunity 31: 408–415, 2008).

骨髄内骨髄移植に成体胸腺移植 (持続的なドナーリンパ球輸注を目的に) を併用することによって、GvHD は抑制するが、強力な抗腫瘍効果を引き出すことができることを発見した (Immunology In press).

骨髄内骨髄移植と成体胸腺移植は、mild な conditioning regimens (低放射線量+低細胞数) でもアロの

骨髓細胞を生着させ、長期の生存を可能とすることを見出した (Bone Marrow Transplantation 43: 829–837, 2008).

### 〈研究業績〉

#### 原著

1. Kato J, Hisha H, Wang XL, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Song CY, Maki M, Hosaka N, Adachi Y, Inaba M and Ikehara S (2008) Contribution of neural cell adhesion molecule (NCAM) to hemopoietic system in monkeys. *Ann Hematol* 87(10): 797–807
2. Cui L, Yoshioka Y, Suyari O, Kohno Y, Zhang X, Adachi Y, Ikehara S, Yoshida T, Yamaguchi M and Taketani S (2008) Relevant expression of *Drosophila* heme oxygenase is necessary for the normal development of insect tissues. *Biochem Biophys Res Commun* 377(4): 1156–1161
3. Ryu T, Hosaka N, Miyake T, Cui W, Nishida T, Takaki T, Li M, Kawamoto K and Ikehara S. (2008) Transplantation of newborn thymus plus hematopoietic stem cells can rescue supralethally irradiated mice. *Bone Marrow Transplant* 41(7): 659–666
4. Iwai H, Baba S, Omae M, Lee S, Yamashita T and Ikehara S (2008) Maintenance of systemic immune functions prevents accelerated presbycusis. *Brain Res* 1208: 8–16
5. Mukaide H, Adachi Y, Taketani S, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Shi M, Yanai S, Yoshioka K, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) FKBP51 expressed by both normal epithelial cells and adenocarcinoma of colon suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma. *Cancer Invest* 26(4): 385–390
6. Tatsumi K, Otani H, Sato D, Enoki C, Iwasaki T, Imamura H, Taniuchi S, Kaneko K, Adachi Y and Ikehara S (2008) Granulocyte-colony stimulating factor increases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair dystrophic heart after bone marrow transplantation. *Circ J* 72(8): 1351–1358
7. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Iwasaki M, Amou Y, Shigematsu A, Koike Y, Minamino K, Mukaide H, Shi M, Yanai S, Matsumura M and Ikehara S (2008) High mortality rate of (NZW x BXSB)F1 mice induced by administration of lipopolysaccharide attributes to high production of tumour necrosis factor-alpha by increased numbers of dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 154(2): 285–293
8. Miyake T, Inaba M, Fukui J, Ueda Y, Hosaka N, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) Prevention of graft-versus-host disease by intrabone marrow injection of donor T cells: involvement of bone marrow stromal cells. *Clin Exp Immunol* 152(1): 153–162
9. Sakaguchi Y, Inaba M, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Ando Y, Uchida K, Okazaki K and Ikehara S (2008) The Wistar Bonn Kobori rat, a unique animal model for autoimmune pancreatitis with extrapancreatic exocrinopathy. *Clin Exp Immunol* 152(1): 1–12
10. Shigematsu A, Adachi Y, Matsubara J, Mukaide H, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Shi M, Yanai S, Imamura M, Taketani S and Ikehara S (2008) Analyses of expression of cytoglobin by immunohistochemical studies in human tissues. *Hemoglobin* 32(3): 287–296
11. Song C, Hisha H, Wang X, Li Q, Li M, Cui W, Guo K, Okazaki S, Mizokami T, Kato J, Cui Y, Feng W, Zhang Y, Shi M, Inaba M, Fan H and Ikehara S. (2008) Facilitation of hematopoietic recovery by bone grafts with intra-bone marrow transplantation. *Immunobiology* 213(6): 455–468
12. Suzuki Y, Adachi Y, Zhang Y, Minamino K, Iwasaki M, Mukaide H, Shi M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Yanai S and Ikehara S. (2008) Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice. *Immunobiology* 213(5): 427–435

13. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2008) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. *Inflamm Bowel Dis* 14(6): 826–838
  14. Takaki T, Hosaka N, Miyake T, Cui W, Nishida T, Inaba M and Ikehara S (2008) Presence of donor-derived thymic epithelial cells in [B6->MRL/lpr] mice after allogeneic intra-bone marrow-bone marrow transplantation (IBM-BMT). *J Autoimmun* 31(4): 408–415
  15. Abraham NG, Li M, Vanella L, Peterson SJ, Ikehara S and Asprinio D (2008) Bone marrow stem cell transplant into intra-bone cavity prevents type 2 diabetes: Role of heme oxygenase-1 and adiponectin. *J Autoimmun* 30(3): 128–135
  16. Ikehara S (2008) A novel method of bone marrow transplantation (BMT) for intractable autoimmune diseases. *J Autoimmun* 30(3): 108–115
  17. Muraji T, Hosaka N, Irie N, Yoshida M, Imai Y, Tanaka K, Takada Y, Sakamoto S, Haga H and Ikehara S (2008) Maternal microchimerism in underlying pathogenesis of biliary atresia: quantification and phenotypes of maternal cells in the liver. *Pediatrics* 121(3): 517
  18. Asada T, Kushida T, Umeda M, Oe K, Matsuya H, Wada T, Sasai K, Ikehara S and Iida H. (2008) Prevention of corticosteroid-induced osteonecrosis in rabbits by intra-bone marrow injection of autologous bone marrow cells. *Rheumatology (Oxford)* 47(5): 591–596
  19. Shi M, Adachi Y, Shigematsu A, Koike-Kiriyama N, Feng W, Yanai S, Yunze C, Lian ZX, Li J and Ikehara S (2008) Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells Suspended in Collagen Gel Retains Injected Cells in Bone Marrow, Resulting in Rapid Hemopoietic Recovery in Mice. *Stem Cells* 26(9): 2211–2216
  20. Verda L, Kim DA, Ikehara S, Statkute L, Bronesky D, Petrenko Y, Oyama Y, He X, Link C, Vahanian NN and Burt RK (2008) Hemopoietic mixed chimerism derived from allogeneic embryonic stem cells prevents autoimmune diabetes mellitus in NOD mice. *Stem Cells* 26(2): 381–386
  21. Okazaki S, Hisha H, Mizokami T, Takaki T, Wang X, Song C, Li Q, Kato J, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) Successful acceptance of adult liver allografts by intra-bone marrow-bone marrow transplantation. *Stem Cells Dev* 17(4): 629–639
  22. Omae M, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Miyake T, Fukui J, Iwai H, Yamashita T and Ikehara S (2008) Long-term maintenance of donor-derived hematopoiesis by intra-bone marrow-bone marrow transplantation. *Stem Cells Dev* 17(2): 291–302
  23. Cui W, Hosaka N, Miyake T, Wang X, Guo K, Cui Y, Li Q, Song C, Feng W, Li Q, Takaki T, Nishida T, Inaba M and Ikehara S (2008) Analysis of tolerance induction using triple chimeric mice: major histocompatibility complex-disparate thymus, hemopoietic cells, and microenvironment. *Transplantation* 85(8): 1151–1158
  24. Guo K, Inaba M, Li M, An J, Cui W, Song C, Wang J, Cui Y, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Ando Y, Li Q, Wang X, Feng W and Ikehara S (2008) Long-Term Donor-Specific Tolerance in Rat Cardiac Allografts by Intrabone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells. *Transplantation* 85(1): 93–101
  25. 津田雅庸, 稲葉宗夫, 中谷壽男, 池原進 (2008) 樹状細胞による顆粒球の活性化. *臨床免疫・アレルギー科* 49(2): 203–209
- 総説
1. 池原進 (2008) 移植と再生の新戦略. *Minophagen Med Rev* 53(2): 129–134
  2. 足立靖, 池原進 (2008) 骨髄移植と腎移植. *日腎会誌* 50(7): 861–863
- 症例報告
1. 津田雅庸, 足立靖, 新宅洋, 下戸学, 矢西正明, 高木孝士, 西田晃久, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 池原進 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌の1剖検例. *診断病理* 25(4): 298–302
  2. 酒井康裕, 足立靖, 植村芳子, 重松明男, 石

明, 矢内勢司, 鷹巢晃昌, 青笹克之, 池原進 (2008) ポリープ様肉眼形態を呈し, 組織学的に follicular colonization が認められた回腸末端 MALT lymphoma の 1 症例. 診断病理 25(2): 88-92

#### 学会発表

1. Hosaka N, Cui W, Song C, Cui Y, Li Q, Nishida T, Takaki T, Inaba M and Ikehara S (2008) Effects of Syngeneic or Allogeneic Intra Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation plus Simultaneous Fetal Thymus Transplantation in Mice Bearing Advanced Tumors. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
2. Nishida T, Hosaka N, Cui W, Takaki T, Inaba M and Ikehara S (2008) Effects of Intra Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation plus Adult Thymus Transplantation on Survival of Mice bearing Leukemia. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
3. Yanai S, Adachi Y, Shi M, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) 骨髄細胞は正常の発育における臓器の発育に寄与しない. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
4. Kato J, Hisha H, Takaki T, Li Q and Ikehara S (2008) Contribution of Neural Cell Adhesion Molecule (NCAM) to Monkey Hemopoietic System (III). 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
5. Li Q, Hisha H, Cui W, Kato J and Ikehara S (2008) Infusion of donor BMCs and blood improves low leukocyte counts in early phase after allogenic BMT, resulting in prevention of infection. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
6. Hosaka N and Ikehara S. (2008) Prolonged Survival of Mice with Advanced Tumors after Syngeneic or Allogeneic Intra-Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation plus Fetal Thymus Transplantation. 第 67 回日本癌学会学術集会, 名古屋
7. Ikehara S (2008) A new BMT method for stem cell disorders. 6th International Congress on Autoimmunity, Portugal
8. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Quan GK, Ikehara S and Okazaki K (2008) Subcutaneous Adipose Tissue-Derived Stem Cells Facilitate Colonic Mucosal Recovery from 2,4,6-Trinitrobenzene Sulfonic Acid (TNBS)-Induced Colitis in Rats. DDW 2008, San Diego, CA, USA
9. Li Q, Hisha H, Takaki T, Song C, Feng W, Cui W, Guo K, Kato J, Maki M, Hosaka N and Ikehara S (2008) Development of Malignant Fibrous Histiocytoma from Mouse Mesenchymal Stem Cells (II). 第 97 回日本病理学会総会, 金沢
10. Song C, Hisha H, Li Q, Cui W, Guo K, Feng W, Kato J and Ikehara S (2008) Facilitating Effects of Intra-Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation (IBM-BMT) Co-grafted with Donor Bones on Hemopoietic Recovery. 第 97 回日本病理学会総会, 金沢
11. 馮偉, 崔雲澤, 李清, 榎政彦, 比舍弘子, 池原進 (2008) Allogeneic Ovarian Transplantation with BMT Prevent Both POF and OP Induced by Irradiation. 第 97 回日本病理学会総会, 金沢
12. Ikehara S (2008) What do we learn from experimental models? 34th Annual Meeting of the European Group for Blood and Marrow Transplantation(EBMT), Italia
13. Ikehara S (2008) Stem cell transplantation for autoimmune diseases and age-associated diseases (including diabetes mellitus). Pisa University (Prof. Antonio L'Abbate), Italia
14. 池原進 (2008) 新しい骨髄移植方法の将来性. 財団法人安田医学財団創立 20 周年記念講演会, 大阪
15. Shi M, Adachi Y, Yanai S, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) コラーゲン・ゲルを用いた骨髄内骨髄移植法は早期の造血回復を誘導する. 第 38 回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
16. 池原進 (2008) サルを用いた新しい骨髄移植法の開発. 第 1 回滋賀医科大学・サルシンポジウム, 滋賀
17. 松永志保, 木下勇一, 李重煥, 濱口記久子, 坂貴司, 足立靖, 鷹巢晃昌, 四方伸明 (2008) 嚢胞様構造を呈した肝カルチノイドの

- 一例. 第47回日本臨床細胞学会, 東京
18. 長岡克也, 大垣日登美, 松本敏夫, 小川 勝, 鷹巢晃昌, 保坂直樹 (2008) 膵癌との鑑別が困難だった自己免疫性膵炎の一例. 第47回日本臨床細胞学会秋季大会, 東京
  19. 津田雅庸, 稲葉宗夫, 下戸 学, 齊藤福樹, 藤原弘佳, 前田裕仁, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 池原 進, 中谷壽男 (2008) 感染初期における免疫応答. 第36回日本救急医学会, 札幌
  20. 池原 進 (2008) 新しい骨髄移植方法の有効性. 鳥取大学医学部附属病院学術講演会, 鳥取
  21. 池原 進 (2008) 新しい造血幹細胞移植技術の開発に関する研究計画. 厚生科学研究造血幹細胞合同班会議, 名古屋
  22. 池原 進 (2008) 新しい骨髄移植方法を用いた難病の治療. 第20回大阪造血幹細胞移植研究会, 大阪
  23. 塚 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 四方伸明, 松永志保, 木下勇一, 濱口記久子, 赤松孝子, 螺良愛郎 (2008) 甲状腺低分化癌の一例. 第49回日本臨床細胞学会, 東京
  24. 足立 靖, 松波光代, 田中喜寿, 松永志保, 塚 貴司, 鷹巢晃昌 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌 (小細胞癌) の一症例. 第49回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 東京
  25. 池原 進 (2008) 新しい骨髄移植方法の有効性. 第7回佐賀造血幹細胞移植フォーラム, 佐賀
  26. Ando Y, Inaba M, Guo K and Ikehara S (2008) Adipose Tissue-Derived Stem Cells Facilitate Colonic Mucosal Recovery in Experimental Colitis Rats. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  27. 加藤順子, 比舎弘子, 李清, 宋 昌曄, 池原進 (2008) サル骨髄由来間葉系幹細胞における神経細胞接着分子 (NCAM) の発現とその造血系への関与. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  28. 高木孝士, 保坂直樹, 崔 文旻, 西田晃久, 池原 進 (2008) 骨髄内骨髄移植 (IBM-BMT) 法による MRL/lpr マウスの自己免疫疾患治療—骨髄細胞由来胸腺上皮細胞 (TEC) の関与—. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  29. 新宅 洋, 足立 靖, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 高木孝士, 池原 進 (2008) 膀胱原発小細胞癌の一部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  30. 西田晃久, 保坂直樹, 崔 文旻, 高木孝士, 稲葉宗夫, 池原 進 (2008) 胸腺移植を併用した骨髄内骨髄移植の利点. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  31. 石 明, 足立 靖, 矢内勢司, 池原 進 (2008) コラーゲン・ゲルを用いた骨髄内骨髄移植法効率の良い骨髄移植を目指して. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  32. 足立靖, 石 明, 矢内勢司, 池原 進 (2008) (NZWxBXSB) F1 マウスにおける樹状細胞の異常. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  33. 榎 政彦, 郭 可泉, 宋 昌曄, 石 明, 大江知里, 酒井田紀子, 植村芳子, 池原 進 (2008) 下痢の後, 急激な敗血症をおこし, 高度の横紋筋融解症をきたして死亡した一部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  34. 矢内勢司, 足立 靖, 榎 政彦, 植村芳子, 坂井田紀子, 石 明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 前立腺原発小細胞癌の1部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  35. 崔 文旻, 保坂直樹, 郭 可泉, 宋 昌曄, 李清, 西田晃久, 高木孝士, 稲葉宗夫, 池原進 (2008) Prolonged survival rate in mice bearing advanced tumor after Syngeneic or Allogeneic-Intra Bone Marrow-Bone Marrow Transplantation plus Fetal Thymus Transplantation. 第97回日本病理学会総会, 金沢
- 著 書
1. 池原 進 (2008) 細胞治療とその適正運用造血幹細胞骨髄内直接移植法の臨床試験体制の確立と実施に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 厚生科学基盤研究分野 再生医療等研究 骨髄, 末梢血等を利用した効率的な造血細胞移植の運用・登録と臨床試験体制の確立並びにドナー及びレシピエントの安全確保とQOL向上に関する研究 平成19年度総括・分担研究報告書 (小寺良尚編) 89-91頁, 小寺良尚, 名古屋

## 病理学第二講座

### 〈研究概要〉

#### I. 妊娠による乳癌抑制の機序解析

MacMahon ら (1970) による広範な疫学的研究によると、初回満期妊娠が若年齢であると生涯の乳癌発症リスクを減少させ、20 未満で満期妊娠を経験した女性は、未産婦に比して乳癌の発症は 1/2 である。この現象はラットにおいても再現され、その機序に関せば経産による乳腺の分化説や体内ホルモンレベルの改変説など種々の仮説が提唱されている。我々は、Lewis ラット経産後乳腺と同週齢未経産乳腺、ならびにそれらに化学発癌剤 (*N*-methy-*N*-nitrosourea; MNU) 処置を施した乳腺を加え、遺伝子発現変異をマイクロアレイ解析により網羅的に検索したところ、経産後乳腺は、未経産乳腺と比較して、乳腺分化関連遺伝子群の発現上昇と、乳腺増関連遺伝子群の発現低下をみとめ、特に MNU 処置後の経産乳腺においては乳腺分化関連遺伝子群 (Wap, Csn2, Csn1, Lbp, GlyCAM1) の発現上昇と増殖遺伝子群 (Areg, Reg3a, Msln, Cdc2a, Igf2, Igfbp4, Stmn1, Msx1) の発現低下をみた (Uehara et al. *Oncol Rep* 15: 903-11, 2006)。増殖関連遺伝子のうち、未産乳腺に比して発現の差が最も顕著であった Msln (メソセリン) に着目して、ヒト Msln 遺伝子強制発現乳癌細胞株を作製したところ、Msln 発現が ERK シグナル経路を介する Bim の発現低下をきたし、接着不全に起因する細胞死 (アノイクシ) の抑制をみた (原著<sup>2)</sup>。よって、ヒト乳腺においても Msln はラットのそれと同様の機能が伺える。ラットにおける経産・未産乳腺の今ひとつの違いは発癌刺激に対する経産乳腺の増殖に対する不応性である。すなわち、Proliferating cell nuclear antigen (PCNA) 陽性細胞数は、MNU 投与後の経産乳腺では、MNU 投与前の経産・未経産乳腺のそれと変化はみなかったが、MNU 投与後の未経産乳腺において顕著な増加をみた。経産ラット乳腺では発癌刺激後も細胞増殖関連酵素である ornithine decarboxylase (ODC) 遺伝子の発現誘導がほとんど起こらない。c-Myc 標的遺伝子である ODC 遺伝子はそのプロモーター領域に 2 つの E-box 配列 (CACGTG) をもっている。E-box に転写促進 Myc-Max 複合体が結合すると ODC 遺伝子の発現がオンに、転写抑制 Mnt/Mad-Max 複合体が結合すると発現がオフになると考えられていた。しかし、発癌刺激後の経産乳腺において histone deacetylase 1 (HDAC1)/c-Myc/Mnt/Max 複合体が形成され、この複合体が c-Myc 標的遺伝子群の発現抑制因子として機能することで細胞増殖が抑制されていることが判明した (原著<sup>1)</sup>。

#### II. 妊娠環境を模倣したエストロゲン/プロゲステロン投与による乳癌抑制

若齢妊娠により乳癌は抑制されるが、昨今未産婦の頻度が増加しており、未産婦に対して妊娠ホルモン環境の作出により乳癌抑制が達成できれば有効な手段と考える。ラットをモデルとしてラットの妊娠期間に相応する 3 週間のエストロゲンとプロゲステロン錠剤の皮下埋没による乳癌抑制を試みるとともにこの領域での広範な文献検索により、安全な実験プロトコルを確立した (総説<sup>1)</sup>。すなわち、若齢 (≦ 3ヶ月) ラットへの妊娠期間に相応する短期 (≦ 3週間) の妊娠レベルのホルモン環境を模倣するエストロゲンとプロゲステロン暴露では乳癌は抑制されるが、≧ 4ヶ月齢以上のラットへの短期暴露では効果はなく、また乳癌の抑制をみるには妊娠ホルモンの暴露期間は 20 週未満に留める必要があることも判明した。

### 〈研究業績〉

原著

1. Matsuoka Y, Fukamachi K, Uehara N, Tsuda H and Tsubura A (2008) Induction of a novel histone deacetylase 1/c-Myc/Mnt/Max complex formation is implicated in parity-induced refractoriness to mammary carcinogenesis. *Cancer Sci*

99(2): 309-315

2. Uehara N, Matsuoka Y and Tsubura A (2008) Mesothelin promotes anchorage-independent growth and prevents anoikis via extracellular signal-regulated kinase signaling pathway in human breast cancer cells. *Mol Cancer Res* 6(2): 186-193

3. 松岡洋一郎 (2008) 経産乳腺の乳癌抵抗性形質にかかわるエピジェネティクスの研究. 中山科学振興財団活動報告書 2007: 33-41
4. 頼彦長, 塚本麗子, 三木克朗, 螺良愛郎 (2008) 高齢雌 Lewis ラットへの妊娠期ホルモン環境を模倣した短期エストロゲンとプロゲステロン処置によるN-methyl-N-nitrosourea誘発乳癌への影響. 乳癌基礎研 17: 11-15

#### 総説

1. Tsubura A, Uehara N, Matsuoka Y, Yoshizawa K and Yuri T (2008) Estrogen and progesterone treatment mimicking pregnancy for protection from breast cancer. *In Vivo* 22(2): 191-201
2. 義澤克彦 (2008) 皮膚毒性-化合物を医薬品にするために必要な安全性試験. 日薬理誌 131(4): 281-286

#### 症例報告

1. Ito Y, Kurokawa I, Nishimura K, Hakamada A, Isoda K, Yamanaka K, Tsubura A and Mizutani H (2008) Keratin and filaggrin expression in keratoacanthoma. *J Eur Acad Dermatol Venereol* 22(3): 353-355
2. Yuri T, Kondo Y, Kohno K, Lei Y-C, Kanematsu S, Kuwata M, Iwasaki T and Tsubura A. (2008) An autopsy case of progressive external ophthalmoplegia with renal insufficiency. *Med Mol Morphol* 41(4): 233-237
3. Yuri T, Yamazaki F, Takasu K, Shikata N and Tsubura A (2008) Glomeruloid hemangioma. *Pathol Int* 58(6): 390-395

#### 学会発表

1. Tsubura A (2008) Protective/risk factors of breast cancers and its biological roles. Workshop on Radiation Risk of Breast Cancer: what can/should we do in the future? Radiation Effects Research Foundation, Hiroshima, Japan
2. Lai Y-C, Yuri T, Uehara N, Matsuoka Y, Kanematsu S and Tsubura A (2008) Effects of short-term treatment with estrogen and progesterone mimicking pregnancy on development of MNU-induced mammary carcinomas in aged female

Lewis rats. The 26th IABCR, Kurashiki, Japan

3. Matsuoka Y, Uehara N, Yuri T and Tsubura A (2008) Induction of a novel histone deacetylase 1/c-Myc/Mnt/Max complex formation is implicated in parity-induced refractoriness to mammary carcinogenesis. The 26th IABCR, Kurashiki, Japan
4. Takeda Y, Shimizu M, Sakae M, Yoshimoto T, Morimoto J, Matsuzawa A, Yanagie H and Tsubura A (2008) Induction of antitumor effect with Fas ligand (CD95L) by intra-tumor injection of FasLDNA/polycation complexes aiming at application to gene therapy of breast cancer. The 26th IABCR, Kurashiki, Japan
5. 上原範久, 兼松清果, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2008) ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤による Skp2, Cks1 発現制御と p27 の安定化. 第31回日本分子生物学会, 神戸
6. 松永志保, 木下勇一, 李重煥, 濱口記久子, 塚貴司, 足立靖, 鷹巣晃昌, 四方伸明 (2008) 嚢胞様構造を呈した肝カルチノイドの一例. 第47回日本臨床細胞学会, 東京
7. 黒川一郎, 山中恵一, 磯田憲一, 水谷仁, 螺良愛郎, 木村鉄宣 (2008) 毛母腫における上皮性ケラチン, フィラグリン発現とその意義免疫組織化学的研究. 第59回日本皮膚科学会中部支部大会, 名古屋
8. 塚貴司, 横井崇, 頼彦長, 鷹巣晃昌, 螺良愛郎 (2008) 癌腫ならびに肉腫成分の形態学的・免疫組織化学的検討. 第40回日本臨床分子形態学会, 福岡
9. Uehara N and Tsubura A (2008) Molecular mechanisms of suberoylanilide hydroxamic acid-induced G2/M arrest in human breast cancer (MDA-MB-231) cells. 第67回日本癌学会, 名古屋
10. 四方伸明, 頼彦長, 螺良愛郎 (2008) 妊娠期を模倣する短期エストロゲン/プロゲステロン処置によるラット乳腺脂肪酸組成の変動. 第17回日本脂質栄養学会, 大阪
11. 螺良愛郎 (2008) 脂肪酸の腫瘍や視覚におよぼす影響の実験的検証. 第17回日本脂質栄養学会, 大阪
12. 頼彦長, 塚貴司, 兼松清果, 桑田満喜, 螺

- 良愛郎 (2008) 高齢期での妊娠を模倣する短期エストロゲン／プロゲステロン処置による乳癌発生への影響. 第18回乳癌基礎研究会, 福島
13. 塚 貴司, 足立 靖, 鷹巣晃昌, 四方伸明, 松永志保, 木下勇一, 濱口記久子, 赤松孝子, 螺良愛郎 (2008) 甲状腺低分化癌の一例. 第49回日本臨床細胞学会, 東京
14. 兼松清果, 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2008) Sulforaphane の乳癌細胞増殖抑制・細胞死における機序. 第97回日本病理学会, 金沢
15. 松岡洋一郎, 上原範久, 塚 貴司, 螺良愛郎 (2008) 経産乳腺の発癌刺激低感受性に関する研究. 第97回日本病理学会, 金沢
16. 上原範久, 兼松清果, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2008) ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の乳癌細胞増殖抑制機序と p38MAPK 活性化の関与. 第97回日本病理学会, 金沢
17. 頼 彦長, 塚 貴司, 上原範久, 松岡洋一郎, 螺良愛郎 (2008) 若年期短期エストロゲン／プロゲステロン処置によるラット乳腺脂肪酸組成の変動. 第97回日本病理学会, 金沢
18. 塚 貴司, 兼松清果, 頼 彦長, 螺良愛郎 (2008) MNU 誘発ラット乳癌前癌病変の短期エストロゲン投与による修飾作用. 第97回日本病理学会, 金沢

## 病理解剖

### 〈研究業績〉

原著

1. Kato J, Hisha H, Wang XL, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Song CY, Maki M, Hosaka N, Adachi Y, Inaba M and Ikehara S (2008) Contribution of neural cell adhesion molecule (NCAM) to hemopoietic system in monkeys. *Ann Hematol* 87(10): 797-807

学会発表

1. 松永志保, 木下勇一, 李 重煥, 濱口記久子, 塚 貴司, 足立 靖, 鷹巣晃昌, 四方伸明 (2008) 嚢胞様構造を呈した肝カルチノイドの一例. 第47回日本臨床細胞学会, 東京
2. 槇 政彦, 郭 可泉, 宋 昌曄, 石 明, 大江知里, 坂井田紀子, 植村芳子, 池原 進 (2008) 下痢の後, 急激な敗血症をおこし, 高度の横

紋筋融解症をきたして死亡した一部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢

3. 馮 偉, 崔 雲澤, 李 清, 槇 政彦, 比舍弘子, 池原 進 (2008) Allogeneic Ovarian Transplantation with BMT Prevent Both POF and OP Induced by Irradiation. 第97回日本病理学会総会, 金沢
4. 矢内勢司, 足立 靖, 槇 政彦, 植村芳子, 坂井田紀子, 石 明, 鷹巣晃昌, 池原 進 (2008) 前立腺原発小細胞癌の1部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
5. 李 清, 比舍弘子, 高木孝士, 宋 昌曄, 馮偉, 崔 文昊, 郭 可泉, 加藤順子, 槇 政彦, 保坂直樹, 池原 進 (2008) Development of Malignant Fibrous Histiocytoma from Mouse Mesenchymal Stem Cells. 第97回日本病理学会総会, 金沢

## 微生物学講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Nitta T, Tanaka M, Sun B, Sugihara E, Kimura M, Kamada Y, Takahashi H, Hanai S, Jiang SW, Fujisawa J and Miwa M. (2008) Reduction of human T-cell leukemia virus type-1 infection in mice lacking nuclear factor-kappaB-inducing kinase. *Cancer Sci* 99(5): 872-878
2. Matsui K, Nishizawa M, Ozaki T, Kimura T, Hashimoto I, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2008) Natural antisense transcript stabilizes inducible nitric oxide syn-

these messenger RNA in rat hepatocytes. *Hepatology* 47(2): 686-697

3. Dewan MZ, Takamatsu N, Hidaka T, Hatakeyama K, Nakahata S, Fujisawa J, Katano H, Yamamoto N and Morishita K (2008) Critical role for TSLC1 expression in the growth and organ infiltration of adult T-cell leukemia cells in vivo. *J Virol* 82(23): 11958-11963
4. Yoshida M, Satou Y, Yasunaga JI, Fujisawa JI and Matsuoka M (2008) Transcriptional control of spliced and unspliced human T-cell leukemia virus type 1 bZIP factor (HBZ) gene. *J Virol* 82(19): 9359-9368
5. Iwanaga R, Ozono E, Fujisawa J, Ikeda MA, Okamura N, Huang Y and Ohtani K (2008) Activation of the cyclin D2 and cdk6 genes through NF- $\kappa$ B is critical for cell-cycle progression induced by HTLV-I Tax. *Oncogene* 27(42): 5635-5642

#### 学会発表

1. Miwa M, Watase J, Tsuda M, Musiaki M, Tanaka K, Yamada M, Tanaka M, Fujisawa J-I and Ohta E (2008) Inhibitor of polyADP-ribosylation induces chromosomal aneuploidy through abnormal centrosome amplification. 17<sup>th</sup> International Symposium on Poly(ADP-ribosylation), Loews Ventana Canyon Resort, Tucson, Arizona, USA
2. 西山利正, 三島伸介, 神田靖士, Somme P, Phanasin S, Viensavanh P, 藤澤順一 (2008) 尿による活動性結核診断法の確立—ラオスによるフィールド トライアル—. 大阪府感染症流行予測調査会, 大阪
3. 藤澤順一, 荀 潤澤, 手塚健太, 巽 理恵, 三輪正直, 田中正和 (2008) HTLV-1感染ヒト化マウスモデルにおける感染T細胞の動態. 第1回HTLV-1研究会・合同班会議, 東京
4. 田中正和, 小西智子, 鄭 真美, 三輪正直, 藤澤順一 (2008) マウス *in vivo* 感染系におけるHTLV-1の感染細胞特異性. 第1回HTLV-1研究会・合同班会議, 東京
5. 蔣 時文, 田中正和, 藤澤順一 (2008) 転写補助因子TORC2を介したHTLV-1の個体内発現制御機構. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 岡山
6. 手塚健太, 田中正和, 荀 潤澤, 三輪正直, 藤澤順一 (2008) HTLV-1感染ヒト化マウスモデルにおける感染T細胞の脊髄浸潤. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 岡山
7. 鄭 真美, 田中正和, 小西智子, 川津祐介, 長谷川翔, 手塚健太, 津田洋幸, 三輪正直 (2008) HTLV-1感染におけるラクトフェリンの免疫活性効果. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 岡山
8. 長谷川翔, 田中正和, 足立 靖, 蔣 時文, 池原 進, 三輪正直, 藤澤順一 (2008) Tax発現EL4細胞移植マウスモデルにおける骨髄内骨髄移植療法の検討. 第56回日本ウイルス学会学術集会, 岡山
9. 田中正和, 荀 潤澤, 巽 理恵, 手塚健太, 長谷川翔, 三輪正直, 藤澤順一 (2008) HTLV-1感染 SCID-hu マウスにおけるCD4+CD25+ ヒトTリンパ球増大. 第67回日本癌学会学術総会, 名古屋
10. 津田雅貴, 田中正和, 藤澤順一, 太田恵美 (2008) DNA損傷がない条件下において, ポリADP-リボシル化阻害は中心体増幅を引き起こす. 第67回日本癌学会学術総会, 名古屋
11. 鄭 真美, 田中正和, 小西智子, 川津祐介, 長谷川翔, 手塚健太, 津田洋幸, 三輪正直, 藤澤順一 (2008) ラクトフェリンによるHTLV-1感染抑制効果. 第61回日本細菌学会関西支部総会, 京都
12. 田中正和, 鄭 真美, 小西智子, 河津祐介, 長谷川翔, 手塚健太, 津田洋幸, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) ラクトフェリンによるHTLV-1感染抑制効果. 第3回ラクトフェリンフォーラム, 東京
13. 虫明正敏, 田中浩司, 津田雅貴, 田中正和, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) ポリADP-リボシル化の阻害と中心体, 染色体との関係. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
14. 山田真生, 田中正和, 中山啓子, 中山敬一, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) DNA損傷による中心体増幅を起こす経路の特定. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
15. 川津祐介, 田中正和, 小西智子, 長谷川翔, 鄭

- 真美, 梶村春彦, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) HTLV-1 感染での放射線照射における腫瘍発生のメカニズムについて. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
16. 小西智子, 田中正和, 川津祐介, 鄭 真美, 手塚健太, 長谷川翔, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) HTLV-1 感染マウス感染細胞のクローン増殖性について. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
17. 田中浩司, 田中正和, 藤澤順一, 三輪正直 (2008) レトロウイルス感染におけるポリADP-シボシル化酵素 (PARP) の関与について. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸

## 衛生学講座

### 〈研究概要〉

衛生学講座は大学院医学研究科先端医療学専攻修復医療応用系で幹細胞生物学を担当している。このため幹細胞生物学に基づいて、主としてヒトの骨髄あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞を用いるトランスレーショナルリサーチの展開を目指している。さらに、これらの基礎的研究成果を近い将来に細胞治療・再生医療、免疫療法に応用することで予防医学に貢献したいと考えている。

#### 1) ヒト臍帯血由来CD34抗原陰性造血幹細胞の同定とその幹細胞特性の解明に関する研究

最近、私達の研究グループは、独自に開発した骨髄腔内直接移植 (Intra-bone marrow injection, IBMI) 法を応用することにより、非常に効率的なヒト未分化造血幹細胞 (HSC) の同定法である SCID-repopulating cell (SRC) 測定系を開発した。本法を用いることにより、ヒト臍帯血中に極めて少数存在する CD34 抗原陰性造血幹細胞 (CD34<sup>-</sup>HSC) の確実な同定に世界に先駆けて成功した (Blood 101: 2924-2931, 2003)。さらに、この CD34<sup>-</sup>SRC が、*in vivo* における高い自己複製能と増殖能・遊走能を保持していることを明らかにしている (Int J Hematol 79: 328-333, 2004)。重要な発見は、従来、未分化な HSC に作用すると報告されていた stem cell factor, flt3 ligand のチロシンキナーゼ受容体である c-kit, flt3 が、われわれが同定した CD34<sup>-</sup>SRC には発現していないことを明らかにしたことである (Blood 106(11): 235a, 2005)。以上の研究により、現時点でヒトの最も未分化な HSC の免疫特性は、Lin<sup>-</sup>CD45<sup>low</sup>CD34<sup>-</sup>c-kit<sup>+</sup>flt3<sup>+</sup> と考えられた (Stem cells 25: 1348-1355, 2007; J Autoimmunity 30: 136-144, 2008)。

その後の研究で、従来未分化 HSC とされていた CD34<sup>+</sup>CD38<sup>-</sup>HSC と CD34<sup>-</sup>HSC の未分化性について NOG マウスを用いる長期骨髄再構築実験系で検討した。その結果、われわれが同定した CD34<sup>-</sup>HSC がより未分化であることが示唆された (投稿中)。

#### 2) ヒト骨髄あるいは臍帯血に由来する組織幹細胞 (TCSC) の同定とその機能解析に関する研究

ヒト骨髄あるいは臍帯血中には、HSC だけでなく間葉系幹細胞 (MSC)、あるいは多能性をもつ既知、未知の TCSC が存在している。われわれは、磁気ビーズ法や FACS を駆使することにより、ヒトの骨髄や臍帯血中に存在する多能性の TCSC の同定・純化法の開発・確立に取り組んできた。

その過程で、ヒト臍帯血由来単核細胞を type I コラーゲン処理した培養皿中で EGM2 培地を加えて 1~2 週間培養し、cobblestone 様の late EPC (OEC) のコロニーを同定した。本細胞は、CD31, KDR, CD34 抗原陽性で LDL-uptake, lectin 結合能を示したことから OEC と確認された。これまでの研究で、IL-8 が OEC の migration 能や、matrigel 中での tube formation 等の機能を促進することを明らかにしている (投稿中)。

加えて、ヒト骨髄あるいは臍帯血中に存在する未知の TCSC の同定とその機能解析を目指す研究を継続している。

### 3) 骨髓腔内直接移植法による新規マウス造血幹細胞の探索研究

ヒト臍帯血Lin<sup>-</sup>CD34<sup>+</sup>細胞 (CD34<sup>+</sup>SRC) は、強いSCID-repopulating cell (SRC) 活性を有しCD34<sup>+</sup>SRCを産生することから、今後の移植・再生医療の素材として有望である。CD34<sup>+</sup>SRCはCD34<sup>+</sup>SRCと異なり、c-kit, Flt3/Flk2を発現せず、SDF-1不応性であり、骨髓腔内直接移植 (Intra-bone marrow injection: IBMI) 法によってのみマウス骨髓に生着する。このような特性を持つマウス造血幹細胞 (HSC) の存在は過去に報告されていない。われわれは、ヒトCD34<sup>+</sup>SRCに対応するマウスHSCを探索するとともに、その特性を明らかにすることにより、希少な集団であるヒトCD34<sup>+</sup>SRCの特性解明に役立てることを目指している。また、HSCの経静脈的骨髓生着にはSDF-1/CXCR4やSCF/c-kitシグナル系が重要な役割を果たすと考えられており、これら受容体活性の有無は一般的にHSC活性の有無と関連付けて考えられている。しかしながら、前述したようにヒトCD34<sup>+</sup>SRCはSDF-1不応性であることから、これらの受容体の存在意義について改めて検討を加える必要がある。われわれは、マウスHSCと考えられているKSL (c-kit<sup>+</sup>Sca-1<sup>+</sup>Lin<sup>-</sup>) 細胞を用いてCXCR4受容体発現の変化について検討し、KSL細胞におけるCXCR4の発現レベルが低いことを明らかにしつつある。

### 4) 樹状細胞によるTヘルパー応答制御機構の解明と免疫疾患新規治療法の開発研究

癌、自己免疫疾患、アレルギー性疾患、移植拒絶を中心とするヒトの疾患を予防・診断・治療することを目的に、免疫系の活性化および制御機構の解明と人為的コントロールを目指した基盤技術の構築を目指す研究を行ってきた。上記疾患には国民のQOLを低下させるものから重篤な場合には死に至るものまである。このような疾患について、これまでに深められてきた分子・細胞レベルにおける免疫機構や制御に関する理解を個体レベルの高次調節免疫ネットワークシステムの理解へと発展させ、臨床応用へと繋いでいきたい。平成20年度は、NKT細胞機能、および免疫制御の中心的役割を担う樹状細胞の抗腫瘍拒絶応答、自己免疫応答、およびアレルギー応答における役割と獲得免疫系との連携メカニズムを明らかにしてきた。具体的には、①内分泌系が樹状細胞機能に及ぼす影響の解析 (アレルギー応答)、②妊娠維持における脱落膜NKT細胞の役割の解明 (移植拒絶制御)、③NKT細胞と樹状細胞の相互作用による免疫制御機構の解明 (抗腫瘍・自己免疫制御) である。特に③においては、ヒトNKT細胞の主要な2つのサブセットのバランスが、樹状細胞を介してT細胞の免疫応答性を制御していることが明らかとなっており、移植片対宿主病、抗腫瘍拒絶応答、炎症性腸疾患、自己免疫疾患を制御する新たな医療技術の開発へと発展させていきたい。

### 5) 食餌制限動物におけるストレス耐性増強機序の解明に関する研究

実験動物において、食餌制限がストレス耐性の増強効果を示すことが知られている。食餌制限のin vitroモデルとして、48時間絶食したラットから調製した血清存在下で培養した細胞を用いて、絶食がストレス関連遺伝子の発現調節機能に及ぼす影響について検討を加えた。絶食ラット血清で培養した細胞において、各種熱ショックたんぱく質 (HSP70, HSP27, HSP60, HSP90) 遺伝子の熱ショックによる発現誘導率が自由摂取群ラット血清で培養した細胞に比べて上昇し、それに伴い細胞の熱耐性が増強されることを見出した。これらの結果、短期絶食による各種熱ショックたんぱく質遺伝子の発現誘導率上昇が、食餌制限動物におけるストレス耐性増強のメカニズムの一部である可能性が示唆された。

#### <研究業績>

##### 総説

1. Sonoda Y (2008) Immunophenotype and functional characteristics of human primitive CD34-

negative hematopoietic stem cells: The significance of the intra-bone marrow injection. J Autoimmunity 30: 136-144

2. 園田精昭 (2008) 幹細胞—基礎から臨床応用

まで一造血幹細胞の基礎と応用 造血幹細胞の骨髄内移植法-その臨床的意義-. 最新医学 63(12): 2311-2317

#### 学会発表

1. Sonoda Y (2008) Functional characteristics of human primitive CD34-negative hematopoietic stem cells: The significance of the intra-bone marrow injection. Hematology Conference, Louisville, KY, U.S.A.
2. 金子裕人, 山下美穂子, 大城宗生, 松本洋典, 野村憲一, 堀池重夫, 横田昇平, 谷脇雅史, 木村貴文, 藪田精昭, 大川原康夫 (2008) 高リスク群回腸原発びまん性大細胞型 B リンパ腫に対する自己抹消血幹細胞移植. 第30回日本造血細胞移植学会総会, 大阪
3. 佐々木豊, 松岡由和, 長谷 真, 藪田精昭 (2008) マウス造血幹細胞に対するSDF-1の作用機構の解析. 第18回日本サイトメトリー学会総会シンポジウム, 東京
4. 藪田精昭 (2008) ヒト造血幹細胞の本体はどこまで解明されたのか?—骨髄内直接移植法の臨床的意義について—. 第1回 Lymphoma Club 特別講演, 堺
5. 木村 卓, 松岡由和, 村上真理, 長谷 真, 佐々

木豊, 福原資郎, 藪田精昭 (2008) 臍帯血由来血管内皮前駆細胞の同定とその機能解析. 第70回日本血液学会総会, 京都

6. 河野比良夫, 石原敬康, 甲田勝康, 藪田精昭 (2008) 食餌制限の in vitro モデル: 短期絶食による各種ストレス関連遺伝子の発現誘導. 第78回日本衛生学会総会, 熊本
7. 浅田留美子, 藪田精昭 (2008) ヒト CD34 抗原陰性 (CD34-) 造血幹細胞 (HSC) の特性解明: CD34-HSC は NOD/SCID マウス骨髄内で自己複製しているか. 21世紀COEプログラム研究拠点事業 平成20年度研究成果発表会, 大阪
8. 松岡由和, 佐々木豊, 長谷 真, 木村 卓, 村上真理, 藪田精昭 (2008) 骨髄腔内直接移植法を用いる c-Kit 陰性マウス造血幹細胞の同定とその特性解明. 21世紀COEプログラム研究拠点事業 平成20年度研究成果発表会, 大阪

#### 著 書

1. Sonoda Y (2008) The use of bone marrow transplantation to treat autoimmune disease. Immunophenotype and functional characteristics of human primitive CD34-negative hematopoietic stem cells: The significance of the intra-bone marrow injection. pp 136-144, Elsevier Ltd.

## 公衆衛生学講座

### 〈研究業績〉

#### 原 著

1. Tamada Y, Kanda S, Suzuki H, Tajima T, Nishiyama T (2008) A pseudohypoparathyroidism type Ia patient with normocalcemia. *Endocr J* 55(1): 169-173
2. Hosomi R, Matsuda Y, Watanabe Y, Fukunaga K, Yoshida M (2008) Effect of Dietary Oyster Extract on the p-aminophenol-induced Nephrotoxicity in Rats. *Trace Nutrients Research* 25: 91-95
3. 山中 裕, 三宅真理, 仁木 稔, 西山利正, 田嶋佐和子, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 穰 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後の IT による遠隔セ

ルフモニタリングと支援の効果. *日遠隔医療学会誌* 4(2): 348-350

4. 吉田宗弘, 八木弘子, 石黒麻里子, 細見亮太, 福永健治, 堤 和弘, 上田康弘, 西山利正, 数岡孝幸, 館 博, 安藤達彦, 穂坂賢 (2008) 醗酵黒大豆飲料投与による血清および肝臓脂質濃度の減少. *日健医会誌* 17(1): 3-7

#### 総 説

1. 濱田篤郎, 古賀才博, 打越暁, 福島慎二, 野村美智江, 奥沢英一腸 (2008) チフスワクチンおよび髄膜炎菌性髄膜炎ワクチンの使用経験. *海外勤務と健康* 27: 46-49
2. 古賀才博 (2008) 日本の海外進出企業の新型インフルエンザ対策. *産業保健* 21 14(1): 6-8

3. 石田高明 (2008) くらべてみよう 123 日焼け (サンバーンとサンタン). 表面技術 59(4): 245-246
4. 鈴木順一, 淵岡 聡, 林 義孝 (2008) 下腿切断者の義足と理学療法. 理学療法 25: 924-932
5. 三宅真理, 高橋伸佳, 日根かがり, 木下藤寿, 田嶋佐和子, 木村穰, 仁木稔, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズムからみた生活習慣病対策. 臨スポーツ医 25(2): 147-155
6. 西山利正, 三島伸介, 阿保宏, Lamaningao Pheopphet (2008) 【医師として知っておきたい Travel Medicine】海外旅行と感染症 狂犬病. 臨と研 85(9): 1247-1250
7. 古賀才博 (2008) 日本の海外進出企業の新型インフルエンザ対策. 労働の科学 63(12): 709-713
- 生物学会年会 第81回日本生化学学会大会合同大会, 神戸
6. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 斉藤一郎, 西山利正 (2008) 聴覚伝導路 (下丘) における組織幹細胞の同定. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学学会大会合同大会, 神戸
7. 三宅真理, 高橋伸佳, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 山中 裕, 木村 穰, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」の効果の検討. 日本行動療法学会第34回大会, 東京
8. 三島伸介, 西山利正, 天野博之, Phounsavath Somphone, Sylavanh Phannasinh, 宮城 啓, Xaypangna Thonelakhanh, Phanmanivong Viengsavah, 神田靖士, Lamaningao Pheopphet (2008) ラオス人民民主共和国における僻地農民に対する健康実相調査—カムワン県ボラパー郡の住民を対象に. 第49回日本熱帯医学会大会・第23回日本国際保健医療学会学術大会, 東京
9. 三島伸介, 西山利正, 天野博之, Phounsavath Somphone, Sylavanh Phannasinh, 宮城 啓, Xaypangna Thonelakhanh, Phanmanivong Viengsavah, 神田靖士, Lamaningao Pheopphet (2008) ラオス人民民主共和国における僻地農民に対する健康実相調査—カムワン県ボラパー郡の住民を対象に. 第49回日本熱帯医学会大会・第23回日本国際保健医療学会学術大会, 東京
10. 山本加奈子, 天野博之, Banovong Virasac, Phanmanivong Viengsavah, Phounsavath Somphone, 西山利正 (2008) ラオス国における腸管寄生虫実相調査—全国一斉投薬の効果と今後の課題—. 第49回日本熱帯医学会大会・第23回日本国際保健医療学会学術大会, 東京
11. 上田照子, 荒井由美子, 西山利正 (2008) 在宅要介護高齢者における息子による虐待の実態とその要因. 第67回日本公衆衛生学会総会, 福岡
12. 山中 裕, 三宅真理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 穰, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後のITによる遠隔セ

## 学会発表

1. Lamaningao Pheopphet, 曾根和枝, Akkhavong Somcit, Bilakoun Sengthong, 杉浦康夫, 西山利正 (2008) ラオスにおける村の健康改善の道具として「健康記録ノート」. 第49回日本熱帯医学会大会・第23回日本国際保健医療学会学術大会, 東京
2. Miyake M, Rock A, Tajika A, Hozu S and Nishiyama T (2008) Evaluation of Diversional Therapy with Sleep-Wake Assessment of Aged Persons Using Actigraphy. The 7th World Congress on Aging and Physical Activity, 筑波
3. Fukunaga K, Hosomi R, Arai R, Nishiyama T and Yoshida M (2008) Effect of Dietary Fish Protein and Lipid on Plasma Lipid Metabolism in Rats. 99th American Oil Chemists' Society Annual Meeting & Expo, Seattle USA
4. Ooka H, Kanda S, Suzuki H, Nishiyama T and Yamasita T (2008) Identification of Tissue Specific Stem/progenitor Cells in Auditory Pathway. 31st Association for Research in Otolaryngology (ARO), Arizona, USA
5. 居原田安奈, 辻 章志, 蓮井正史, 神田靖士, 西山利正, 金子一成 (2008) TおよびBリンパ球から産生される一酸化窒素の特発性ネフローゼ症候群発症への影響. 第31回日本分子

- ルフモニタリングと支援の効果. 日本遠隔医療学会学術大会, 東京
13. 渡邊寛児, 弘原海剛, 三宅真理, 渡辺一志 (2008) テレビゲーム形式のリズム運動の有用性に関する研究. 第63回日本体力医学会大会, 別府
  14. 細見亮太, 福永健治, 西山利正, 吉田宗弘 (2008) ラットのコレステロール代謝に及ぼす魚肉タンパク質および魚肉ペプチド給餌の影響. 日本脂質栄養学第17回大会, 大阪
  15. 三島伸介, 石田高明, 天野博之, 伊藤 誠, 木村英作, 西山利正 (2008) 末梢血厚層塗抹法にてマイクロフィラリアを検出したロア糸状虫症の1例. 第19回日本臨床寄生虫学会, 京都
  16. 古賀才博, 西山利正, 濱田篤郎 (2008) 海外進出企業の新型インフルエンザ対策に関する追跡調査. 第81回日本産業衛生学会, 札幌
  17. 大岡久司, 神田靖士, 西山利正, 山下敏夫 (2008) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
  18. 西山利正 (2008) 外国人旅行者を対象とした医療の問題点. 第1回訪日外国人の医療と医療通訳を考えるシンポジウム, 東京
  19. 細見亮太, 松田芳和, 渡辺祥典, 福永健治, 吉田宗弘 (2008) ラット薬物性腎障害に及ぼすカキ肉エキス給餌の影響. 第25回微量栄養素研究会シンポジウム, 京都
  20. 野村卓生, 灰方淑恵, 中尾聡志, 伊藤健一, 淵岡 聡, 奥田邦晴, 林 義孝 (2008) 理学療法士養成校における切断者リハビリテーション教育の現状と課題. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
  21. 淵岡 聡, 樋口由美, 逢坂伸子, 奥田邦晴, 林 義孝 (2008) 地域住民参加による介護予防事業の効果について. 第43回日本理学療法学術大会, 福岡
  22. 野村卓生, 灰方 恵, 伊藤健一, 淵岡 聡, 奥田邦晴, 林 義孝 (2008) 糖尿病性壊疽の切断後のリハビリテーションに関する現状と理学療法教育: 義肢装具制作会社および理学療法士養成校の調査からの分析. 第43回日本理学療法学術大会, 福岡
  23. 岩田 晃, 増原光彦, 淵岡 聡, 奥田邦晴 (2008) ラット筋挫傷後の筋組織と歩行動作の特徴. 第43回日本理学療法学術大会, 福岡
  24. 樋口由美, 淵岡 聡, 奥田邦晴, 林 義孝 (2008) マシントレーニングを継続する軽度要介護者における, 転倒予測因子としてのDual-task 機能評価の有用性. 第43回日本理学療法学術大会, 福岡
  25. 細見亮太, 福永健治, 西山利正, 吉田宗弘 (2008) ラットの脂質代謝に及ぼす魚肉タンパク質およびペプチドの影響. 第62回日本栄養・食糧学会大会, 埼玉
  26. 福永健治, 細見亮太, 吉田宗弘, 西山利正 (2008) ラット血清脂質成分およびコレステロール代謝に及ぼすマグロ腸給餌の影響. 第62回日本栄養・食糧学会大会, 埼玉
  27. 古賀才博, 西山利正, 濱田篤郎 (2008) 海外旅行者の感染症対策 日本の海外進出企業における新型インフルエンザ対策に関する追跡調査. 第82回日本感染症学会総会, 松江
  28. 中野貴司, 宮城 啓, 石崎有澄美, 市村 宏, 庵原俊昭, 岩田 敏, 岡田賢司, 金川修造, 高山直秀, 西山利正, 萩原敏且, 濱田篤郎, 春田恒和, 宮津光伸, 渡邊 浩, 尾内一信 (2008) 海外旅行者の感染症対策 渡航者に対する未認可ワクチン接種の臨床研究 腸チフスと髄膜炎菌ワクチン. 第82回日本感染症学会総会, 松江
  29. 高杯伸佳, 三宅真理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 木村 稷, 西山利正 (2008) 行動変容型旅行「ヘルスツーリズム」の効果の検討. 第14回日本行動医学会学術総会, 津
  30. 玉田育子, 神田靖士, 鈴木裕子, 西山利正 (2008) マウスES細胞から下垂体由来ホルモン産生細胞への分化誘導の検討. 第7回日本再生医療学会総会, 名古屋
  31. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 斉藤一郎, 西山利正 (2008) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第7回日本再生医療学会総会, 名古屋
- 著 書
1. 西山利正, 三島伸介, 石田高明, 田近亜蘭 (2008) 在留邦人のトラベルワクチン実施状況に関する研究 (中華人民共和国に注目して) .

厚生労働科学研究費補助金,新興・再興感染症研究事業. 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究平成17年度-19年度 総合担研究報告書(尾内一信編) 81-102頁, 川崎医科大学, 倉敷

2. 西山利正, 三島伸介, 石田高明, 田近亜蘭

(2008) 中国在留邦人におけるトラベルワクチン実施状況—上海市内の状況—, 厚生労働科学研究費補助金,新興・再興感染症研究事業. 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究平成19年度 総括・分担研究報告書(尾内一信編) 72-78頁, 川崎医科大学, 倉敷

## 法医学講座

### 〈研究概要〉

#### (1) ミトコンドリアDNA rRNA遺伝子の解析による動物種判定法の開発

法科学鑑定で重要な人獣鑑別(動物種判定)法として,ユニバーサルプライマーを用いたミトコンドリアDNAの16S rRNA領域の解析法の確立について検討した.各動物種250種(脊索動物150種,棘皮動物5種,節足動物65種,軟体動物29種,刺胞動物1種)の組織から抽出したDNAを試料として検討したところ,多くの動物種の遺伝子を検出して識別することが可能だった.この成果を学会誌と国際学会で報告した.

#### (2) 高速液体クロマトグラフ(HPLC)を用いた姦淫検査法の検討

姦淫検査の予備試験としてPhenolphthalein diphosphate試薬を用いた呈色反応が用いられているが,判定が主観的であり,かつ,血性(血液が混和した)試料では判定が困難である.そこで呈色反応によって産生されるPhenolphthaleinをHPLCで客観的に検出する方法を検討し,血性試料でも判定が容易になった.

#### (3) ガスクロマトグラフ質量分析計(GC-MS)によるパラヒドロキシメタンフェタミンの簡易検出法

ガスクロマトグラフ質量分析計(GC-MS)を用いた覚せい剤検査法として,メタンフェタミンの代謝物であり,覚せい剤取締法で規制されていないp-ヒドロキシメタンフェタミンを指標とする簡易検出法を検討した.オンカラム法でのMBTFA誘導体化法として,試料注入後すぐにMBTFAを注入する方法が最も有効だった.

#### (4) 揮発性成分検出による有機リン系農薬の簡易検査法の検討

有機リン系農薬の簡易検査法として,含有されている有機溶媒を指標とし,プラスチック(ポリスチレン,アクリル)の変性との相関や各種検知管を用いた検出法について検討した.その結果,有機溶剤が含まれている製品ではポリスチレンの白濁変質が認められ,メルカプタン系やキシレン系の検知管で検出することが可能だった.本法は感度的に胃内容が対象となるが,予備試験として有用であると考えられた.

#### (5) HPLCを用いた血清中キシレンの分析

有機溶媒キシレンにはo-キシレン, m-キシレン, p-キシレンの3種類の異性体があり,エチルベンゼンが含まれている製品もある.そこでこれらの成分の分離・分析をHPLCを用いて検討した.その結果,高い再現性や定量性が確認され,司法解剖2事例の分析に応用し,有用性が確認された.

#### (6) 有機リン系農薬DDVPの毒性評価の検討

DDVP(ジクロロボス)を成分とする有機リン系農薬を服毒して中毒死した2事例について,解剖所見,

体内から検出された DDVP, キシレン濃度およびコリンエステラーゼ活性から毒性評価について検討した。DDVP などのメチルリン酸型の有機リン剤は血中で急速に濃度低下することから、死因判定にはコリンエステラーゼ活性検査が不可欠と考えられた。また有機リン系農薬に含まれる有機溶媒（本事例ではキシレン）の毒性を考慮する必要があった。

### (7) 脳死患者における脳波自動解析システムを用いた平坦脳波の証明

脳死診断時の脳波はもともと低電位であり、ノイズ等の影響を受けやすいことから、肉眼での脳波判読が困難であり、従来より DOS 版で構築されている脳波自動解析システムを用いて脳波を定量的に解析してきた。今日では Windows OS が主流であることから、市販されているアプリケーション (ATAMAP II for Windows) を従来のシステムと比較検討し、後者でも同様に脳死診断の補助手段として利用できることを検証した。

### (8) 膀胱壁を用いた凝集素解離試験による ABO 式血液型判定

ヒト由来ポリクローナル抗体が肝炎等の感染の問題で市販されなくなったために、従来行われてきた毛髪からの血液型判定が困難となり、動物由来のポリクローナル抗体を用いて爪および脳硬膜で ABO 式血液型判定を実施しているが、脳硬膜と同様に比較的腐敗しにくい膀胱壁も ABO 式血液型判定の試料として使用可能であることを確認し、実際の剖検例に応用してその成果を発表した。

### (9) 溺死判定のためのプランクトン検査法における試料臓器の比較検討

溺死判定のためのプランクトン検査において、肺、肝、腎組織を検査試料として用いているが、肝、腎からのプランクトンの検出は肺に比べて少なく検出されない例も多い。そこで他の臓器からの検出効率を検討し、心臓血、脾臓で効率的にプランクトンが検出できることが判明した。ただし腐敗溺死体では心臓血が残存していない例が多いので、その時は心内膜を試料として用いるとプランクトンを検出できた。

## 〈研究業績〉

### 原著

1. 吉村澄孝, 赤根 敦, 吉田 学, 沖井 裕, 時安太久磨, 三谷友亮, 小林哲哉 (2008) プランクトン検査における化学的壊機法の改良と試料の検討. 法医の実際と研 51: 77-81
2. 吉田 学, 赤根 敦, 吉村澄孝, 時安太久磨, 沖井 裕 (2008) 有機リン系農薬 DDVP (ジクロロボス) を服毒した 2 剖検例の毒性評価の検討. 法医の実際と研 51: 71-75
3. 沖井 裕, 赤根 敦, 吉田 学, 吉村澄孝, 時安太久磨, 小林哲哉, 三谷友亮 (2008) 凝集素解離試験による膀胱壁からの ABO 式血液型判定. 法医の実際と研 51: 67-70

### 学会発表

1. Mitani T, Akane A, Tokiyasu T, Yoshimura S, Okii Y and Yoshida M (2008) Identification of animal species using the partial sequences in the

- mitochondrial 16S rRNA gene. 7th International Symposium, Advances in Legal Medicine, 大阪
2. Yoshida M, Akane A, Kobayashi T, Mitani T and Okii Y (2008) Examination of seminal stain by HPLC assay of phenolphthalein. 7th International Symposium, Advances in Legal Medicine, 大阪
3. Okii Y, Akane A, Kawamoto K, Iwase M, Yoshida M, Mitani T, Yoshimura S, Tokiyasu T and Kobayashi T (2008) The proof of flat-line scalp EEGs of brain death patients by an automatic EEG analysis system. 7th International Symposium, Advances in Legal Medicine, 大阪
4. 吉田 学, 赤根 敦, 沖井 裕, 吉村澄孝, 時安太久磨, 小林哲哉, 三谷友亮 (2008) 有機リン系農薬の揮発性成分検出による簡易検査法の検討. 第 55 回日本法医学会近畿地方会, 和歌山
5. 吉田 学, 赤根 敦, 片木宗弘, 土橋 均

- (2008) HPLCを用いた血清中キシレンの分析. 日本法科学技術学会第14回学術集会, 東京
6. 沖井 裕, 赤根 敦, 吉田 学, 吉村澄孝, 時安太久磨 (2008) 凝集素解離試験による膀胱壁からのABO式血液型判定 (3). 第92次日本法医学会総会, 長崎
  7. 吉村澄孝, 赤根 敦, 吉田 学, 沖井 裕, 時安太久磨 (2008) 水中死体の心臓血または心内膜からのプランクトン検出. 第92次日本法医学会総会, 長崎
  8. 吉田 学, 赤根 敦, 吉村澄孝, 時安太久磨, 沖井 裕 (2008) GC-MSによるパラヒドロキシメタンフェタミンの簡易検出法. 第92次日本法医学会総会, 長崎

## 著 書

1. 日本DNA多型学会 (2008) DNA多型 Vol. 16. DNA多型 (赤根敦, 日本DNA多型学会編) 16, 1-328頁, 東洋書店, 東京
2. 三谷友亮, 赤根 敦 (2008) ミトコンドリアDNA rRNAの部分塩基配列を用いた動物種の判定. DNA多型 (赤根敦, 日本DNA多型学会編) 16, 32-35頁, 東洋書店, 東京
3. 沖井 裕, 河本圭司 (2008) トピックス 平坦脳波解析. すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック (日本脳神経外科救急学会編) 115頁, メディカ出版, 吹田

## 分子遺伝学部門

## 〈研究概要〉

## 研究の概要

接着分子インテグリンは免疫細胞の血管内皮, 抗原提示細胞, 細胞外マトリックス等への接着を媒介し, リンパ球のホーミング, 抗原認識, 細胞移動に重要な役割を果たしている. リンパ球インテグリンは刺激に応じてダイナミックに接着性が変化することが特徴である. この接着制御には低分子量Gタンパク質 Rap1 とそのエフェクター分子 RAPL が関与している. このシグナル伝達は細胞極性と連動して, LFA-1の空間的制御を行っている点の特徴として挙げられる. Rap1-RAPLシグナルによるインテグリン接着の分子機構の解明と, このシグナル改変によって免疫細胞の動態, 増殖, 分化, 機能がどのような影響をうけるか, また, 炎症アレルギー, 自己免疫疾患などの免疫病との関連を調べる.

## 最近の研究成果

Rap1とそのエフェクター分子RAPLによるインテグリン制御機構を明らかにするために, RAPL会合分子を酵母two-hybrid法を用いて, Ste20-likeキナーゼに属するMst1を同定した. Mst1はRAPLのcoiled-coil領域に結合し, キナーゼ活性が増強する. 会合とキナーゼ活性は活性化型 Rap1 によって亢進し, また, Tリンパ球をケモカイン, 抗原架橋刺激すると, Mst1が活性化するのに対して, RAPL欠損Tリンパ球では活性化が著しく減少することから, Mst1はRAPL依存的に活性化することが判明した. Mst1を過剰発現させると先端膜とuropodが生じ, LFA-1が先端膜に集積し, 接着がキナーゼ活性依存的に亢進する. リンパ球のMst1をknockdownするとこれらの効果が阻害された. Rap1-RAPLシグナルによるLFA-1接着と細胞極性にMst1が重要であることが明らかになった.

RAPL欠損マウスはリンパ球ホーミング機能障害によって, リンパ節のT,Bリンパ球数が低下している. リンパ球接着カスケードにおけるRap1-RAPLの機能を灌流下血管内皮接着系, 生体内顕微鏡を用いて調べた. Rap1はケモカインによって誘導されるLFA-1,  $\alpha 4\beta 7$ を介する停止接着に重要であり, RAPLは停止接着以降におこる強固な接着に必要であった. LFA-1の $\beta 2$ 細胞内領域が停止接着を制御し,  $\alpha L$ 鎖が強固な接着に必要であった. Rap1-RAPLシグナルはこれらの領域を介して, リンパ球の血管内皮接着を制御している. さらに2光子レーザー顕微鏡を用いて, リンパ節組織内のリンパ球移動を解析したところ, RAPL欠損T,Bリンパ球は移動速度が遅く, 移動距離が低下していたことから, 組織内移動にRAPLが重

要であることがわかった(投稿中)。以上の研究により, Rap1-RAPLシグナルはMst1を介して, リンパ球の細胞極性とLFA-1の局在を調節し, 血管内皮接着と組織内移動に重要な役割を果たしていることが明らかになった。現在, RAPL, Mst1の遺伝子改変マウスを用いて, リンパ球の増殖, 分化への影響, 自己免疫との関連を解析しており, インテグリン制御と細胞増殖・分化との協調的制御のメカニズムや自己免疫, リンホーマ発症に関与することを明らかにしつつある。

### 〈研究業績〉

#### 原著

1. Katakai T, Suto H, Sugai M, Gonda H, Togawa A, Suematsu S, Ebisuno Y, Katagiri K, Kinashi T, Shimizu A (2008) Organizer-like reticular stromal cell layer common adult secondary lymphoid organs. *J Immunol.* 181(9): 6189–6200
2. Katakai T and Shimizu A (2008) Undesired meeting of lymphocytes: Organ-specific infiltration and the organization of ectopic lymphoid tissue in a murine experimental autoimmune gastritis. *Immunol Lett* 118(2): 103–109

#### 総説

1. 片貝智哉, 木梨達雄 (2008) リンパ組織の構造と免疫細胞の動態制御 03 二次リンパ器官におけるストローマ細胞ネットワークとリンパ球の動態制御. *Med Bio* 5(5): 40–47
2. 戎野幸彦, 片桐晃子, 木梨達雄 (2008) 接着分子による免疫細胞動態調節と免疫応答. *炎症と免疫* 16(4): 436–441
3. 木梨達雄 (2008) 細胞接着—生体内細胞の移

動を見る Rap1-RAPL によるインテグリン制御とリンパ球動態. *実験医* 26(14): 2174–2179

4. 木梨達雄 (2008) 細胞接着—生体内細胞の移動を見る 概論 細胞接着・移動の原理を探る—生体内環境が鍵を握る新局面. *実験医* 26(14): 2168–2173

#### 学会発表

1. Kinashi T (2008) Regulation of lymphocyte trafficking and immune responses by Rap1 signaling. The 9th International Congress on Cell Biology, Korea, Seoul
2. Kinashi T (2008) Integrin regulation of lymphocyte trafficking and immune response from the inside-out viewpoint. RCAI-JSI International Symposium on Immunology 2008, Yokohama, Japan
3. Kinashi T (2008) Lymphocyte adhesion cascade regulated by Rap1 signaling. The 2008 ASIP Annual Meeting at Experimental Biology 2008, San Diego, California, U.S.A.

## 生体情報部門

### 〈研究業績〉

#### 原著

1. Ohtani M, Nagai S, Kondo S, Mizuno S, Nakamura K, Tanabe M, Takeuchi T, Matsuda S and Koyasu S (2008) Mammalian target of rapamycin and glycogen synthase kinase 3 differentially regulate lipopolysaccharide-induced interleukin-12 production in dendritic cells. *Blood* 112(3): 635–643
2. Fujii Y, Matsuda S, Takayama G and Koyasu S (2008) ERK5 is involved in TCR-induced apoptosis through the modification of Nur77. *Genes to*

*Cells* 13(5): 411–419

#### 学会発表

1. Ohtani M, Nagai S, Kondo S, Mizuno S, Nakamura K, Tanabe M, Takeuchi T, Matsuda S and Koyasu S (2008) mTOR and GSK3 differentially regulate LPS-induced IL-12 production in dendritic cells. 第10回国際樹状細胞シンポジウム, 国際/海外
2. 高山源介, 松田達志, 小安重夫 (2008) T細胞におけるIL-2発現に関わるPI3K $\gamma$ の役割. 第18回Kyoto T cell Conference, 全国規模

3. 松田達志 (2008) Class IA PI3K経路はB細胞におけるc-Relの発現制御に関与している. 基生

研研究会「リン酸化シグナルの統合的解明を目指して」, 単独開催シンポジウム

## モデル動物部門

### 〈研究業績〉

原著

1. Ogawa R, Lee SI, Kagiya G, Hirano H, Fukuda S, Kondo T and Kodaki T (2008) Construction of X-

ray-inducible promoters through cis-acting element elongation and error-prone polymerase chain reaction. *J Gene Med* 10(3): 316–324

## 内科学第一講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Ikeda J, Morii E, Liu Y, Qiu Y, Nakamichi N, Jokoji R, Miyoshi Y, Noguchi S and Aozasa K (2008) Prognostic Significance of CD55 Expression in Breast Cancer. *Clin Cancer Res* 14(15): 4780–4786
2. Ito T, Hanabuchi S, Wang YH, Park WR, Arima K, Bover L, Qin FX, Gilliet M and Liu YJ (2008) Two Functional Subsets of FOXP3 + Regulatory T Cells in Human Thymus and Periphery. *Immunity* 28(6): 870–880
3. Sommers CL, Gurson JM, Surana R, Barda-Saad M, Lee J, Kishor A, Li W, Gasser AJ, Barr VA, Miyaji M, Love PE and Samelson LE. (2008) Bam32: a novel mediator of Erk activation in T cells. *Int Immunol* 20(7): 811–818
4. Yokoi T, Amakawa R, Tanijiri T, Sugimoto H, Torii Y, Amuro H, Son Y, Tajima K, Liu YJ, Ito T and Fukuhara S (2008) Mycobacterium bovis Bacillus Calmette-Guerin suppresses inflammatory Th2 responses by inducing functional alteration of TSLP-activated dendritic cells. *Int Immunol* 20(10): 1321–1329
5. Torii Y, Ito T, Amakawa R, Sugimoto H, Amuro H, Tanijiri T, Katashiba Y, Ogata M, Yokoi T and Fukuhara S (2008) Imidazoquinoline acts as immune adjuvant for functional alteration of thymic stromal lymphopoietin-mediated allergic T cell response. *J Immunol* 181(8): 5340–5349

6. Shizusawa T, Shibayama H, Murata S, Saitoh Y, Sugimoto Y, Matsumura I, Ogawa H, Sugiyama H, Fukuhara S, Hino M, Kanamaru A, Yamauchi A, Aozasa K and Kanakura Y (2008) The expression of anamorsin in diffuse large B cell lymphoma: Possible prognostic biomarker for low IPI patients. *Leuk Lymphoma* 49(1): 113–121
7. Ito T, Ozaki Y, Shimamoto K, Amuro H, Tanijiri T, Yokoi T, Son Y, Tajima K and Fukuhara S (2008) Successful treatment with plasma exchange in adult-onset Still's disease with hyper-IL-18-naemia and hyperallergic state. *Mod Rheumatol* 18(4): 407–410
8. Nomura S, Inami N, Ozaki Y, Kagawa H and Fukuhara S (2008) Significance of microparticles in progressive systemic sclerosis with interstitial pneumonia. *Platelets* 19(3): 192–198
9. 関口隆三, 東光太郎, 宮川国久, 松枝 清, 林孝之, 五味達哉, 沖 昌英, 寺本典弘, 村上真理 (2008) 画像診断に基づく消化器がん, 肺がん, 乳がんの clinical staging の確立と治療法選択に関する研究. 厚労省がん研究助成金による研究報告集 2007: 56–60
10. 関口隆三, 東光太郎, 宮川国久, 松枝 清, 長瀬通隆, 林 孝之, 五味達哉, 沖 昌英, 浅見和弘, 寺本典弘, 村上真理 (2008) 画像診断に基づく消化器がん, 肺がん, 乳がんの clinical staging の確立と治療法選択に関する研究. 厚労省がん研究助成金による研究報告集 2007: 522–525

## 総説

1. Nakamichi N, Fukuhara S, Aozasa K and Morii E (2008) NK-cell intravascular lymphomatosis—A mini-review. *Eur J Haematol* 81(1): 1–7
2. 伊藤量基, 福原資郎 (2008) 樹状細胞を介する免疫応答制御 6. 樹状細胞サブセットによるOX40 リガンドおよび ICOS リガンドを介する向炎症・抗炎症免疫応答の制御. *実験医* 26(20): 3229–3235
3. 野村昌作 (2008) 凝固制御 血液凝固系検査の新展開 単球由来マイクロパーティクル. *臨検* 52(13): 1560–1565
4. 伊藤量基, 福原資郎 (2008) OX40 リガンドによるTr1細胞誘導の制御. *臨免疫・アレルギー科* 50(4): 486–492

## 症例報告

1. 嶋元佳子, 尾崎吉郎, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 今村麻衣子, 谷尻 力, 横井 崇, 矢木泰弘, 伊藤量基, 米津精文, 福原資郎 (2008) 縦隔気腫を合併した多発性筋炎・皮膚筋炎の3症例. *日臨免疫会誌* 31(1): 56–61
2. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺内里恵, 寺岡安津子, 宗像眞智子, 安田勝彦, 尼川龍一, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 検査室での異常フィブリノゲン症診断における単純免疫拡散法の有用性. *臨病理* 56(5): 379–382

## 学会発表

1. Amakawa R, Yokoi T, Torii Y, Tanijiri T, Sugimoto H, Amuro H, Son Y, Liu Y, Ito T and Fukuhara S (2008) BCG and an imidazoquinoline compound R848 redirect TSLP-activated dendritic cells from inducing inflammatory Th2 to regulatory Th1 immune response. 第10回国際樹状細胞シンポジウム, 神戸
2. 野田垂未香, 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 伊藤量基, 福原資郎, 上田啓子, 宮坂陽子, 岩坂壽二 (2008) 難治性関節リウマチにて抗IL-6受容体抗体使用中に心外膜炎の増悪がみられた1例. 第187回日本内科学会近畿地方会, 京都
3. 小宮山豊, 吉賀正亨, 正木浩哉, 小笹亮太郎, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎, 高橋伯夫

- (2008) ADAMTS13活性等の分子マーカーが有用であった血栓性血小板減少性紫斑病の一例. 第31回日本血栓止血学会学術集会, 大阪
4. 藪下りよ子, 小宮山豊, 寺岡安津子, 大河内宏幸, 宗像眞智子, 小笹亮太郎, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎, 吉賀正亨, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 血栓性血小板減少性紫斑病(TTP)におけるADAMTS13活性および破碎赤血球検出の実際. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋
5. 尾崎吉郎 (2008) 経過の長い膠原病患者に起こる症状とその注意点について. 膠原病友の会 枚方会, 枚方
6. 坂 貴司, 横井 崇, 頼 彦長, 鷹巣晃昌, 螺良愛郎. (2008) 癌腫ならびに肉腫成分の形態学的・免疫組織化学的検討. 第40回日本臨床分子形態学会, 福岡
7. 兵 晃, 横井 崇, 清水俊樹, 鳥居芳太郎, 杉本博是, 尼川龍一, 福原資郎 (2008) PET-CTで胆嚢内転移を診断したG-CSF産生大細胞肺癌の一例. 第49回日本肺癌学会総会, 北九州
8. 平井雅美, 小宮山豊, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 中西孝尚, 森眞一郎, 田嶋健一郎, 岸本裕司, 福原資郎, 吉賀正亨, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 骨髄異形成症候群の臍帯血移植後に発症したTMAにおけるADAMTS13活性と破碎赤血球. 第51回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 神戸
9. 岸本裕司, 山根孝久, 太田健介, 藤田真也, 田嶋健一郎, 森眞一郎, 中尾隆文, 高起 良, 朴勤植, 小阪さおり, 山村亮介, 尼川龍一, 日野雅之, 福原資郎 (2008) 慢性期CMLにおけるイマチニブ治療の現状. 第70回日本血液学会総会, 京都
10. 小笹亮太郎, 伊藤量基, 小宮山豊, 横井 崇, 正木浩哉, 尼川龍一, 高橋伯夫, 福原資郎 (2008) 多発性脳梗塞を合併した血栓性血小板減少性紫斑病の1例. 第70回日本血液学会総会, 京都
11. 森眞一郎, 中西孝尚, 藤田真也, 田嶋健一郎, 岸本裕司, 尼川龍一, 植村芳子, 福原資郎 (2008) 未治療進行期Nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphomaに対するリツキシマブ療法. 第70回日本血液学会総会, 京都

12. 藤田真也, 岸本裕司, 坂井田紀子, 中西孝尚, 田嶋健一郎, 森眞一郎, 尼川龍一, 大江知里, 植村芳子, 福原資郎 (2008) ランゲルハンス細胞肉腫を合併した骨髄異形成症候群の一例. 第70回日本血液学会総会, 京都
13. 尾崎吉郎 (2008) 悪性関節リウマチの理解と最新治療について. 枚方保健所 北河内ブロック・悪性関節リウマチ講演会, 枚方保健所 北河内ブロック・悪性関節リウマチ講演会
14. 小林穂高, 杉本博是, 菅 俊光, 田中智子, 岡本真道, 石崎優子, 鈴川純子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎 (2008) 咳症状を欠き, 診断と治療に苦慮した誤嚥による化膿性胸膜炎. 第35回大阪小児呼吸器談話会, 大阪
15. 小宮山豊, 寺岡安津子, 山野井三起, 藪下りよ子, 宗像眞智子, 吉賀正亨, 伊藤量基, 尼川龍一, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 抗第XII因子抗体が示唆された右腎癌の1症例. 第9回日本検査血液学会学術集会, 津
16. 尾崎吉郎 (2008) 日常臨床でよく遭遇する膠原病とその徴候. くらわんか医療研究会, 枚方
17. 今村麻衣子, 玉置岳史, 谷尻 力, 米津精文, 福原資郎, 中村 宏 (2008) 当科におけるステロイドパルス療法施行例の臨床検討. 第48回日本呼吸器学会学術講演会, 神戸
18. 金田浩由紀, 玉置岳史, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 米津精文, 齊藤幸人 (2008) 化学療法後に完全切除しえた縦隔原発悪性胚細胞性腫瘍の2例. 第183回近畿外科学会, 大阪
19. 尾崎吉郎 (2008) 関節リウマチ診療における内科的側面. 第16回 OCRA会, 大阪
20. 宮島茂夫, 和田孝彦, 串田剛俊, 小室 元, 市川宜弘, 飯田寛和, 尾崎吉郎, 孫 瑛洙, 安室秀樹, 嶋元佳子, 伊藤量基 (2008) 関節リウマチに対するタクロリムスの使用経験. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
21. 小室 元, 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 和田孝彦 (2008) クラミジア腸炎に合併した膝関節炎の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
22. 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 小室 元, 伊藤量基, 和田孝彦, 福原資郎 (2008) 重篤な肝障害と高サイトカイン血症に対して血漿交換が奏功した成人発症スティル病の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
23. 和田孝彦, 尾崎吉郎, 小室 元, 嶋元佳子 (2008) 関節リウマチ患者におけるエタネルセプトの骨代謝への効果. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
24. 孫 瑛洙, 尾崎吉郎, 安室秀樹, 嶋元佳子, 伊藤量基, 福原資郎 (2008) 関節リウマチに対するエタネルセプト使用中に胸部腫瘤陰影で発症した非結核性抗酸菌症の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
25. 横井 崇, 清水俊樹, 谷尻 力, 安藤性實, 福原資郎 (2008) Every 3 weeks CBDCA+paclitaxel v.s. weekly CBDCA+paclitaxel: A Single institutional non-randomized retrospective Study. 第6回日本臨床腫瘍学会学術集会, 福岡
26. 中道尚人, 森井英一, 三浦康生, 通堂 満, 山内 周, 福原資郎, 青笹克之 (2008) NK細胞性 intravascular lymphomatosis の一例. 第40回日本病理学会近畿支部学術集会, 大阪
27. 坂口路子, 清水俊樹, 兵 晃, 杉本博是, 鳥居芳太郎, 安室秀樹, 木村 卓, 横井 崇, 尼川龍一, 福原資郎 (2008) シベレスタットNaが著効した遅発性輸血関連肺障害の1例. 第72回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪
28. 尾崎吉郎 (2008) よくわかる関節リウマチの血液検査について. 第17回 リウマチリハビリテーション相談会, 枚方

## 内科学第二講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Haiden M, Kimura Y, Miyasaka Y, Aota Y, Dote

K, Takada A and Iwasaka T (2008) New index of regional arterial stiffness assessed by tissue Doppler imaging. *Acta Cardiol* 63(5): 603-608

2. Miyasaka Y, Barnes ME, Gersh BJ, Cha SS, Bailey KR, Seward JB and Tsang TS (2008) Changing trends of hospital utilization in patients after their first episode of atrial fibrillation. *Am J Cardiol* 102(5): 568–572
3. Matsuhisa S, Otani H, Okazaki T, Yamashita K, Akita Y, Sato D, Moriguchi A, Imamura H and Iwasaka T (2008) Angiotensin II Type-1 Receptor Blocker Preserves Tolerance to Ischemia/Reperfusion Injury in Dahl Salt-sensitive Rat Heart. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 294(6): H2473–H2479
4. Juhasz B, Thirunavukkarasu M, Pant R, Zhan L, Penumathsa SV, Secor ER Jr, Srivastava S, Raychaudhuri U, Menon VP, Otani H, Thrall RS and Maulik N (2008) Bromelain induces cardioprotection against ischemia-reperfusion injury through Akt/FOXO pathway in rat myocardium. *Am J Physiol Heart Circ Physiol* 294(3): H1365–H1370
5. Maeba H, Takehana K, Nakamura S, Yoshida S, Ueyama T, Hatada K and Iwasaka T (2008) Non-invasive detection of ischemic left ventricular dysfunction using rest gated SPECT: expectation of simultaneous evaluation of both myocardial perfusion and wall motion abnormality. *Ann Nucl Med* 22(4): 309–316
6. Otani H (2008) Ischemic preconditioning: from molecular mechanisms to therapeutic opportunities. *Antioxid Redox Signal* 10(2): 207–248
7. Matsuhisa S, Otani H, Okazaki T, Yamashita K, Akita Y, Sato D, Moriguchi A and Iwasaka T (2008) N-Acetylcysteine Abolishes the Protective Effect of Losartan Against Left Ventricular Remodeling in Cardiomyopathy Hamster. *Antioxid Redox Signal* 10(12): 1999–2008
8. Nomura S, Ishii K, Inami N, Kimura Y, Uoshima N, Ishida H, Yoshihara T, Urase F, Maeda Y and Hayashi K (2008) Evaluation of angiopoietins and cell-derived microparticles after stem cell transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant* 14(7): 766–774
9. Nomura S, Ishii K, Shimizu M, Inami N, Urase F and Maeda Y (2008) Inflammatory pseudotumor following cord blood transplantation for adult T-cell leukemia. *Bone Marrow Transplant* 42(7): 493–494
10. Mukaide H, Adachi Y, Taketani S, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Shi M, Yanai S, Yoshioka K, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) FKBP51 expressed by both normal epithelial cells and adenocarcinoma of colon suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma. *Cancer Invest* 26(4): 385–390
11. Tatsumi K, Otani H, Sato D, Enoki C, Iwasaka T, Imamura H, Taniuchi S, Kaneko K, Adachi Y and Ikehara S (2008) Granulocyte-colony stimulating factor increases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair dystrophic heart after bone marrow transplantation. *Circ J* 72(8): 1351–1358
12. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Iwasaki M, Amou Y, Shigematsu A, Koike Y, Minamino K, Mukaide H, Shi M, Yanai S, Matsumura M and Ikehara S (2008) High mortality rate of (NZW x BXSB)F1 mice induced by administration of lipopolysaccharide attributes to high production of tumour necrosis factor-alpha by increased numbers of dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 154(2): 285–293
13. Tsang TS, Barnes ME, Miyasaka Y, Cha SS, Bailey KR, Verzosa GC, Seward JB and Gersh BJ (2008) Obesity as a risk factor for the progression of paroxysmal to permanent atrial fibrillation: a longitudinal cohort study of 21 years. *Eur Heart J* 29(18): 2227–2233
14. Fujikawa M, Iwasaka J, Oishi C, Ueyama T, Park H, Yamamoto Y, Otani H and Iwasaka T. (2008) Three-dimensional echocardiographic assessment of left ventricular function in takotsubo cardiomyopathy. *Heart Vessels* 23(3): 214–216
15. Morimoto S, Maki K, Aota Y, Sakuma T and Iwasaka T (2008) Beneficial effects of combination therapy with angiotensin II receptor blocker and angiotensin-converting enzyme inhibitor on vascular endothelial function. *Hypertens Res* 31(8): 1603–1610

16. Suzuki Y, Adachi Y, Zhang Y, Minamino K, Iwasaki M, Mukaide H, Shi M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Yanai S and Ikehara S. (2008) Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice. *Immunobiology* 213(5): 427-435
17. Isono T, Kamihata H, Sutani Y, Motohiro M, Yamamoto S, Kyoui S, Iharada Y, Kurimoto K, Hara K, Takahashi H and Iwasaka T. (2008) Nicorandil suppressed myocardial injury after percutaneous coronary intervention. *Int J Cardiol* 123(2): 123-128
18. Miyauchi A, Takamura Y, Ito Y, Miya A, Kobayashi K, Matsuzuka F, Amino N, Toyoda N, Nomura E and Nishikawa M (2008) 3,5,3'-Triiodothyronine thyrotoxicosis due to increased conversion of administered levothyroxine in patients with massive metastatic follicular thyroid carcinoma. *J Clin Endocrinol Metab* 93(6): 2239-2242
19. Suzuki H, Suzuki Y, Narita I, Aizawa M, Kihara M, Yamanaka T, Kanou T, Tsukaguchi H, Novak J, Horikoshi S and Tomino Y. (2008) Toll-Like Receptor 9 Affects Severity of IgA Nephropathy. *J Am Soc Nephrol* 19(12): 2384-2395
20. Masuda M, Amano K, Shi HY, Nishimura N, Fukui M, Yoshika M, Komiyama Y, Masaki H, Iwasaka T and Takahashi H (2008) Soluble Fc $\gamma$ RIIIa<sup>M $\phi$</sup>  levels in plasma correlate with carotid maximum intima-media thickness (IMT) in subjects with annual medical checkup. *Mol Med* 14(7-8): 436-442
21. Umemura S, Nakamura S, Sugiura T, Tsuka Y, Shimojo M, Baden M and Iwasaka T (2008) Preservation of myocardial viability within the risk area by intravenous nicorandil before primary coronary intervention in patients with acute myocardial infarction. *Nucl Med Commun* 29(11): 956-962
22. Nomura S, Ishii K, Inami N, Kimura E and Uruse F (2008) Elevation of activated platelet-dependent chemokines and soluble cell adhesion molecules in patients with hematologic malignancies and high levels of  $\beta$ -D-glucan. *Pathophysiol Haemost Thromb* 36(1): 32-39
23. Inami N, Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Kimura Y, Takahashi N, Tanaka A, Nanba M, Shouda Y and Iwasaka T. (2008) Effects of pitavastatin on adiponectin in patients with hyperlipidemia. *Pathophysiol Haemost Thromb* 36(1): 1-8
24. Morimoto S, Takahashi N, Kikuchi S, Yamahara H, Imada T, Kohno K, Masaki H, Nishikawa M and Iwasaka T (2008) Management of patients with recurrent nephrosis and intractable edema by intraperitoneal instillation of icodextrin solution. *Perit Dial Int* 28(5): 559-562
25. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kosaki A, Kimura T, Moriishi M, Kawanishi H and Matsubara H (2008) Plasma S100A12 concentrations in peritoneal dialysis patients and subclinical chronic inflammatory disease. *Ther Apher Dial* 12(1): 28-32
26. Nomura S, Shouzu A, Omoto S, Inami N, Tanaka A, Nanba M, Shouda Y, Takahashi N, Kimura Y and Iwasaka T (2008) Correlation between adiponectin and reduction of cell adhesion molecules after pitavastatin treatment in hyperlipidemic patients with type 2 diabetes mellitus. *Thromb Res* 122(1): 39-45
27. Morimoto S, Yano Y, Maki K and Iwasaka T (2008) Effects of Pravastatin and Atorvastatin on Glucose and Lipid Metabolism. *日本臨床生理学雑誌* 38(1): 31-37
28. 野村恵巳子, 西川光重, 岩坂壽二, 生水 晃, 小川善史 (2008) 糖尿病性神経障害に対するエパルレストアットの効果. *医と薬学* 60(5): 761-768
29. 岩坂潤二, 長谷川隆正, 大石千尋, 野村恵巳子, 城ひろみ, 城 聡一, 上山敬直, PARK Haengnam, 山本克浩, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病患者におけるピオグリタゾンの体成分に及ぼす影響. *医学のあゆみ* 225(3): 277-278
30. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二 (2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携から

- MFERを用いた施設間連携へ. 医療情報学 28(Suppl.): 539-542
31. 渡辺 淳, 仲野俊成, 新貝欣久, 竹花一哉, 小山武彦, 平井正明, 大澤康弘, 高橋伯夫 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた12誘導心電図の医療施設間相互参照. 医療情報学 28(Suppl.): 535-538
  32. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1214-1217
  33. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康央, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFERを用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1204-1207
  34. 高谷明美, 森本 聡 (2008) 【生活習慣病看護における看護師の役割】生活習慣病と循環器疾患のかかわりと患者管理. 外来看最前線 生活習慣病外来がん看 14(1): 028-034
  35. 松久誠治, 岩坂潤二, 大谷 肇, 岩坂壽二, 猪俣尚規, 長久 功, 長久公彦, 長久雅博 (2008) フィブラートからロスバスタチンへの切り替えが脂質プロフィールに及ぼす影響. 循環器 63(4): 401-406
  36. 岩坂潤二, 大山尚貢, 大谷 肇, 山本克浩, 山本哲史, 朴 幸男, 上山敬直, 大石千尋, 岩坂壽二 (2008) 低用量アスピリン処方での消化性潰瘍治療薬併用実態の調査. 循環器 63(1): 110-112
  37. 高尾奈那, 上田加奈子, 堤 博美, 宮内拓史, 中山英恵, 田嶋佐和子, 齋藤 瞳, 木村 穰, 岩坂壽二, 齋藤 瞳 (2008) 肥満減量時のインスリン抵抗性の改善度に及ぼす体組成の影響—DEXA法での検討—. 日本心臓リハビリテーション学会誌 13(2): 374-376
  38. 城戸江利花, 高岸浩美, 柿本早苗, 住谷尚美, 保井明泰, 森本 聡 (2008) 患者管理 長期間腹膜透析施行後に血液透析に変更した患者における各種検査値および生活の質 (QOL) の変化. 腎と透析 65 (別冊腹膜透析2008) : 434-436
  39. 宮野喜代子, 森本 聡, 松澤美保, 柴田清美, 大垣佳代, 大田千穂子, 高橋延行, 中川 清 (2008) 出口部ケアにおける患者指導用パンフレットおよびDVDの有用性について. 腎と透析 65 (別冊腹膜透析2008): 182-184
  40. 大山恭夫, 阪口正博, 気比茂子, 森本 聡 (2008) 2型糖尿病に対するピオグリタゾン (アクトス)投与前後のBNP値の変動 (1年間の経過観察). 大阪医 41(3): 10-15
  41. 木村 穰 (2008) 特定健診・特定保健指導で行動変容を成功させる 運動・身体活動を増やす. 糖尿診療マスター 6(1): 63-66
  42. 芳賀敏実, 田中 健, 今井俊介, 前屋敷明江, 赤羽たけみ, 橋内麻衣子, 片岡智恵子, 福居健一, 松田 誠, 辻田 敏, 木村 穰, 鈴木啓之, 高橋沙織, 佐藤裕信 (2008) 長期にわたる禁煙治療 (保険適用)の有効性に関する尿中コチニン分析を用いた検討. 奈良保健研七年報 (42): 39-43
  43. 佐藤由起子, 田嶋佐和子, 木村 穰 (2008) 特定保健指導の試行的実施—行動科学・性格特性, 自動記録システム効果の検討—. 日遠隔医療会誌 4(2): 365-368
  44. 山中 裕, 三宅眞理, 仁木 稔, 西山利正, 田嶋佐和子, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 穰 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後のITによる遠隔セルフモニタリングと支援の効果. 日遠隔医療会誌 4(2): 348-350
  45. 高尾奈那, 木村 穰, 上田加奈子, 堤 博美, 宮内拓史, 中山英恵, 田嶋佐和子, 齋藤 瞳, 岩坂壽二 (2008) 肥満減量時のインスリン抵抗性の改善度に及ぼす体組成の影響—DEXA法での検討—. 日本心臓リハビリテーション学会誌 13(2): 374-376
  46. 西條和子, 森本 聡, 柴田清美, 大垣佳代, 大田千穂子, 宮野喜代子, 中川 清, 高橋延行, 桃嵩淳子 (2008) 電子カルテと透析管理システムの連携の有用性に関する検討. 日透析医学会誌 41(5): 305-310
  47. 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二 (2008) 【新時代の糖尿病学 病因・診断・治療研究の進歩】糖尿病治療学の進歩 特殊な病態における糖尿病治療 シックデイ対策 2型糖尿病のシックデイ時の管理治療. 日臨 66 (増刊7

新時代の糖尿病学 (3): 579-582

48. 岩坂潤二, 大石千尋, 山下浩司, 岡崎 徹, 佐藤大祐, 真鍋憲市, 松久誠治, 上山敬直, 五十野剛, 朴 幸男, 山本克浩, 湯浅文雄, 大谷 肇, 岩坂壽二 (2008) 非腎機能障害例での降圧薬の種類による腎機能への影響の差違. 日本臨床生理学誌 38(2): 119-123
49. 木村 穰 (2008) 生活習慣病対策における新しいアプローチ 総論. 臨スポーツ医 25(2): 97-101
50. 木村 穰 (2008) 生活習慣病対策 保健指導のための認知行動療法セミナー:第1回 基礎編 保健指導のための認知行動療法. 臨スポーツ医 25(10): 1201-1207

#### 総 説

1. 田嶋佐和子, 木村 穰 (2008) 【スポーツと機能性食品】生活習慣病予防のための運動に対する栄養学的配慮. Funct Food 2(3): 288-294
2. 木村 穰 (2008) 呼吸・循環障害のリハビリテーション】心臓リハビリテーションに必要な各種療法 定義とエビデンス 心臓リハビリテーションの安全性確保と緊急時の対応. J Clin Rehabil (別冊呼吸・循環障害のリハビリテーション): 249-252
3. 森本 聡, 矢野 豊, 榎 系, 岩坂壽二 (2008) 本態性高血圧患者におけるシルニジピンの腎および血管保護作用. Therapeutic Research 29: 545-548
4. 木村 穰 (2008) 【地域医療連携実践ガイドブック 医療連携の地域モデルを疾患別に厳選して収載!】循環器領域 関西メディカルフィットネスネットワーク. 治療 90 (3月増刊号): 1020-1026
5. 木村 穰 (2008) 【疾患のある人の運動】高血圧由来の脳卒中予防 運動の効果. 体育の科学 58(8): 536-543
6. 大山恭夫, 阪口正博, 森本 聡 (2008) 当院における糖尿病教育入院の現況—メタボリックシンドローム, 慢性腎臓病 (CKD), 脂質異常症も意識した精査・治療マネジメント—. 大阪内科医会誌 17(2): 172-177
7. 木村 穰 (2008) 【運動と動脈硬化予防】高血圧における運動療法. 動脈硬化予防 7(2): 9-

15

8. 西川光重 (2008) 薬剤による甲状腺機能異常. 医事新報 (4389): 57-65
9. 高橋延行, 土居忠文, 杉浦哲朗 (2008) 【臨床検査 現状と展望】実地医家に必要な新しい検査と重要な検査項目 循環器疾患. 日内会誌 97(12): 2936-2942
10. 小糸仁史 (2008) 【肺動脈性肺高血圧症 基礎研究と臨床の進歩】検査・診断法の進歩 確定診断 画像検査診断 CT/MRI 検査. 日臨 66(11): 2114-2123
11. 野村恵巳子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 甲状腺ホルモンと動脈硬化. 日本臨床生理学誌 38(4): 191-193
12. 三宅眞理, 高橋伸佳, 日根かがり, 木下藤寿, 田嶋佐和子, 木村 穰, 仁木 稔, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズムからみた生活習慣病対策. 臨スポーツ医 25(2): 147-155

#### 症例報告

1. Hattori R, Sumida T, Okada T, Johno H, Enoki C, Nakao Y, Miyasaka Y, Haiden H, Dote K, Seno K, Iwasaka T and Imamura H (2008) Surgical treatment for right sided infective endocarditis with recurrent pulmonary infarction concurrent with a ventricular septal defect. Estratto da CHIRURGIA 21(6): 339-342
2. 木村 穰 (2008) 運動療法にてbaPWVが改善した例 PWV, 内膜・中膜肥厚度の変化による検討. Arte Stiff (14): 55-57
3. 堀越幹人, 高橋延行, 森本 聡, 山原英樹, 河野啓子, 永田登志子, 梅田幸久, 岩坂壽二 (2008) 虹彩毛様体炎を伴った間質性腎炎の1例. Pharm Med 26(5): 134-136
4. 岩坂潤二, 高野悟史, 野田哲平, 大石千尋, 山下浩司, 岡崎 徹, 佐藤大祐, 松久誠治, 上山敬直, 朴 幸男, 山本克浩, 大谷 肇, 岩坂壽二 (2008) 低用量アスピリンによる胃食道逆流症にプロトンポンプ阻害薬が著効した2症例. 循環器 63(1): 105-109
5. 梅村茂雄, 下條途夫, 榎原圭一, 菅野貴世史, 坪川明義, 吉田博之, 中村誠志, 岩坂壽二 (2008) 深部静脈血栓症を契機に多彩な症状を認めた血管 Behcet 病の1例. 日心臓病会誌

1(3): 164-168

## 学会発表

1. Dote K, Miyasaka Y, Aota Y, Haiden M, Oishi C and Iwasaka T (2008) Risk for the left ventricular diastolic dysfunction in 705 adult patients: the independent risk of obesity. American Society of Echocardiography, Toronto, Canada
2. Haiden M, Miyasaka Y, Senoo T, Aota Y, Dote K, Oishi C, Kimura Y and Iwasaka T (2008) Left atrial volume in Obese Subjects without Cardiovascular Comorbidities: comparison with non-obese healthy subjects. American Society of Echocardiography, Toronto, Canada
3. Miyasaka Y, Barnes ME, Cha SS, Bailey KR and Tsang TSM (2008) Hospitalization after first atrial fibrillation diagnosis: changing trends and relation to practice pattern. American College of Cardiology, Chicago, USA
4. Takehana K, Nishimura S, Maeba H, Ueyama T, Iwasaka T and Nishimura T (2008) Clinical Significance of Ischemic Electrocardiographic Changes during Stress Myocardial Perfusion Imaging (MPI): A Sub Analysis of J-ACCESS Study. 第72回日本循環器学会総会, 福岡
5. 種村直美, 宮野喜代子, 大垣佳代, 柴田清美, 松澤美保, 大田千穂子, 北窓 幸, 衣川 大, 狭間信幸, 高橋延行, 森本 聡 (2008) 出口部ケア指導用 DVD の作成および有用性の評価. 第22回大阪CAPD研究会, 大阪
6. 森本 聡, 森田龍頼, 青田泰子, 佐久間孝雄, 高橋延行, 岩坂壽二, 池田耕土, 澤田 敏 (2008) クロニジンが著効を示した慢性腎不全を伴う難治性高血圧の一例. 第12回腎臓病研究会, 東京
7. 野田亜未香, 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 伊藤量基, 福原資郎, 上田啓子, 宮坂陽子, 岩坂壽二 (2008) 難治性関節リウマチにて抗IL-6受容体抗体使用中に心外膜炎の増悪がみられた1例. 第187回日本内科学会近畿地方会, 京都
8. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 稔, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた循環器疾患診断シナリオ／ユースケースに関する検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
9. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康史, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFER を用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
10. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二 (2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携からMFERを用いた施設間連携へ. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
11. 大山恭夫, 阪口正博, 万木孝富, 中嶋章貴, 森本 聡 (2008) 心・腎連関を考慮した糖尿病治療計画～Alb尿・BNP分類による病態把握と経過観察～. 第32回大阪府医師会医学会総会, 大阪
12. 大倉ひろ枝, 東 良子, 吉岡秀樹, 宮内拓史, 藤井 賢, 吉賀正亨, 木村 稔, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 全自動マイクロプレートEIA測定装置を用いた人血清高分子量アディポネクチン・レプチン測定法の検討と有用性について. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
13. 大倉ひろ枝, 東 良子, 吉岡秀樹, 宮内拓史, 藤井 賢, 木村 稔, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 生活習慣病患者における肥満改善の臨床検査値による評価. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
14. 森本 聡 (2008) 透析患者の心血管合併症対策. 第13回大阪府臨床工学技士会学術集会, 大阪
15. 三宅真理, 高橋伸佳, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 山中 裕, 木村 稔, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」の効果の検討. 日本行動療法学会第34回大会, 東京
16. 宮坂陽子 (2008) 心房細動と脳梗塞. 日本臨床生理学会総会, 東京
17. 木村 稔, 宮内拓史, 田嶋佐和子, 高尾奈那, 中山英恵, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) 高分子量アディポネクチンによる運動時脂肪燃

- 焼効果の検討. 第29回日本肥満学会学会, 大阪
18. 佐久間孝雄, 森本 聡, 青田泰子, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 頭側延髄腹外側野への動脈による接触を認める本態性高血圧患者の血圧・自律神経活動日内変動に関する検討. 第31回日本高血圧学会学術総会, 札幌
  19. 森本 聡, 青田泰子, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 頭側延髄腹外側野への動脈による接触の有無が本態性高血圧における大脳白質病変に及ぼす影響について. 第31回日本高血圧学会学術総会, 札幌
  20. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 難治性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈による接触罹患率. 第31回日本高血圧学会学術総会, 札幌
  21. 山根景次, 高田厚照, 杉林幸代, 平山優子, 大倉ひろ枝, 宮坂陽子, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 僧帽弁輪形成術後の遠隔期に高度な僧帽弁逆流が認められた一症例. 第48回近畿医学検査学会, 神戸
  22. 山中 裕, 三宅眞理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 稷, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後のITによる遠隔セルフモニタリングと支援の効果. 日本遠隔医療学会学術大会, 東京
  23. 中川 清, 森本 聡, 松澤美保, 柴田清美, 大垣佳代, 種村直美, 大田千穂子, 高橋延行, 宮野喜代子 (2008) 患者指導における腹膜透析導入用電子クリニカルパスの有用性について. 第14回日本腹膜透析研究会, 札幌
  24. 井上雅之, 高橋延行, 森本 聡, 森田龍頼, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) Evans症候群を発症した維持血液透析患者の1例. 第38回日本腎臓学会西部学術大会, 名古屋
  25. 岡本貴行, 森本 聡, 北村哲也, 万木孝富, 福井政慶, 中嶋章貴 (2008) 維持血液透析患者における内臓脂肪面積および血清脂質プロフィール. 第38回日本腎臓学会西部学術大会, 名古屋
  26. 森田龍頼, 森本 聡, 上田啓子, 高橋延行, 河野啓子, 永田登志子, 梅田幸久, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) シクロスポリンとLDLアフェレーシス併用治療が奏功したネフローゼ症候群の1例. 第38回日本腎臓学会西部学術大会, 名古屋
  27. 森本 聡, 高橋延行, 森田龍頼, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 難治性ネフローゼ症候群に対してイコデキストリン腹膜透析を開始したが, 後に離脱可能となった症例. 第38回日本腎臓学会西部学術大会, 名古屋
  28. 森本 聡, 高橋延行, 草部牧子, 森田龍頼, 岩坂壽二 (2008) コレステロール塞栓症による腎機能障害に対するLDLアフェレーシス(LDL-A)・ステロイド併用療法. 第71回大阪透析研究会; 2008年9月7日大阪市, 大阪
  29. 森田龍頼, 森本 聡, 染矢和則, 上田啓子, 高橋延行, 永田登志子, 河野啓子, 梅田幸久 (2008) 腎不全及び高Ca血症を呈した1例. 第142回新大阪腎疾患カンファレンス, 大阪
  30. 竹花一哉 (2008) 教育講演「画像診断を心臓リハビリテーションにどのように活かすか」4.RI検査. 第14回日本心臓リハビリ学会, 大阪
  31. 青田泰子, 森本 聡, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 難治性高血圧における頭側延髄腹外側野への動脈による接触罹患率に関する検討. 第16回大阪臨床高血圧研究会, 大阪
  32. 竹花一哉 (2008) Heart Risk Viewの使用経験. 第33回心臓核医学談話会, 東京
  33. 竹花一哉 (2008) マルチモダリティ時代の核医学の役割 2. 虚血性心疾患. 第41回日本核医学会近畿地方会, 京都
  34. 竹花一哉, 前羽宏史, 上山敬直, 木村 稷, 岩坂壽二 (2008) MDCT検査の冠動脈石灰化スコアと心筋血流予備能の関連. 第41回日本核医学会近畿地方会, 京都
  35. 竹花一哉 (2008) 「DPC時代の心臓核医学を考える」4. スループット向上によるスクリーニング検査の効率化. 第18回日本心臓核医学会総会, 津
  36. 井上成人, 福井政慶, 坂井田文, 岡本貴行, 森本 聡, 正木浩哉, 中嶋章貴 (2008) 透析液浄化とエリスロポエチン使用量. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸

37. 岡本貴行, 森本 聡, 北村哲也, 坂井田文, 万木孝富, 福井政慶, 中嶋章貴 (2008) 腹膜透析 (PD) の併用が有効であった血液透析 (HD) 困難症の一例. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
38. 宮野喜代子, 森本 聡, 松澤美保, 柴田清美, 大垣佳代, 大田千穂子, 高橋延行, 中川 清 (2008) 腹膜透析出口部ケアにおける患者指導用パンフレット及びDVDの有用性. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
39. 高橋延行, 森本 聡, 中嶋麻里, 早川 敬, 拝殿未央, 前羽宏史, 岩坂壽二 (2008) 冠動脈バイパス術後に出現した慢性低血圧により血液透析から腹膜透析に移行した1症例. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
40. 山内梓, 高橋延行, 森本 聡, 早川 敬, 岩坂壽二 (2008) 低尿酸血症を伴う運動後急性腎不全の1症例. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
41. 城戸江利花, 森本 聡, 高岸浩美, 柿本早苗, 住谷尚美, 保井明泰 (2008) エリスロポエチンからダルベポエチンへの変更例における貧血管理状況について. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
42. 城戸江利花, 森本 聡, 高岸浩美, 柿本早苗, 住谷尚美, 保井明泰 (2008) 長期間腹膜透析 (PD) 施行後に血液透析 (HD) に変更した患者における各種検査値および生活の質 (QOL) の変化. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
43. 森本 聡, 高橋延行, 草部牧子, 森田龍頼, 岩坂壽二 (2008) コレステロール塞栓症による腎機能障害に対して LDL アフェレーシス (LDL-A)・ステロイド併用療法が有用であった1症例. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
44. 西岡宏彰, 森本 聡, 高橋延行, 岩坂壽二 (2008) 維持血液透析患者における QT 間隔の検討. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
45. 大垣佳代, 森本 聡, 松澤美保, 柴田清美, 大田千穂子, 宮野喜代子, 高橋延行, 北村 臣, 中川 清 (2008) 電子カルテと透析管理システム連動下における血液透析導入期クリニカルパス. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
46. 中島義文, 森本 聡, 野崎真紀, 熊本裕子, 安藤浜江, 馬庭ひとみ, 杉川智美, 土井美代子, 奥田信昭 (2008) ニプロ社製 PES-Dα と FB-PGA の性能比較. 第53回日本透析医学会学術総会, 神戸
47. 高橋延行, 森本 聡, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性腎症における尿蛋白排泄量と血管内皮機能との関連. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
48. 今田崇裕, 正木浩哉, 菊池早苗, 山原英樹, 森本 聡, 河野啓子, 高橋延行, 永田登志子, 吉田敏子, 梅田幸久, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) Coronary intervention 施行患者における造影剤腎症の検討. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
49. 山原英樹, 今田崇裕, 菊池早苗, 河野啓子, 高橋延行, 森本 聡, 永田登志子, 梅田幸久, 正木浩哉, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 腹膜透析患者における食塩患者性の検討. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
50. 城 聡一, 森本 聡, 城ひろみ, 菊池早苗, 山原英樹, 今田崇裕, 正木浩哉, 小崎篤志, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性腎症におけるアンジオテンシン受容体拮抗薬の腎保護作用—アンジオテンシン 2 型受容体の役割について—. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
51. 森本 聡, 青田泰子, 佐久間孝雄, 高橋延行, 池田耕士, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 頭側延髄腹外側野への動脈性接触を認める本態性高血圧における血圧日内変動. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
52. 大山恭夫, 森本 聡, 阪口正博 (2008) 心・腎連関を考慮した糖尿病治療計画. Alb 尿・BNP 分類による病態把握と経過観察. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
53. 福井政慶, 中嶋章貴, 岡本貴行, 坂井田文, 村哲也, 岡 博史, 来島泰秋, 森本 聡, 正木浩哉, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性皮膚潰瘍における帰者建中湯の有用性. 第51回日本腎臓学会学術総会, 福岡
54. 城 聡一, 森本 聡, 小崎篤志, 長谷川隆正, 城ひろみ, 野村恵巳子, 田代香織, 浮田千津子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性腎症に対するアンジオテンシン 1 型受容体拮抗薬 (ARB) の腎保護効果における 2 型受容体の役割. 第51回糖尿病学会年次学術集

会, 東京

55. 長谷川隆正, 小崎篤志, 城 聡一, 城ひろみ, 野村恵巳子, 田代香織, 浮田千津子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 慢性C型肝炎に対して INF $\alpha$ -2b とリバビリン併用療法中に自己免疫性1型糖尿病を発症した1例. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
56. 田代香織, 小崎篤志, 真鍋憲市, 野村恵巳子, 城ひろみ, 城 聡一, 長谷川隆正, 豊田長興, 浮田千津子, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性早期腎症の評価への肝型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の有用性について. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
57. 田嶋佐和子, 福田正子, 小崎篤志, 木村 稔, 浦上昌也, 岩坂壽二, 西川光重 (2008) 腹囲の減少および HOMA の改善の及ぼす食品群別摂取量の影響～肥満外来における FFQ の結果による検討～. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
58. 豊田長興, 野村恵巳子, 浮田千津子, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2008) 甲状腺機能悪化に伴う血糖コントロール悪化に際しインスリン必要量が1.5倍増加したバセドウ病合併緩徐進行1型糖尿病に1例. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
59. 野村恵巳子, 豊田長興, 城 聡一, 城ひろみ, 田代香織, 長谷川隆正, 浮田千津子, 小崎篤志, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 白色脂肪に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
60. 竹花一哉, 奥 真也, 神宮司公二, 巽 光朗, 宮内 勉, 河邊讓二, 對問博之, 渡邊 淳, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 5大学病院核医学部門の業務分析によるIHE-J等標準化技術適合度の再検討 保存データの範囲と態様. 第67回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
61. 高橋延行, 森本 聡, 中嶋麻里, 早川 敬, 拜殿未央, 前羽宏史, 岩坂壽二 (2008) 冠動脈バイパス術後に出現した慢性低血圧により血液透析から腹膜透析に移行した1症例. 京阪腎不全研究会, 大阪
62. 高杯伸佳, 三宅真理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 木村 稔, 西山利正 (2008) 行動変容型旅行「ヘルスツーリズム」の効果の検討. 第14回日本行動医学会学術総会, 津
63. 城戸江利花, 森本 聡, 高岸浩美, 柿本早苗, 住谷尚美, 保井明泰 (2008) エリスロポエチンからダルベポエチンへの変更例における貧血管理状況について. 第70回大阪透析研究会, 大阪
64. 竹花一哉 (2008) ランチョンセミナー「見える, つながる! 循環器領域の医療情報」IHEで便利になる循環器情報管理. 第72回日本循環器学会, 福岡
65. 竹花一哉 (2008) 画像診断を用いた胸痛患者のトリアージ. 第10回和歌山心臓核医学カンファレンス, 和歌山
66. 高橋弘毅, 宮坂陽子, 妹尾 健, 拜殿未央, 山本哲史, 上能寛之, 服部玲治, 岩坂壽二 (2008) 左右両心系に疣贅を認めた感染性心内膜炎の一例. 日本循環器学会近畿地方会, 大阪
67. 青田泰子, 中谷 敏, 橋本修治, 神崎秀明, 宮坂陽子, 岩坂壽二, 北風政史 (2008) 高安大動脈炎による高度大動脈逆流の手術適応は左室径に依存しない. 日本心エコー学会, 神戸, 兵庫
68. 土手絹子, 宮坂陽子, 青田泰子, 拜殿未央, 大石千尋, 岩坂壽二 (2008) 左室拡張障害に関係する因子: 肥満の関与についての検討. 日本心エコー学会, 神戸, 兵庫
69. 拜殿未央, 宮坂陽子, 妹尾 健, 青田泰子, 土手絹子, 大石千尋, 木村 稔, 岩坂壽二 (2008) Left atrial volume in obese subjects without cardiovascular comorbidities. 日本心エコー学会, 神戸, 兵庫
70. Aota Y, Nakatani S, Hashimoto S, Kanzaki H, Miyasaka Y, Iwasaka T and Kitakaze M (2008) Ventricular size in not a good indicator of surgical timing in patients with severe aortic regurgitation due to Takayasu aortitis. 第72回日本循環器学会総会, 博多, 福岡
71. Dote K, Miyasaka Y, Morishima K, Aota Y, Haiden M, Oishi C and Iwasaka T (2008) Obesity as an Independent risk for the left ventricular diastolic dysfunction. 第72回日本循環器学会総会, 博多, 福岡

72. 柴田清美, 宮野喜代子, 大垣佳代, 木谷美保, 大田千穂子, 狭間信幸, 衣川 大, 北村 臣, 中川 清, 高橋延行, 森本 聡 (2008) 患者指導における腹膜透析導入用電子クリニカルパスの有用性に関する検討. 第23回関西CAPDナースセミナー, 大阪

#### 著 書

1. Hashimoto S, Fujisato T, Tsutsui H, Yoshiura M, Uto S, Mochizuki S, Ohsuga M, Akazawa K, Kobayashi H, Kawai T, Yamasaki K, Kondo H,

Imoto K, Takase J, Hayashi H, Okada M, Otani H, Yoshinaka K (2008) Development of micro actuator with cultured muscle cell. Proceedings of the sixth IASTED International Conference on Biomedical Engineering, February 13–15, 2008, Innsbruck, Austria (Hierleman A ed) pp. 93–96, ACTA Press, Anaheim, Ca, USA

2. 森本 聡 (2008) 各種降圧薬のPWV・AIへの効果. 新しい血圧測定と脈波解析マニュアル (小澤利男編) 224–227 頁, MEDICAL VIEW, 東京

### 内科学第三講座

#### 〈研究業績〉

##### 原 著

1. Matsushita M, Wakamatsu T, Danbara N, Omiya M, Uchida K, Nishio A and Okazaki K (2008) Improved polyp detection: Narrow-band imaging colonoscopy with a transparent retractable extension device. *Am J Gastroenterol* 103(9): 2401
2. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2008) Effective injection site on endoscopic injection therapy for postsphincterotomy bleeding: apex or oral? *Am J Gastroenterol* 103(6): 1569–1570
3. Matsushita M, Danbara N, Fukui T, Matsumoto T, Omiya M, Uchida K and Okazaki K (2008) Much colonic surface visualization by a standard colonoscope with a transparent hood. *Am J Gastroenterol* 103(6): 1568–1569
4. Matsushita M, Shimatani M, Takaoka M and Okazaki K (2008) "Short" double-balloon enteroscope for diagnostic and therapeutic ERCP in patients with altered gastrointestinal anatomy. *Am J Gastroenterol* 103(12): 3218–3219
5. Matsushita M, Ikeura T, Fukui T, Uchida K and Okazaki K (2008) Refractory autoimmune pancreatitis: azathioprine or steroid pulse therapy? *Am J Gastroenterol* 103(7): 1834–1835
6. Okazaki K (2008) Are regulatory molecules for T cells involved in the development of autoimmune pancreatitis? *Am J Gastroenterol* 103(3): 595–

596

7. Sakaguchi Y, Inaba M, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Ando Y, Uchida K, Okazaki K and Ikehara S (2008) The Wistar Bonn Kobori rat, a unique animal model for autoimmune pancreatitis with extrapancreatic exocrinopathy. *Clin Exp Immunol* 152(1): 1–12
8. Matsushita M, Mori S, Uchida K and Okazaki K. (2008) Brunner's gland hamartomas: endoscopic submucosal dissection versus snare polypectomy. *Dig Dis Sci* 53(2): 594–595
9. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2008) Dermatomyositis accompanied by bleeding esophageal diverticula or intramural pseudodiverticulosis? *Dig Dis Sci* 53(2): 592–593
10. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Matsui K, Hirohara J, Tanaka K and Kamiyama Y (2008) Liver Regeneration in Donors Evaluated by Tc-99m-GSA Scintigraphy after Living Donor Liver Transplantation. *Dig Dis Sci* 53(3): 850–855
11. Matsushita M, Danbara N, Omiya M, Uchida K, Nishio A and Okazaki K. (2008) Is closure of large mucosal defects after endoscopic mucosal resection and endoscopic submucosal dissection truly needed? *Endoscopy* 40(8): 706
12. Matsushita M, Wakamatsu T, Danbara N, Kawamata S, Omiya M and Okazaki K (2008) Detection of colorectal polyps behind the folds: A

- transparent hood or the third eye retoscope? *Endoscopy* 40(12): 1055
13. Matsushita M, Matsumoto T, Omiya M, Uchida K and Okazaki K (2008) Closure of post-EMR mucosal defects: to need or not to need, that is the question. *Gastrointest Endosc* 68(4): 812–813
  14. Matsushita M, Shimatani M, Uchida K and Okazaki K (2008) Association of hyperamylasemia and longer duration of peroral double-balloon enteroscopy: present and future. *Gastrointest Endosc* 68(4): 811
  15. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2008) Diagnosis of peritoneal carcinomatosis: transgastric versus transrectal EUS-guided FNA or percutaneous paracentesis. *Gastrointest Endosc* 67(7): 1211–1212
  16. Matsushita M, Uchida K and Okazaki K (2008) Endoscopic snare resection of papillary-type early bile duct cancers. *Gastrointest Endosc* 67(1): 191
  17. Matsushita M, Uchida K, Tahashi Y and Okazaki K (2008) Endoscopic band ligation for cardiac variceal bleeding: safe or fatal? *Gastrointest Endosc* 67(1): 189–190
  18. Matsushita M, Omiya M, Uchida K, Nishio A and Okazaki K (2008) More polyp detection: narrow-band imaging or a transparent hood? *Gut* 57(9): 1334
  19. Matsuzaki K and Ozaki I (2008) TGF- $\alpha$  and hepatocellular carcinoma. *Hepatology* 47: 1095–1096
  20. Iwasaki S, Ohira H, Nishiguchi S, Zeniya M, Kaneko S, Onji M, Ishibashi H, Sakaida I, Kuriyama S, Ichida T, Onishi S, Toda G; Study Group of Intractable Liver Diseases for Research on a Specific Disease, Health Science Research Grant, Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan (2008) The efficacy of ursodeoxycholic acid and bezafibrate combination therapy for primary biliary cirrhosis: A prospective, multicenter study. *Hepatol Res* 38(6): 557–564
  21. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2008) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. *Inflamm Bowel Dis* 14(6): 826–838
  22. Matsushita M, Fukui T, Uchida K, Nishio A and Okazaki K (2008) Effective "Coca-Cola" therapy for phytobezoars. *Intern Med* 47(12): 1161
  23. Hachimine D, Uchida K, Asada M, Nishio A, Kawamata S, Sekimoto G, Murata M, Yamagata H, Yoshida K, Mori S, Tahashi Y, Matsuzaki K and Okazaki K (2008) Involvement of Smad3 phosphoisoform-mediated signaling in the development of colonic cancer in IL-10-deficient mice. *Int J Oncol* 32(6): 1221–1226
  24. Kitai S, Kudo M, Minami Y, Ueshima K, Chung H, Hagiwara S, Inoue T, Ishikawa E, Takahashi S, Asakuma Y, Haji S, Osaki Y, Oka H, Seki T, Kasugai H, Sasaki Y and Matsunaga T (2008) A new prognostic staging system for hepatocellular carcinoma: Value of the biomarker combined Japan integrated staging score. *Intervirology* 51(Suppl.1): 86–94
  25. Matsushita M, Omiya M, Uchida K, Nishio A and Okazaki K (2008) Narrow-band imaging colonoscopy with a transparent hood for more polyp detection. *J Gastroenterol* 43(10): 809
  26. Otsuki M, Chung JB, Okazaki K, Kim MH, Kamisawa T, Kawa S, Park SW, Shimosegawa T, Lee K, Ito T, Nishimori I, Notohara K, Naruse S, Ko SB, Kihara Y; Research Committee of Intractable Pancreatic Diseases provided by the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan and the Korean Society of Pancreatobiliary Diseases (2008) Asian diagnostic criteria for autoimmune pancreatitis: Consensus of the Japan-Korea Symposium on Autoimmune Pancreatitis. *J Gastroenterol* 43(6): 403–408
  27. Kitai S, Kudo M, Minami Y, Haji S, Osaki Y, Oka H, Seki T, Kasugai H, Sasaki Y and Matsunaga T (2008) Validation of a new prognostic staging system for hepatocellular carcinoma: A comparison of the biomarker-combined Japan integrated staging score, the conventional Japan integrated staging score and the BALAD score. *Oncology* 75(Suppl.1): 83–90

28. Miyoshi H, Uchida K, Taniguchi T, Yazumi S, Matsushita M, Takaoka M and Okazaki K (2008) Circulating naive and CD4+CD25high regulatory T cells in patients with autoimmune pancreatitis. *Pancreas* 36(2): 133-140
29. Matsushita M, Wakamatsu T, Danbara N, Fukui T, Matsumoto T, Omiya M, Uchida K and Okazaki K. (2008) Complete endoscopic resection of large sessile or flat colorectal polyps with high-magnification chromoendoscopy or endoscopic submucosal dissection. *Scand J Gastroenterol* 43(8): 1016-1017
30. Fukushima S, Okuno H, Shibatani N, Nakahashi Y, Seki T and Okazaki K (2008) Effect of biliary obstruction and internal biliary drainage on hepatic cytochrome P450 isozymes in rats. *World J Gastroenterol* 14(16): 2556-2560
31. 関 寿人 (2008) 【肝癌と臨床検査】 治療 PEIT, PMCT, PRFA. *Med Technol* 36(10): 1043-1049
32. 坂口正博, 蘆田 潔, 森 茂生, 李 栄柱, 藤原靖弘, 羽生泰樹, 梅垣英次, 根引浩子, 増田栄治, 辻 晋吾, 今本治彦, 飯石浩康, 樋口和秀, 岡崎和一, 荒川哲男, 川野 淳 (2008) GERD および NERD に対する考え方と治療の現況—4 年前のアンケート調査と比較して—. *科学評論社* 47(6): 683-694
33. 岡崎和一, 内田一茂, 池浦 司, 福井寿朗, 松下光伸, 高岡 亮 (2008) 【自己免疫性膵炎の最近の進展】自己免疫性膵炎の診断 活動度評価. *肝・胆・膵* 56(2): 215-221
34. 福井寿朗, 西尾彰功, 岡崎和一, 千葉 勉 (2008) 病態との関連を巡って—Acid-peptic disorder から腫瘍性疾患まで—ヘリコバクター胃炎における CD8 陽性細胞の役割—MHC class II 欠損マウスを用いた検討—. *消化器医* 6: 14-20
35. 坂口正博, 蘆田 潔, 森 茂生, 岡崎和一, 李 栄柱, 藤原靖弘, 荒川哲男, 羽生泰樹, 梅垣英次, 樋口和秀, 根引浩子, 増田栄治, 辻 晋吾, 今本治彦, 飯石浩康, 川野 淳 (2008) GERD および NERD に対する考え方と治療の現況—4 年前のアンケート調査と比較して—. *消化器科* 47(6): 683-694
36. 久保田佳嗣, 向井秀一, 田中聖人, 岡部純弘, 北野雅之, 菊池英亮, 小山茂樹, 八隅秀二郎, 斯波将次, 安田健治朗 (2008) 肝門部胆管悪性狭窄に対するステント留置術 関西 EDS 研究会による multi-center study. *胆道* 22(2): 160-168
37. 藤井寿仁 (2008) 当院における大腸内視鏡検査の臨床的検討 高齢者群と非高齢者群の比較. *日大腸検会誌* 25(1): 56-60
38. 岡崎和一 (2008) シグナル伝達を理解するために必要な知識 HGF によるシグナル伝達. *分子消化器病* 5(1): 82-87
39. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2008) 核医学的検査による NASH の評価—肝集積率, 脾集積率による検討—. *薬理と治療* 36(Suppl.2): S221-S224
40. 岡崎和一 (2008) 【病棟当直でこんな症状を訴えられたら やっておくべきこと・やってはいけないこと】下痢をした. *臨研プラクティス* 5(6): 54-58

#### 総 説

1. Okazaki K, Uchida K, Fukui T, Matsushita M and Takaoka M (2008) Recent advances in autoimmune pancreatitis. *Gastroenterol Hepatol* 4(6): 417-426
2. Okazaki K, Uchida K and Fukui T (2008) Recent advances in autoimmune pancreatitis: concept, diagnosis, and pathogenesis. *J Gastroenterol* 43(6): 409-418
3. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 宮崎浩彰, 北出浩章, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 権 雅憲 (2008) 【癌治療クリニカルパス Update】膵臓癌手術. *外科治療* 99(1): 40-47
4. 岡崎和一, 内田一茂 (2008) 【自己免疫性膵炎の新展開】自己免疫性膵炎の診断 海外とわが国の診断基準の比較. *日消誌* 105(4): 486-493
5. 岡崎和一, 三好秀明, 小藪雅紀, 内田一茂 (2008) 消化器疾患の分子生物学 自己免疫性膵炎 (IgG4 disease). *分子消化器病* 5(2): 170-177
6. 岡崎和一, 小藪雅紀, 深田憲将, 鉢嶺大作, 三

好秀明, 内田一茂 (2008) 【膵炎診療をめぐる最近の動向 ガイドライン, 診断基準を含めて】自己免疫性膵炎の臨床診断基準 現状と問題点. 臨消内科 23(10): 1457-1466

7. 神澤輝実, 岡崎和一, 川茂 幸, 下瀬川徹, 大槻 真 (2008) 自己免疫性膵炎(AIP)の臨床診断基準に関する国際コンセンサスについて. 膵臓 23(5): 570-577
8. 川茂 幸, 藤永康成, 入澤篤志, 能登原憲司, 羽鳥 隆, 乾 和郎, 船越顕博, 須田耕一, 高瀬 優, 明石隆吉, 新倉和則, 神澤輝実, 小泉 勝, 広田昌彦, 岡崎和一, 大槻 真 (2008) 自己免疫性膵炎と膵癌の鑑別のポイント. 膵臓 23(5): 555-569

#### 症例報告

1. Fukui T, Shimatani M, Uchida K, Matsushita M and Okazaki K. (2008) Gastric mucosal laceration: a complication of manual bag-valve-mask ventilation. Clin J Gastroenterol 1(2): 56-58
2. Ikeura T, Matsushita M, Sakao M, Kawamura R, Shimatani M and Okazaki K (2008) Characteristic intraductal ultrasonographic features of portal biliopathy. Dig Endosc 20(4): 213-216
3. Matsushita M, Uchida K, Nishio A, Takakuwa H and Okazaki K. (2008) Small papilla: another risk factor for post-sphincterotomy perforation. Endoscopy 40(10): 875-876
4. Toyonaga T, Matsushita M, Matsumoto T, Fukui T, Omiya M, Uchida K and Okazaki K (2008) Endoscopic injection therapy for a bleeding exposed vessel in Crohn's disease. Gastrointest Endosc 68(3): 572-573
5. Sumimoto K, Matsushita M, Okazaki T, Omiya M, Uchida K and Okazaki K (2008) Crohn's disease accompanied by purulent discitis and psoas abscesses. Inflamm Bowel Dis 14(5): 728-730
6. Fukui T, Mitsuyama T, Takaoka M, Uchida K, Matsushita M and Okazaki K (2008) Pancreatic cancer associated with autoimmune pancreatitis in remission. Intern Med 47(3): 151-155
7. 島谷昌明, 松下光伸, 若松隆宏, 大宮美香, 内田一茂, 高岡 亮, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) パルミチン酸デキサメタゾンの静注が有効で

あった単純性潰瘍の1例. Gastroenterol Endosc 50(4): 1109-1114

8. 海堀昌樹, 石崎守彦, 斎藤隆道, 松井康輔, 池田広記, 大村直人, 権 雅憲, 上山泰男 (2008) 広範な肝右葉被膜下膿瘍を呈した急性胆嚢炎の1例. 消外 31(11): 1709-1715
9. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 内田一茂, 小薮雅紀, 深田憲将, 楠田武生, 池浦 司, 岡崎和一 (2008) 膵・胆管合流異常を有した胆管拡張症に対する胆管十二指腸吻合術 40年後に発症した胆管癌の1例. 胆と膵 29(7): 667-671

#### 学会発表

1. Sakaguchi Y, Inaba M, Ando Y, Fukui T, Uchida K, Nishio A, Ikehara S and Okazaki K (2008) WISTAR BONN KOBORI RAT, A UNIQUE ANIMAL MODEL FOR AUTOIMMUNE PANCREATITIS WITH AUTOIMMUNE EXTRA-PANCREATIC EXOCRINOPATHY. 39th ANNUAL AMERICAN PANCREATIC ASSOCIATION MEETING, Chicago, IL, USA
2. Uchida K, Ikeda H, Miyoshi H, Koyabu M, Fukata N, Sakaguchi Y, Fukui T, Ikeura T, Shimatani M, Matsushita M, Takaoka M and Okazaki K (2008) A case of sclerosing cholangitis with autoimmune pancreatitis treated with living donor liver transplantation. Autoimmune pancreatitis summit, Seoul, Korea
3. Uchida K, Miyoshi H, Taniguchi T, Yazumi S, Matsushita M and Okazaki K (2008) Circulating regulatory T cells in patients with autoimmune pancreatitis. Joint meeting of the european pancreatic club and the international association of pancreatology, Lodz, Poland
4. Matsuzaki K (2008) TGF- $\beta$  signaling during human carcinogenesis: the shift from C-terminally phosphorylated Smad3 to linker phosphorylated Smad3 pathway. the 28th Sapporo Cancer Seminar, International Symposium, Sapporo
5. Matsuzaki K (2008) Autocrine TGF- $\beta$  signaling in human metastatic colorectal cancer: the involvement of Smad2 and Smad3 phosphorylated at both linker and C-terminal regions for malignant behavior. the 28th Sapporo Cancer

Seminar, International Symposium, Sapporo

6. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Quan GK, Ikehara S and Okazaki K (2008) Subcutaneous Adipose Tissue-Derived Stem Cells Facilitate Colonic Mucosal Recovery from 2,4,6-Trinitrobenzene Sulfonic Acid (TNBS)-Induced Colitis in Rats. DDW 2008, San Diego, CA, USA
7. Nishio A, Asada M, Kido M, Akamatsu T, Saga K, Tanaka J, Watanabe N and Chiba T (2008) Effect of various toll-like receptor stimulation on the development of murine autoimmune pancreatitis. DDW 2008, San Diego, USA
8. Fukui T, Okazaki K, Nishio A and Chiba T (2008) CROSS-PRIMED CD8+ CYTOTOXIC T CELLS INDUCE SEVERE HELICOBACTER-ASSOCIATED GASTRITIS IN THE ABSENCE OF CD4+ T CELLS. 7th China-Korea-Japan Joint Conference on Helicobacter Infection, 京都
9. Matsuzaki K, Kawamata S, Seki T and Okazaki K (2008) TGF- $\beta$  signaling shifts from tumor-suppression to oncogenesis during ulcerative colitis associated carcinogenesis. 8th Colloquium for the Study of Gastrointestinal Defense System, Osaka
10. 高岡 亮, 島谷昌明, 池浦 司, 小藪雅紀, 楠田武生, 福井由理, 富山 尚, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 膵 serous cystadenoma の2例. 日本超音波医学会第35回関西地方会学術集会, 神戸
11. 加藤孝太, 島谷昌明, 松下光伸, 福井由理, 福井寿朗, 内田一茂, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 小腸 Crohn 病疑い症例に対してダブルバルーン小腸内視鏡(DBE)施行し, 回腸癌と確定診断し得た一例. SB Club 小腸研究会, 大阪
12. 岡崎和一 (2008) 自己免疫性膵炎. 第13回日本消化器病学会関東支部教育講演会, 東京
13. 田橋賢也, 若松隆宏, 森 茂生, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一 (2008) 二次性ヘモクロマトーシスおよびウィルソン病による食道胃静脈瘤出血例. 第15回日本門脈圧亢進症学会総会, 福岡
14. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) シンポジウム3: 小腸疾患の診断におけるダブルバルーン小腸内視鏡と放射線の画像診断の比較検討. 第46回全国小腸研究会, 東京
15. 松井康輔, 海堀昌樹, 斉藤隆道, 石崎守彦, 北出浩章, 今村 敦, 廣原淳子, 木村 謙, 権雅憲 (2008) 生体肝移植脂肪肝ドナーに対する当院の取り組み. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
16. 三好秀明, 内田一茂, 深田憲将, 小藪雅紀, 福井寿朗, 松下光伸, 高岡 亮, 西尾彰功, 八隅秀二郎, 谷口孝夫, 岡崎和一 (2008) 制御性T細胞自己免疫性膵炎における制御性T細胞に関する検討. 日本免疫学会総会, 京都
17. 廣原淳子, 仲野俊成, 大西三朗 (2008) パネルディスカッション4 性差からみた消化器疾患の病態と予後: 原発性胆汁性肝硬変における性差による病態と予後の相違-全国調査結果から-. JDDW-2008, 東京
18. 松下光伸, 島谷昌明, 岡崎和一 (2008) シンポジウム17: ダブルバルーン小腸内視鏡検査後の高アマラーゼ血症および急性膵炎に関する検討. JDDW 2008, 東京
19. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) ビデオシンポジウム1: 胃切除後の胆膵疾患に対するダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡治療の新展開. JDDW 2008, 東京
20. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) シンポジウム28: 当院でのダブルバルーン内視鏡検査における偶発症の検討. JDDW 2008, 東京
21. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) シンポジウム13: 小腸疾患の診断におけるダブルバルーン小腸内視鏡と放射線の画像診断の比較. JDDW 2008, 東京
22. 是枝ちづ, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉 (2008) 肝シンチグラフィはNASH経過観察に有用か-BMI変化からみた検討-. 第12回日本肝臓学会大会, 東京
23. 岸本真房, 富野敦稔, 櫻本和人, 上田創平, 山本 透, 島谷昌明, 森 茂生, 田崎賢也, 北澤康秀, 岡崎和一 (2008) 当院における出血性胃十二指腸潰瘍症例の検討. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌
24. 三好秀明, 内田一茂, 深田憲将, 小藪雅紀, 福井寿朗, 松下光伸, 高岡 亮, 西尾彰功, 八隅秀二郎, 谷口孝夫, 岡崎和一 (2008) 自己

- 免疫性膵炎における制御性T細胞に関する検討. 第36回日本臨床免疫学会総会, 東京
25. 高岡 亮, 島谷昌明, 福井由理, 池浦 司, 楠田武生, 小薮雅紀, 深田憲将, 内田一茂, 関寿人, 岡崎和一 (2008) 術後肝門部胆管狭窄に対する内視鏡的胆管チューブステント留置の有用性. 第50回日本消化器病学会大会, 東京
  26. 池浦 司, 楠田武生, 島谷昌明, 高岡 亮, 柳本泰明, 豊川秀吉, 里井壮平, 権 雅憲, 岡崎和一 (2008) 当院における分枝型IPMNに対する手術適応の検討. 第57回近畿膵疾患談話会, 大阪
  27. 高岡 亮, 島谷昌明, 岡崎和一 (2008) 胃切除術後の総胆管結石症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いた胆道結石摘石術の有用性. 第76回日本消化器内視鏡学会総会, 東京
  28. 住本貴美, 高岡 亮, 島谷昌明, 池浦 司, 小薮雅紀, 深田憲将, 楠田武生, 若松隆宏, 鈴木 亮, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) ERCP後アミラーゼ値上昇の意義についての検討. 第76回日本消化器内視鏡学会総会, 東京
  29. 朝山俊樹, 廣原淳子, 中村尚宏, 柳川雅人, 若松隆宏, 池田広記, 中橋佳嗣, 田橋賢也, 関寿人, 岡崎和一 (2008) 正常肝に発生した肝紫斑病の1例. 第186回日本内科学会近畿地方会, 京都
  30. 高岡 亮, 島谷昌明, 岡崎和一 (2008) 術後胆管狭窄に対する内視鏡的治療の有用性の検討. 第44回日本胆道学会学術集会, 名古屋
  31. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) ビデオシンポジウム2: 選択的胆管挿管・EST困難例に対する膵管ガイドワイヤー留置下プレカットESTの経験. 第81回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
  32. 中村尚広, 田橋賢也, 島谷昌明 (2008) パネルディスカッション: 関節リウマチ患者にみられた消化管糞線虫症の一例. 第81回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
  33. 富山 尚, 高岡 亮, 島谷昌明, 池浦 司, 若松隆宏, 青井一憲, 柳川雅人, 福井由理, 楠田武生, 内田一茂, 小薮雅紀, 関 寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 里井壮平, 権 雅憲 (2008) 若年発症した膵腺房細胞癌の1例. 第89回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
  34. 福井由理, 高岡 亮, 島谷昌明, 住本貴美, 福井寿朗, 富山 尚, 山科雅夫, 朝山俊樹, 中村尚弘, 楠田武生, 小薮雅紀, 池浦 司, 関寿人, 岡崎和一, 柳本泰明, 里井壮平, 権雅憲, 坂井田紀子 (2008) 急性膵炎を契機に発見された膵癌の1例. 第89回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
  35. 柳川雅人, 島谷昌明, 松下光伸, 朝山俊樹, 中村尚広, 福井由理, 福井寿朗, 内田一茂, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 小腸輪状狭窄を呈したと考えられるfollicular lymphomaの1例. 第89回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
  36. 柳川雅人, 成田基良, 中橋佳嗣, 朝山俊樹, 中村 弘, 青井一憲, 加藤孝太, 吉川恵史, 池田広記, 廣原淳子, 宮崎浩彰, 山縣英生, 若松隆宏, 松本隆之, 井口亮輔, 関 寿人, 岡崎和一, 松井浩輔, 斎藤隆道, 海堀昌樹 (2008) 無症候性胆石症から急性胆嚢炎, 穿通性肝膿瘍, 横隔膜下膿瘍, 膿胸を来した1例. 第89回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
  37. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 胃切除後の胆膵疾患に対する内視鏡的アプローチの工夫—ダブルバルーン内視鏡を用いた検討—. 日本胆道学会総会, 名古屋
  38. 松下光伸, 岡崎和一, 西尾彰功, 内田一茂, 大宮美香, 福井寿朗, 川股聖二, 安藤祐吾, 深田憲将 (2008) 難治性炎症性腸疾患に対するステロイドを用いたドラッグデリバリーシステム治療の臨床試験 (I. ポリ乳酸マイクロカプセルを用いたステロイド封入カプセルによる難治性潰瘍性大腸炎治療の臨床試験. II. リポ化ステロイドを用いたドラッグデリバリーシステムによる炎症性腸疾患の治療: 多施設共同による無作為化並行群間試験). 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成20年度第1回総会, 東京
  39. 廣原淳子 (2008) 原発性胆汁性肝硬変(PBC)について. 大阪府豊中保健所広域講演会, 大阪
  40. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) 治療に難渋した単純性潰瘍の一例と当院における難治性炎症性腸疾患の治療. 第12回 関西腸疾患研究会, 大阪
  41. 岡崎和一, 内田一茂, 三好秀明, 小薮雅紀, 西

- 尾彰功 (2008) 自己免疫性膵炎の病態における制御性T細胞に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究班 第2回総会, 東京
42. 池浦 司, 高岡 亮, 内田一茂, 島谷昌明, 住本貴美, 鈴木 亮, 岡崎和一 (2008) 当施設の重症急性膵炎における新しい重症度判定基準に関する検討. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
43. 内田一茂, 池田広記, 深田憲正, 小藪雅樹, 三好秀明, 福井寿朗, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 肝移植となった自己免疫性膵炎合併硬化性胆管炎の1例. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
44. 池田耕造, 梅原秀人, 井口亮輔, 川股聖二, 福島慎太郎, 関 寿人, 岡崎和一, 辻 勝成, 権雅憲, 鷹巢晃昌, 四方伸明 (2008) 肝細胞癌: Fibrolamellar carcinoma でしょうか? 大阪肝穿刺生検治療研究会, 大阪
45. 松崎恒一, 村田美樹, 関本 剛, 小池和彦, 関寿人, 岡崎和一 (2008) 慢性ウイルス性肝疾患におけるTGF- $\beta$ シグナル伝達. 第44回日本肝臓学会総会, 愛媛
46. 門田洋一, 福島慎太郎, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 薬物性肝障害の診断におけるスコアリングの有用性の検討. 第44回日本肝臓学会総会, 愛媛
47. 廣原淳子, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 木村 稯 (2008) 生体部分肝移植における脂肪肝ドナーの術前評価と短期強化療法. 第44回日本肝臓学会総会, 愛媛
48. 若松隆宏, 鉢嶺大作, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 肝細胞癌におけるMRP4, 5を分子標的とした抗癌剤耐性克服の検討. 第44回日本肝臓学会総会, 愛媛
49. 廣原淳子 (2008) 肝臓の働きと病気の種類. 肝臓フォーラム, 大阪
50. 廣原淳子 (2008) 原発性胆汁性肝硬変(PBC)の治療と療養生活. 大阪府岸和田保健所原発性胆汁性肝硬変学習会, 大阪
51. 池田耕造, 関 寿人, 梅原秀人, 井口亮輔, 岡崎和一 (2008) 肝腫瘍性病変との鑑別に難渋した肝内血腫の一症例. 第44回日本肝癌研究会, 大阪
52. 池田耕造, 関 寿人, 梅原秀人, 井口亮輔, 岡崎和一 (2008) 下大静脈浸潤を有する肝細胞癌症例の治療成績. 第44回日本肝癌研究会, 大阪
53. 朝山俊樹, 池田耕造, 関 寿人, 梅原秀人, 井口亮輔, 井上肇一, 岡崎和一 (2008) 進行肝細胞癌の右房転移, 肺転移に対しアイエーコール+リビオドール併用肝動注化学療法が奏効した一例. 第44回日本肝癌研究会, 大阪
54. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) ビデオシンボジウム2: 除後症例における胆・膵疾患症例に対するダブルバルーン内視鏡を用いたERCP関連手技の工夫. 第75回日本消化器内視鏡学会 総会, 横浜
55. 岡崎和一 (2008) 自己免疫性膵炎の最近の進歩. 第7回九州シェーグレン症候群研究会, 福岡
56. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) ワークショップ2: 当科におけるダブルバルーン小腸内視鏡検査のクリニカルパス. 第94回日本消化器病学会総会, 福岡
57. 島谷昌明, 松下光伸, 鈴木 亮, 住本貴美, 塩見圭佑, 福井寿朗, 田橋賢也, 内田一茂, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 腹痛と小腸疾患: ダブルバルーン小腸内視鏡を用いた臨床的アプローチ. 第94回日本消化器病学会総会, 福岡
58. 廣原淳子, 仲野俊成, 大西三朗 (2008) ワークショップ3: 多臓器病変を呈する消化器疾患: 合併する自己免疫疾患別にみた原発性胆汁性肝硬変(PBC)の病態の相違- PBC全国調査結果から-. 第94回日本消化器病学会総会, 福岡
59. Ando Y, Inaba M, Guo K and Ikehara S (2008) Adipose Tissue-Derived Stem Cells Facilitate Colonic Mucosal Recovery in Experimental Colitis Rats. 第97回日本病理学会総会, 金沢
60. 高岡 亮, 島谷昌明, 池浦 司, 小藪雅紀, 深田憲将, 楠田武生, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 下部胆管狭窄症例における中上部胆管壁の胆管腔内超音波像の検討. 日本超音波医学会第81回学術集会, 神戸
61. 廣原淳子 (2008) 生体肝移植に関する最近の話題. 第219回枚方医師会・交野医師会学術研修会, 大阪
62. 大宮美香, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) 区域

- 性に広範囲な潰瘍形成を認めた非特異的大腸炎の1例. 第172回大腸疾患研究会, 大阪
63. 是枝ちづ, 武田聖子, 関 寿人, 岡崎和一, 河相吉 (2008) 核医学的検査によるNASHの評価—肝集積率, 脾集積率による検討—. 第16回肝病態生理研究会, 愛媛
64. 池浦 司, 高岡 亮, 島谷昌明 (2008) 悪性胆管狭窄に対するガイドワイヤ誘導下生検の経験. 第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
65. 楠田武生, 高岡 亮, 島谷昌明, 小藪雅紀, 池浦 司, 深田憲将, 住本貴美, 鈴木 亮, 塩見圭祐, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 自然脱落型膵管ステントが2ヶ月間残存した一例. 第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
66. 松下光伸, 島谷昌明, 岡崎和一 (2008) 比較的可れな腸疾患に対する臨床病理学的知見: 本院における小腸悪性リンパ腫の臨床病理学的検討. 第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
67. 鈴木 亮, 島谷昌明, 住本貴美, 塩見圭祐, 福井寿朗, 内田一茂, 松下光伸, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 経口的ダブルバルーン小腸内視鏡検査後に重症急性膵炎を来した一例. 第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
68. 豊永貴彦, 松本隆之, 鈴木 亮, 住本貴美, 若松隆宏, 福井寿朗, 大宮美香, 内田一茂, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) 露出血管のあるクローン病の潰瘍出血に対して内視鏡的止血術が有効であった一例. 第80回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
69. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 川股聖二, 安藤祐吾, 大宮美香, 藤井壽仁 (2008) リポ化ステロイドを用いたドラッグデリバリーシステムによる炎症性腸疾患の治療: 多施設共同による無作為化並行群間試験. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成19年度第2回総会, 東京
70. 松下光伸, 岡崎和一, 深田憲将, 内田一茂, 川股聖二, 安藤祐吾, 大宮美香, 藤井壽仁, 大植謙一, 廣田育彦, 田畑泰彦, 仲瀬裕志, 千葉 勉 (2008) ポリ乳酸マイクロカプセルを用いたステロイド封入カプセルによる難治性潰瘍性大腸炎治療の臨床試験. 厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「炎症性腸疾患の画期的治療法に関する臨床研究」平成19年度第2回総会, 東京
71. 松下光伸, 大宮美香, 岡崎和一 (2008) クローン病の緩解導入・緩解維持におけるインフリキシマブの有用性と新たな治療法の可能性. 第4回日本消化管学会総会, 大阪
72. 島谷昌明, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) ワークショップ2: 当科におけるダブルバルーン内視鏡の現状と内視鏡検査・処置の工夫. 第4回日本消化管学会総会学術集会, 大阪
73. 島谷昌明 (2008) 当院でのダブルバルーン小腸内視鏡検査の現状と小腸疾患における役割. 第5回関西消化器内視鏡懇談会, 大阪
74. 住本貴美, 池田広記, 中橋佳嗣, 広原淳子, 島谷昌明, 若松隆宏, 井口亮輔, 井上肇一, 鈴木 亮, 関 寿人, 岡崎和一, 松井康輔, 海堀昌樹, 上山泰男 (2008) 肝腫瘍との鑑別が困難であった肝膿瘍の一症例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
75. 成田基良, 田橋賢也, 住本貴美, 鈴木 亮, 星野勝一, 若松隆宏, 段原直行, 島谷昌明, 森茂生, 松下光伸, 竹内幸俊, 河島祥彦, 岡崎和一, 小島博之, 谷川 昇 (2008) 部分的脾動脈塞栓術 (PSE) が有効であった高度の貧血を伴う門脈圧亢進症性胃症 (PHG) の一例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
76. 星野勝一, 段原直行, 成田基良, 鈴木 亮, 住本貴美, 森 茂生, 田橋賢也, 若松隆宏, 仲野俊成, 岡崎和一 (2008) 術前化学療法により病理学的にCRを確認したstage IV進行胃癌の1例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
77. 池浦 司, 高岡 亮, 島谷昌明, 小藪雅紀, 楠田武生, 鈴木 亮, 住本貴美, 関 寿人, 岡崎和一, 豊川秀吉, 里井壮平, 上山泰男, 坂井田紀子 (2008) 膵腫瘍と鑑別が困難であった黄色肉芽腫性病変の1例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
78. 島谷昌明, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) シンポジウム1-1: 術後再建腸管を有する胆膵疾患症例に対するダブルバルーン内視鏡の有用性. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会,

大阪

79. 楠田武生, 高岡 亮, 島谷昌明, 小薮雅紀, 池浦 司, 深田憲将, 住本貴美, 鈴木 亮, 塩見圭祐, 関 寿人, 岡崎和一, 櫻本和人, 豊川秀吉, 柳本泰明, 里井壮平, 上山泰男 (2008) 臍dermoid cystの一例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
80. 鈴木 亮, 島谷昌明, 岡崎和一 (2008) シンポジウム 1-2: 当科におけるダブルバルーン小腸内視鏡による小腸疾患の診断と治療の現状. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
81. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第28報. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」平成19年度第2回総会, 東京
82. 岡崎和一, 内田一茂, 三好秀明 (2008) 自己免疫性膵炎における制御性T細胞の解析. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 難治性膵疾患に関する調査研究班 第2回総会, 小倉
83. 光山俊行, 成田基良, 坂尾将幸, 山口隆志, 柴谷伸行, 藤村和代, 中島 淳, 内田一茂, 岡崎和一 (2008) 肝内胆管癌との鑑別が困難であった原発性硬化性胆管炎に併発した肝炎症性偽腫瘍の一例. 第44回日本胆道学会総会, 名古屋
84. 岡崎和一, 内田一茂, 小薮雅紀, 楠田武生 (2008) 自己免疫性膵炎の免疫・生理機能. 第25回日本胆膵生理機能研究会, 京都
85. 岡崎和一 (2008) 胆嚢・胆道と膵臓の病気と治療. 日本消化器病学会近畿支部第39回市民公開講座, 滋賀
86. 青井一憲, 大宮美香, 松下光伸, 柳川雅人, 中村尚弘, 岡崎和一 (2008) 潰瘍性大腸炎の経過中に急性膵炎を併発した一症例. 第16回北河内炎症性腸疾患カンファレンス, 大阪
87. 大宮美香, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) 潰瘍性大腸炎における血中アンチゲネミア陰性・大腸組織PCR法陽性CMV感染症に対する抗ウイルス治療についての検討厚生労働科学研究難治性疾患克服研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」. 平成20年度第1回総会, 東京
88. 青井一憲, 大宮美香, 松下光伸, 柳川雅人, 中村尚弘, 岡崎和一 (2008) 潰瘍性大腸炎の経過中に急性膵炎を併発した一症例. 第81回日本消化器内視鏡学会近畿地方会, 大阪
89. 鈴木 亮, 大宮美香, 若松隆宏, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) Crohn病に対するレミケード投与中に白血球減少を来した一症例. 第5回関西消化器内視鏡懇話会
90. 大宮美香, 松下光伸, 岡崎和一 (2008) 区域性に広範囲な潰瘍形成を認めた非特異的大腸炎の1例. 第1回日米IBDセミナー, 大阪
91. 島谷昌明, 松下光伸, 鈴木 亮, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 当院でのダブルバルーン小腸内視鏡の現状と小腸疾患における役割. 第5回関西消化器内視鏡懇話会, 大阪
92. 是枝ちづ, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉 (2008) 肝シンチグラフィはNASH経過観察に有用か—BMI変化からみた検討—. 第12回日本肝臓学会大会, 東京
93. 是枝ちづ (2008) NASHの病態と生活習慣病について. 第8回北河内肝臓疾患懇話会, 大阪
94. 塩見圭祐, 是枝ちづ, 谷野朋子, 武田聖子, 門田洋一, 関 寿人, 岡崎和一, 尾崎 岳, 四方伸明, 池田耕志 (2008) ソナゾイド造影エコーが血管貫通所見を示した小腸リンパ腫の1例. 第35回日本超音波医学会関西地方会, 神戸

#### 著 書

1. 森 茂生, 岡崎和一 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理) (2008) 嚥下困難. わかりやすい内科学 第3版 1209-1213頁, 文光堂, 東京
2. 島谷昌明 (2008) 吐・下血. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 岡崎和一, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 1233-1238頁, 文光堂, 東京
3. 田橋賢也 (2008) 食道憩室. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 岡崎和一, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 537-

- 538頁, 文光堂, 東京
4. 内田一茂 (2008) 胃 MALT リンパ腫・胃リンパ腫. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 567-568頁, 文光堂, 東京
  5. 松下光伸 (2008) 潰瘍性大腸炎. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 581-583頁, 文光堂, 東京
  6. 松下光伸 (2008) 消化管カルチノイド. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 589-590頁, 文光堂, 東京
  7. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 645-649頁, 文光堂, 東京
  8. 廣原淳子, 高岡 亮, 岡崎和一 (2008) 原発性硬化性胆管炎. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 649-651頁, 文光堂, 東京
  9. 内田一茂 (2008) 自己免疫性膵炎. わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 691-693頁, 文光堂, 東京
  10. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変全国調査 (第28報). 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究 平成19年度 総括・分担研究報告書 33-40頁, 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京
  11. 関 寿人, 池田耕造, 梅原秀人 (2008) ラジオ波凝固か? マイクロ波凝固か? 動画でわかる肝癌ラジオ波凝固療法の実践テクニック (大崎往夫編) 204-208頁, 中山書店, 東京
  12. 有井滋樹, 江原正明, 岡崎正敏, 岡田周一, 沖田 極, 工藤正俊, 久保正二, 坂本亨宇, 佐藤守男, 椎名秀一郎, 関 寿人, 高安賢一, 田中正俊, 田伏克惇, 辻井博彦, 中島 収, 中沼安二, 松井 修, 山岡義生, 山崎 晋, 山田龍作 (2008) 肝癌治療直接効果判定基準. 臨床・病理原発性肝癌取扱い規約 2008年2月 (第5版) (日本肝癌研究会編) 29-32頁, 金原出版, 東京

## 心療内科学講座

### 〈研究概要〉

心療内科の研究は, 身体疾患を対象に, 身体と心の相互関係 (心身相関) についての病態解明と, 診断法および治療が中心である. このため, 従来のような「病原体→感染症」のような単純な線形モデルに基づく解析では困難なことが多く, bio-psycho-socio-ethical の各要素についての関係性を考えなければならない (システム論的解析). そこで生体のストレス反応についてカオス解析を試みることや, 行動科学的手法, 質的研究などの新しい手法を用いて研究を行なっている.

### ○消化器疾患に関する心身医学的研究

厚生省班会議の一員として, FD (functional dyspepsia) の病態解明を行なっている. FD患者の胃機能測定に胃電図や胃内pHセンサーを用い, さまざまなストレスを負荷することによって, 情動と胃運動機能との関係を研究している. 結果の分析においては, 複雑系の観点よりカオス解析を試みている. このほかにも食道機能, 腸管機能, 胆嚢機能についての同様の研究や, 消化性潰瘍, 慢性膵炎, 潰瘍性大腸炎などの心身医学的研究を行っている.

### ○慢性疼痛に関する心身医学的研究

慢性疼痛は心理社会的要因が密接に関与し、治療においてはシステム論的アプローチが必要である。研究についても同様で、たんなる病因論的な分析ではなく、多元的病態把握を中心に研究を行なっている。

### ○サイコオンコロジー（精神腫瘍学）に関する心身医学的研究

国立がんセンターと共同研究で、がん患者のリエゾン心身（精神）医学的解析を開始した。参加施設60 関西医大誌 第56巻の中で心療内科は当施設のみで、他はすべて精神科であるためか、興味深い結果が出つつある。また、がん患者に心身医学的グループ療法を行ない、どのような臨床結果を得られるか試みている。

### ○アレルギー疾患に関する心身医学的研究

約200名の気管支喘息患者に対し、心身医学的治療を行っている。とくに難治性の気管支喘息は一般内科的治療のみでは不十分であり、簡易心理療法、自律訓練法、交流分析が必要となる。また、喘息患者の性格傾向について分析し、身体因子としてアトピー型/非アトピー型との関連について解析した。

### ○内分泌・代謝疾患に関する心身医学的研究

厚生省班会議の一員として、摂食障害患者の臨床研究を行なった。摂食障害患者の治療については病院のみでは困難なことが多く、米国では自助グループ、代替医療など、他の施設のかかわりも当然とされている。しかし日本での医療機関以外の施設の利用実態については不明なことが多く、その解析を行なった。また、糖尿病患者にたいするチームアプローチについても成果を発表した。

### ○代替医療に関する心身医学的研究

米国では西洋医学理論に基づかない治療以外はすべて代替医療とされ、われわれ心療内科領域の治療はほとんどが代替医療の範疇ということになる。その中の1つであるバイオフィードバック（BF）については、従来のオペラント条件付け学習モデルとなる疾患（書痙、斜頸など）から、さまざまな疾患を広く対象とするようになり、研究対象も広がった。さらに東洋医学など、他の代替医療についても臨床研究 중이다。

### 〈研究業績〉

原 著

1. Takagi K, Okuda-Ashitaka E, Mabuchi T, Katano T, Ohnishi T, Matsumura S, Ohnaka M, Kaneko S, Abe T, Hirata T, Fujiwara S, Minami T and Ito S (2008) Involvement of stem cell factor and its receptor tyrosine kinase c-kit in pain regulation. *Neuroscience* 153(4): 1278-1288
2. 神原憲治, 伴 郁美, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 身体感覚の気づきへのプロセスとバイオフィードバック. *バイオフィードバック研* 35(1): 19-25
3. 阿部哲也, 福永幹彦, 神原憲治, 水野泰行, 永岡三穂, 中井吉英 (2008) 【軽症うつ病 プライマリケア医に課せられた対応】 日常診療におけるうつ病 痛みとの関連. *治療学* 42(2): 151-154
4. 有城幸男, 竹林直紀, 中井吉英, 酒井健二 (2008) 簡易温度計を使用した自律訓練法の練習導入への動機付けの検討—指尖皮膚温の測定により練習への関心を高める—. *自律訓練研究* 28(1): 31-40
5. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 疼痛患者における痛みの強さ, 辛さ, 心身関与バランスの関係. *慢性疼痛* 27(1): 49-54

## 総説

1. 松村伸治, 阿部哲也, 芦高恵美子, 伊藤誠二 (2008) 【痛みのメカニズムとその制御】痛みにおけるNOの関与. *Bio Clin* 23(5): 397-403
2. 永岡三穂, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 【炎症性腸疾患と機能的腸疾患 病態の理解と求められる対応】機能的腸疾患の治療 機能的腸疾患治療における心療内科の位置づけ. *Medicina* 45(5): 853-856
3. 相原由花 (2008) 医療現場でのホリスティックケア 医療現場でセラピストが働く上での利点と注意点. *aromatopia* 17(5): 86-88
4. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 【慢性疼痛診療ガイド】慢性疼痛の治療法 心療内科的治療. *治療* 90(7): 2093-2096
5. 中井吉英 (2008) 日本における心身医学の歩み 関西医科大学心療内科学講座の歩み・近畿支部会の歩み. *心身医* 48(2): 133-138
6. 中井吉英, 福永幹彦, 水野泰行, 阿部哲也, 神原憲治, 町田英世 (2008) 【臨床医学の展望 2008 診断および治療上の進歩】心身医学. *医事新報* (4373): 84-88
7. 深尾篤嗣, 後山尚久, 高松順太, 黒川順夫, 隈寛二, 花房俊昭, 中井吉英 (2008) ストレスと心身医療 (内科系疾患) ストレスと内分泌疾患. *日心療内誌* 12(2): 97-101
8. 中込和幸, 牛島定信, 大坪天平, 木下利彦, 久保千春, 越野好文, 小山 司, 田島 治, 中井吉英, 中村 純, 丹羽真一, 野村総一郎, 樋口輝彦, 村崎光邦, 上島国利, 久保木富房 (2008) わが国の実態に基づいた GAD 治療手順. *臨精薬理* 11(9): 1786-1791
9. 中込和幸, 牛島定信, 大坪天平, 木下利彦, 久保千春, 越野好文, 小山 司, 田島 治, 中井吉英, 中村 純, 丹羽真一, 野村総一郎, 樋口輝彦, 村崎光邦, 上島国利, 久保木富房 (2008) GAD 研究会が提唱する本邦における『GAD治療手順』. *臨精薬理* 11(8): 1571-1573
2. 深尾篤嗣, 後山尚久, 藤見幸雄, 中井吉英, 花房俊昭 (2008) 身体症状, 夢, 人間関係一すべては気づきを促すサインである! —プロセス指向心理学が有効であった身体表現性障害患者の1例—. *心療内科* 12(6): 486-492
3. 土井麻里, 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 永岡三穂, 中井吉英 (2008) 口腔内に含水することで症状が消失した呑気症の1例. *心療内科* 12(1): 62-66

## 学会発表

1. 山本和美 (2008) Psychological Gender Differences in Chronic Pain Patients Using the Rorschach Test. 12th World Congress on Pain, Glasgow, Scotland
2. 水野泰行 (2008) THE DIFFERENCE BETWEEN ACTUAL PAIN INTENSITY AND PERCEIVED DEGREE OF SUFFERING: Scores which measure SUFFERING are a more sensitive way to assess the AFFECTIVE SEVERITY of chronic pain. 12th World Congress on Pain, Glasgow, Scotland
3. 水野泰行 (2008) 心療内科医の思考過程. 第1回日本運動器疼痛研究会, 東京
4. 水野泰行 (2008) 漸進的筋弛緩法における催眠的言葉かけの併用. 第10回日本臨床催眠学会学術大会, 岐阜
5. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 慢性疼痛患者の主観的認識の検討. 第13回日本心療内科学会学術集会, 弘前
6. 土井麻里, 永岡三穂, 山本和美, 六浦裕美, 首藤由江, 神原憲治, 水野泰行, 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 治療者による絶食体験. 第1報—心身の変化—. 第13回日本心療内科学会総会, 弘前
7. 土井麻里, 福永幹彦, 阿部哲也, 首藤由江, 松岡弘道, 垣見 亮, 伴 郁美, 中井吉英 (2008) 心身症治療におけるスピリチュアルケアの必要性—スピリチュアルな気づきによって治療が進化した心身症症例の考察から—. 第1回日本スピリチュアルケア学会, 神戸
8. 三宅眞理, 高橋伸佳, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 山中 裕, 木村 穂, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変

## 症例報告

1. 蓮尾英明, 水野泰行, 安部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 治療への能動性を引き出すことが転機となった慢性膵炎の1症例. *消心身医* 15(1): 62-68

- 容型旅行」の効果の検討. 日本行動療法学会第34回大会, 東京
9. 土井麻里 (2008) 女性のライフサイクルと統合医療. 第2回21世紀統合医療フォーラム, 京都
  10. 山中 裕, 三宅眞理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 穰, 西山利正 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後のITによる遠隔セルフモニタリングと支援の効果. 日本遠隔医療学会学術大会, 東京
  11. 土井麻里, 福永幹彦, 阿部哲也, 水野泰行, 首藤由江, 神原憲治, 伴 郁美, 中井吉英 (2008) 心身医学的アプローチが奏功した眼瞼痙攣の2症例. 第45回心身医学会地方会, 神戸
  12. 水野泰行 (2008) バイオフィードバックと認知行動療法. 第32回日本バイオフィードバック学会, 大阪
  13. 土井麻里 (2008) バイオフィードバックと瞑想. 第32回日本バイオフィードバック学会, 大阪
  14. 永岡三穂, 福永幹彦, 神原憲治, 阿部哲也, 水野泰行, 中井吉英 (2008) 強迫的性格傾向のある慢性疼痛患者に対する治療戦略の検討. 第49回心身医学総会, 北海道
  15. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 胃蠕動運動機能の機能性胃腸症と他疾患における比較. 第49回日本心身医学会総会, 札幌, 日本
  16. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 患者の主観的症候認識にもとづく心身症患者の分類. 第49回日本心身医学会総会, 札幌
  17. 土井麻里, 福永幹彦, 阿部哲也, 松岡弘道, 垣見 亮, 伴 郁美, 中井吉英 (2008) スピリチュアルな気づきによって治療が進展した心身症の3症例. 第49回日本心身医学会総会, 札幌
  18. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 機能性胃腸症における胃蠕動運動リズム異常の他疾患との比較. 第70回消化器心身医学研究会, 福岡
  19. 山本和美 (2008) 交通事故後の慢性疼痛患者におけるロールシャッハ・テスト結果. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会, 岡山
  20. 高杯伸佳, 三宅眞理, 田嶋佐和子, 仁木 稔, 日根かがり, 木下藤寿, 木村 穰, 西山利正 (2008) 行動変容型旅行」ヘルスツーリズムの効果の検討. 第14回日本行動医学会学術総会, 津
  21. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 患者の主観的症候認識にもとづく疼痛患者の分類. 第37回日本慢性疼痛学会, 栃木
  22. 水野泰行, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) パニック障害に対する苓桂朮甘湯の使用経験. 第44回日本東洋心身医学研究会, 東京
  23. 西田慎二 (2008) 東洋心身医学研究会EBM作業チーム調査報告: 過敏性腸症候群. 第44回日本東洋心身医学研究会, 東京
  24. 西田慎二, 有光潤介, 岸田友紀, 井上隆弥 (2008) 漢方薬の意外な効果を考える. 日本東洋医学会関西支部三県合同講演会, 大阪
  25. 西田慎二 (2008) 大阪大学付属病院漢方外来の現状と不定愁訴の漢方治療. 三重大学東洋医学研究会, 津
  26. 西田慎二 (2008) 今冬のカゼ・インフルエンザに対する漢方治療. 第2回南大阪漢方研究会, 堺
  27. 福永幹彦 (2008) 心身医療における医師と心理士の連携: 心療内科 心理士専門研修プログラム. 第49回日本心身医学会総会, 札幌
- 著 書
1. 阿部哲也, 福永幹彦, 中井吉英 (2008) 慢性疼痛に対する心療内科的アプローチ. 疼痛の理学療法 第2版 (鈴木重行編) 67-74頁, 三輪書店, 東京

## 神経内科学講座

## 〈研究業績〉

## 原著

1. Fujita K, Ito H, Nakano S, Kinoshita Y, Wate R and Kusaka H (2008) Immunohistochemical identification of messenger RNA-related proteins in basophilic inclusions of adult-onset atypical motor neuron disease. *Acta Neuropathol* 116(4): 439–445
2. Nakamura M, Ito H, Wate R, Nakano S, Hirano A and Kusaka H (2008) Phosphorylated Smad2/3 immunoreactivity in sporadic and familial amyotrophic lateral sclerosis and its mouse model. *Acta Neuropathol* 115(3): 327–334
3. Ito H, Wate R, Zhang J, Ohnishi S, Kaneko S, Ito H, Nakano S and Kusaka H (2008) Treatment with edaravone, initiated at symptom onset, slows motor decline and decreases SOD1 deposition in ALS mice. *Exp Neurol* 213(2): 448–455
4. Kaneda H, Saito Y, Saito T, Maniwa T, Minami K, Kusaka H and Imamura H (2008) Preoperative steroid therapy stabilizes postoperative respiratory conditions in myasthenia gravis. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 56(3): 114–118
5. Yamaguchi K, Kanazawa S, Kinoshita Y, Yoshikawa Y and Nomura S (2008) Aneurysmal pulmonary artery arising from the descending aorta. *Intern Med* 47(1): 75–76
6. Shinde A, Nakano S, Sugawara M, Toyoshima I, Ito H, Tanaka K and Kusaka H (2008) Expression of caveolar components in primary desminopathy. *Neuromuscul Disord* 18(3): 215–219
7. Nakano S, Shinde A, Fujita K, Ito H and Kusaka H (2008) Histone H1 is released from myonuclei and present in rimmed vacuoles with DNA in inclusion body myositis. *Neuromuscul Disord* 18(1): 27–33

## 症例報告

1. 有賀百子, 橋本修治, 櫻 篤, 長島正人, 丸岡 満, 立花恭子 (2008) 保存的治療によって改善した重症頸椎圧迫性脊髄症の高齢者の2例. *天理医紀* 11(1): 77–85

## 学会発表

1. 朝山知子, 和手麗香, 柘植彩子, 齋藤朱実, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2008) 基礎疾患にネフローゼ症候群と液性免疫不全を有し細菌性髄膜炎を繰り返した一例. 日本神経学会第89回近畿地方会, 大阪
2. 伊東秀文 (2008) 筋委縮性側索硬化症の病理遺伝子異常との関連. 第36回臨床神経病理懇話会, 広島
3. 西井 誠, 伊東秀文, 木下芳美, 中村聖香, 朝山知子, 朝山真哉, 中村正孝, 藤田賢吾, 和手麗香, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2008) 長期の臨床経過を示した運動ニューロン病の1例. 第36回臨床神経病理懇話会, 広島
4. 中村聖香, 伊東秀文, 新出明代, 朝山真哉, 中村正孝, 西井 誠, 木下芳美, 藤田賢吾, 朝山知子, 和手麗香, 中野 智, 日下博文 (2008) レボドパ反応性でパーキンソン病様の経過をとった進行性核上性麻痺の1例. 第36回臨床神経病理懇話会, 広島
5. 中村聖香, 新出明代, 中野 智, 和手麗香, 伊東秀文, 日下博文 (2008) 超高齢者重症筋無力症に対する副腎皮質ホルモンと cyclosporine Aによる治療経験. 第26回神経治療学会総会, 横浜
6. 新出明代, 中野 智, 中村聖香, 朝山真哉, 朝山知子, 和手麗香, 伊東秀文, 日下博文 (2008) 高齢発症重症筋無力症 (MG) 例の治療と予後についての検討. 第49回日本神経学会総会, 横浜
7. 西井 誠, 中野 智, 藤田賢吾, 伊東秀文, 日下博文 (2008) 筋炎におけるDNA二本鎖切断修復酵素DNA-PKの検討. 第49回日本神経学会総会, 横浜
8. 中村正孝, 伊東秀文, 和手麗香, 西井 誠, 木下芳美, 藤田賢吾, 新出明代, 中野 智, 平野朝雄, 日下博文 (2008) 筋萎縮性側索硬化症におけるリン酸化 Smad2/3 の免疫組織化学的検討. 第49回日本神経学会総会, 横浜
9. 藤田賢吾, 伊東秀文, 木下芳美, 西井 誠, 中村正孝, 和手麗香, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2008) 好塩基性封入体 (BI) を伴う

- 成人発症運動ニューロン病の脳皮質におけるBIの分布. 第49回日本神経学会総会, 横浜
10. 和手麗香, 伊東秀文, 平野朝雄, 中村正孝, 西井 誠, 木下芳美, 藤田賢吾, 新出明代, 中野 智, 日下博文 (2008) Guam島パーキンソン痴呆複合の封入体形成におけるリン酸化Smad2/3の関与. 第49回日本神経学会総会, 横浜
  11. 新出明代, 國枝武伸, 木下芳美, 和手麗香, 中野 智, 伊東秀文, 日下博文, 山田正仁, 北本哲之 (2008) 本邦初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病 (変異型CJD) の一例. 第49回日本神経病理学会総会学術研究会, 東京

## 著 書

1. 伊東秀文 (2008) 第7章 神経・運動器疾患 5. 錐体外路疾患 VII 大脳皮質基底核変性症 VIII 線条体黒質変性症わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫編) 763-767頁, 文光堂, 東京
2. 中野 智 (2008) 第7章 神経・運動器疾患 14. 筋疾患: 筋ジストロフィー症 14- 付録. ケネディー・オルター・スン病わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫編) 817-825頁, 文光堂, 東京
3. 日下博文 (2008) 第7章 神経・運動器疾患 16. 全身性疾患に伴う神経疾患 (糖尿病/腎疾患/甲状腺疾患/周期性四肢麻痺/膠原病) わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫編) 837-845頁, 文光堂, 東京

## 精神神経科学講座

## 〈研究業績〉

原 著

1. Sugimoto T, Tanigawa N, Ikeda K, Ohmura N, Maehara M, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Ha-Kawa SK, Saito Y, Tajika A, Kinoshita T and Sawada S (2008) Diffusion-weighted imaging for predicting new compression fractures following percutaneous vertebroplasty. *Acta Radiol* 49(4): 419-426
2. Serretti A and Kato M (2008) The serotonin transporter gene and effectiveness of SSRIs. *Expert Rev Neurother* 8(1): 111-120
3. Morishita S and Kinoshita T (2008) Predictors of response to sertraline in patients with major depression. *Hum Psychopharmacol* 23(8): 647-651
4. Tani M, Suzuki T, Takada A, Yagyū T and Kinoshita T (2008) The acupuncture treatment of severe axial dystonia. *J Chin Med* 87: 5-8
5. Wakeno M, Kato M, Okugawa G, Fukuda T, Hosoi Y, Takekita Y, Yamashita M, Nonen S, Azuma J and Kinoshita T (2008) The alpha 2A-adrenergic receptor gene polymorphism modifies antidepressant responses to milnacipran. *J Clin Psychopharmacol* 28(5): 518-524
6. Kato M, Wakeno M, Okugawa G, Fukuda T, Takekita Y, Hosoi Y, Azuma J, Kinoshita T and Serretti A. (2008) Antidepressant response and intolerance to SSRI is not influenced by G-protein beta3 subunit gene C825T polymorphism in Japanese major depressive patients. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 32(4): 1041-1044
7. Kato M, Fukuda T, Serretti A, Wakeno M, Okugawa G, Ikenaga Y, Hosoi Y, Takekita Y, Mandelli L, Azuma J and Kinoshita T (2008) ABCB1(MDR1) gene polymorphisms are associated with the clinical response to paroxetine in patients with major depressive disorder. *Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry* 32(2): 398-404
8. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Horiuchi M, Ueno C, Maehara M, Omura N, Kurokawa H, Ikeda K, Tanigawa N, Sawada S and Kinoshita T (2008) Corpus callosum in patients with obsessive-compulsive disorder: diffusion-tensor imaging study. *Radiology* 246(2): 536-542
9. Serretti A, Kato M and Kennedy JL (2008) Pharmacogenetic studies in depression: a proposal for

- methodologic guidelines. *Pharmacogenomics J* 8(2): 90-100
10. 片上哲也, 織田裕行, 北元 健, 山田圭造, 木下利彦 (2008) 双極性成分に注目することにより双極性障害に診断を変更し, 改善がみられた気分障害の12例についての考察. *Bipolar disorder* 6: 32-36
  11. 中平暁子, 吉野真紀, 織田裕行, 鈴木朋子, 田近 文, 有木永子, 木下利彦 (2008) 性同一性障害におけるロールシャッハテストの特徴—MTFとFTMの比較から—, *ロールシャッハ法研究* 12(1): 1-9
  12. 鈴木俊明, 谷万喜子, 若山育郎, 吉田宗平, 木下利彦, 柳生隆規, 高田あや, 井上博紀 (2008) ジストニア患者に対する鍼治療効果に関する検討—筋電図学的評価と心理的側面からの評価—. *関西医療大学紀要* 2: 110-117
  13. 吉野真紀, 中平暁子 (2008) 心理臨床と投影法 ジェンダー問題と投影法. *現代のエスプリ* (別冊(10月)): 236-244
  14. 奥川 学, 加藤正樹, 分野正貴, 嶽北佳輝, 木下利彦 (2008) 【抗うつ薬】将来, 期待される抗うつ薬の研究と開発. *最新精神医* 13(5): 457-462
  15. 分野正貴, 加藤正樹, 嶽北佳輝, 坂井志帆, 西田圭一郎, 奥川 学, 木下利彦 (2008) 【抗うつ薬】パロキセチン(パキシル). *最新精神医* 13(5): 435-438
  16. 杉本達哉, 岩瀬正顕, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 木下利彦, 中谷壽男 (2008) 2ヵ月間フォローアップした一酸化炭素中毒集団発生事例の報告. *産業医ジャーナル* 31(1): 18-22
  17. 吉野真紀, 中平暁子, 織田裕行, 鈴木朋子, 田近 文, 有木永子, 木下利彦 (2008) ロールシャッハテストからみた性同一性障害. *心理臨床研* 26(1): 13-23
  18. 横小路美貴子, 三苦亜妃, 長尾喜一郎, 木下利彦 (2008) リスパダールからジェネリックのリスペリドンに変更し精神症状が悪化した統合失調症の1例. *新薬と臨* 57(3): 364-366
  19. 嶽北佳輝, 吉田常孝, 西田圭一郎, 河 相吉, 坂井志帆, 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 木下利彦 (2008) Paroxetine投与により前頭葉症状の改善をみた前頭側頭方認知症 (frontotemporal dementia)の1例. *精神* 13(2): 165-172
  20. 森田紗千, 上野千穂, 高瀬勝教, 南 智久, 分野正貴, 嶽北佳輝, 入澤 聡, 奥川 学, 木下利彦 (2008) 脳波異常を伴った若年周期精神病の一症例. *大阪てんかん研会誌* 18: 11-15
  21. 吉村匡史, 西田圭一郎, 森田紗千, 嶽北佳輝, 木下利彦 (2008) 薬物療法の臨床神経生理学的研究. *臨精医* 37(10): 1335-1343
  22. 村崎光邦, 小山 司, 伊豫雅臣, 石郷岡純, 上島国利, 八木剛平, 尾崎紀夫, 福居顯二, 武田雅俊, 米田 博, 木下利彦, 神庭重信, 前田久雄 (2008) Perospironeの初発統合失調症に対する市販後調査—有効性と安全性の検討—. *臨精薬理* 11(8): 1531-1550
  23. 木下利彦 (2008) 統合失調症に対する blonanserinの長期投与と試験 多施設共同オープン試験(全国区). *臨精薬理* 11(1): 135-153
  24. 福田剛史, 山下恵実, 東 純一, 加藤正樹 (2008) 抗うつ薬の治療効果に影響する分子に関するゲノム薬理学的研究—脳特異的 tryptophan hydroxylase-2 遺伝子多型を中心に—. *臨薬理の進歩* (29): 155-167
- 総 説
1. 織田裕行, 石川由美子, 神先 真, 杉本達哉, 星 克仁, 関合征子, 南 良武 (2008) チーム医療の現場から「岩手県久慈地域に学ぶ自殺予防対策」. *こころを支える* 3(3): 3-7
  2. 杉本達哉 (2008) こんな場合はどうする「自殺における救急医療現場と精神科医療現場の連携」. *こころを支える* 3(3): 18-20
  3. 嶽北佳輝, 西田圭一郎, 木下利彦 (2008) 【各種薬物の処方と注意点 精神科領域】抗てんかん薬. *医と薬学* 60(2): 186-194
  4. 木下利彦 (2008) メランコリア. *最新精神医学* 13(5): 411
  5. 木下利彦 (2008) 【統合失調症の薬物療法 プロナンセリンの up to date】プロナンセリンの基礎と臨床. *精神* 13(6): 457-465
  6. 杉本達哉 (2008) 救命救急センターで精神科医が働くということ. *精神科病院マネジメント* 9: 7

7. 奥川 学, 加藤正樹, 分野正貴, 嶽北佳輝, 木下利彦 (2008) オーダーメイド精神科薬物療法をめざして うつ病の薬物療法におけるオーダーメイド医療. 精神誌 110(8): 623-627
8. 木下利彦, 西田圭一郎, 吉村匡史 (2008) モノグラフ「臨床脳波を基礎から学ぶ人のために」No.22 薬物および治療の影響. 臨神生 36(1-2): 56-62
9. 中込和幸, 牛島定信, 大坪天平, 木下利彦, 久保千春, 越野好文, 小山 司, 田島 治, 中井吉英, 中村 純, 丹羽真一, 野村総一郎, 樋口輝彦, 村崎光邦, 上島国利, 久保木富房 (2008) わが国の実態に基づいた GAD 治療手順. 臨精薬理 11(9): 1786-1791
10. 中込和幸, 牛島定信, 大坪天平, 木下利彦, 久保千春, 越野好文, 小山 司, 田島 治, 中井吉英, 中村 純, 丹羽真一, 野村総一郎, 樋口輝彦, 村崎光邦, 上島国利, 久保木富房 (2008) GAD 研究会が提唱する本邦における『GAD治療手順』. 臨精薬理 11(8): 1571-1573

#### 症例報告

1. 鈴木朋子 (2008) あからさまなエディプス願望をめぐる症例. 精分析研 52(1): 84-89
2. 北元 健, 高瀬勝教, 山田圭造, 木下利彦 (2008) 診断が困難であった複雑部分発作の1症例. 大阪てんかん研究会誌 19(1): 11-16

#### 学会発表

1. Wakeno M, Okugawa G, Kato M, Fukuda T, Hosoi Y, Takekita Y, Yamashita M, Nonen S, Azuma J and Kinoshita T (2008) The alpha 2A-adrenergic receptor gene polymorphism modifies antidepressant responses to milnacipran. 16th World Congress on Psychiatric Genetics, Osaka, Japan
2. Kato M and Serretti A (2008) Meta-Analysis of Antidepressant Pharmacogenetic Findings in Major Depressive Disorder. XVth World Congress of Psychiatry Genetics(WCPG), Osaka, Japan
3. Kato M (2008) Ethnic variations in pharmacogenetic findings Heterogeneity in pharmacogenetic result in major depression : Caused by effenic difference or other reason?. XVth World Congress of Psychiatry Genetics(WCPG), Japan, Osaka
4. Kato M and Serretti A (2008) Meta-analysis of antidepressant pharmacogenetic findings in major depressive disorder. 21st ECNP congress, Spain, Barcelona
5. Miyake M, Rock A, Tajika A, Hozu S and Nishiyama T (2008) Evaluation of Diversional Therapy with Sleep-Wake Assessment of Aged Persons Using Actigraphy. The 7th World Congress on Aging and Physical Activity, 筑波
6. Kato M and Serretti A (2008) Systematic review of pharmacogenetics of antidepressants. XXVIth CINP congress, Munich, Germany
7. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Tajika A, Sugimoto T, Maehara M, Kurokawa H, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2008) White matter abnormalities in obsessive-compulsive disorder: A diffusion tensor imaging study. 16th AEP European Congress of Psychiatry, Nice, France
8. Kato M and Serretti A (2008) Review and Meta-Analysis of Antidepressant Pharmacogenetic Findings in Major Depressive Disorder. VIth World Congress of Psychiatry, New York
9. 吉村匡史 (2008) 高次脳機能障がい理解と支援. 関係機関職員研修会, 八尾
10. 鈴木美佐 (2008) ひとり暮らし老人の会連絡協議会. 寝屋川市ひとり暮らし老人の会連絡会, 寝屋川
11. 鈴木美佐 (2008) 福祉と共生のまちづくり研修会. 大阪府民生委員児童委員協議会連合会, 大阪
12. 嶽北佳輝, 田近亜蘭, 織田裕行, 坂井志帆, 西田圭一郎, 杉本達哉, 吉村匡史, 木下利彦 (2008) 大学病院におけるm-ECTの施行と中断そして再開. 第21回日本総合病院精神医学会, 千葉
13. 岡村宏美, 山崎久美子, 中平暁子, 西峯貴子, 西村美登利, 兵頭紀子, 鈴木美佐, 西田圭一郎, 吉村匡史, 吉田常孝, 太田由子, 木下利彦 (2008) もの忘れ外来における認知症治療への取り組み スクリーニングを中心とし

- て。第29回日本臨床薬理学会，東京
14. 加藤正樹 (2008) 日本臨床薬理学会海外研修報告財団賞受賞講演。第29回日本臨床薬理学会，東京
  15. 黒瀬光一，石渡和也，平塚一幸，南畝晋平，福田剛史，東 純一，奥川 学，木下利彦，長谷川隆一 (2008) 抗うつ薬SSRI (serotonin selective reuptake inhibitor) の薬物応答性に関する遺伝子マーカーの探索。第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会，神戸
  16. 木下利彦 (2008) 統合失調症の世界。第5回近畿地区PPST研究会セミナー，大阪
  17. 鈴木美佐 (2008) 意思決定と権利擁護。認知症介護実践研修第3回実践者研修，神戸
  18. 鈴木美佐 (2008) 認知症を知り，支えあい，心温まる地域に。北河内ブロック薬物乱用防止講習会，守口
  19. 織田裕行 (2008) 気分障害の診断と治療。薬剤師生涯教育講座，大阪
  20. 齊藤幸子 (2008) 強迫性障害とは (コメント)。大阪，読売テレビ
  21. 鈴木美佐 (2008) 認知症のお年寄りへの対応。まちづくりキャンペーンミニ講座，守口
  22. 織田裕行，山田妃沙子 (2008) 性同一性障害について (Gender Identity Disorder)。厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課勉強会，霞ヶ関
  23. 嶽北佳輝 (2008) 精神科疾患について～統合失調症を中心に～。寝屋川保健所健康教室，寝屋川
  24. 田近亜蘭 (2008) 病気 (統合失調症) の理解。精神障害者家族教室，四条畷
  25. 吉村匡史 (2008) 認知症の予防について。大阪ゆうゆうの里講演会，守口
  26. 鈴木美佐 (2008) 認知症の人のためのケアのポイントを見直そう。大阪府保健所認知症地域資源ネットワーク構築事業，守口
  27. 嶽北佳輝，加藤正樹，分野正貴，奥川 学，南畝晋平，鉄尾真司，東 純一，木下利彦 (2008) セロトニン再取り込み阻害薬の反応性と副作用に対する G-protein  $\beta 3$  subunit gene 遺伝子多型の影響。第18回日本臨床精神神経薬理学会，東京
  28. 杉本達哉，南 良武，織田裕行，田近亜蘭，板東宏樹，木下利彦，中谷壽男 (2008) 精神疾患患者における救急搬送の現状と総合病院精神科の役割。第21回総合病院精神医学会総会，埼玉
  29. 吉村匡史，織田裕行，田近亜蘭，杉本達哉，鈴木美佐，小田昌子，木下利彦 (2008) 関西医科大学附属滝井病院精神神経科病棟の現状。第21回日本総合病院精神医学会，千葉
  30. 磯谷俊明，森田紗千，西田圭一郎，吉村匡史，入澤 聡，斎藤朱実，木下利彦 (2008) 健常者における aripiprazole の脳波への影響。第38回日本臨床神経生理学会学術大会，神戸
  31. 西田圭一郎，吉村匡史，吉田常孝，入澤 聡，磯谷俊明，北浦祐一，木下利彦 (2008) FTD 患者の脳波周波数定量解析。第38回日本臨床神経生理学会学術大会，神戸
  32. 井上雅晴，上野千穂，三井 浩，鈴木朋子，柳場美穂，木下利彦 (2008) 不幸な体験を繰り返していた思春期解離性，双極性障害の一症例。第49回日本児童青年精神医学会総会，広島
  33. 上野千穂，織田裕行，守田 稔，山田妃沙子，井上雅晴，三井 浩，柳場美穂，鈴木朋子，木下利彦 (2008) 大学病院におけるジェンダークリニックと児童発達外来の連携について一性障害に伴う発達障害や思春期症例を中心に。第49回日本児童青年精神医学会総会，広島
  34. 柳場美穂，郭 麗月，西川瑞穂，木下利彦 (2008) 「顔のない人物画」にみる青年期女性の心性。第49回日本児童青年精神医学会総会，広島
  35. 西田圭一郎，吉村匡史，木下利彦 (2008) Frontotemporal dementia (FTD) 患者における脳波周波数解析。第8回精神疾患と認知機能研究会，東京
  36. 鈴木美佐 (2008) 認知症とその予防について。門真市シルバー人材センター体力測定会認知症予防講座，門真
  37. 上野千穂 (2008) ひきこもる人たちの援助について。四条畷保健所地域ネットワーク会議，四条畷
  38. 鈴木美佐 (2008) 認知症の理解と地域での支援について。松原市地域包括支援センター圏域研修会，松原

39. 織田裕行 (2008) 統合失調症の病態と治療について. 精神科病院委員会研修会, 大阪
40. 織田裕行 (2008) 気分障害の診断と治療について. 精神科病院委員会研修会, 大阪
41. 織田裕行, 山田圭造, 片上哲也, 守田 稔, 堀内麻美, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 山田妃沙子, 木下利彦 (2008) FTMに関する一考察. 第10回GID学会, 高槻
42. 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 嶽北佳輝, 南畝晋平, 鉄尾真司, 福田剛史, 細井夕香, 東純一, 木下利彦 (2008) ノルエピネフリントランスポーター遺伝子多型におけるSSRIとSNRIの抗うつ反応の比較. 第18回日本臨床精神神経薬理学会・第38回日本神経精神薬理学会合同年会, 東京
43. 加藤正樹, 分野正貴, 奥川 学, 嶽北佳輝, 福田剛史, 山下恵美, 東 純一, 木下利彦 (2008) ABCB1(MDR1)遺伝子多型が, うつ病患者におけるパロキセチンの抗うつ効果に与える影響. 第18回臨床精神神経薬理学会, 東京
44. 峯岸由紀子, 磯谷俊明, 吉村匡史, 山田圭造, 西田圭一郎, 森田紗千, 齊藤幸子, 入澤 聡, 市川雅美, 木下利彦, 木原 裕 (2008) 郭林新気功が空間的脳電位活動にもたらす影響 (第3報). 第24回日本催眠学会, 東京
45. 平川昭彦, 土屋洋之, 下戸 学, 板東宏樹, 杉本達哉, 宮崎秀行, 齊藤福樹, 津田雅庸, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 本院高度救命救急センターにおける身体合併症のある精神疾患患者の検討. 第36回日本救急医学会, 札幌
46. 木下利彦 (2008) うつ病の変遷と抗うつ薬の動向. 第54回九州精神保健学会, 宮崎
47. 吉村匡史, 吉田常孝, 西田圭一郎, 鈴木美佐, 田近亜蘭, 木下利彦 (2008) 塩酸ドネペジル10mg処方の対象患者像と臨床経過. 日本認知症学会, 前橋
48. 鈴木美佐 (2008) 地域で支える認知症! ~今, あなたにできること~. 介護予防講座, 守口
49. 齊藤幸子 (2008) 強迫性障害における拡散テンソル画像研究. 九州大学精神科研究室特別講演, 九州大学, 福岡
50. 嶽北佳輝 (2008) ひきこもる人たちとは. 寝屋川保健所家族会, 寝屋川
51. 杉本達哉, 谷川 昇, 池田耕土, 大村直人, 前原 稔, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 河相吉, 齋藤幸子, 田近亜蘭, 木下利彦, 澤田敏 (2008) 椎体拡散強調画像による椎体形成術後の新たな圧迫骨折の予測. 第4回椎体形成術研究会, 京都
52. 高野 隼, 杉山祐夫, 村上貴栄, 柿永佳良子, 木下利彦 (2008) 精神科デイケアにおける家族心理養育の実施状況と課題. 日本デイケア学会第13回年大会, 池袋
53. 榎場美穂, 郭 麗月 (2008) “顔のない人物画”を描いた10代女性との面接過程~青年期の心性についての一考察~. 日本描画テスト・描画療法学会第10回大会, 東京
54. 鈴木美佐 (2008) 「認知症のことを正しく知りましょう」~病気?それとも単なる物忘れ?~. 認知症高齢者見守り事業, 守口
55. 齊藤幸子 (2008) 強迫症状の理解. 枚方保健所 ひきこもり家族教室, 枚方
56. 上野千穂 (2008) 「社会的ひきこもり」の理解と対応方法について. 「社会的ひきこもり」寝屋川地域ネットワーク会議, 寝屋川
57. 鉄尾真司, 分野正貴, 奥川 学, 加藤正樹, 南畝晋平, 嶽北佳輝, 細井夕香, 福田剛史, 木下利彦, 東 純一 (2008) Paroxetineにより生じる嘔気に関するゲノム薬理的検討. 医療薬学フォーラム2008・第16回クリニカルファーマーシンポジウム, 東京
58. 上野千穂 (2008) 病気を正しく知ろう~統合失調症の理解と治療. 精神障害疾病教室, 守口
59. 榎場美穂, 鈴木朋子, 片上哲也, 田近亜蘭, 木下利彦 (2008) スクールカウンセラーのコンサルテーション活動~思春期の問題行動への対応~. 第103回近畿精神神経学会, 大阪
60. 平川昭彦, 下戸 学, 板東宏樹, 杉本達哉, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 当センターにおける身体合併症のある精神疾患患者への対応. 第30回日本中毒学会, 和歌山
61. 下戸 学, 平川昭彦, 土屋洋之, 杉本達哉, 板東宏樹, 中谷壽男 (2008) 家庭用品中毒と精神疾患との関連について. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 和歌山
62. 吉村匡史, 磯谷俊明, 入澤 聡, 西田圭一郎, 森田紗千, 山田圭造, 木下利彦 (2008) 抗精

神病薬単回投与が健常者の脳電場に及ぼす影響—包括的指標を用いて—. 第11回日本薬物脳波学会, 東京

63. 西田圭一郎, 吉村匡史, 吉田常孝, 入澤 聡, 森田紗千, 磯谷俊明, 木下利彦(2008)FTD(frontotemporal dementia)患者における脳波周波数解析. 第11回日本薬物脳波学会, 東京
64. 山田妃沙子(2008)自殺対策のための戦略研究. ACTION-J 実務担当者会議, 東京
65. 織田裕行(2008)「田舎の病理」と「都会の病理」に関する一考察～そして, そこにある男と女～. ケース・マネージャー研修会, 守口
66. 西田圭一郎(2008)多彩な精神症状を呈した身体醜形障害の一例. 第10回二大学精神科フォーラム, 大阪
67. 木下利彦(2008)最近の抗うつ薬の動向. 第10回二大学精神科フォーラム, 大阪
68. 榎場美穂, 鈴木朋子, 田近 文, 吉野真紀, 中平暁子, 岡村宏美, 山崎久美子, 木下利彦(2008)スクールカウンセラーのコンサルテーション活動～思春期の行動化への対応～. 第10回二大学精神科フォーラム, 大阪
69. 西田圭一郎, 吉村匡史, 木下利彦(2008)Frontotemporal dementia (FTD)患者における脳波周波数定量解析. 第38回日本臨床神経生理学学会, 神戸
70. 今村容子, 嶽北佳輝, 入澤 聡, 鈴木美佐, 藤山佳子, 井上雅晴, 三井 浩, 吉田常孝, 吉村匡史, 木下利彦(2008)老年期うつ病に抑肝散が奏効した一例. 第23回日本老年精神医学会, 神戸
71. 坂井志帆, 田近亜蘭, 上野千穂, 分野正貴, 阿部 尚, 鈴木美佐, 吉田常孝, 吉村匡史, 西田圭一郎, 木下利彦(2008)関西医科大学精神神経科における認知症家族に対する取り組み. 第23回日本老年精神医学会, 神戸
72. 木下利彦(2008)最近の抗うつ薬の動向. 第23回日本老年精神医学会, 神戸
73. 山田妃沙子, 鈴木美佐, 織田裕行, 鈴木朋子, 木下利彦(2008)チーム医療に求められるPSWの役割 ～性同一性障害の治療を通して～. 第44回社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会第7回日本精神保健福祉学会, 横浜, 神奈川県
74. 吉村匡史(2008)アリセプト10mg対象患者像と臨床経過. 北大阪もの忘れ研究会, 大阪
75. 高田あや, 柳生隆視, 谷万喜子, 三井 浩, 西村栄津子, 岡村宏美, 吉野真紀, 鈴木朋子, 鈴木俊明, 長尾喜一郎, 木下利彦(2008)MMPI(ミネソタ多面人格目録)を用いた特発性ジストニア患者の心理特性の検討. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
76. 三井 浩, 谷万喜子, 柳生隆視, 高田あや, 西村栄津子, 岡村宏美, 吉野真紀, 鈴木朋子, 鈴木俊明, 木下利彦(2008)関西医科大学精神神経科におけるジストニア治療の試み. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
77. 山田妃沙子, 織田裕行, 堀内麻美, 片上哲也, 守田 稔, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木朋子, 鈴木美佐, 木下利彦(2008)性同一性障害医療チームに求められる精神保健福祉士の役割. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
78. 西村栄津子, 三井 浩, 高田あや, 谷万喜子, 鈴木俊明, 柳生隆視, 木下利彦(2008)双極性障害の加療中に生じた遅発性ジストニアに対する鍼治療. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
79. 谷万喜子, 三井 浩, 高田あや, 西村栄津子, 鈴木俊明, 柳生隆視, 木下利彦(2008)薬剤性頸部ジストニアに対する鍼治療. 第104回日本精神神経学会学術総会, 東京
80. 片上哲也, 織田裕行, 木下利彦(2008)双極性成分に注目することにより双極性障害に診断を変更し改善がみられた12例についての考察. 第104回日本精神神経学会総会, 東京
81. 嶽北佳輝, 田近亜蘭, 西田圭一郎, 分野正貴, 加藤正樹, 入澤 聡, 奥川 学, 木下利彦(2008)大学病院精神科外来におけるAripiprazole継続使用の現状と考察. 第104回日本精神神経学会総会, 東京
82. 木下利彦(2008)統合失調症薬物療法の動向. 財団法人栃木県精神衛生協会, 栃木
83. 山田妃沙子, 杉本達哉, 織田裕行, 吉田常孝, 中谷壽男, 木下利彦(2008)地域における自殺の現状と課題. 第32回日本自殺予防学会, 盛岡
84. 山田妃沙子, 織田裕行, 堀内麻美, 片上哲也, 山田圭造, 守田 稔, 吉野真紀, 中平暁子, 鈴木

- 木朋子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2008) 当院の性同一性障害外来の現状と今後のあり方に対する検討. GID学会第10回研究大会, 高槻
85. 杉本達哉 (2008) 救命センターに常駐する精神科医の業務～自殺再発予防からうつ病治療ネットワーク構築まで～. meet the specialist 第1回自殺予防研究会, 守口
86. 西田圭一郎 (2008) 嘔吐恐怖にパロキセチンと不安階層法の併用が有効であった思春期症例. 滋賀県うつ・不安障害研究会, 大津
87. 三井 浩 (2008) こころの病気と障害. 守口市精神障害者理解促進事業土居地区研修会, 守口
88. 堀内麻美 (2008) 巡回相談. 松原市特別支援教育推進体制事業, 松原
89. 織田裕行 (2008) 大阪における GID 医療の状況 (シンポジウム1「全国の治療拠点からの報告」). 第10回GID学会, 高槻
90. 嶽北佳輝 (2008) こころの健康相談について. 保健所相談事業, 寝屋川
91. 上野千穂 (2008) ひきこもりの理解と対応について. 「ひきこもり」研修会, 守口
92. 三井 浩 (2008) 「社会的ひきこもり」の理解と家族の対応方法について. ひきこもり家族セミナー, 寝屋川
93. 坂井志帆, 田近亜蘭, 上野千穂, 分野正貴, 阿部 尚, 鈴木美佐, 吉田常孝, 吉村匡史, 西田圭一郎, 木下利彦 (2008) 関西医科大学精神神経科における認知症家族に対する取り組み. 近畿精神神経学会, 神戸
94. 吉村匡史 (2008) 認知症にどう対応するのか? パート2. 加多乃会講演会, 守口
95. 織田裕行, 上野千穂, 片上哲也, 山田圭造, 守田 稔, 井上雅晴, 三井 浩, 榎場美穂, 岡村宏美, 中平暁子, 吉野真紀, 鈴木朋子, 山田妃沙子, 鈴木美佐, 木下利彦 (2008) 性同一性障害専門外来において発達障害の併存に検討を要した3症例. 第28回日本精神科診断学会, 札幌
96. 杉本達哉, 南 良武, 織田裕行, 田近亜蘭, 板東宏樹, 木下利彦, 中谷壽男 (2008) 精神疾患患者における救急医療の現状. 第11回日本臨床救急医学会総会ワークショップ, 東京

#### 著 書

1. 鈴木朋子 (2008) 学校における心理検査 (第2部スクールカウンセリングの実際 第4章保護者とのかかわり). スクールカウンセリングの基礎と経験 (馬場謙一, 松本京介編) 77-86頁, 日本評論社, 東京
2. 木下利彦 (2008) うつ病を持つ人の心の様相. 現代のエスプリ No.487 外来精神医療シリーズII 現代のこころの病 47-56頁, 至文堂, 東京
3. 西山利正, 三島伸介, 石田高明, 田近亜蘭 (2008) 在留邦人のトラベルワクチン実施状況に関する研究 (中華人民共和国に注目して). 厚生労働科学研究費補助金, 新興・再興感染症研究事業. 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究平成17年度～19年度 総合担研究報告書 (尾内一信編) 81-102頁, 川崎医科大学, 倉敷
4. 西山利正, 三島伸介, 石田高明, 田近亜蘭 (2008) 中国在留邦人におけるトラベルワクチン実施状況—上海市内の状況—. 厚生労働科学研究費補助金, 新興・再興感染症研究事業. 海外渡航者に対する予防接種のあり方に関する研究平成19年度 総括・分担研究報告書 (尾内一信編) 72-78頁, 川崎医科大学, 倉敷

## 小児科学講座

### 〈研究概要〉

小児科学講座では, 小児疾患の幅広い各分野における臨床研究を中心に様々な研究を行っている。

小児腎臓領域では, 特発性ネフローゼ症候群における一酸化窒素の病態への関与, 経口補水療法の生理学的検討, 夜尿症の新しい治療法の確立に関する成果を報告した。

小児内分泌領域では, メタボリック症候群のインスリン抵抗性の発症機序について, 細胞内でのカル

シウム・マグネシウム動態から検討した結果や神経性食欲不振症におけるアディポサイトカイン（レプチン/グレリン）の関与について研究し、その成果について報告した。

新生児領域では、ハイリスクの新生児出生が予測される母親に対する新生児担当チームの産前訪問の効果を心理学的に検討し報告した。臀部結合双胎例の管理法、新しい心機能マーカーである血中BNPを指標とした未熟児動脈管開存症の管理法、母乳性高ナトリウム血症の成因の研究、レーザードップラー法を用いた中枢神経機能評価に関する研究を行った。

小児神経領域では、小児てんかんに対するガバペンチンなどの薬物療法の効果や障害児の肥満対策について研究報告を行った。

アレルギー領域では卵白アレルギー児の診断と管理および負荷試験による食餌療法に関する臨床研究を行った。

血液腫瘍領域では、EBウイルス感染小児におけるヘルパーT細胞分画の変化に関する研究や、各種炎症性蛋白の疾患別動態の検討などの他、腸重積で発症したBurkittリンパ腫の症例をはじめ多くの症例報告を行った。

小児心身症領域では、小児の慢性咳嗽と心理的ストレスとの関係に関する研究や発達障害児/学習障害児の医療施設・地域・学校・家族が協力した支援システム構築に関する研究を行った。

#### 〈研究業績〉

##### 原著

- Kadohira I, Abe Y, Nuriya M, Sano K, Tsuji S, Arimitsu T, Yoshimura Y and Yasui M (2008) Phosphorylation in the C-terminal domain of Aquaporin-4 is required for Golgi transition in primary cultured astrocytes. *Biochem Biophys Res Commun* 377(2): 463–468
- Yukutake Y, Tsuji S, Hirano Y, Adachi T, Takahashi T, Fujihara K, Agre P, Yasui M and Sue-matsu M (2008) Mercury chloride decreases the water permeability of aquaporin-4-reconstituted proteoliposomes. *Biol Cell* 100(6): 355–363
- Sato T, Toki T, Kanezaki R, Xu G, Terui K, Kanegane H, Miura M, Adachi S, Migita M, Morinaga S, Nakano T, Endo M, Kojima S, Kiyoi H, Mano H and Ito E (2008) Functional analysis of JAK3 mutations in transient myeloproliferative disorder and acute megakaryoblastic leukaemia accompanying Down syndrome. *Br J Haematol* 141(5): 681–688
- Tatsumi K, Otani H, Sato D, Enoki C, Iwasaka T, Imamura H, Taniuchi S, Kaneko K, Adachi Y and Ikehara S (2008) Granulocyte-colony stimulating factor increases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair dystrophic heart after bone marrow transplantation. *Circ J* 72(8): 1351–1358
- Fujinaga S, Ohtomo Y, Someya T, Shimizu T, Yamashiro Y and Kaneko K (2008) Is single-daily low-dose cyclosporine therapy really effective in children with idiopathic frequent-relapsing nephrotic syndrome? *Clin Nephrol* 69(2): 84–89
- Suzuki Y, Adachi Y, Zhang Y, Minamino K, Iwasaki M, Mukaide H, Shi M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Yanai S and Ikehara S. (2008) Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice. *Immunobiology* 213(5): 427–435
- Kaida A, Kubo H, Shiomi M, Kohdera U and Iritani N (2008) Evaluation of Real-time RT-PCR compared with conventional RT-PCR for detecting human metapneumovirus RNA from clinical specimens. *Jpn J Infect Dis* 61(6): 461–464
- Uehara R, Belay ED, Maddox RA, Holman RC, Nakamura Y, Yashiro M, Oki I, Ogino H, Schonberger LB and Yanagawa H (2008) Analysis of Potential Risk Factors Associated With Nonresponse to Initial Intravenous Immunoglobulin Treatment Among Kawasaki Disease Patients in Japan. *Pediatr Infect Dis J* 27(2): 155–160
- Fujinaga S, Ohtomo Y, Hara S, Umino D, Someya

- T, Shimizu T and Kaneko K (2008) Maintenance therapy with mycophenolate mofetil for children with severe lupus nephritis after low-dose intravenous cyclophosphamide regimen. *Pediatr Nephrol* 23(10): 1877-1882
10. Kitamura N, Nagahama T, Ishizaki Y, Kinoshita Y and Kaneko K (2008) Effect of interview on mood status of pregnant women with high-risk delivery. *Pediatr Int* 50: 1-4
  11. Mori N, Ohkusa Y, Ohyama T, Tanaka-Taya K, Taniguchi K, Kobayashi JM, Doy M and Okabe N (2008) Estimation of measles vaccine coverage needed to prevent transmission in schools. *Pediatr Int* 50(4): 464-468
  12. 六車令子, 平川紗千子, 蓮井正史 (2008) 基礎知識+事例で深める!小児慢性疾患・ケアの徹底理解 腎疾患(ネフローゼ症候群)患児のケアポイント. *こどもケア* 3(3): 60-67
  13. 齋藤玲子, YuanQian, LeThi Quynh Mai, 安倍隆, 伊藤 崇, 小野塚豊, 清澤伸幸, 小島崇嗣, 後藤元継, 佐藤 勇, 佐藤雅久, 菅谷憲夫, 中野 徳, 西川 眞, 西村秀一, 原錬太郎, 広川智香, 藤枝俊之, 松井忠孝, 松永貞一, 三田村敬子, 山崎雅彦, 鈴木 宏 (2008) 新しいインフルエンザウイルス抗原迅速診断薬クイックナビ-Fluの検討. *医と薬学* 60(2): 323-334
  14. 伊藤節子, 宇理須厚雄, 各務美智子, 平田典子, 小松原亮, 松山温子, 小島崇嗣, 木村彰宏, 佐守友仁, 秀 道広, 亀好良一, 田中稔彦, 三原祥嗣, 平郡隆明, 片岡葉子, 西野洋, 木嶋晶子, 猿丸朋久, 岸田寛子, 湯田厚司, 中川武正 (2008) 自動分析装置によるヒスタミン遊離試験の臨床的有用性の検討. *医学と薬学* 59(5): 917-924
  15. 小島崇嗣 (2008) 上顎洞エコーを用いた急性副鼻腔炎の診断. *外来小児科学会誌* 11(2): 206-209
  16. 中野景司 (2008) 虚血肢におけるM-CSFの血流改善機序. *関西医大誌* 59(2-4): 190-196
  17. 小國龍也, 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 市川正裕, 武知哲久, 田邊卓也, 田川哲三, 木野 稔, 蔭山尚正 (2008) 小児医療供給体制構想と子ども医療圏設定の必要性-郵便番号を利用した大阪府下の小児入院患者の全数把握から見えてくるもの. *医事新報* (4400): 75-80
  18. 石崎優子, 宮島 祐, 伊藤正利, 関口進一郎, 深井善光, 永井 章, 宮地泰士, 厚生労働科学研究費補助金「小児等の特殊患者群に対する医薬品の有効性, 安全性情報の収集とそれらの情報に基づくリスク評価・管理手法に関する研究班 (2008) 15歳未満小児の心身・精神領域の問題に対する向精神薬の適応外処方の実態. *日小児会誌* 112(6): 981-990
  19. 藤永周一郎, 平野大志, 原 聡, 染谷朋之介, 清水俊明, 大友義之, 金子一成 (2008) 思春期前のステロイド依存性ネフローゼ症候群に対するシクロフォスファミド投与の検討. *日小児腎臓病会誌* 21(1): 1-5
  20. 金子一成, 蓮井正史, 磯崎夕佳 (2008) 乳幼児にやさしい腎機能検査: シスタチンCによる糸球体濾過率予測と試験紙による一日尿蛋白量予測. *日小児泌会誌* 16(2): 136-140
  21. 藤井喜充, 寺口正之, 木野 稔, 中野博光 (2008) 川崎病における上腸間膜動脈径の検討. *Prog Med* 28: 1669-1674
- 総 説
1. 木下 洋 (2008) 【若手スタッフをどう育てる!? やりがいのある職場としてのNICU】医師の視点からみた人材育成方法. *Neona Care* 21(6): 575-582
  2. 金子一成 (2008) Henoch-Schoenlein 紫斑病の病因とその治療. *Pharm Med* 26(5): 150-153
  3. 金子一成 (2008) 学校検尿の実際とその意義. *Vita* 25(4): 47-52
  4. 木野 稔 (2008) いざというときのスキルとトリアージポイント 腹痛・嘔吐. *チャイルドヘルス* 11(7): 25-27
  5. 金子一成 (2008) 経口補水療法の理論と実践. *佐賀県小児科医報* (19): 2-9
  6. 谷内昇一郎 (2008) 【2ページで解説! 診療ガイドダイジェスト】小児 小児アトピー性皮膚炎. *治療* 90(臨増): 174-175
  7. 石崎優子 (2008) 発達障害の診かたープライマリ・ケア医に知ってもらいたいことー発達障害児/者を地域で支援するための連携. *治療*

90(8): 2349-2351

8. 久保伸夫, 金子一成 (2008) PFAPA と自己炎症疾患. 耳鼻臨床 101(5): 395-407
9. 木下 洋, 大橋 敦 (2008) 周産期臨床検査のポイント 新生児編 67. 感染, 炎症, 免疫. 周産期医 38(増刊号): 331-335
10. 石崎優子 (2008) 地域で支える子どもと家族. 小児の精と神 48(1): 23-25
11. 辻 章志, 安井正人 (2008) アクアポリンと小児疾患. 小児科 49(4): 443-448
12. 木野 稔 (2008) 【ここまで分かる「小児の単純X線写真とエコー画像」】腎・尿路 腎尿路結石, 腎石灰化 小児の尿異常はまず画像所見から. 小児臨 61(増刊): 589-596
13. 金子一成 (2008) 【小児の輸液療法】経口補水療法 わが国における現状と今後の展望. 小児臨 61(1): 13-23
14. 高屋淳二 (2008) インスリン抵抗性とマグネシウムの関係. 小児高血圧研究会誌 5(1): 9-14
15. 金子一成 (2008) 【小児疾患診療のための病態生理】腎・泌尿器疾患 夜尿症. 小児内科 40(増刊): 964-968
16. 金子一成 (2008) 【小児の急性腹症 その時どうする】膀胱炎. 小児内科 40(4): 721-723
17. 木野 稔 (2008) 急性腹症の診断・治療フローチャート. 小児内科 40(4): 627-632
18. 村上貴孝, 杉本健郎 (2008) 学校における医療的ケアの現状と展望. 小児内科 40(10): 1584-1587
19. 木野 稔 (2008) 臨床内科医のための小児の腹部超音波診断. 大阪内科医会誌 17(1): 18-25
20. 金子一成 (2008) 生後59日, 男児. 主訴: 出血傾向. 日経メディカル 81-82
21. 金子一成 (2008) 7歳, 女児. 腹痛, 下痢, 関節の膨張・疼痛. 日経メディカル 73-74
22. 金子一成 (2008) 小児の脱水症に対する経口補水療法. 医事新報 (4402): 89
23. 村上貴孝, 森 喜造, 木全貴久, 内山敬達, 藤井喜充, 目黒敬章, 罔府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2008) けいれん性疾患の実態と保護者への指導. 日小児会誌 112(3): 471-475

## 症例報告

1. Takaya J, Kitamura N, Tsuji K, Watanabe K, Kinoshita Y, Hattori Y, Teraguchi M, Taniuchi S, Takada K, Hamada Y and Kaneko K (2008) Pentalogy of Cantrell with a double-outlet right ventricle: 3.5-Year follow-up in a prenatally diagnosed patient. Eur J Pediatr 167(1): 103-105
2. Takaya J, Hattori Y, Ishizaki Y and Kaneko K (2008) Surged leptin/ghrelin secretion associated with anorexia nervosa. J Pediatr Gastroenterol Nutr 47(5): 670-671
3. Ishizaki Y, Kobayashi Y and Kino M (2008) Chronic and persistent cough related to vulnerability to psychological stress: tic or psychogenic? Pediatr Int 50(3): 392-394
4. 居原田安奈, 蓮井正史, 今井雄一郎, 河崎裕英, 磯崎夕佳, 金子一成 (2008) 高血圧を呈した顕微鏡的多発血管炎の1症例. 小児高血圧研究会誌 5(1): 35-38
5. 荒木 敦, 服部祐子, 金子一成 (2008) ガバベンチンが奏功した症候性West症候群の1症例. 大阪てんかん研究会誌 19(1): 01-05
6. 今井雄一郎, 原田佳明, 高屋淳二, 金子一成, 関根孝司, 五十嵐隆 (2008) 臨床的にDent病としてフォローされていたLowe症候群の1男児例. 日小児腎臓病会誌 21(2): 195-198
7. 田中幸代, 鈴川純子, 今井雄一郎, 高屋淳二, 谷内昇一郎, 蓮井正史, 金子一成 (2008) パルプロ酸によるFanconi症候群から急性腎不全を呈した難治性てんかんの1例. 日小児腎臓病会誌 21(2): 182-187
8. 端 里香, 中村彰利, 杉本健郎, 野田幸弘, 金子一成 (2008) 11年間経過観察を行い得た亜急性硬化性全脳炎の1例 経時的脳波変化の検討. 臨脳波 50(3): 184-189

## 学会発表

1. Inagaki T, Kawaguchi T, Yamahara T, Uesaka T, Takeda J, Kawamoto K and Kinoshita Y (2008) The management and the outcome of Intraventricular hemorrhage in babies with low birth weight. 36th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Capetown, South Africa

2. Tsuji S, Tatsumi K, Yukutake Y, Morisaku T and Yasui M (2008) Identification of NMO-IgG binding site to human aquaporin-4 expressed in COS-7 cells. The first brain aquaporin meeting, Oslo
3. Teraguchi M, Ogino H, Yoshimura K, Taniuchi S, Kino M, Okazaki H and Kaneko K (2008) A study of steroid pulse therapy for immune globulin-resistant Kawasaki disease. Ninth International kawasaki disease symposium, Taipei
4. Yanai S, Adachi Y, Shi M, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) 骨髄細胞は正常の発育における臓器の発育に寄与しない. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
5. 村上貴孝 (2008) 基調講演: 医療的ケアってなに? 医療的ケアを考えるシンポジウム, 東大阪
6. 木野 稔 (2008) 病児保育の現状と課題. 女性医師看護師支援の地域連携第2回シンポジウム, 大阪
7. 谷口奈穂, 吉村 健, 立岩 愛, 野田幸弘, 河崎裕英, 木下 洋, 金子一成 (2008) 病初期に高度の肝機能障害を呈した川崎病の2例. 第180回大阪小児科学会, 大阪
8. 田中智子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎, 金子一成, 山内康雄 (2008) 硬膜下膿瘍を合併した化膿性髄膜炎の1乳児例. 第180回大阪小児科学会, 大阪
9. 荒木 敦 (2008) 小児神経疾患に伴う喘息様症状に対するブランルカストの有用性. 第1回大阪臨床小児科セミナー, 大阪
10. 居原田安奈, 辻 章志, 蓮井正史, 神田靖土, 西山利正, 金子一成 (2008) TおよびBリンパ球から産生される一酸化窒素の特異性ネフローゼ症候群発症への影響. 第31回日本分子生物学会年会 第81回日本生化学学会大会合同大会, 神戸
11. Shi M, Adachi Y, Yanai S, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) コラーゲン・ゲルを用いた骨髄内骨髄移植法は早期の造血回復を誘導する. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
12. 小島崇嗣, 木村彰宏, 青木孝夫, 谷内昇一郎, 金子一成 (2008) 遷延する卵白HRT高値の評価. 第45回日本小児アレルギー学会, 横浜
13. 木村彰宏, 小島崇嗣 (2008) 卵白アレルギー児に対する外来での加熱卵白負荷(第5報)単日複数回負荷の検討. 第45回日本小児アレルギー学会, 横浜
14. 寺口正之 (2008) 川崎病と心臓後遺症. 田辺三菱製薬株式会社社内勉強会, 大阪
15. 大橋 敦 (2008) Late Preterm児をRSウィルス感染から守る産婦人科医の役割. 奈良県産婦人科医会感染症研修会, 奈良
16. 木下 洋 (2008) 新生児の蘇生アルゴリズム. 平成20年度第3回新生児蘇生講習会, 大阪
17. 金子一成 (2008) 経口補水療法の実際. 石川県小児科医会秋季例会, 石川
18. 関府寺美 (2008) 小児の救急・救命. 大阪府社会福祉協議会職員研修保育所課程, 大阪
19. 金子一成 (2008) 最近の小児維持輸液療法の考え方. 大分県北部地区小児科医会, 大分
20. 小島崇嗣, 木村彰宏, 青木孝夫, 谷内昇一郎, 金子一成 (2008) 乳幼児HRT検査の有用性. 第15回近畿外来小児科学研究会, 神戸
21. 藤井喜充 (2008) 小児急性虫垂炎における糞石の超音波像とCT値. 第22回大阪小児栄養消化器病懇話会, 大阪
22. 須藤京子, 岡本一章, 須藤博明 (2008) 長距離走後に突然死した喘息既往のある15歳男子例. 第27回三重小児循環器懇話会, 三重
23. 依岡寛和, 笠松 敦, 神崎秀陽, 大橋 敦, 竹安晶子, 木下 洋, 金子一成, 高田晃平, 濱田吉則 (2008) 胎児頸部腫瘤に対しEXITを施行した1症例. 第44回日本周産期新生児医学会総会, 横浜
24. 立岩 愛, 吉村 健, 荒木 敦, 金子一成 (2008) 入浴時のチアノーゼ発作を繰り返した1乳児例. 第44回日本小児神経学会近畿地方会, 大阪
25. 須藤京子, 岡本一章, 須藤博明 (2008) 健康男子に発症した感染性心内膜炎の一例. 第46回伊賀地区小児懇話会, 三重
26. 金子一成 (2008) 経口補水療法の理論と実践. 阪神小児科懇話会, 兵庫
27. 野田幸弘, 金子一成 (2008) Sjogren症候群を合併し, 間質性肺炎とアカラシアを併発した自己免疫疾患の1例. 第18回日本小児リウマチ学会, 北海道
28. 卯西 元 (2008) 気をつけたい子どもの脱水ー

- 家庭でも役立つ水分補給のポイントー. 第24回大阪小児科医会公開講座, 大阪
29. 辻 章志, 大橋 敦, 黒柳裕一, 峰 研治, 中島純一, 寺西顕司, 木下 洋, 金子一成 (2008) 末梢静脈血栓症を起こした超低出生体重児の一症例. 第264回NMCS例会, 大阪
  30. 深井善光 (2008) 乳幼児期にみる親子関係と情緒障害. 第26回小児心身医学会, 那覇
  31. 深井善光 (2008) 神経性食思不振症に対する『定常体重療法』と経過中の基礎代謝量の推移. 第26回小児心身医学会, 那覇
  32. 小林穂高, 藤井由里, 大川 薫, 内田祐子, 石崎優子 (2008) 子どもの心身症を短期の入院で治療する. 第26回日本小児心身医学会, 那覇
  33. 石崎優子, 井上登生, 内田祐子, 深井善光, 藤井由里, 神原雪子, 藤田光江, 安島英裕, 島田 章, 中尾亮太, 竹中義人, 村上佳津美, 岡孝和, 白川美也子, 丸 光恵, 若子理恵 (2008) 『くりかえす子どもの痛みガイドライン』のめざすところ. 第26回日本小児心身医学会学術集会, 宜野湾
  34. 石崎優子, 深井善光, 永井 章 (2008) 日本小児心身医学会薬事委員会 活動報告. 第26回日本小児心身医学会学術集会, 宜野湾
  35. 寺口正之, 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2008) 川崎病急性期における上腸間膜動脈の経時的変化と臨床的意義. 第28回日本川崎病研究会, 札幌
  36. 小國龍也, 卯西 元, 藤岡雅司, 蔭山尚正 (2008) 効果的介入の要点はどこにおくべきか. 第29回日本肥満学会, 大分
  37. 藤井喜充, 罔府寺美, 木野 稔 (2008) 肝外胆管径における経口摂取の影響の検討 (胆道拡張症診断の観点から). 第35回日本小児消化器栄養肝臓学会, 東京
  38. 村上貴孝 (2008) Clobazam単剤療法3年半後に症状再燃を認めた症候性部分てんかんの1例. 第42回日本てんかん学会総会, 東京
  39. 服部英司, 松岡 収, 沖永剛志, 永井利三郎, 福井美保, 岡崎 伸, 川脇寿, 鳥邊泰久, 鈴木保宏, 荒木 敦, 田辺卓也 (2008) 小児てんかんに対するガバペンチンの効果 多施設共同研究. 第42回日本てんかん学会総会, 東京
  40. 東野博彦, 高屋淳二, 金子一成, 田島敏広, 向井徳男他 (2008) 副腎不全患者のストレス時の家庭での管理—ステロイド皮下注射についての意識調査とその実態報告—. 第42回日本小児内分泌学会学術集会, 米子
  41. 田邊裕子 (2008) 嘔吐・腹痛を主訴に救急受診した水腎症の3例. 第4回OK小児救急症例検討会, 枚方
  42. 平林雅人 (2008) 出血症状を機に診断された先天性胆道. 第4回OK小児救急症例検討会, 枚方
  43. 黒柳裕一, 北村直行, 竹安晶子, 大橋 敦, 辻章志, 峰 研治, 木下 洋, 金子一成 (2008) 先天性水頭症の管理中に難治性乳び胸を合併した先天性上大静脈欠損症の1例. 第53回日本未熟児新生児学会, 札幌
  44. 大橋 敦, 高田晃平, 稲垣隆介, 辻 章志, 黒柳裕一, 峰 研治, 松倉良香, 木下 洋, 金子一成 (2008) 分離手術を施行した殿結合双胎例の経験. 第53回日本未熟児新生児学会, 札幌
  45. 大橋 敦, 峰 研治, 辻 章志, 黒柳裕一, 北村直行, 松倉良香, 木下 洋, 金子一成 (2008) 極低出生体重児における動脈管開存症と血中BNPの関連について: インドメタシン至適投与量に関する考察. 第53回日本未熟児新生児学会, 札幌
  46. 大橋 敦, 増本健一, 森臨太郎, 豊島勝昭, 未熟児動脈管開存症診療ガイドライン作成プロジェクトチーム (2008) 医療の標準化-PDAの診断と治療 未熟児動脈管開存症の治療にシクロオキシゲナーゼ阻害薬(COX阻害薬)の使用, 吸入酸素濃度を調節することは, 投与方針を変えないことに比べてより効果的か? 未熟児動脈管開存症診療ガイドラインから. 第53回日本未熟児新生児学会学術集会, 札幌
  47. 金子一成 (2008) 小児の発熱性疾患の鑑別: 最近話題の疾患を含めて. 関西医大耳鼻咽喉科同門会, 大阪
  48. 金子一成 (2008) 経口補水療法の実際. 第142回東三河小児科医会学術講演会, 愛知
  49. 小林穂高, 石崎優子, 金子一成 (2008) 「心身症っぽい」子どもの診かた～外来での関わりかた, 入院での関わりかた～. 第20回寝屋川小児科懇話会, 大阪

50. 居原田安奈, 辻 章志, 蓮井正史, 金子一成 (2008) 小児特発性ネフローゼ症候群. 第20回腎とフリーラジカル研究会, 大阪
51. 東野博彦, 石崎優子, 金子一成 (2008) 小児期発症の慢性疾患の長期支援について小児-思春期-成人医療のギャップを埋める「移行プログラム」の作成をめざして. 第22回小児PD研究会, 札幌
52. 高見浩数, 稲垣隆介, 大重英行, 浅井昭雄, 高田晃平, 濱田吉則, 大橋 敦, 木下 洋, 金子一成, 河本圭司 (2008) 胎児診断された結合体の1例. 第26回日本こども病院神経外科医学会, 大阪
53. 金子一成 (2008) 小児の輸液に関わる最近の話題: 経口補水療法と維持輸液療法. 第2回宮崎県小児フォーラム, 宮崎
54. 金子一成 (2008) 新生児の電解質異常に関する最近の話題: 母乳性高ナトリウム血症と早産児の晩期循環不全. 第30回日本小児体液研究会, 東京
55. 小林穂高, 杉本博是, 菅 俊光, 田中智子, 岡本真道, 石崎優子, 鈴川純子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎 (2008) 咳症状を欠き, 診断と治療に苦慮した誤嚥による化膿性胸膜炎. 第35回大阪小児呼吸器談話会, 大阪
56. 宮本早知, 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2008) 過去5年間に当科で経験した腸重積症例の検討. 第38回大阪市東部小児談話会, 大阪
57. 村上貴孝 (2008) チック症状にて心理フォローを目的に受診した男児例~器質的疾患の鑑別~. 第38回大阪市東部小児談話会, 大阪
58. 村上貴孝 (2008) Clobazam単剤療法3年半後に症状再燃を認めた症候性部分てんかんの1例. 第42回日本てんかん学会総会, 大阪
59. 寺口正之 (2008) 心電図からみた小児期心疾患について. 第45回守口・門真外小児科勉強会, 守口
60. 圀府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2008) 乳児院に措置される児の背景-30年の変遷. 第55回日本小児保健学会, 札幌
61. 山内壮作, 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2008) アデノウイルス感染症により重症肺炎を呈した1例. 第9回済生会野江病院学術交流会, 大阪
62. 馬場 奨, 河本光平, 竹田浩子, 土井 直, 友田幸一, 藤原 亨, 舟木克枝, 辻美代子 (2008) 髄膜炎にて発見された内耳奇形の1例. 日本耳鼻咽喉科学会大阪地方連合会第306回例会, 大阪
63. 木下 洋 (2008) 新生児の蘇生アルゴリズム. 平成20年度第2回新生児蘇生講習会, 大阪
64. 村上貴孝 (2008) 医療的ケアを必要とする児童・生徒の教育について. 大阪府教育委員会主催医療的ケア一般研修, 大阪
65. 木下 洋, 藤田 位, 日野利治 (2008) 診療技法を見直そう. 第18回日本外来小児科学会年次集会, 名古屋
66. 村上貴孝 (2008) チック症状にて心理フォローを目的に受診した男児例~器質的疾患の鑑別~. 第38回大阪市東部小児談話会, 大阪
67. 木野 稔 (2008) 日常診療に役立つ腹部超音波検査. 島根県小児科医学会学術講演会, 大阪
68. 木野 稔 (2008) こども理解の視点と方法. 臨床道化師フォーラム2008, 大阪
69. 金子一成 (2008) 小児腎疾患のフォローアップのための新しい検査診断マーカー. アークレイ臨床検査セミナー2008大阪, 大阪
70. 村上貴孝 (2008) 小児のてんかんについて. グラクソ・スミスクライン講師招聘勉強会, 大阪
71. 金子一成 (2008) 小児の夜尿症に対する理論的アプローチ. 滋賀小児科医学会・中部地区学術講演会, 滋賀
72. 金子一成 (2008) 小児の輸液療法の最近のトピックス: 経口補液と経静脈輸液. 第2回長崎こどもの救急疾患研究会, 長崎
73. 金子一成 (2008) 小児の夜尿症の理論的アプローチ. 第33回KMU小児臨床研究会, 大阪
74. 内山敬達, 北野正尚, 矢崎 諭, 杉山 央, 吉沢弘行, 高田秀美, 山田 修 (2008) Amplatzer septal occluder留置後心房中隔にerosionを来たした1例. 第44回日本小児循環器学会総会, 福岡
75. 須藤京子, 岡本一章, 須藤博明 (2008) 小児熱傷創に対するフィブラストスプレーの使用. 第45回伊賀地区小児懇話会, 三重
76. 石崎優子, 内田祐子 (2008) 思春期以降の小児心身症患者を何科がフォローするのか?. 第46回日本心身医学会近畿地方会, 神戸

77. 田邊裕子 (2008) 運動後腎不全をきたした腎性低尿酸血症の1例. 第46回枚方交野小児懇話会, 枚方
78. 村上貴孝 (2008) 障害のある子どものニーズに応じた支援について. 光陽養護学校新転任研修会, 大阪
79. 金子一成 (2008) 小児の維持輸液療法における最近の話題. 宗像小児科医会, 福岡
80. 金子一成 (2008) 経口補水療法: その理論と実践. 順天堂小児科同門会, 東京
81. 酒井智子, 中野崇秀, 蓮井正史, 木下 洋, 金子一成, 舟木克枝, 辻美代子 (2008) アデノウイルス感染症により重症肺炎をきたした一乳児例. 第178回大阪小児科学会, 大阪
82. 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 小國龍也, 蔭山尚正 (2008) 大阪小児科医会会員の在宅医療に関する意識および現況調査. 第19回日本小児科医会セミナー, 福岡
83. 川崎康寛, 東野博彦, 卯西 元, 小國龍也, 田邊卓也, 田川哲三, 市川正裕, 武知哲久, 木野 稔, 蔭山尚正 (2008) 平成18年度大阪府の小児科入院患者の動向調査. 第19回日本小児科医会セミナー, 福岡
84. 田邊裕子 (2008) 小児における肥満関連腎症の疫学的検討. 第43回小児腎学会, 福岡
85. 下智比古, 今井雄一郎, 居原田安奈, 蓮井正史, 磯崎夕佳, 金子一成, 寺西顕司, 原田佳明, 岡本真道, 岡崎仁志, 辻美代子 (2008) 小児夜尿症に対する病型に基づいた理論的治療とその成績. 第43回日本小児腎臓病学会, 東京
86. 寺口正之, 青木良純, 木野 稔, 金子一成 (2008) 胸部CTが診断に有用であった小児気管支拡張症の2例. 第44回日本小児放射線学会, 東京
87. 石崎優子, 田中英高, 村山隆志, 富田和巳 (2008) 小児医療から成人医療への移行における心身医学の必要性と意義—小児から成人への心身の健全育成—. 第49回日本心身医学会総会ならびに学術講演会, 札幌
88. 小林穂高, 石崎優子 (2008) 身体疾患の治療を目的に入院治療を行うことで不登校の改善が見られた広汎性発達障害の2例. 第99回日本小児精神神経学会, 米子
89. 木下 洋 (2008) 新生児の蘇生アルゴリズム. 平成20年度第1回新生児蘇生講習会, 大阪
90. 辻美代子 (2008) 予防接種アップデート. 平成20年度鶴見区学校保健協議会総会, 大阪
91. 木野 稔 (2008) 小児の急病診療の注意点. 門真市医師会講演会, 大阪
92. 金子一成 (2008) 経口補水療法の理論と実践. 佐賀県医師会小児科医部会, 佐賀
93. 藤井喜充 (2008) 小児救急腹部超音波ワンプointアドバイス. 第22回日本小児救急医学会, 神戸
94. 高屋淳二 (2008) メタボリックシンドロームの予防は小児から. 第2回城東区・関西医科大学医療連携ネットワークカンファレンス, 大阪
95. 稲垣隆介, 川口琢也, 上坂達郎, 武田純一, 依岡寛和, 笠松 敦, 神崎秀陽, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋, 河本圭司 (2008) 当院における中枢神経系奇形の診断の現状と問題点. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
96. 村上貴孝 (2008) 細菌性髄膜炎の最近の特徴と神経学的予後. 第50回日本小児神経学会, 東京
97. 長尾靖子, 荒木 敦, 金子一成, 國吉京子, 楠本健司 (2008) 自閉症スペクトラム診断までの期間短縮の試みと診断後の児の経過. 第50回日本小児神経学会総会, 東京
98. 金子一成 (2008) 小児の維持輸液療法の考え方. 第59回日本小児科学会滋賀地方会, 滋賀
99. 藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2008) 小児ヘノッホシェンライン紫斑病の経時的腹部超音波検査所見. 第81回日本超音波医学会, 神戸
100. 小野 厚 (2008) 小児アレルギー疾患 最近の動向 —気管支喘息・食物アレルギーを中心に—. 第8回「地域の健康を考える会」, 松原
101. 鈴川純子, 田中智子, 小林穂高, 岡本真道, 石崎優子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎, 金子一成 (2008) 若年性皮膚筋炎の1男児例. 第5回京阪こどもカンファレンス, 大阪
102. 木野 稔 (2008) 日常診療に役立つ腹部超音波検査. 島根県小児科医会学術講演会, 松江
103. 野田幸弘, 中野崇英, 河崎裕英 (2008) 顔面神経麻痺を主訴に発症した乳児T-ALLの1例. 小児がんカンファレンス, 大阪
104. 大橋 敦, 竹安晶子, 黒柳裕一, 峰 研治,

- 辻 章志, 中島純一, 松倉良香, 北村直行, 木下 洋, 金子一成 (2008) LDF を用いた新生児仮死児の神経学的予後の予測: 脳血流変動の定量的評価の試み. 第111回日本小児科学会, 東京
105. 田村和夫, 依岡寛和, 神崎秀陽, 谷内昇一郎, 大橋 敦, 北村直行, 蓮井正史, 木下 洋, 金子一成 (2008) 母乳栄養児における新生児高張性脱水(母乳性高Na血症)の検討. 第111回日本小児科学会, 東京
106. 田邊裕子, 蓮井正史, 野田幸弘, 吉村 健, 木下 洋, 金子一成, 岩瀬京子, 岡崎和一 (2008) 医学生に於ける血清麻疹抗体価の検討. 第111回日本小児科学会, 東京
107. 森 伸生, 森 喜造, 木全貴久, 藤井喜充, 目黒敬章, 村上貴孝, 寺口正之, 関府寺美, 木野 稔, 中野博光 (2008) 当院の麻疹サーベイランスの状況. 第111回日本小児科学会学術集会, 東京
108. 石崎優子, 東野博彦, 荒木 敦, 竹村 司, 多和昭雄, 小林穂高, 藤井由里, 服部祐子, 谷内昇一郎, 金子一成 (2008) 本邦における移行期のケア-移行プログラムの作成を目指して-. 第111回日本小児科学会学術集会, 東京
109. 田邊裕子 (2008) 医学生における血清麻疹抗体価の検討. 第111回日本小児科学会学術集会, 東京
110. 木全貴久, 磯崎夕佳, 森 喜造, 森 伸生, 藤井喜充, 目黒敬章, 村上貴孝, 寺口正之, 関府寺美, 木野 稔 (2008) 小児救急病院における上部尿路感染症の検討. 第111回日本小児科学会学術集会, 東京
111. 寺口正之, 青木良純, 森 喜造, 目黒敬章, 藤井喜充, 森 伸生, 木全貴久, 村上貴孝, 関府寺美, 木野 稔 (2008) 下気道感染を繰り返し, 胸部CTで診断した「気管支拡張症」の2例. 第177回大阪小児科学会, 大阪
112. 舟木克枝, 藤原 亨, 辻美代子 (2008) 視力低下を主訴としたバセドウ病の8歳女児例. 第177回大阪小児科学会, 大阪
113. 田邊裕子 (2008) ステロイドの初期投与が著効したPFAPA症候群の1例. 第177回大阪小児科学会, 大阪
114. 田邊裕子 (2008) 背部腫瘤を契機に診断された若年性黄色肉芽腫の1女児例. 第21回近畿小児科学会, 東京
115. 金子一成 (2008) 夜尿症への理論的アプローチ. 京都小児科医会学術講演会, 京都
116. 野田幸弘, 蓮井正史, 金子一成 (2008) 頸部リンパ節腫脹を主訴とし, 血球貪食症候群を合併した全身型若年性特発性関節炎の1例. 近畿小児リウマチ研究会, 大阪
117. 木野 稔 (2008) 究極の育児支援としての病児保育. 女性医師看護師支援の地域連携第1回シンポジウム, 大阪
118. 田邊裕子 (2008) ステロイドの初期投与が著効したPFAPA症候群の1例. 第177回大阪小児科学会, 大阪
119. 寺西顕司, 中村真紀子, 原田佳明 (2008) 当院におけるマイコプラズマ肺炎の診断と治療. 第19回寝屋川小児科懇話会, 大阪
120. 荒木 敦, 高屋淳二, 金子一成 (2008) 養護学校生徒の肥満対策とその成果について. 第21回近畿小児科学会, 大阪
121. 中島純一, 峰 研治, 松倉良香, 黒柳裕一, 竹安晶子, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋, 金子一成 (2008) 早産児の水頭症に対する一時的脳室帽状腱膜下シャント留置術の有用性. 第21回近畿小児科学会, 大阪
122. 田邊裕子 (2008) 背部腫瘤を契機に診断された若年性黄色肉芽腫の1女児例. 第21回近畿小児科学会, 大阪
123. 藤井喜充 (2008) 小児急性虫垂炎の診断と管理-小児科サイドから-. 第21回近畿小児科学会, 大阪
124. 峰 研治, 荒木 敦, 平林雅人, 中島純一, 黒柳裕一, 竹安晶子, 大橋 敦, 野田幸弘, 北村直行, 木下 洋, 金子一成 (2008) 曾木ミオクロニー脳症の1症例. 第21回近畿小児科学会, 大阪
125. 野田幸弘, 田邊裕子, 中野崇秀, 河崎裕英, 金子一成, 高田晃平, 濱田吉則 (2008) 腸重積を契機に発見されたBurkittリンパ腫の2症例. 第30回近畿小児がん研究会, 和歌山
126. 内山敬達, 津田悦子, 山田 修 (2008) 川崎病急性期に意識障害を伴った心筋炎の2例. 第32回近畿川崎病研究会, 大阪
127. 藤原 亨, 舟木克枝, 辻美代子 (2008) 当科

- で経験した細菌性髄膜炎の臨床的検討. 第37回大阪市東部小児談話会, 大阪
- 128.木全貴久, 森 喜造, 森 伸生, 藤井喜充, 目黒敬章, 村上貴孝, 寺口正之, 圀府寺美, 木野 稔 (2008) 嘔吐, 視覚症状, 意識消失を認めた後頭葉てんかんの1例. 第39回大阪市東部小児談話会, 大阪
- 129.藤井喜充, 木野 稔, 中野博光 (2008) 小児急性胃粘膜病変におけるヘリコバクター-ピロリ感染症陽性例の検討. 第44回日本腹部救急医学会, 横浜
- 130.高屋淳二, 山戸史子, 金子一成 (2008) カルシウムおよびマグネシウムがマウス好中球の活性酸素/一酸化窒素に及ぼす影響. 第5回日本小児栄養研究会, 奈良
- 131.木下 洋 (2008) 新生児の蘇生アルゴリズム. 平成19年度第4回新生児蘇生講習会, 大阪
- 132.木野 稔 (2008) 最近の感染症動向について. 大阪市鶴見区学校保健大会, 大阪
- 133.金子一成 (2008) 小児の輸液療法における最近の話題. 第2回仙台外来小児科懇話会学術講演会, 仙台
- 134.藤井喜充, 寺口正之, 木野 稔, 中野博光 (2008) 川崎病における上腸間膜動脈径の検討. 第32回近畿川崎病研究会, 大阪
- 135.金子一成 (2008) 経口補水療法の理論と実践. 第4回日本小児消化管感染症研究会, 東京
- 136.金子一成 (2008) 乳幼児の経口補水療法. 尼崎市小児科医会, 大阪
- 137.金子一成 (2008) 経口補水療法の最近の考え方. 今治市小児科医会, 愛媛
- 138.高屋淳二 (2008) 小児のメタボリックシンドローム. 寝屋川市学校保健研究大会, 大阪
- 139.小林穂高, 服部祐子, 石崎優子, 谷内昇一郎, 金子一成 (2008) 頻尿を訴えてトイレにこもるようになった9歳男児の治療経験. 第5回日本小児心身医学会関西地方会, 大阪
- 140.金子一成 (2008) 夜尿症の診断・治療概論. 第100回日本小児精神神経学会学術集会, 東京
- 141.圀府寺美 (2008) 臨床内科医に必要な小児科診療の知識. 大阪府内科医会定例講演会, 大阪
- 142.木全貴久, 磯崎夕佳, 森 喜造, 森 伸生, 藤井喜充, 目黒敬章, 村上貴孝, 寺口正之, 圀府寺美, 木野 稔 (2008) 膿尿がない上部尿路感染症の患者背景の検討. 第43回小児腎臓病学会, 福岡
- 著 書
1. Takaya J (2008) Low Birth Weight and Magnesium: From the Standpoint of "Fetal Origin" Hypothesis. Dietary Magnesium: New Research (Andrew W. Yardley ed) pp. 1-10, NOVA Publishers, New York
  2. 金子一成 (2008) 急性進行性腎炎, ANCA関連腎炎. 講義録 小児科学 (佐治 勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村 司編) 636-640頁, メジカルビュー社, 東京
  3. 高屋淳二, 金子一成 (2008) 小児の骨の発達とその異常性. マグネシウム異常によるもの (藤枝憲二, 田中弘之編) 138-142頁, 診断と治療社, 東京
  4. 深井善光 (2008) 選択性緘黙, 登園しぶり. 一般小児科医のための子どもの心の診療テキスト (柳沢正義編) 48-50頁, 厚労省児童家庭局, 東京
  5. 深井善光 (2008) 正常な身体発達. 一般精神科医のための子どもの心の診療テキスト (山内俊雄編) 1-2頁, 厚労省児童家庭局, 東京
  6. 木下 洋 (2008) 子どもの育て方: 乳児期の発育と生理, 幼児期の発育と生理, 乳児期の育て方, 幼児期の育て方. 家庭の医学 第6版 (福井次矢編) 1688-1711頁, 保健同人社, 東京
  7. 木下 洋 (2008) Consensus 2005に則った新生児心肺蘇生法ガイドラインの開発と全国の周産期医療関係者に習得させるための研修体制と登録システムの構築とその効果に関する研究 (5). 厚生科学研究費補助金 (子ども家庭総合研究事業) 周産期母子医療センターネットワークによる医療の質の評価と, フォローアップ・介入による改善・向上に関する研究 平成19年度総括・分担研究報告書 (主任研究者: 藤村正哲) 113-116頁, 大阪府立母子保健総合医療センター, 大阪
  8. 木下 洋 (2008) 新生児疾患. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (小林陽之助, 金子一成編) 141-190頁, 金芳堂, 京都
  9. 荒木 敦 (2008) 小児の発達. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (金子一成編) 15-25頁,

- 金芳堂, 京都
10. 木下 洋 (2008) その他の感染症. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (小林陽之助, 金子一成編) 257-265頁, 金芳堂, 京都
  11. 荒木 敦 (2008) 小児の成長. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (金子一成編) 5-14頁, 金芳堂, 京都
  12. 荒木 敦, 安原昭博 (2008) 神経疾患. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (金子一成編) 553-588頁, 金芳堂, 京都
  13. 辻美代子 (2008) 9章 診療・検査の基本手技. 小児科学第2版 (MINOR TEXEBOOK) (小林陽之助, 金子一成編) 79-92頁, 金芳堂, 京都
  14. 木下 洋 (2008) 研修医の到達目標・手技. 小児科研修医ノート (五十嵐隆編) 2頁, 診断と治療社, 東京
  15. 荒木 敦 (2008) 頭痛. 小児神経学 (加我牧子, 稲垣真澄編) 486-489頁, 診断と治療社, 東京
  16. 金子一成 (2008) 改訂第2版の「はじめに」. 食物アレルギーの治療と管理 改訂第2版 (小林陽之助, 金子一成編), 診断と治療社, 東京
  17. 笹井みさ (2008) アレルギー代替食品について. 食物アレルギーの治療と管理 改訂第2版 (小林陽之助, 金子一成編) 116-121頁, 診断と治療社, 東京
  18. 小野 厚 (2008) 6. おもなアレルゲンとその対策 2. 牛乳 (1. 頻度, 2. 抗原, 3. 症状). 食物アレルギーの治療と管理 改訂第2版 (小林陽之助, 金子一成編) 133-137頁, 診断と治療社, 東京
  19. 小島崇嗣 (2008) 食物アレルギー診断のための検査とその評価方法. 食物アレルギーの治療と管理 改訂第2版 (小林陽之助, 金子一成編) 43-47頁, 診断と治療社, 東京
  20. 木下 洋 (2008) シナリオに基づく新生児蘇生講習. 新生児救急白書 (末原則幸編) 45-49頁, 大阪府医師会, 大阪
  21. 金子一成 (2008) Case 39 生後59日, 男児. 主訴: 出血傾向. 日経メディクイズ 小児診療のピットフォール 91-92頁, 日経BP社, 東京
  22. 金子一成 (2008) Case 43 6歳, 女児. 主訴: 突然の腹痛. 日経メディクイズ 小児診療のピットフォール 99-100頁, 日経BP社, 東京

## 外科学講座

### <研究概要>

#### 消化管外科

##### 1. 噴門側胃切除後の残胃運動機能に関する臨床研究

幽門側残胃の運動機能を RI 胃排出試験を用いて評価し, 健常人と比べてどの程度保たれているのか, また幽門部の運動に幽門洞枝 (Latarjet 枝) が必要か否かについて検討を加える. 噴門部早期癌を対象とし, 手術手技は以下の如く統一して行う. ①噴門側切除範囲は 1/3-1/2 とする. ②迷走神経は肝枝, 幽門枝および腹腔枝を温存する. 症例により幽門洞枝も温存する. ③再建方法は 10-12 cm の空腸を間置する. ④ドレナージ手術は一切行わない. 術後の検索項目として, 術後愁訴, 食事摂取量, 各種栄養指標, 24 時間 pH・胆汁モニタリング, 内視鏡, RI 胃排出試験, などを用いて評価する. 現在までに 33 例に施行. 縫合不全や SSI などの合併症はなし. 術後 2ヶ月目の内視鏡検査では逆流性食道炎は全くみられず, 全例に残胃の観察が可能である. 吻合部狭窄は 3 例に認めているが, バルーン拡張術で軽快している. 術後愁訴については, 幽門洞枝非温存例 (25 例) では食後のつかえ感や膨満感はほぼ全例に認めているが, 軽度であり経過と共に軽快している. また摂食量も徐々に増加している. 幽門洞枝温存例 (5 例) ではつかえ感は殆どなく, 摂食量も良好である. 1 年経過例 (幽門洞枝非温存) の RI 胃排出試験では, 健常人に比して遅延していた. 一方, 幽門洞枝温存例では健常人に近似していた.

更に症例を追加し, その結果を下に胃上部早期癌に対する合理的な機能温存術式を確立したい. (中根恭司)

## 2. 胃全摘後の空腸パウチ間置再建術式の有用性に関する臨床試験

教室では1989年からICのもと、胃全摘後の貯留能の確保のため、空腸パウチを造設した再建法を導入してきた。種々の改良を加え今日に至っているが、パウチ造設による有用性は概ね確認された。また術後愁訴、摂食量およびRI胃排出試験を用いた検討から、代用胃の機能は貯留能だけでなく、排出能とのバランスが重要であり、パウチの大きさは小さめ(10-12 cm)とし、空腸導管も5-7 cmと短めにしている。更に、食道への逆流防止策として、穹窿部の作製に加えて、出来る限りLESを温存し、食道空腸吻合部を正中弓状靭帯や横隔膜脚に固定し腹部食道を確保するようにしているが、食道への逆流症状はほとんどみられていない。以上の検討から胃全摘後の再建法として、空腸パウチ間置再建法が真に有用かにつき、RCTにて空腸間置法と比較検討中である。各群20例で、手術は終了し、現在経過観察中(2年間)である。(中根恭司)

## 3. 胃癌手術の創閉鎖におけるBest Practiceの検討

胃癌手術の皮膚閉鎖にはステープラーが頻用されている。しかしながら、ステープラーは創の保持力が弱く、時に、創?開や創のずれを生じる。また、抜鋼後にステープラーの瘢痕が残る症例もある。抜鋼後は、創の保持力がなくなるので、月日の経過とともに創の幅はひろがり、肥厚性瘢痕を来す症例もある。われわれは、創に関連した合併症の軽減と整容性を高めるために、2006年度から胃癌手術症例の全例に真皮縫合を取り入れている。真皮縫合の方法として結節縫合と連続縫合の2種類があるが、整容性に関していずれの方法が良いかは明らかではなく、現在、胃癌手術の閉鎖法として、連続真皮縫合と結節真皮縫合で、どちらが整容性の点で優れているかを検討するために、無作為化比較試験を実施している。(井上健太郎)

## 4. 胃癌における、安全で有用な術後腹腔鏡検査の確立

胃癌術後で最も多い再発形式は腹膜再発である。しかしながら、腹膜再発を早期に診断できる検査方法はなく、腹水貯留、閉塞性黄疸、腸閉塞、水腎症などで診断されることが殆どである。このような状況では、患者の臓器機能はすでに低下しており、十分な化学療法が施行出来ないまま死亡することが殆どである。われわれは、2004年から、腹膜再発の高危険患者に対して、術後に腹腔鏡検査を施行している。癒着防止フィルムの登場と腹腔鏡手術手技の向上により、胃癌術後でも腹腔鏡検査は安全に施行できることが確認された。また、早期に腹膜再発の診断が出来た症例は、良好な状態で化学療法が開始でき、その予後も良好であった。今後、その診断時期をさらに早くし、腹膜再発患者を治癒に導きたい。(井上健太郎)

## 5. 早期胃癌に対するICGを用いたセンチネルナビゲーションサージェリーの可能性

T1胃癌症例のリンパ節転移頻度は約10%程度であり、リンパ節2群郭清は過大手術となり得る。リンパ節は腫瘍からリンパ管内を通り転移するものであるから、腫瘍から癌細胞が通過したリンパ管を追うことが出来れば、最初に転移するリンパ節の同定が可能となり、リンパ節への転移の可能性が確認することが出来るというセンチネル理論が早期胃癌に応用可能かを検討する。我々は2001年からの症例を蓄積し、センチネル理論に下づく早期胃癌手術への応用がほぼ可能であることを確認しつつある。今後も症例を蓄積しつつ縮小手術への可能性を広げてゆきたいと考えている。(中井宏治)

## 6. 有茎薄筋移植による肛門機能の改善に関する研究

下部直腸癌患者に対して腹会陰式直腸切断術が行われると腹部に永久人工肛門を有することになり、社会的、精神的制約を受ける。われわれは、有茎薄筋移植の技術を用いて会陰部に新しい肛門を造設してきた。平成21年5月1日までの時点で19例の手術を行い、そのうち11例において一時的人工肛門を閉鎖した。便の禁制は保たれるが、排泄の時間は遅延する傾向がみられた。また同様の手技を用いて肛門

部の外傷などにより重症の便失禁をきたした18症例に対しても施行してきた。今後は理論的にも臨床的にもより優れた機能を有する術式を確立したい。(吉岡和彦)

## 7. 直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術の臨床的検討

直腸脱は多くの場合、高齢の女性に発症し、身体的にも精神的にも患者に大きな負担となりQOLが著しく低下することが知られている。外科的治療のアプローチとしては経腹的手術と経会陰的手術が行われてきた。一般的に経腹的手術は経会陰的手術よりも再発率は低いとされるが、開腹術ではその侵襲が大きくなる。したがって、腹腔鏡下で手術を行えば理論的には低侵襲で、経腹的手術と同程度の再発の少ない手術が可能となると考えられる。われわれは、2005年10月より腹腔鏡下直腸固定術を開始し、平成19年11月からは先進医療の認可を得て、この手術を行っている。平成21年5月1日までの時点で28例に対してこの手術を行い、2例に再発を認めた。今後直腸固定の方法の改善や再発例に対する再手術の工夫などを検討したい。(吉岡和彦)

## 肝胆膵外科

### 1. 肝細胞癌に対する肝切除後肝不全症例の予測と対策

当施設における2000年10月以降肝癌肝切除症例191例を対象とした。術後肝不全の評価は、T-Bil 5 mg/dL以上5日間以上、難治性腹水胸水、食道胃静脈瘤破裂症例とした。肝不全は16例にみられ、内3例は死亡した。肝不全群16例と非肝不全群175例での2群間でのカイ2乗検定において有意差のついた19因子の内、ロジスティック回帰解析を用いた単変量・多変量解析行くと、血清ヒアルロン酸(HA)/アジアロシンチGSA-Rmax = 500 mg 疥 in/dlが単独の独立予後因子となった。肝実質細胞である肝細胞の機能評価としてのGSA-Rmaxと肝非実質細胞である類洞内皮細胞の機能評価としての血清ヒアルロン酸値を組み合わせた指標は、他の単独の指標と比べて、術後肝不全に対して最も有用な予後因子となった。術前HA/GSA-Rmax = 500 mg 疥 in/dlであった場合、肝切除術は避け、内科的治療を優先すべきである。肝機能を総合的に評価するHA/GSA-Rmaxを術前肝予備能評価の新たな指標として提唱する。(海堀昌樹)

### 2. 当科における高齢者肝細胞癌肝切除症例の検討

当科における高齢者(70歳以上)肝癌肝切除症例の術後短期および長期成績を非高齢者と比較検討した。手術時70歳未満であった333例(非高齢者群)と70歳以上155例(高齢者群)を比較検討したところ、高齢者の肝癌肝切除において術前併存疾患が多いにも関わらず、せん妄以外の術後合併症には差を認めなかった。また術後再発率、生存率も年齢による差を認めなかった。高齢者の術前飲酒は肝癌術後の再発、生存に対する予後因子となるため、遅くとも肝癌診断時に可及的速やかな禁酒が必須であることが判明した。(海堀昌樹)

### 3. 進行肝癌術後早期再発死亡の予後因子と治療戦略

当教室の進行肝癌における術後早期再発死亡に対する予後因子を明らかにするため、腫瘍径5 cm以上の肝癌115例を対象として、術後2年以内再発死亡群(n=35)、術後2年以上生存群(n=80)に分類した。多変量解析を用いた早期再発死亡に関与する予後因子は術後1ヶ月血清Alb<3.5 g/dl、術後3ヶ月血清コリンエステラーゼ<104 U/Lであった。進行肝癌早期再発死亡には術後早期の血清Alb、コリンエステラーゼ値が有意な予後因子となった。進行肝癌術直後には蛋白合成を中心とした肝予備能の著しい低下を抑制することが重要であり、術前よりのBCAA製剤等の投与や、術直後からの十分な栄養基質投与を積極的に行うべきである。(海堀昌樹)

### 4. 小肝細胞癌に対する外科的治療方針

教室における腫瘍径サイズ2 cm以下の単発肝細胞癌における肝切除後2年以内の早期再発に対する予

後因子を同定し、小肝細胞癌に対する外科的治療方針を検討した。2004年までに377例の肝細胞癌に対して腫瘍径サイズ2 cm以下の単発肝癌89例を対象とした(術後2年以内早期再発群(n=26)、術後2年無再発群(n=63))。腫瘍径サイズ2 cm以下の単発肝細胞癌において術前アジアロシンチGSA-Rmax =0.4 mg/minであった場合、肝切除術は避け、経皮的局所療法もしくは肝移植術を第一に考慮すべきである。術前GSA-Rmax >0.4 mg/minで肝切除術を行った後、脈管侵襲陽性であった場合、厳密なサーベイランスとともに予防的な局所もしくは全身補助化学療法が必要であると思われた。(海堀昌樹)

#### 5. 当科における肝細胞癌肝切除症例における輸血療法の検討

2005年までの410例の肝癌肝切除患者における周術期の輸血使用状況をまとめた。前期、中期、後期での年間平均輸血実施率はそれぞれ88%、82%、41%であり、手術輸血実施は最近になり著明に減少してきた。赤血球輸血は無輸血に比べ術後累積生存率は有意に不良であり、可能な限り控えるべきである。FFP単独投与は術前肝機能が不良である症例に行われており、MAP投与症例と比較し手術時間、出血量が少量であった。また術後合併症は少なく、長期予後は無輸血症例とほぼ同等であり、術前肝機能不良例には周術期のFFPは有用であると考えられた。(海堀昌樹)

#### 6. GSAシンチによる生体肝移植ドナー残肝の肝再生の検討

ドナー肝切除後の残肝再生における脂肪肝の影響は重要であり、また不明な部分も多い。今回肝移植ドナーを軽度脂肪肝の有無により分類し、切除後の肝再生の検討をアジアロシンチを用いて行った。両群とも術前患者背景(BMI、肝機能検査値など)、手術時因子には差を認めなかった。術後1週間以内の最高AST、ALT、ビリルビン値、プロトロンビン時間は脂肪肝群が高値の傾向にあったが有意差は認めなかった。手術時生検標本よりの病理組織学的検討では、肝細胞空胞変性は有意に脂肪肝群が多かった。移植後12ヶ月までの肝再生容積は両群において差は認めなかったが、LHL/HH、Rmaxは術後6、12か月に脂肪肝群が有意に低下していた。以上より、軽度脂肪肝を伴ったドナー残肝再生は術後1年では約80%までしか機能的な回復を示さず、1年以上の長期的なフォローアップが必要であると考えられた。(海堀昌樹)

#### 7. 胆嚢癌を否定できない症例に対する腹腔鏡下手術の意義

腹腔鏡下胆嚢摘出術(LC)の適応拡大に伴う症例の増加により胆嚢癌が発見される頻度も相対的な増加を来すと考えられる。われわれは胆嚢癌を否定できない症例に対するLCの意義を検討した。LC施行時には胆嚢損傷による胆汁流失に留意し、摘出した胆嚢はビニールバックに入れ回収した。摘出胆嚢に病変を認めた場合は術中迅速病理検査を行った。LC時および術後に診断された胆嚢癌は42例(2.2%)であった。深達度はpT1a:21例、pT1b:2例、pT2:18例、pT3:1例であった。31例は術中迅速病理検査で、11例は術後の固定標本で確定診断を得た。mとmp癌の20例はLCのみを施行したが、原病死はなかった。ss癌では追加切除を施行した14例中3例(21%)が、追加切除を施行しなかった4例中1例(25%)が死亡した。追加切除を施行したse癌1例は10ヶ月に再発死亡した。Port siteの再発や腹膜播種は認めなかった。LCにより診断された胆嚢癌の予後を規定する主な要因は癌の深達度であった。胆嚢癌を否定できない症例には、適切な追加切除を念頭に置いたLCも有用であると考えられた。(権 雅憲)

#### 8. 腹腔鏡下胆嚢摘出術における抗生剤投与の必要性についての研究

現在、腹腔鏡下胆嚢摘出術では標準治療として予防的抗生剤が投与される。しかし腹腔鏡手術は創が小さく侵襲も少ないため術中感染の可能性が低く、現在までの数百例の経験において術後腹腔内感染や創感染はほとんど発生していない。また抗生剤のルーチン投与は抗生剤耐性菌の出現を助長し、さらに頻度は少ないが薬剤性肝炎や無顆粒球症、アレルギー性皮膚炎、アナフィラキシーショックなどの薬剤による副作用の原因にもなり、不要な投与は極力控えなければならない。そこで胆石症患者の手術にお

いて抗生剤投与が必要であるかどうかを調べるために無作為化臨床試験を開始した。腹腔鏡下胆嚢摘出術において手術患者を抗生剤投与群、非投与群に無作為に割付け両群の術後経過を比較する。症例数は各群250例、合計500例を予定している。抗生剤投与群と非投与群で結果に差がなければ腹腔鏡下胆嚢摘出術において抗生剤投与の必要性が無く、これにより抗生剤投与にかかる医療費の削減が見込まれる。(松井陽一)

### 9. 腹腔鏡手術に使用する、磁石を用いた新しいデバイスの開発とその実用化

腹腔鏡手術は小さな孔のみで臓器を摘出できるため従来の開腹手術と比べ多くの利点を有している。しかし体壁に孔をあけずに道具を操作することができればさらに優れた手術となる。我々は磁石を用いることで体壁に孔をあけずに鉗子を操作するデバイスを考案し現在特許申請中である。腹腔鏡下胆嚢摘出術は腹壁に4カ所の孔をあけて行うが、この磁石を利用したデバイスが実用化できればそれが2カ所まで減らせる可能性がある。現在の道具では腹腔鏡下胆嚢摘出術はスコープ、胆嚢を持ち上げる鉗子、胆嚢を把持し操作する術者の左手の鉗子と切除操作をする術者の右手の鉗子の合計4本の挿入孔を腹壁に開ける必要がある。胆嚢を持ち上げる鉗子を腹壁外から磁石で固定すれば孔を一つ減らすことができ、また操作の左手の鉗子も同様にできれば合計2本の孔を減らすことができる。また他施設が特許申請中の体腔内に挿入して磁石で操作するカメラと組み合わせれば最終的に一つの孔で胆嚢を切除できる可能性がある。現在この新しいデバイスを試作し基礎試験を行っており今後臨床応用に向けた研究を行う予定である。(松井陽一)

### 10. 切除可能ならびに局所進行膵癌に対する術前放射線化学療法の治療効果

治癒の可能性のある膵癌切除例ですらその5年生存率は20%に満たないような膵癌に対して切除単独治療でなく、術前に放射線化学療法を施行して切除を行うという集学的治療を行ってきた。その結果、術前治療中に約20%の患者が遠隔転移などで切除不能となること、切除例では根治切除率やリンパ節転移率が向上し、局所再発率が明らかに低率となり、根治切除例での5年累積生存率は50%近くに到達することを報告した。現在、膵癌に対するTS1を使用した術前放射線化学療法の第II相試験を行っている。(里井壮平)

### 11. 膵頭十二指腸切除術の吻合法と周術期管理の変更による合併症低減策

膵頭十二指腸切除術(PD, PpPD含む)後膵液漏の発生や程度を低減するために以下の取り組みを行った。1) 吻合法を嵌入法から柿田法変法へ、2) 吻合部に大網ラッピング、3) 閉鎖吸引式ドレーンの短期留置、4) 膵・胆管外瘻術の制限。これにより、膵液漏の程度(Grade B/C 6%)、胃内容排泄遅延(6%)、全合併症およびSSI発生率が低率となった。種々の周術期の介入の内、特に膵腸吻合法の変更が膵液漏(Grade B/C)の低減に関与し、術後合併症やSSIの低減に有用であった(論文3, 4)。現在、膵頭十二指腸切除術における膵管no stent法の臨床的影響や膵頭十二指腸切除術後膵液漏予防のための吸収性ポリグリコール酸フェルトと生体組織接着剤使用に関する臨床第II相試験を行っている。(里井壮平)

### 12. 膵頭十二指腸切除術におけるOSATSを応用した教育プログラムの導入

肝胆膵外科の中でも膵頭十二指腸切除術は高難度手術のひとつとされており、若手外科医の到達目標の一つとなっている。しかし、客観的基準なく手術指導を行い、また指導を受けることは技術の継承という面から不確実と考えられるため、手術の全過程を映像と文書で明らかにし、手術過程を分割して各過程における評価基準を設定し、数値化して自己評価と指導医による客観評価を比較検討し、教育システムの確立を図っている。(里井壮平)

### 13. 膵頭十二指腸切除術に対する自己血輸血の導入

2002年9月より悪性腫瘍に対する（全胃温存）膵頭十二指腸切除術（以下、PD）に際して一定の条件化で自己血輸血を導入したのでその影響について検討した。2000年1月～2007年4月までのPD連続135例の内、自己血導入前の38例を導入前群、その後の97例を導入後群とした。術中同種輸血率は61%から35%へと有意に減少した。多重回帰分析を行った結果、同種輸血を要する危険因子は、術前Hb低値（Hb<11 g/dl）と術中出血量過多（>1270 ml）と同定された。（里井壮平）

### 14. MDCTによる膵癌の術前進展度診断

2002年9月以降、MDCTにて軸位・矢状断・冠状断画像を作成し、さらにシネ表示を用いて詳細に観察することで、膵頭部癌の肝転移や局所進展度を評価してきた。血管造影下CTとの比較においてMDCTは血管浸潤や肝転移診断能に優れていることを報告してきた（Pancreas 2007）。その後、MDCTによる術前診断が外科切除率や予後に影響を与えうるかどうかを検討した。MDCTによる術前診断により開腹手術施行率は低下するが、開腹非切除が少なく、根治切除率が高くなり、結果的に生存率の向上に寄与している可能性がある（論文6）。さらに、正確な術前進展度診断を期するために、staging laparoscopyを導入することによる影響を検討している。（里井壮平）

### 15. 機能性食品 AHCC による免疫機能増強効果に関する健常者を用いた A double-blind, placebo-controlled trial.

機能性食品であるAHCCはin vivo, invitroに癌免疫増強効果があることが知られている。以前より肝細胞癌切除後症例においてAHCCの服用が、患者の予後や肝機能の改善に寄与している可能性があることを報告してきた（J Hepatol. 2002 Jul;37(1):78-86.）。今回、健常者を用いてAHCCの免疫増強効果を確認するdouble-blind, placebo-controlled trialを行った。結果的に、AHCC投与群の末梢血樹状細胞数が有意に高値をとることが判明した。（柳本泰明）

### 16. 切除不能膵癌に対するペプチドワクチンを使用した化学免疫療法のPhase II study

テラーメイド癌ペプチドワクチン療法は、強力な特異免疫反応を誘導することが証明されている。我々は2004年より進行再発膵癌に対し標準化学療法（塩酸ゲムシタピン）と癌ペプチドワクチン併用療法を多施設共同研究として世界に先駆け実施してきた。第I相臨床試験において13例中9例に前治療歴を有する進行再発膵癌に対し本併用療法は安全に施行され、奏効率15%、病勢コントロール率69%と良好な結果であり、70%の患者で腫瘍マーカーの低下を認めた。さらに特異免疫反応を高率に誘導できることを示し、免疫化学療法におけるペプチドワクチンの至適容量を3mgに決定した。次にfirst line治療として第II相臨床試験を実施し現在登録を終了し最終解析中である。第I/II相症例の中でも特に転移性膵癌症例ではMST 9.5ヶ月で、1年生存率33%と良好な成績が得られ、奏効率25%で病勢コントロール率80%であり、69%の患者で腫瘍マーカーの低下を認めた。（柳本泰明）

### 17. 切除不能胆道癌および多発転移性肝癌における腹腔鏡下マイクロターゼ凝固とサイトカイン局所注入による癌ワクチン療法における第I相臨床試験

切除不能胆嚢癌に対してマイクロターゼ凝固療法により癌抗原を誘発させ、同時にサイトカイン（IL-2：35万単位とOK432：10 KE）を局所注入し、術後7日目からIL-2維持療法（35万単位/週、S.C., 12回）による腫瘍免疫の賦活化を期待する免疫治療を前治療のない切除不能胆嚢癌13例（StageIVa:IVb 5：8）に対して行った。末梢血中の免疫担当細胞を術前後にMHC ClassII 発現細胞、CD4/8 T細胞、Reg T細胞の評価を行った。術後重篤な合併症は認められず、IL-2維持療法中の重篤な毒性は認めなかった。MSTは6.1（2.6-14.7）ヶ月であり、無増悪生存期間は3.1（1.5-12）ヶ月であった。無増悪生存期間6ヶ月以上で1年以上生存した患者（n=4）において他の9例に比べCD11c+DC数とMHC ClassII陽性細胞のCD86発現

が高い傾向にあった。本治療は低侵襲であり安全に行える治療であり、化学療法などの後治療との組み合わせにより長期の生存が期待できると考えられた。(豊川秀吉)

## 18. ファイブロネクチンを用いた多剤耐性緑膿菌制御の検討

緑膿菌は免疫不全患者や術後患者などにおいては、肺炎や敗血症などの急性感染症を引き起こしやすく、一旦発症すると重症化しやすい。さらに、緑膿菌は抗菌薬に対して耐性を獲得しやすい多剤耐性株に対する有用な抗菌薬は存在しない。ファイブロネクチン(Fn)は、食細胞による緑膿菌の貪食において重要なオプソニンであり、食細胞は補体C3およびFnレセプターを介して緑膿菌を貪食し、殺菌するとされている。30%熱傷マウスに多剤耐性緑膿菌(U-31)浮遊液を接種した。熱傷作成前にFnを投与し、Control群には同量のヒト血清アルブミンを投与した。Control群の生存率は10%であったが、Fn投与群では80%と有意に良好であった。また、通常マウスの肝臓内の多剤耐性緑膿菌数は、Fn投与群ではControl群よりも有意に減少していたが、血中の細菌数には差がなかった。熱傷マウスでは、Fn投与により血中及び肝臓内の多剤耐性緑膿菌数が有意に減少した。さらに、血漿Fn投与は多剤耐性緑膿菌に対する食細胞貪食能を用量依存性に促進したが、アルブミン投与では食細胞貪食促進効果は認められなかった。マウス熱傷モデルにおける血漿Fn投与は、耐性の出現を伴わない多剤耐性緑膿菌感染の治療法として有用であると考えられた。(権 雅憲)

## 19. 糖尿病ラット皮膚欠損モデルにおけるハナビラタケの創傷治癒効果の検討

ハナビラタケ(SC)は高濃度のβ-グルカンを含む食用キノコの一つである。われわれは糖尿病ラット皮膚欠損モデルにおけるSCの創傷治癒促進作用を検討した。SD系雄性ラットにストレプトゾトシンを静脈投与し、糖尿病ラットを作製し、背部正中に円形の皮膚全層欠損創を作製した。欠損創作成前2週間と作成後2週間にSCを経口投与し、皮膚欠損修復促進作用を検討した。2) ヒト正常皮膚線維芽細胞(NHDF)の培養液にSCより抽出したβ-グルカンを添加し、培養液中のProcollagen type IC-peptide(PIP)量を測定した。糖尿病ラット皮膚欠損モデルにおいては、SC投与群が非投与群よりも皮膚欠損部の修復率が高く、有意差を認めた。組織学的検討では、SC投与群は創部遊走マクロファージ、線維芽細胞、膠原線維、扁平上皮再生の量的スコアが非投与群よりも有意に高かった。INHDFを用いた培養実験系において、SC由来のβ-グルカンは濃度依存性にPIP産生量を増加させたが、NHDF細胞増殖率との相関は認めなかった。(権 雅憲)

## 小児外科

### 極・超低出生体重児における臍部人工肛門造設術

極・超低出生体重児では腹部の面積が非常に小さいため、左右の下腹部に人工肛門を造設すると、装具が体表に密着しにくく、便の漏れ、皮膚びらんなどをきたしストーマの管理に難渋することが多かった。臍は腹部の中央にあることから、ストーマケアの簡便性とストーマ閉鎖後の創部の整容性の向上を目的として、当科では臍部に人工肛門を造設することを考案した。本法は、1) 緊急手術で造設することが多いが、手術前にマーキングの必要がなく位置決定が容易である。2) 腹部の中央にあるため、体格の小さな超低出生体重児でもストーマ装具の固定、管理が容易である。3) 人工肛門閉鎖後の創痕が臍部のため目立たない。4) 横切開せず臍からのアプローチのみで手術可能な症例では臍部にだけ手術創痕が残るのでさらに整容性にすぐれている。しかし腸管自体の要素のために壊死、側孔形成、さらに新生児特有の臍輪の生理的閉鎖による人工肛門陥没に注意が必要である。(濱田吉則)

## 乳腺外科

### 1. 乳癌術前化学療法

乳がん治療に関する研究と治療はここ数年にめざましい進歩があり、とくに術前化学療法をおこなう

ことにより、PcR率（病理学的腫瘍消失率）25%であり、つまり手術時点で4人に1人は腫瘍が存在しないことになる。さらにPcR率を上げるべく、術前で得られた生検材料を用いて免疫染色（HER2, Topo II, CYP3A4, Ki67）をおこない、より一層個別化治療するように検討中である。（山本大悟）

## 2. エコーガイドおよびステレオガイド下マンモトーム生検

近年の乳がん検診（マンモグラフィ検診）の普及にともない、早期癌が約60%と増加しているが、このマンモグラフィで異常があった場合、異常（非触知乳癌）に対してステレオガイド下マンモトーム生検を行うことにより早期発見が可能となった。さらにエコーにおいても異常があったケースにおいて従来型の針生検よりエコーガイドマンモトーム生検をおこなうことでより診断率の向上になっている。これらの結果は2008年日本癌治療学会および乳癌学会で報告している。（吉田秀行）

## 3. 乳管内視鏡検査

外径0.7 mmと極細のファイバーをもちいて分泌物の責任乳管を検査することによりさらに早期発見が可能となった。とくに血性分泌があるばあい31人中約8人（25.8%）に早期乳がんをみとめ、内視鏡検査は必須となっている。（山本大悟）

## 4. 術後リンパ浮腫

当大学の年間乳がん手術症例は約160-170例であり、その5年生存率は約90%ときわめて良好である。しかしながらその中で問題となるのが術後リンパ浮腫であり、再発していなくとも、患側の使いすぎや感染により誘起され、上腕部のリンパ浮腫が多く見られる。対策としては早期ケアやサポータが非常に大事である。当大学も乳癌学会リンパ浮腫斑会議に参加し、日本乳癌リンパ浮腫ガイドライン策定に一役を担っている。（山本大悟）

## 5. 再発転移治療

乳がん治療において約10-15%転移・再発があり、平均余命2-3年とされる。この際問題となるのが完治しないがゆえにQOLを重視した治療が重んじられる。局所進行・転移例に対する全身治療が大切であり、化学療法、ホルモン療法、放射線治療を適切に組み合わせて行うことが肝要である。当大学は多施設研究としていくつか試験を報告している。そのなかで再発乳がん治療においてtrastumabとcapecitabineの併用の検討を行い、有用性とQOLの向上について報告し、これは2009年NCCNのガイドラインにも引用されている。また単剤の効果としてTS-1の再発乳癌の於ける効果を検討し2009ASCOで報告している。他の併用療法としてはPaclitaxelとcapecitabineの併用の検討を行い、有用性について2009 Sanantonio breast cancer symposiumで報告予定である。（山本大悟）

## 〈研究業績〉

原著

1. Kato J, Hisha H, Wang XL, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Song CY, Maki M, Hosaka N, Adachi Y, Inaba M and Ikehara S (2008) Contribution of neural cell adhesion molecule (NCAM) to hemopoietic system in monkeys. *Ann Hematol* 87(10): 797-807
2. Kaibori M, Saito T, Matsui K, Yamaoka M and Kamiyama Y (2008) Impact of fresh frozen plasma on hepatectomy for hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res* 28(3B): 1749-1756

noma. *Anticancer Res* 28(3B): 1749-1756

3. Mukaide H, Adachi Y, Taketani S, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Shi M, Yanai S, Yoshioka K, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) FKBP51 expressed by both normal epithelial cells and adenocarcinoma of colon suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma. *Cancer Invest* 26(4): 385-390
4. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Iwasaki M, Amou Y, Shigematsu A, Koike Y, Minamino K, Mukaide H, Shi M, Yanai S, Matsumura M and

- Ikehara S (2008) High mortality rate of (NZW x BXSB)F1 mice induced by administration of lipopolysaccharide attributes to high production of tumour necrosis factor- $\alpha$  by increased numbers of dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 154(2): 285–293
5. Miyake T, Inaba M, Fukui J, Ueda Y, Hosaka N, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) Prevention of graft-versus-host disease by intrabone marrow injection of donor T cells: involvement of bone marrow stromal cells. *Clin Exp Immunol* 152(1): 153–162
  6. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Matsui K, Hirohara J, Tanaka K and Kamiyama Y (2008) Liver Regeneration in Donors Evaluated by Tc-99m-GSA Scintigraphy after Living Donor Liver Transplantation. *Dig Dis Sci* 53(3): 850–855
  7. Shigematsu A, Adachi Y, Matsubara J, Mukaide H, Koike-Kiryama N, Minamino K, Shi M, Yanai S, Imamura M, Taketani S and Ikehara S (2008) Analyses of expression of cytoglobin by immunohistochemical studies in human tissues. *Hemoglobin* 32(3): 287–296
  8. Matsui K, Nishizawa M, Ozaki T, Kimura T, Hashimoto I, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama Y, Ito S and Okumura T (2008) Natural antisense transcript stabilizes inducible nitric oxide synthase messenger RNA in rat hepatocytes. *Hepatology* 47(2): 686–697
  9. Song C, Hisha H, Wang X, Li Q, Li M, Cui W, Guo K, Okazaki S, Mizokami T, Kato J, Cui Y, Feng W, Zhang Y, Shi M, Inaba M, Fan H and Ikehara S. (2008) Facilitation of hematopoietic recovery by bone grafts with intra-bone marrow transplantation. *Immunobiology* 213(6): 455–468
  10. Suzuki Y, Adachi Y, Zhang Y, Minamino K, Iwasaki M, Mukaide H, Shi M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koike-Kiryama N, Shigematsu A, Yanai S and Ikehara S. (2008) Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice. *Immunobiology* 213(5): 427–435
  11. Tanaka H, Uchida Y, Kaibori M, Hijikawa T, Ishizaki M, Yamada M, Matsui K, Ozaki T, Tokuhara K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Na(+)/H(+) exchanger inhibitor, FR183998, has protective effect in lethal acute liver failure and prevents iNOS induction in rats. *J Hepatol* 48(2): 289–299
  12. Kwon AH, Imamura A, Kitade H and Kamiyama Y (2008) Unsuspected gallbladder cancer diagnosed during or after laparoscopic cholecystectomy. *J Surg Oncol* 97(3): 241–245
  13. Uchida Y, Kaibori M, Hijikawa T, Ishizaki M, Ozaki T, Tanaka H, Matsui K, Tokuhara K, Kwon AH, Kamiyama Y and Okumura T (2008) Protective Effect of Neutrophil Elastase Inhibitor (FR136706) in Lethal Acute Liver Failure Induced by D-Galactosamine and Lipopolysaccharide in Rats. *J Surg Res* 145(1): 57–65
  14. Yoshida H, Kwon AH, Kaibori M, Tsuji K, Habara K, Yamada M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T. (2008) Edaravone prevents iNOS expression by inhibiting its promoter transactivation and mRNA stability in cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(2): 105–112
  15. Tokuhara K, Hamada Y, Tanaka H, Yamada M, Ozaki T, Matsui, K, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Rebamipide, anti-gastric ulcer drug, up-regulates the induction of iNOS in proinflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(1): 28–36
  16. Habara K, Hamada Y, Yamada M, Tokuhara K, Tanaka H, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Pitavastatin up-regulates the induction of iNOS through enhanced stabilization of its mRNA in pro-inflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. *Nitric Oxide* 18(1): 19–27
  17. Terakawa N, Matsui Y, Sato S, Yanagimoto H, Takahashi K, Yamamoto T, Yamao J, Takai S, Kwon AH and Kamiyama Y (2008) Immunological effect of active hexose correlated compound

- (AHCC) in healthy volunteers: a double-blind, placebo-controlled trial. *Nutr Cancer* 60(5): 643–651
18. Narahara H, Fujitani K, Takiuchi H, Sugimoto N, Inoue K, Uedo N, Tsukuma H, Tsujinaka T, Furukawa H and Taguchi T (2008) Phase II study of a combination of S-1 and paclitaxel in patients with unresectable or metastatic gastric cancer. *Oncology* 74(1-2): 37–41
  19. Satoi S, Toyokawa H, Yanagimoto H, Yamamoto T, Yamao J, Kim S, Matsui Y, Takai S, Mergental H and Kamiyama Y (2008) A new guideline to reduce postoperative morbidity after pancreaticoduodenectomy. *Pancreas* 37(2): 128–133
  20. Takai S, Satoi S, Yanagimoto H, Toyokawa H, Takahashi K, Terakawa N, Araki H, Matsui Y, Sohgewa M and Kamiyama Y (2008) Neoadjuvant chemoradiation in patients with potentially resectable pancreatic cancer. *Pancreas* 36(1): e26–e32
  21. Yoshida H, Kwon AH, Habara K, Yamada M, Kaibori M, Kamiyama Y, Nishizawa M, Ito S and Okumura T (2008) Edaravone inhibits the induction of iNOS gene expression at transcriptional and posttranscriptional steps in murine macrophages. *Shock* 30(6): 734–739
  22. Ishizaki M, Kaibori M, Uchida Y, Hijikawa T, Tanaka H, Ozaki T, Tokuhara K, Matsui K, Kwon AH, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Protective effect of FR183998, a Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> exchanger inhibitor, and its inhibition of OF iNOS induction in hepatic ischemia-reperfusion injury in rats. *Shock* 30(3): 311–317
  23. Miyasou T, Kwon AH, Tsuji K, Qiu Z, Okumura T and Kamiyama Y (2008) Edaravone prevents Fas-induced fulminant hepatic failure in mice by regulating mitochondrial Bcl-xL and Bax. *Shock* 30(2): 212–216
  24. Hijikawa T, Kaibori M, Uchida Y, Yamada M, Matsui K, Ozaki T, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Insulin-like growth factor 1 prevents liver injury through the inhibition of TNF- $\alpha$  and iNOS induction in D-galactosamine and LPS-treated rats. *Shock* 29(6): 740–747
  25. Shi M, Adachi Y, Shigematsu A, Koike-Kiriyama N, Feng W, Yanai S, Yunze C, Lian ZX, Li J and Ikehara S (2008) Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells Suspended in Collagen Gel Retains Injected Cells in Bone Marrow, Resulting in Rapid Hemopoietic Recovery in Mice. *Stem Cells Dev* 26(9): 2211–2216
  26. Okazaki S, Hisha H, Mizokami T, Takaki T, Wang X, Song C, Li Q, Kato J, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) Successful acceptance of adult liver allografts by intra-bone marrow-bone marrow transplantation. *Stem Cells Dev* 17(4): 629–639
  27. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Matsui K, Saito T and Kamiyama Y. (2008) Usefulness of Tc-99m GSA liver scintigraphy for the evaluation of liver regeneration in donors after living-donor liver transplantation. *Transplant Proc* 40(8): 2457–2459
  28. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Ishizaki M, Matsui K, Saito T, Kwon AH and Kamiyama Y (2008) HA/GSA-Rmax Ratio as a Predictor of Postoperative Liver Failure. *World J Surg* 32(11): 2410–2418
  29. Toyokawa H, Nakao A, Robert J. Bailey, Michael A. Nalesnik, Kaizu T, Jerome L. Lemoine, Ikeda A, Tomiyama K, Gleen D. Papworth, Leaf Huang, Anthony J. Demetris, Thomas E. Starzl and Murase N (2008) Relative contribution of direct and indirect allorecognition in developing tolerance after liver transplantation. *Liver Transpl* 14(3): 346–357
  30. Tomiyama K, Murase N, Donna Beer Stolz, Toyokawa H, Daniel R. O'Donnell, Darren M. Smith, Jason R. Dudas, J. Peter Rubin and Kacey G. Marra (2008) Characterization of transplanted GFP+bone marrow cells into adipose Tissue. *Stem Cells* 26(2): 330–338
  31. Kaizu T, Ikeda A, Nakao A, Tsung A, Toyokawa H, Ueki S, Geller DA and Murase N (2008) Protection of transplant-induced hepatic ischemia/reperfusion injury with carbon monoxide via mek/erk1/2 pathway downregulation. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol* 294(1): G236–G244

32. Yamamoto D, Yamamoto C and Tanaka K (2008) Novel & effective management of capecitabine induced Hand Foot Syndrome. *Journal of Clinical Oncology* 26(15S) (May 20 Supplement), 2008: 20615
33. Yamamoto D, Iwase S, Kitamura K, Odagiri H, Yamamoto C and Nagumo Y (2008) A phase II study of trastuzumab and capecitabine for patients with HER2-overexpressing metastatic breast cancer: Japan Breast Cancer Research Network (JBCRN) 00 Trial. *Cancer Chemother Pharmacol* 61(3): 509-514
34. Kaibori M, Matsui K, Saito T and Kamiyama Y (2008) Risk factors for early death due to recurrence after resection of large hepatocellular carcinomas. *Hepatogastroenterology* 55(88): 2151-2156
35. Takaya J, Kitamura N, Tsuji K, Watanabe K, Kinoshita Y, Hattori Y, Teraguchi M, Taniuchi S, Takada K, Hamada Y and Kaneko K (2008) Pentalogy of cantrell with a double-outlet right ventricle: Follow-up for 3-and-a half years in prenatally diagnosed case. *Eur J Pediatr* 167(1): 103-105
36. Pirenne J, Kawai M, Kitade H, Koshiha T, Takahashi K, Aerts R, Monbaliu D, Coosemans W and Waer M (2008) Intestinal transplantation: from the laboratory to the clinics. *Acta Chir Belg*. 108(1): 52-57
37. Satoi S, Matsui Y, Kitade H, Yanagimoto H, Toyokawa H, Yamamoto H, Hirooka S, Kwon AH and Kamiyama Y (2008) Long-term outcome of hepatocellular carcinoma patients who underwent liver resection using microwave tissue coagulation. *HPB (Oxford)* 10(4): 289-295
38. 武田 力, 山本 滋, 松井陽一, 堀 文子, 須賀哲也, 中澤三郎(2008) 免疫賦活性分Lentinan含有食品の切除不能および再発乳癌に対する有効性の検討. *Biotherapy* 22(3): 177-184
39. 田中完児(2008)【乳がん検診と画像診断】キーパーソンからの提案 乳がん検診の受診率向上のためにクリアすべき課題とは 一層の啓発活動と, 検診受診料の無料化, 受診義務化など欧米並みの施策導入の決断を迫られている. *DIGITAL MED* 7(4): 10-11
40. 中万里子, 大枝由紀, 高橋幸子, 吉田 良, 高田秀穂, 宮崎啓子(2008) 高齢者の装具選択退院後の経過を振り返って. *Wound & Continence* 15(1): 27-29
41. 柳本泰明(2008) 膵癌の免疫機能評価. *関西医大誌* 59(2-4): 178-184
42. 岩本慈能, 吉岡和彦, 岡崎 智, 向出裕美, 中根恭司, 権 雅憲(2008) 【外科医が主体のスタンダード大腸癌化学療法】mFOLFOX6 毒性軽減のための工夫. *癌の臨* 54(9): 729-733
43. 田中完児(2008) HYGIENISTのセルフケア受けよう乳がん検診, 守ろう自分の体第3回(最終回) 乳がんをみつけるには?—検診を受けよう—. *歯衛士* 32(9): 78-81
44. 佐藤正人, 園田真理, 棚野晃秀, 高田晃平, 浜田吉則(2008) 小児内視鏡外科における術中・術後合併症とその対策 術中血管損傷の予防と対策. *小児外科* 40(4): 395-399
45. 中根恭司, 道浦 拓, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾(2008) 【胃癌のすべて】胃癌の治療 胃癌に対する手術 胃全摘後の空腸パウチ間置再建術. *消外* 31(5): 760-765
46. 中根恭司, 井上健太郎, 道浦 拓, 桜本和人, 岩井愛子, 山道啓吾(2008) 手術の王道I—化管の手術 胃・十二指腸 幽門側胃切除術. *消外* 31(12): 1763-1772
47. 井上健太郎, 道浦 拓, 金 成泰, 山道啓吾, 中根恭司(2008) 【胃癌 基礎・臨床研究のアップデート】再発・転移 腹膜播種 早期発見法 Second look laparoscopy. *日臨* 66(増刊5 胃癌): 586-590
48. 山中英治(2008) 【できること!できないこと? やりたいこと!! NSTにおける管理栄養士の活躍】まとめとして NSTのなかで 管理栄養士がやりたいこと! *Nutrition Care* 1(2): 178-182

#### 総 説

1. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 宮崎浩彰, 北出浩章, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 権 雅憲(2008) 【癌治療クリニカルパス Update】膵臓癌手術. *外科治療* 99(1): 40-47

2. 吉岡和彦 (2008) 便失禁への対応策—外科医から見た対策—. *日ストーマ・排泄会誌* 24(2): 41–44
3. 中根恭司, 道浦 拓, 井上健太郎 (2008) 【胃癌 基礎・臨床研究のアップデート】治療 現状・動向・評価 各論:胃癌治療法 現状・動向・評価 外科的治療法 最近の知見, 評価, 動向 縮小手術. *日臨* 66(増刊5 胃癌): 355–359

## 症例報告

1. Takaya J, Kitamura N, Tsuji K, Watanabe K, Kinoshita Y, Hattori Y, Teraguchi M, Taniuchi S, Takada K, Hamada Y and Kaneko K (2008) Pentalogy of Cantrell with a double-outlet right ventricle: 3.5-Year follow-up in a prenatally diagnosed patient. *Eur J Pediatr* 167(1): 103–105
2. Kaibori M, Ha-Kawa SK and Kamiyama Y (2008) Usefulness of TC-99M GSA Liver Scintigraphy for the Assessment of Recurrent Hepatitis C After Living-Donor Liver Transplantation: A Case Report. *Transplant Proc* 40(8): 2837–2839
3. 澤井利夫, 飯干泰彦, 関 保二, 藤元治朗, 大塚欣敏, 濱田吉則 (2008) 発赤, 圧痛および熱感を伴わない頸部膿瘍を反復する症例—第54回小児外科わからん会報告—. *小児外科* 40(7): 843–846
4. 高田晃平, 濱田吉則, 棚野晃秀, 佐藤正人 (2008) 新生児外科と周術期管理—Up-to-date 新生児肝芽腫の緊急手術における周術期管理. *小児外科* 40(7): 829–833
5. 海堀昌樹, 石崎守彦, 斎藤隆道, 松井康輔, 池田広記, 大村直人, 権 雅憲, 上山泰男 (2008) 広範な肝右葉被膜下膿瘍を呈した急性胆嚢炎の1例. *消外* 31(11): 1709–1715
6. 金 成泰, 山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 浅井 晃, 神原達也, 井上健太郎, 中根恭司, 小山恒男 (2008) 胸部食道癌根治切除後, ESDにて切除し得た残存頸部食道表在癌の2例. *消内視鏡* 20(3): 379–384
7. 海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 岩本慈能, 吉岡和彦, 上山泰男 (2008) エホバの証人患者における転移性肝癌切除の1例. *日消器外誌* 41(8): 1655–1660
8. 荒木吉朗, 岡村成雄 (2008) 鼠径ヘルニア偽還納の1例. *日腹部救急医学会誌* 28(1): 113–115
9. 三宅 岳, 中根恭司, 由井倫太郎, 井上健太郎, 里井壯平, 上山泰男 (2008) 肝膿瘍に続発した細菌性眼内炎・腸腰筋膿瘍・脛骨骨髓炎の1例. *日臨外会誌* 69(6): 1465–1469

## 学会発表

1. Iwamoto S, Yoshioka K, Mukaide H, Okazaki S, Nakane Y and Kwon AH (2008) Outcome of post-operative adjuvant chemotherapy for colorectal cancer. 11th Japan China Korea Colorectal Cancer Symposium, Tokyo
2. Kwon AH (2008) Prognosis of unsuspected gallbladder cancer diagnosed during or after laparoscopic cholecystectomy. ACG2008 Annual Scientific Meeting and Postgraduate course, Orland, Florida
3. Kwon AH, Miyaso T, Tsuji K, Toyokawa H and Yanagimoto H (2008) Free radical scavenger(edaravone) blocks fas-induced apoptosis pathway in mice. ACG2008 Annual Scientific Meeting and Postgraduate course, Orland, Florida
4. Kaibori M, Matsui K, Saito T, Ishizaki M, Kitade H, Imamura A and Kwon AH (2008) Liver regeneration in donors evaluated by Tc-99m-GSA scintigraphy after living donor liver transplantation. The 38th Annual congress of the Korean society for transplantaion, Seoul, Korea
5. Iwamoto S, Yoshioka K, Mukaide H, Okazaki S, Nakane Y and Kwon A (2008) Clinical Study of Anastomosis in Laparoscopically Assisted Surgery for Left Colon Cancer. 11th World Congress of Endoscopy Surgery, Yokohama
6. Ishizaki M, Kaibori M, Uchida Y, Hijikawa T, Tanaka H, Ozaki T, Tokuhara K, Matsui K, Kwon AH, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T (2008) Protective effect of FR183998, a Na<sup>+</sup>/H<sup>+</sup> exchanger inhibitor, and its inhibition of OF iNOS induction in hepatic ischemia-reperfusion injury in rats. American Transplant Congress 2008, Toronto, Canada
7. Yamamoto D, Yamamoto C and Tanaka K (2008)

- Novel & effective management of capecitabine induced Hand Foot Syndrome. ASCO, USA
8. Nakai K, Yamamichi K, Oishi M, Michiura T, Kim S, Inoue K, Kawaguchi K and Nakane Y (2008) Treatment of esophageal cancer after gastrectomy for gastric cancer. 9th World Congress Gastro Esophageal Reflux Disease, Monaco
  9. Oishi M, Nakai K, Michiura T, Kim S, Yamamichi K, Kawaguchi K and Nakane Y (2008) Complication of radiation therapy for esophageal cancer: A case report. 9th World Congress Gastro Esophageal Reflux Disease, Monaco
  10. Kaibori M, Matsui K, Saito T, Ishizaki M and Kamiyama Y (2008) Liver regeneration in donors evaluated by Tc-99m-GSA scintigraphy after living donor liver transplantation. 18th Conference of Asian Pacific Association for the study of the Liver, Seoul, Korea
  11. Kaibori M, Matsui K, Saito T and Kamiyama Y (2008) Risk factor and outcome or early recurrence after resection of small hepatocellular carcinomas. 18th Conference of Asian Pacific Association for the study of the Liver, Seoul, Korea
  12. Yoshioka K (2008) Totalanorectal reconstruction after abdominoperineal resection. 3rd Colorectal Disease Symposium, Tokyo
  13. Ozaki T, Kawaguchi Y, Matsui K, Tokuhara K, Tanaka H, Kitade H, Kamiyama Y, Nishizawa M and Okumura T, (2008) Effect of IPE roxo, medical plant extract, on the induction of inducible nitric oxide synthase in pro-inflammatory cytokine-stimulated hepatocytes. American Society for Parenteral and Enteral Nutrition Clinical Nutrition Week, Chicago, USA
  14. Matsui K, Kaibori M, Saito T, Ishizaki M, Kitade H, Imamura A and Kwon AH (2008) Indications for liver transplantaion in patients with primary and recurrent hepatocellular carcinoma. The 38th Annual congress of the Korean society for transplantaion, Seoul, Korea
  15. Sato M, Sonoda M, Takada K and Hamada Y (2008) The learning curve for laparoscopic pyloromyotomy: effect of resident training in pediatric surgery. 11th World Congress of Endoscopic Surgery, Yokohama
  16. Yanagimoto H, Satoi S, Mine T, Yamada A, Oka M and Itoh K (2008) A multicenter phase I/II study of gemcitabine and personalized peptide vaccination combination therapy for metastatic pancreatic cancer patients. ASCO Annual Meeting, Chicago, USA
  17. Sato M, Sonoda M, Takada K and Hamada Y (2008) The learning curve for laparoscopic pyloromyotomy: effect of resident training in pediatric surgery. 11th World Congress of Endoscopic Surgery, Yokohama
  18. 井上健太郎, 道浦 拓, 桜本和人, 荒木吉朗, 由井倫太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2008) 胃癌における Second Look Laparoscopy の有用性. 第80回日本胃癌学会総会, 横浜
  19. 岩村 拓, 海堀昌樹, 野田亜末香, 松井康輔, 斉藤隆道, 権 雅憲 (2008) 悪性黒色腫の転移性肝腫瘍に対し肝切除を行った1例. 第184回近畿外科学会, 第184回近畿外科学会, 奈良
  20. 中竹利知, 道浦 拓, 石崎守彦, 三木博和, 高田晃平, 浜田吉則, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 特発性に腹膜前腔から後腹膜にかけて血腫を来した1例. 第184回近畿外科学会, 奈良
  21. 松井康輔, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 石崎守彦, 北出浩章, 今村 敦, 権 雅憲 (2008) 生体肝移植後の遅発性門脈閉塞症の1例. 第25回近畿肝移植検討会, 大阪
  22. Shi M, Adachi Y, Yanai S, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) コラーゲン・ゲルを用いた骨髄内骨髄移植法は早期の造血回復を誘導する. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
  23. 坪田 優, 露木 茂, 崎田展子, 神原達也, 浮草 実 (2008) 4つの組織型の異なる多中心性の一側側多発乳癌の1例. 第6回日本乳癌学会近畿地方会, 京都
  24. 松島貴志, 楠本健司, 稲垣隆介, 濱田吉則, 高田晃平 (2008) 結合双胎分離症例の経験. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  25. 柳本泰明, 里井壯平, 峯 孝志, 塩見尚礼, 豊川秀吉, 山本智久, 山田 亮, 岡 正朗, 権雅憲, 伊東恭悟 (2008) 進行膀胱癌に対する癌ペプチドワクチン/塩酸ゲムシタピン併用療

- 法. 第21回日本バイオセラピィ学会学術集会総会, 東京
26. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 廣岡 智, 山尾 順, 松井陽一, 權 雅憲 (2008) 化学療法患者における健康食品 (AHCC) の副作用軽減効果. 第21回日本バイオセラピィ学会学術集会総会, 東京
  27. 吉田 良, 北出浩章, 高田秀穂, 權雅 憲 (2008) CV ポート関連感染症の検討. 第21回日本外科感染症学会総会, 札幌
  28. 佐藤正人, 園田真理, 高田晃平, 浜田吉則 (2008) 腹腔鏡下幽門筋切開術—その指導法について. 第24回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 沖縄
  29. 棚野晃秀, 堀沢 稔 (2008) 当院における虫垂炎の治療骨子について—虫垂炎の術前管理の定型化がもたらすもの—. 第24回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 沖縄
  30. 高田晃平, 三木博和, 矢内洋次, 中竹利知, 浜田吉則 (2008) 新生児における臍部人工肛門造設術の検討. 第28回日本内視鏡外科手術手技研究会, 大阪
  31. 佐藤正人, 園田真理, 宮内雄也, 高田晃平 (2008) 食道アカラシアの再手術後に食道狭窄症の診断がなされた1例. 第28回日本内視鏡外科手術手技研究会, 大阪
  32. 道浦 拓, 中根恭司, 岩井愛子, 山木 壮, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 權雅憲 (2008) 当科における噴門側胃切除の検討. 第38回胃外科・術後障害研究会, 東京
  33. 中井宏治, 川口雄才, 上山庸佑, 大石賢玄, 宮宗武史, 岡崎 智, 尾崎 岳, 山田正法, 横井川規巨, 吉田 良, 今田世紀, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂 (2008) TS-1+タキソール/レンチナン併用療法にて根治切除が可能となったStageIV胃癌の1例. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
  34. 笠原憲子, 由井倫太郎, 桜本和人, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司, 上山泰男 (2008) 食道嚢腫の一例. 第561回大阪外科集談会, 大阪
  35. 長谷川大, 横井川規巨, 上山庸佑, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 尾崎 岳, 山田正法, 辻勝成, 柳田英佐, 中井宏治, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 鼠径部血管周皮腫の1例. 第566回大阪外科集談会, 大阪
  36. 横井川規巨, 北出浩章, 尾崎 岳, 岡崎 智, 宮宗武史, 山田正法, 辻 勝成, 中井宏治, 吉田 良, 今村 敦, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 胆嚢腫瘍との鑑別を要した外傷を契機とした急性胆嚢炎の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  37. 岡崎 智, 川口雄才, 大石賢玄, 尾崎 岳, 宮宗武史, 山田正法, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 局所治療後に腹腔内播種をきたした肝細胞癌の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  38. 海堀昌樹, 石崎守彦, 斉藤隆道, 松井康輔, 權雅憲 (2008) 高齢者に対する肝細胞癌肝切除術の評価. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  39. 岩井愛子, 道浦 拓, 山道啓吾, 桜本和人, 山木 壮, 由井倫太郎, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司, 權 雅憲 (2008) 治療に難渋した食道癌術後, 食道気管支瘻の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  40. 吉岡和彦, 岩本慈能, 徳原克治, 畑 嘉高, 中根恭司, 權 雅憲 (2008) 直腸脱に対する先進医療としての腹腔鏡下直腸固定術の検討. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  41. 吉田秀行, 山本大悟, 矢内洋次, 兼松清果, 奥川帆麻, 小路徹二, 田中完児, 權 雅憲 (2008) 微細石灰化病変で発見した非触知乳癌に対する乳房温存手術の工夫. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  42. 吉田 良, 横井川規巨, 北出浩章, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 腹腔鏡にて切除した上行結腸癌術後異時性孤立性脾転移の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  43. 荒木吉朗, 山木 壮, 岩井愛子, 岩本慈能, 吉岡和彦, 中根恭司, 權 雅憲 (2008) クローン病S状結腸狭窄部に発症したcolitic cancerの1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
  44. 高田晃平, 權 雅憲, 荒木吉朗, 中竹利知, 浜田吉則 (2008) EXITを施行した新生児頸部奇形種の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京

45. 今村 敦, 尾崎 岳 (2008) 腹腔動脈起始部症候群. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
46. 松井康輔, 海堀昌樹, 斉藤隆道, 石崎守彦, 北出浩章, 今村 敦, 廣原淳子, 木村 謙, 權雅憲 (2008) 生体肝移植脂肪肝ドナーに対する当院の取り組み. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
47. 中竹利知, 高田晃平, 荒木吉朗, 浜田吉則 (2008) 小腸内視鏡下ポリープ切除を施行した小児Peutz-Jeghers症候群の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
48. 中本博之, 箕浦俊之 (2008) 盲腸癌横隔膜転移および肝転移の1切除例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
49. 道浦 拓, 中根恭司, 岩井愛子, 山木 壮, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 權雅憲 (2008) QOL向上を目指したLatarjet神経を温存噴門側胃切除術. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
50. 尾崎 岳, 今村 敦, 上山庸佑, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 山田正法, 辻 勝成, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 高田秀穂, 權雅憲 (2008) 腹腔動脈起始部圧迫症候群に伴う上腸間膜動脈瘤に対して腹部大動脈-総肝動脈バイパスと上腸間膜動脈瘤コイル塞栓術を施行した1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
51. 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 由井倫太郎, 山尾 順, 山本智久, 金 成泰, 廣岡 智, 松井陽一, 權雅憲 (2008) Internal Thoracic Artery(ITA)holderを用いた臍管空腸吻合とその成績. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
52. 北出浩章, 横井川規巨, 辻 勝成, 宮宗武史, 尾崎 岳, 松井陽一, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 大石賢玄, 海堀昌樹, 内田洋一郎, 高橋完治, 權雅憲 (2008) 肝右葉の肝切除時に開胸操作は必要か? 第70回日本臨床外科学会総会, 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
53. 矢倉拓磨, 里井壯平, 由井倫太郎, 柳本泰明, 豊川秀吉, 松井陽一, 北出浩章, 大江知里, 坂井田紀子, 植村芳子, 權雅憲 (2008) 術前放射線化学療法後に腹腔動脈幹合併臍体尾部切除術を施行しえた進行臍体尾部癌の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
54. 矢内洋次, 山本大悟, 吉田秀行, 兼松清果, 田中完児, 小島博之, 鎌田 実, 谷川 昇, 澤田 敏, 權雅憲 (2008) 乳癌腰椎転移巣に経皮的椎体形成術が著効した1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
55. 由井倫太郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 北出浩章, 山木 壮, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 臍頭十二指腸切除術クリニカルパスは定着したか? 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
56. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 由井倫太郎, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 臍癌に対する術前化学放射線療法後切除例の予後解析一切除単独例との比較. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
57. 山本大悟, 吉田秀行, 田中完児, 矢内洋次, 權雅憲 (2008) 胸水・癌性肺リンパ管症を伴う肺転移に新規分子標的薬剤が奏効した1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
58. 宮崎浩彰, 和西晃寛, 石原久美子, 北村 臣, 廣田美喜子, 西村泰典, 里井壯平, 仲野俊成, 神崎秀陽 (2008) 紙バスと電子バスが関係するインシデント報告に関する検討. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 埼玉
59. 山木 壮, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 由井倫太郎, 道浦 拓, 井上健太郎, 宮崎浩彰, 北村 臣, 權雅憲 (2008) 臍頭十二指腸切除術クリニカルパス導入後のアウトカム達成率の時期別変遷. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 埼玉
60. 北村 臣, 石原久美子, 里井壯平, 宮崎浩彰 (2008) 電子カルテシステムにおけるクリニカルパス管理とその運用-診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のバスへの業務負担軽減の試み. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 埼玉
61. 由井倫太郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 井上健太郎, 宮崎浩彰, 北村 臣, 權雅憲 (2008) 臍体尾部切除術クリニカルパス導入による臨床的影響. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 埼玉

62. 里井壯平, 宮崎浩彰, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 井上健太郎, 北村 臣, 松井陽一, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 当院における消化器癌診療と地域連携. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 埼玉
63. 海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 石崎守彦, 権雅憲 (2008) 肝細胞癌に対する肝切除後肝不全症例の予測と対策. 第12回日本肝臓学会大会, 東京
64. 里井壯平, 中根恭司, 豊川秀吉, 柳本泰明, 道浦 拓, 井上健太郎, 松井陽一, 権 雅憲 (2008) 癌診療における地域連携パス導入のための取り組み. 第3回関西がんチーム医療研究会, 大阪
65. 里井壯平, 権 雅憲, 豊川秀吉, 柳本泰明, 荒木 浩, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一 (2008) 当科における膵癌の予後規定因子. 第40回癌とリンパ節研究会, 名古屋
66. 岩本慈能, 吉岡和彦, 岡崎 智, 向出裕美, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 進行・再発大腸癌に対するbevacizumabの使用経験. 第46回癌治療学会, 名古屋
67. 井上健太郎, 中根恭司, 道浦 拓, 徳原克治, 山木 壮, 山道啓吾, 権 雅憲 (2008) 微小腹膜転移癌のセカンドライン化学療法における2nd Look Laparoscopyの有用性. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
68. 吉田秀行, 兼松清果, 矢内洋次, 田中完児, 山本大悟 (2008) 当院におけるエコーガイド下マンモトーム生検の検討. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
69. 矢内洋次, 高田晃平, 三木博和, 中竹利知, 石崎守彦, 道浦 拓, 濱田吉則 (2008) 腹壁血腫の1例. 第60回小児外科わからん会, 大阪
70. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 山木 壮, 徳原克治, 中根恭司 (2008) 進行下部直腸癌に対する術前放射線化学療法. 第63回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京
71. 吉岡和彦, 岩本慈能, 畑 嘉高, 中根恭司 (2008) 便失禁は稀な疾患か? : 当施設における便失禁患者に対する診療の検討. 第63回日本大腸肛門病学会学術集会, 東京
72. 奥川帆麻, 吉田秀行, 山本大悟, 兼松清果, 川西 洋, 小路徹二, 田中完児 (2008) 乳癌術後補助療法でPaclitaxelにより誘発された間質性肺炎の1例. 第16回日本乳癌学会学術総会, 大阪
73. 吉田秀行, 山本大悟, 兼松清果, 奥川帆麻, 小路徹二, 川西 洋, 田中完児 (2008) 乳癌術後補助療法でパクリタキセルが原因と考えられた偽膜性腸炎の1例. 第16回日本乳癌学会学術総会, 大阪
74. 松井陽一, 松宮美保, 柳本泰明, 豊川秀吉, 里井壯平, 北出浩章, 権 雅憲 (2008) 腹腔鏡下胆嚢摘出術における予防的抗生剤投与の必要性. 第21回日本内視鏡外科学会総会, 大分
75. 高見浩数, 稲垣隆介, 大重英行, 浅井昭雄, 高田晃平, 濱田吉則, 大橋 敦, 木下 洋, 金子一成, 河本圭司 (2008) 胎児診断された結合体の1例. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
76. 高田晃平, 中竹利知, 三木博和, 矢内洋次, 棚野晃秀, 浜田吉則 (2008) 胆道拡張症術後における胃発癌に関する検討. 第31回日本膵・胆管合流異常研究会, 京都
77. 海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 石崎守彦, 権雅憲 (2008) 小肝細胞癌に対する外科的治療方針 (Risk factors and outcome of early recurrence after resection of small hepatocellular carcinomas). 第44回日本移植学会, 大阪
78. 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔, 石崎守彦, 斯波幸絵, 内田洋一郎, 権 雅憲 (2008) ABO不適合生体部分肝移植術後の微小血栓血管症 (TMA) 発症の1例. 第44回日本移植学会, 大阪
79. 山本大悟 (2008) Capecitabine既治療転移乳癌に対するS1の有効性と安全性の検討. 第46回日本癌治療学会総会, 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
80. 岩村 拡, 道浦 拓, 山道啓吾, 久保りか, 赤木麻衣子, 岩井愛子, 中竹利知, 石崎守彦, 徳原克治, 井上健太郎, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 左胸管損傷による食道癌術後乳糜胸の1例. 第565回大阪外科集談会, 大阪
81. 赤木麻衣子, 山本大悟, 吉田秀行, 兼松清果, 岩井愛子, 権 雅憲 (2008) 乳腺原発血管肉腫により全身転移をきたした1例. 第565回大阪外科集談会, 大阪

82. 柳川雅人, 成田基良, 中橋佳嗣, 朝山俊樹, 中村弘, 青井一憲, 加藤孝太, 吉川恵史, 池田広記, 廣原淳子, 宮崎浩彰, 山縣英生, 若松隆宏, 松本隆之, 井口亮輔, 関 寿人, 岡崎和一, 松井浩輔, 斎藤隆道, 海堀昌樹 (2008) 無症候性胆石症から急性胆管炎, 穿通性肝膿瘍, 横隔膜下膿瘍, 膿胸を来した1例. 日本消化器病学会近畿支部第89回例会, 大阪
83. 權 雅憲 (2008) 術後肝不全の予防と対策. 北河内外科フォーラム2008, 大阪
84. 園田真理, 佐藤正人, 宮内雄也 (2008) 腸回転異常症に合併した消化管重複症の1例. 第44回日本小児外科学会近畿地方会, 奈良
85. 三木博和, 高田晃平, 中竹利知, 浜田吉則 (2008) 異所性膵組織による腸重積症の1例. 第44回日本小児外科学会近畿地方会, 奈良
86. 中田昌利, 佐藤正人, 園田真理 (2008) ESB�産生大腸菌のため治療に難渋した急性虫垂炎の1例. 第44回日本小児外科学会近畿地方会, 奈良
87. 佐藤正人 (2008) 胃瘻の話. 第39回京大小児科関連懇話会, 大阪
88. 中田昌利, 佐藤正人, 園田真理 (2008) 特発性破裂をきたした先天性水腎症の1例. 第39回京大小児科関連懇話会, 大阪
89. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 權 雅憲 (2008) 膵癌切除症例における樹状細胞の評価. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
90. 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 術後肺合併症高リスク患者の周術期管理. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
91. 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 北出浩章, 山尾 順, 山本智久, 金 成泰, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 当科における膵癌術前進展度診断の時期的変遷とその影響. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
92. 由井倫太郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 北出浩章, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 權 雅憲 (2008) 膵体尾部切除術後合併症の時期的変遷. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
93. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 北出浩章, 金成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 權 雅憲 (2008) 膵癌に対する術前化学放射線療法とその臨床的意義一切除単独例との比較. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
94. 廣岡 智, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 巨大膵腺房細胞癌の1切除例. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
95. 高田晃平, 浜田吉則 (2008) 新生児縦隔嚢状リンパ管腫の1例. 第44回日本周産期・新生児医学会総会, 横浜
96. 石崎守彦, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔, 權雅憲 (2008) 肝虚血再還流障害モデルにおけるNa<sup>+</sup>/H<sup>+</sup>exchanger阻害剤 (FR183998) の生体保護効果, およびiNOS誘導の抑制効果. 第49回京都肝疾患懇話会, 京都
97. 吉岡和彦, 岩本慈能, 畑 嘉高, 中根恭司 (2008) 直腸脱に対するベストトリートメント: 先進医療としての腹腔鏡下直腸固定術の検討. 第63回日本消化器外科学会, 札幌
98. 横井川規巨, 北出浩章, 大石賢玄, 尾崎 岳, 宮宗武史, 岡崎 智, 中井宏治, 吉田 良, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 肝原発生と考えられたカルチノイド腫瘍の1例. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
99. 海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 石崎守彦, 權雅憲 (2008) 肝細胞癌に対する肝切除後肝不全症例の予測と対策. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
100. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔, 中根恭司 (2008) 術前補助化学療法を行い肝切除した大腸癌肝転移症例の検討. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
101. 吉田 良, 大石賢玄, 宮宗武史, 尾崎 岳, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 北出浩章, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 憩室炎に起因して尿路変更を必要とした, 結腸直腸膀胱瘻の手術時期および術式の検討. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
102. 宮宗武史, 高田秀穂, 大石賢玄, 岡崎 智, 尾崎 岳, 横井川規巨, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 權 雅憲 (2008) 直腸原発大細胞神経内分泌癌の1切除例. 第63回日本消化器外

科学会総会, 札幌

103. 山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 桜本和人, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2008) 胸部食道癌に対する後縦隔細径胃管再建, 胃管作成と吻合法の工夫. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
104. 山尾 順, 豊川秀吉, 金 成泰, 里井壯平, 山本智久, 廣岡 智, 柳本泰明, 松井陽一, 權雅憲 (2008) ラット膵癌モデルに対する抗線維化療法を併用した化学療法. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
105. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 寺川直良, 高橋完治, 權 雅憲 (2008) 膵癌切除症例における末梢血 CD4+CD25+ 制御性 T 細胞モニタリングの有用性. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
106. 中井宏治, 川口雄才, 大石賢玄, 尾崎 岳, 岡崎 智, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 權雅憲, 高田秀穂 (2008) 術後イマチニブ投与が有効であった GIST の1例. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
107. 道浦 拓, 由井倫太郎, 山木 壮, 荒木吉朗, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司, 權 雅憲 (2008) 術式にとられない胃切除術のクリニカルパス. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
108. 尾崎 岳, 川口雄才, 宮宗武史, 横井川規巨, 今田世紀, 北出浩章, 高田秀穂, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 權 雅憲 (2008) 肝細胞の iNOS 誘導に対する紫イペの抑制効果とそのメカニズム. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
109. 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 廣岡 智, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 膵癌に対する術前化学放射線療法とその臨床的影響. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
110. 北出浩章, 松井陽一, 里井壯平, 尾崎 岳, 宮宗武史, 横井川規巨, 大石賢玄, 岡崎 智, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 高齢者肝細胞癌に対する肝切除. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
111. 柳本泰明, 里井壯平, 峯 孝志, 豊川秀吉, 山本智久, 内藤雅康, 小松誠和, 山田 亮, 伊東恭悟, 權 雅憲 (2008) 医師主導型臨床研究としての癌ペプチドワクチン開発. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
112. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 廣岡 智, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 膵頭十二指腸切除術の吻合法変更とその臨床的影響. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
113. 廣岡 智, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 悪性腫瘍に対する膵頭十二指腸切除術における血液製剤使用の現状-疾患別検討-. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
114. 岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔, 中根恭司 (2008) 術前化学療法を行い肝切除した大腸癌肝転移症例の検討. 第69回大腸癌研究会, 福岡
115. 大谷一弘, 久徳茂雄, 川島正裕, 佐藤正人, 笠井千尋, 奥野涼子, 仙田典子 (2008) 成人漏斗胸について. 第8回 Nuss 漏斗胸手術手技研究会, 大阪
116. 池田耕造, 梅原秀人, 井口亮輔, 川股聖二, 福島慎太郎, 関 寿人, 岡崎和一, 辻 勝成, 權 雅憲, 鷹巢晃昌, 四方伸明 (2008) 肝細胞癌: Fibrolamellar carcinoma でしょうか? 大阪肝穿刺生検治療研究会, 大阪
117. 園田真理, 佐藤正人 (2008) 初期研修医教育の観点からみた小児消化管異物症例の検討. 第22回日本小児救急医学会, 奈良
118. 山道啓吾, 道浦 拓, 中井宏治, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2008) 食道癌手術における再建, 吻合の工夫. 第51回関西胸部外科学会学術集会, 富山
119. 岩井愛子, 道浦 拓, 由井倫太郎, 桜本和人, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2008) 食道癌術後上縦隔リンパ節再発による頸部食道閉塞に対するバイパス手術の1例. 第62回日本食道学会学術集会, 東京
120. 桜本和人, 山道啓吾, 道浦 拓, 浅井 晃, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 中根恭司 (2008) CT による食道癌術前リンパ節転移診断の検討. 第62回日本食道学会学術集会, 東京
121. 山道啓吾, 道浦 拓, 桜本和人, 岩井愛子, 由井倫太郎, 山木 壮, 荒木吉朗, 金 成泰,

- 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司 (2008) 進行食道癌に対する術前化学放射線療法 of 意義と問題点. 第62回日本食道学会学術集会, 東京
122. 中井宏治, 山道啓吾, 大石賢玄, 道浦 拓, 金 成泰, 井上健太郎, 浅井 晃, 川口雄才, 中根恭司 (2008) 食道・胃重複癌に対する治療法の検討. 第62回日本食道学会学術集会, 東京
123. 道浦 拓, 由井倫太郎, 山木 壮, 桜本和人, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2008) 胃癌を合併した食道小細胞癌の1例. 第62回日本食道学会学術集会, 東京
124. 海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 松井陽一 (2008) 当科での肝硬変合併小肝細胞癌に対する肝部分切除手技. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
125. 高田晃平, 渡辺健太郎, 徳原克治, 佐藤正人, 浜田吉則 (2008) 胆道拡張症の至適再建術式—術後胃内胆汁逆流と胃粘膜細胞回転から—, 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
126. 佐藤正人, 園田真理, 高田晃平, 浜田吉則 (2008) 胸腔鏡下横隔膜縫縮術-患児のQOLを考慮して, 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
127. 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 寺川直良, 金 成泰, 山尾 順, 高橋完治, 上山泰男 (2008) 膵癌患者における樹状細胞評価の意義. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
128. 道浦 拓, 由井倫太郎, 桜本和人, 中井宏治, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2008) 噴門側胃切除術におけるLatajet神経の意義. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
129. 徳原克治, 浜田吉則, 田中宏典, 羽原弘造, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2008) 炎症性サイトカインによる肝細胞のiNOS誘導に対するfluvastatinの効果. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
130. 北出浩章, 高橋完治, 中井宏治, 権雅憲, 高田秀穂, 上山泰男 (2008) Graft transfer modelを用いた移植グラフト内制御性T細胞のDonor特異的拒絶反応抑制作用の証明. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
131. 柳本泰明, 里井壯平, 峯 孝志, 豊川秀吉, 山本智久, 内藤雅康, 山田 亮, 伊東恭悟, 上山泰男 (2008) 進行膵癌に対する創薬化に向けたテラーメイドがんペプチドワクチン療法 (第I/II相臨床試験). 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
132. 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 荒木 浩, 松井陽一, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 上山泰男 (2008) 膵癌進展度診断におけるstaging laparoscopyの導入とその影響. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
133. 河野桂太, 柳田英佐, 大沢常英 (2008) 胆嚢捻転症の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
134. 岩井愛子, 井上健太郎, 道浦 拓, 桜本和人, 由井倫太郎, 山木 壮, 荒木吉朗, 中根恭司 (2008) Second Look Laparoscopyと化学療法により長期生存している腹膜転移胃癌の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
135. 吉田秀行, 兼松清果, 山本大悟, 奥川帆麻, 矢内洋次, 岡本真由美, 川西 洋, 小路徹二, 田中完児 (2008) 微細石灰化病変に対するステレオガイド下マンモトーム生検の比較検討—アナログMMGとデジタルMMGの読影の比較下において—, 第183回近畿外科学会, 大阪
136. 荒木吉朗, 由井倫太郎, 山木 壮, 桜本和人, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾, 中根恭司 (2008) アカラシア合併食道横隔膜上憩室の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
137. 佐藤正人, 園田真理 (2008) 発熱を契機に発見された腸間膜リンパ管腫の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
138. 三宅 岳, 元廣高之 (2008) Spigelヘルニアの1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
139. 三木博和, 小松優治, 小倉徳裕, 畑埜武彦 (2008) 4回の手術にて長期生存を得た脂肪肉腫の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
140. 山木 壮, 山道啓吾, 道浦 拓, 岩井愛子, 由井倫太郎, 桜本和人, 井上健太郎, 中根恭司 (2008) 食道神経鞘腫の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
141. 大石賢玄, 北出浩章, 岡崎 智, 宮宗武史, 尾崎 岳, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 今村 敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂 (2008) 術後不良な経過をたどった穿孔性小腸悪性リンパ腫の1例. 第183回近畿外

科学会, 大阪

- 142.中野誠人, 池袋浩二, 岡村成雄 (2008) 閉鎖孔に発生したganglionの1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 143.津田 匠, 高田晃平, 浜田吉則 (2008) Henoch-Schonlein紫斑病に合併した小児重積症の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 144.島野直人, 今田世紀, 二階堂任, 山田 斉 (2008) 回腸腸間膜リンパ節炎の2例. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 145.富野敦捻, 上田創平, 桜本和人, 山本 透, 道浦 拓, 山道啓吾, 中根恭司, 北澤康秀 (2008) 塩酸服用による重症腐食性上部消化管炎の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 146.平 充, 大草世雄, 森田治雄, 馬殿芳郎 (2008) 直腸gastrointestinal stromal tumorの1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 147.井上健太郎 (2008) 胃癌手術における真皮縫合の経験. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 148.岡本奈津子, 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 山尾 順, 金 成泰, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 坂井田紀子, 植村芳子, 權 雅憲 (2008) 術前診断に難渋した腭Dermoid cystの1例. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 149.海堀昌樹, 松井康輔, 斎藤隆道, 石崎守彦 (2008) 小肝細胞癌に対する外科的治療方針. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 150.桜本和人, 豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 山尾 順, 金 成泰, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 坂井田紀子, 植村芳子, 權 雅憲 (2008) 診断と治療に難渋した黄色肉芽腫性病変の1例. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 151.山尾 順, 豊川秀吉, 金 成泰, 里井壯平, 山本智久, 廣岡 智, 柳本泰明, 松井陽一, 權雅憲 (2008) ラット膵癌モデルの作成と抗線維化療法を併用した化学療法. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 152.山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 高橋完治, 寺川直良, 權 雅憲 (2008) 膵癌患者末梢血におけるCD4+CD25+FoxP3 制御性T細胞の検討. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 153.石崎守彦, 海堀昌樹, 斎藤隆道, 松井康輔 (2008) 肝虚血再還流障害モデルにおけるNa+/H+exchanger 阻害剤 (FR183998) の生体保護効果の検討. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 154.豊川秀吉, 里井壯平, 柳本泰明, 山尾 順, 山本智久, 金 成泰, 廣岡 智, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 当科における膵管空腸吻合の工夫と成績. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 155.柳本泰明, 里井壯平, 豊川秀吉, 廣岡 智, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一, 權雅憲 (2008) 膵頭十二指腸切除術後合併症および膵液漏を低減するための取り組み. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 156.里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一 (2008) 膵癌に対する術前化学放射線療法とその臨床的影響. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 157.廣岡 智, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 松井陽一 (2008) 悪性腫瘍に対する膵頭十二指腸切除術における血液製剤使用の現状. 第20回日本肝胆膵外科学会学術集会, 山形
- 158.高田晃平, 徳原克治, 荒木吉朗, 由井倫太郎, 大石賢玄, 浜田吉則 (2008) 小児臍ヘルニアの検討. 第45回日本小児外科学会学術集会, つくば
- 159.高田晃平, 徳原克治, 荒木吉朗, 由井倫太郎, 大石賢玄, 浜田吉則 (2008) 小児特発性大網梗塞の1例. 第45回日本小児外科学会学術集会, つくば
- 160.棚野晃秀, 堀沢 稔 (2008) 異なる治療方法にて軽快した小児十二指腸潰瘍の2例. 第45回日本小児外科学会学術集会, つくば
- 161.棚野晃秀, 堀沢 稔 (2008) 診断に苦慮した乳児重複腸管症の1例. 第45回日本小児外科学会学術集会, つくば
- 162.園田真理, 佐藤正人, 新谷 裕, 箱田 滋, 木内俊一郎 (2008) 当院における小児消化管異物症例の検討—初期研修医教育の観点から—. 第45回日本小児外科学会総会, 茨城
- 163.荒木吉朗, 高田晃平, 徳原克治, 由井倫太郎,

- 大石賢玄, 濱田吉則 (2008) 出生前診断された先天性胆道拡張症・閉鎖症における総胆管径の経時的変化の検討. 第45回日本小児外科学会総会, 茨城
164. 菱川秀彦, 松井康輔, 勝本桂史, 斎藤隆道, 石崎守彦, 海堀昌樹, 権 雅憲 (2008) 高齢者肝細胞癌肝切除症例の検討. 第563回大阪外科集談会, 大阪
165. 中根恭司, 桜本和人, 中井宏治, 道浦 拓, 井上健太郎, 山道啓吾 (2008) 器械吻合器を用いた食道空腸吻合の偶発症に対する対策と予防. 第62回手術手技研究会, 東京
166. 岩倉健二, 吉田 隆, 佐々木伸一, 安本信吾, 廣岡 智, 佐藤睦哉, 樋口和秀 (2008) 内視鏡的胃瘻造設術後に左腸腰筋膿瘍を合併しMRSA菌血症を伴った1例. 第94回日本消化器病学会, 福岡
167. 足立 靖, 石明, 矢内勢司, 池原 進 (2008) (NZWxBXSB)F1 マウスにおける樹状細胞の異常. 第97回日本病理学会総会, 金沢
168. 矢内勢司, 足立 靖, 榎 政彦, 植村芳子, 坂井田紀子, 石明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
169. 金 成泰, 豊川秀吉, 山尾 順, 山本智久, 柳本泰明, 里井壯平, 松井陽一, 権 雅憲 (2008) ラット膵癌モデルの作成と抗線維化療法を併用した化学療法. 日本肝胆膵外科学会, 山形
170. 高田晃平, 徳原克治, 荒木吉朗, 由井倫太郎, 大石賢玄, 濱田吉則 (2008) 小児臍ヘルニアの検討. 日本小児外科学会, つくば
171. 荒木吉朗, 吉岡和彦, 由井倫太郎, 岩本慈能, 中根恭司, 坂井田紀子 (2008) 潰瘍性大腸炎に対する回腸囊肛門管吻合術後に腹痛と頻便にて著しいQOLの低下を来した症例. 第15回IBDクラブジュニアウエスト, 大阪
172. 山口 繭, 高田晃平, 笠原憲子, 濱田吉則 (2008) 腸重積で発症した悪性リンパ腫の1例. 第562回大阪外科集談会, 大阪
173. 矢内洋次, 金田浩由紀, 馬庭知弘, 齊藤幸人 (2008) 前縦隔腫瘍に対する術前ステロイドパルス治療の経験. 第21回LKカンファレンス, 大阪
174. 高田晃平, 棚野晃秀, 濱田吉則 (2008) 多脾部分捻転の1例. 第21回日本小児脾臓研究会, 名古屋
175. 西窪 進, 佐藤睦哉, 長谷川慎, 吉本圭子, 長山しのぶ (2008) 小規模病院におけるインフルエンザ対策の実際. 第23回日本環境感染学会, 長崎
176. 長谷川慎, 長山しのぶ, 西窪 進, 吉本圭子, 佐藤睦哉 (2008) 抗菌薬使用状況と緑膿菌の薬剤耐性率との関連について. 第23回日本環境感染学会, 長崎
177. 北出浩章, 相地知子, 河野えみ子, 西辻智恵美, 中井英吉, 中井宏治, 尾崎 岳 (2008) 大学附属病院におけるNSTの立ち上げと問題点. 第23回日本静脈経腸栄養研究会, 京都
178. 米田篤司, 弥山秀芳, 北中直子, 茨木隆宏, 阪口博保, 太田由子, 奥野雅史, 北出浩章, 高田秀穂 (2008) 抗精神病薬投与によりモルヒネ用量が激減した一例. 第29回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 奈良
179. 佐藤正人, 小松優治, 小倉徳裕, 三木博和, 畑埜武彦 (2008) 漏斗胸に対するNuss法. 第7回関西医科大学附属男山病院勉強会, 京都
180. 山道啓吾, 井上健太郎, 道浦 拓, 金 成泰, 中井宏治, 中根恭司 (2008) 腹腔鏡補助下幽門側胃切除術におけるわれわれの手的工夫. 第80回胃癌学会総会, 横浜
181. 尾崎 岳, 川口雄才, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 権 雅憲, 高田秀穂 (2008) 十二指腸カルチノイドで手術を施行した2例. 第3回Neuroendocrine tumor workshop Japan, 神戸
182. 高野悟史, 尾崎 岳, 大石賢玄, 岡崎 智, 宮宗武史, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 川口雄才, 権 雅憲, 高田秀穂 (2008) 腹腔内膿瘍で発見された小腸悪性リンパ腫穿孔の一例. 第561回大阪外科集談会, 大阪
183. 山木 壮, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 井上健太郎, 権 雅憲 (2008) 膵頭十二指腸切除術クリニカルパス導入後のアウトカム達成率の変化. 第184回近畿外科学会, 奈良

- 184.岩井愛子, 井上健太郎, 田嶋佐和子, 古村洋子, 畑井陽二, 鮫島未来, 石田侑子, 道浦拓, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 当院における胃癌治療とNSTの関わり. 第38回胃外科・術後障害研究会, 東京
- 185.岩本慈能, 吉岡和彦, 岡崎 智, 向出裕美, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 大腸癌術後補助化学療法の現状と問題点. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 186.山道啓吾, 道浦 拓, 岩井愛子, 桜本和人, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 自動吻合器による頸部食道胃管吻合のコツ. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 187.石崎守彦, 海堀昌樹, 斉藤隆道, 松井康輔, 権 雅憲 (2008) 自己免疫性肝炎に合併した非B非C肝細胞癌の1切除例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 188.中井宏治, 川口雄才, 岡崎 智, 尾崎 岳, 山田正法, 横井川規巨, 吉田 良, 今田世紀, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 術後9年目に再発を認めた進行胃癌の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 189.北村 臣, 石原久美子, 西村泰典, 里井壯平, 宮崎浩彰, 仲野俊成 (2008) ワークショップ2 医療従事者の業務分担と職域拡大 電子カルテシステムにおけるクリニカルパス管理とその運用 - 診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のパス業務負担軽減の試み -. 第9回日本クリニカルパス学会, 大宮
- 190.岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 左側結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術における再建方法の検討. 第21回日本内視鏡外科学会, 横浜
- 191.辻田(久徳)美樹, 段原直行, 垺 貴司, 上原範久, 高田秀穂, 井上良計, 羽田尚彦, 螺良愛郎 (2008) 共役トコサヘキサエン酸によるヒト乳癌細胞株(KPL-1)における増殖抑制効果. 第14回乳癌基礎研究会, 茨城
- 192.矢内洋次, 水本雅己, 森本泰介, 安井良僚, 喜多貞彦, 松岡伸英, 松尾宏一, 山本栄司, 森口喜生, 向原純雄 (2008) 十二指腸傍乳頭憩室穿孔の1例～手術時期・術式についての検討～. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
- 193.由井倫太郎, 里井壯平, 豊川秀吉, 柳本泰明, 北出浩章, 金 成泰, 山尾 順, 山本智久, 廣岡 智, 松井陽一, 権 雅憲 (2008) 腓体尾部切除術後合併症のクリニカルパス導入前後の検討. 第183回近畿外科学会, 大阪
- 194.山木 壮, 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 井上健太郎, 権 雅憲 (2008) 腓頭十二指腸切除術クリニカルパス導入後のアウトカム達成率の変化. 第184回近畿外科学会, 奈良
- 195.権 雅憲 (2008) 低侵襲手術と拡大手術一安全で過不足のない手術をめざして一. 第184回近畿外科学会, 奈良
- 196.石崎守彦, 海堀昌樹, 斉藤隆道, 松井康輔, 権 雅憲, (2008) 自己免疫性肝炎に合併した非B非C肝細胞癌の1切除例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 197.岩本慈能, 吉岡和彦, 岡崎 智, 向出裕美, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 大腸癌術後補助化学療法の現状と問題点. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 198.山道啓吾, 道浦 拓, 岩井愛子, 桜本和人, 金 成泰, 中井宏治, 井上健太郎, 浅井 晃, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 自動吻合器による頸部食道胃管吻合のコツ. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 199.大石賢玄, 川口雄才, 上山庸佑, 岡崎 智, 宮宗武史, 尾崎 岳, 山田正法, 横井川規巨, 中井宏治, 今田世紀, 吉田 良, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂, 権 雅憲 (2008) 腹膜悪性中皮腫の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 200.中井宏治, 川口雄才, 岡崎 智, 尾崎 岳, 山田正法, 横井川規巨, 吉田 良, 今田世紀, 北出浩章, 今村 敦, 高田秀穂, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 術後9年目に再発を認めた進行胃癌の1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
- 201.矢内洋次, 高田晃平, 三木博和, 中竹利知, 石崎守彦, 道浦 拓, 濱田吉則 (2008) 腹壁血腫の1例. 第60回小児外科わからん会, 大阪
- 202.岩本慈能, 吉岡和彦, 向出裕美, 岡崎 智, 中根恭司, 権 雅憲 (2008) 左側結腸癌に対する腹腔鏡補助下手術における再建方法の検討. 第21回日本内視鏡外科学会, 横浜

203. 斎藤隆道, 海堀昌樹, 松井康輔, 石崎守彦, 斯波幸絵, 廣原淳子, 木村 謙, 權 雅憲 (2008) 当院における生体肝移植脂肪肝ドナーに対する取り組み. 第44回日本移植学会, 大阪
204. 井上健太郎, 中根恭司, 道浦 拓, 山木 壮, 由井倫太郎, 荒木吉朗, 桜本和人, 山道啓吾, 權 雅憲 (2008) 胃GISTに対する腹腔鏡下胃局所切除術. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
205. 矢内洋次, 水本雅己, 森本泰介, 安井良僚, 喜多貞彦, 松岡伸英, 松尾宏一, 山本栄司, 森口喜生, 向原純雄 (2008) 十二指腸傍乳頭憩室穿孔の1例～手術時期・術式についての検討～. 第63回日本消化器外科学会総会, 札幌
206. 内田一茂, 池田広記, 深田憲将, 小薮雅紀, 三好秀明, 福井寿朗, 松下光伸, 高岡 亮, 海堀昌樹, 上山泰男, 岡崎和一 (2008) 生体肝移植となった自己免疫性膵炎に合併する硬化性胆管炎の1例. 第39回日本膵臓学会大会, 横浜
207. 広原淳子, 松本隆之, 池田広記, 宮崎浩彰, 中橋佳嗣, 関 寿人, 岡崎和一, 海堀昌樹, 上山泰男, 木村 稔 (2008) 生体部分肝移植における脂肪肝ドナーの術前評価と短期強化療法. 第44回日本肝臓学会総会, 愛媛
208. 中根恭司 (2008) D2胃切除: 胃がんの基本手術—理論と実際. 第183回近畿外科学会, 大阪
209. 園田真理, 佐藤正人, 新谷 裕, 箱田 滋, 木内俊一郎 (2008) 当院における小児消化管異物症例の検討—初期研修医教育の観点から—. 第45回日本小児医外科学会総会, 茨城
210. 園田真理, 佐藤正人 (2008) 急性虫垂炎に緊急手術は必要か—腹腔鏡下虫垂切除術についての検討. 第45回日本小児医外科学会総会, 茨城
211. 岩倉健二, 吉田 隆, 佐々木伸一, 安本信吾, 廣岡 智, 佐藤睦哉, 樋口和秀 (2008) 内視鏡的胃瘻造設術後に左腸腰筋膿瘍を合併しMRSA菌血症を伴った1例. 第94回日本消化器病学会, 福岡
212. 尾崎 岳, 今村 敦, 斎藤隆道, 高田秀穂, 權 雅憲 (2008) 腹部内臓動脈瘤7症例の治療経験. 第37回日本血管外科学会総会, 名古屋
213. 田中宏典, 徳原克治, 尾崎 岳, 松井康輔, 石崎守彦, 内田洋一朗, 海堀昌樹, 西澤幹雄, 奥村忠芳, 上山泰男 (2008) 肝細胞のiNOS誘導におけるphosphatidylinositol 3-kinase (PI3K)/Aktシグナルの役割. 第108回日本外科学会定期学術集会, 長崎
214. 井上健太郎 (2008) 外科手術における真皮縫合の実際. 第12回臨床外科共同研究会リスクマネジメント分科会
215. 里井壯平 (2008) 当科における膵癌の外科治療. 第63回手術手技懇話会, 大阪
216. 岩村 拓, 道浦 拓, 山道啓吾, 久保りか, 赤木麻衣子, 岩井愛子, 中竹利知, 石崎守彦, 徳原克治, 井上健太郎, 中根恭司, 權 雅憲 (2008) 左胸管損傷による食道癌術後乳糜胸の1例. 第565回大阪外科集談会, 大阪
217. 海堀昌樹 (2008) 特別演題 術後肝不全の予防と対策. 北河内外科フォーラム2008, 大阪
218. Yanai S, Adachi Y, Shi M, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) 骨髄細胞は正常の発育における臓器の発育に寄与しない. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
219. 佐藤正人, 園田真理, 高田晃平, 浜田吉則 (2008) 腹腔鏡下幽門筋切開術にとって開腹症例での経験は必須か—learning curveの面からの検討. 第21回日本内視鏡外科学会総会, 横浜

## 著 書

1. 中根恭司, 井上健太郎 (2008) 消化管間質腫瘍. 看護に役立つ疾患・症候事典 (監修: 永井良三) 424–427頁, メヂカルフレンド社, 日本
2. 中根恭司, 道浦 拓, 井上健太郎 (2008) 1消化管 こんなときどうするQ&A 8. 胃全摘術後の再建 胃全摘後の再建法の種類と, それぞれの長所, 短所について教えて下さい. 消化器癌の外科治療 (上西紀夫, 中尾昭公編) 69–71頁, 中外医学社, 日本

## 胸部心臓血管外科学講座

### 〈研究概要〉

胸部心臓血管外科学講座は、心臓血管外科と呼吸器外科の2つの診療科を有している。心臓血管外科は循環器内科や小児科循環器グループとともに、先天性心疾患、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患等の疾患に対し、内科と外科が一体となって研究活動を行っている。また、呼吸器外科は、肺癌、転移性肺腫瘍、悪性縦隔腫瘍など悪性胸部疾患の外科治療を行い、第一内科呼吸器グループ、放射線科治療部門、病態検査科病理部門と研究グループを作り協力して臨床研究活動を行っている。また、神経内科との協力のもとに重症筋無力症の外科治療も担当し難病の治療成績向上に努めている。

心臓血管外科部門では、手術件数約200例である。臨床では、循環器グループ、小児循環器グループとも密接な関係を保ち、術前より互いに協力して治療を行っており、成績向上のため、きめ細かい術前術後管理に努めている。虚血性心疾患では、いわゆるオフポンプ冠動脈バイパス術を基本とし、さらに、バイパス困難症例に対しても、「内膜摘除+オンレイ grafting」等の冠動脈形成術を駆使して動脈グラフトを用いた完全血行再建をめざしている。として長年の心筋保護法の研究成果が実り、安全に手術が行えるようになってきている。また、循環器内科での基礎的研究の臨床への応用として、骨髄幹細胞移植による血管再生治療を臨床に試みている。僧帽弁膜症の治療方針は、経食道エコーにより適切な弁機能の判定をした上で、自己弁温存をはかる「弁形成+弁輪形成術」を第一選択とし、不可能な例に人工弁置換術を行う方針である。大血管疾患は、定期手術に加え、大動脈瘤破裂や急性大動脈解離などの超救急疾患が含まれる。大動脈弓部全置換は、超低体温循環停止法と選択的脳灌流法の併用により、安全な手術が可能になった。また、胸腹部大動脈置換時の大動脈遮断に伴う脊髄麻痺の問題は世界的にも極めて重要であり、その予防法の研究をすすめている。大動脈疾患の低侵襲治療としてのステントグラフト治療は今後の大動脈外科の主流となる可能性が高く、若手の活躍の場となりうる分野である。

呼吸器外科は、年間約170例の手術症例があり、その多くは原発性肺癌、悪性縦隔腫瘍、転移性腫瘍である。肺癌は、地域医師会と協力し市民検診を積極的に行っており早期発見例が増加しており、治療成績は向上し、その成績を逐次公表している。これら早期肺癌の外科手術にあたっては胸腔鏡を補助とした低侵襲手術を行うことを原則としている。しかし、依然減少しない進行肺癌などに対しては呼吸器内科、放射線科と協力し集学的治療を積極的に行い予後の改善に努めている。自然気胸も数多い疾患であり、若年者が多い本疾患には胸腔鏡手術を多用している。また転移性肺腫瘍も近年症例が増加しその治療戦略は年々変化し予後の改善がみられてきた。また、以前から当院で積極的な集学的治療を行っている非精上皮腫精胚細胞性腫瘍などの悪性縦隔腫瘍も良好な手術成績の向上をみている。

平成20年度も、心臓血管外科、呼吸器外科ともに、これらの臨床経験に基づいた研究発表を行った。

心臓血管分野では、1) 組織培養装置の導入による分子生物学的側面からの研究に基づいた心筋保護に関する臨床的、基礎的研究(心筋細胞特異的心筋保護法に関する研究、統合的薬理学 Preconditioning に関する研究)、2) 心、肺移植に関する基礎的研究、3) 虚血性心疾患に対する骨髄幹細胞移植による再生医療の研究などを行った。また、4) 大阪工業大学生体システム研究室とともに生体流体力学の共同研究も進めている。

呼吸器外科分野では、1) 肺癌に関する細胞免疫学的研究、2) 全摘術後の対側肺嚢胞の予防的処理に関する検討、3) 肺切除術後のドレーン管理に関する臨床的評価、4) 複数の腫瘍マーカーを統合的に用いた肺癌の診断の検討を行った。実験的研究では、5) 生体吸収性気管支ステントの開発とその臨床応用の研究を続け、6) ラット肺移植モデルにおける移植後再還流障害の予防、7) 肺腺癌における癌幹細胞の同定とその臨床的意義の検討にも19年度から取り組んでいる。

次年度には、胸部心臓血管外科講座の教授が決定するものと思われ、研究、臨床、教育の分野での新たな展開が期待できる。

## 〈研究業績〉

原 著

1. Hattori R, Uemura Y, Okada T, Johno H, Enoki C, Sumida T, Nakao Y and Imamura H (2008) The early onset of severe mitral bioprosthetic valve failure in a patient with pseudoxanthoma elasticum. *Chirurgia* 21(5): 259–261
2. Tatsumi K, Otani H, Sato D, Enoki C, Iwasaka T, Imamura H, Taniuchi S, Kaneko K, Adachi Y and Ikehara S (2008) Granulocyte-colony stimulating factor increases donor mesenchymal stem cells in bone marrow and their mobilization into peripheral circulation but does not repair dystrophic heart after bone marrow transplantation. *Circ J* 72(8): 1351–1358
3. Kaneda H, Saito Y, Saito T, Maniwa T, Minami K, Kusaka H and Imamura H (2008) Preoperative steroid therapy stabilizes postoperative respiratory conditions in myasthenia gravis. *Gen Thorac Cardiovasc Surg* 56(3): 114–118

## 症例報告

1. Hattori R, Sumida T, Okada T, Johno H, Enoki C, Nakao Y, Miyasaka Y, Haiden H, Dote K, Seno K, Iwasaka T and Imamura H (2008) Surgical treatment for right sided infective endocarditis with recurrent pulmonary infarction concurrent with a ventricular septal defect. *Estratto da CHIRURGIA* 21(6): 339–342
2. 藤井弘史, 中尾佳永, 岡田隆之, 徳田貴則, 北澤康秀 (2008) 90歳以上の高齢者の大動脈緊急症例の検討. *日血管外会誌* 17(3): 439–445
3. 馬庭知弘, 齊藤幸人, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 今村洋二 (2008) 左腕頭静脈に穿孔していた検診発見縦隔奇形腫の一例. *日呼外会誌* 22(2): 226–230
4. 金田浩由紀, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 南健一郎, 齊藤幸人, 今村洋二 (2008) 肺切除術後胸腔ドレーン管理に関する臨床実践の検討. *日呼外会誌* 22(2): 146–150
5. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 肺癌術後外来化学療法通院中にARDSを発症した1例. *肺癌* 48(3): 221–226

## 学会発表

1. Maniwa T, Saito Y, Saito T, Kaneda H and Imamura H (2008) Calcification of Intercostal Muscle Flap in Thoracic Surgery. *American Thoracic Society, 2008, Toronto, Canada*
2. 齊藤朋人, 野口明則, 中島慎吾, 生駒大登, 清水 健, 伊藤忠雄, 谷 直樹, 山口正秀, 岡野晋治, 川端健二, 山根哲郎 (2008) 鼠径部子宮内膜症の1例. 第184回近畿外科学会, 奈良
3. 齊藤朋人, 竹越一博, 馬庭知弘, 金田浩由紀, 南健一郎, 坂井田紀子, 植村芳子, 河 源, 山本奈恵, 松田公志, 齊藤幸人 (2008) 術後7年目に肺転移を認めたSDHB遺伝子変異陽性パラングリオーマの一例. 第1回臨床副腎フォーラム, 枚方
4. 中尾佳永, 服部玲治, 榎木千春, 岡田隆之, 上能寛之, 今村洋二 (2008) 心臓, 大血管手術後の深部正中創感染に対する治療経験. 第21回日本外科感染症学会総会, 札幌
5. 齊藤朋人, 野口明則, 中島慎吾, 生駒大登, 清水 健, 伊藤忠雄, 谷 直樹, 山口正秀, 岡野晋治, 山根哲郎 (2008) 特発性気腹症と考えられた1例. 第70回日本臨床外科学会総会, 東京
6. 金田浩由紀, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 当院で経験した女性の気胸. 第12回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会, 東京
7. 高橋弘毅, 岸本真房, 竹村博一, 金田浩由紀, 伊藤昭裕, 櫻本和人, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 齊藤幸人 (2008) 口腔内での火花破裂を契機とした咽頭穿孔による頸部腫瘍に対し, 頸部・縦隔ドレナージ術が奏効した一例. 第23回日本救命医療学会総会・学術集会, 東京
8. 岡田隆之 (2008) 心臓外科医の海外臨床留学 Something about Malaysia, *IJN(National Heart Institute)*. 第13回日本冠動脈外科学会, 東京
9. 金田浩由紀, 馬庭知弘, 齊藤朋人, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 再発肺癌に対してゲフィチニブとS-1を併用した1例. 第88回日本肺癌学会関西支部会, 大阪
10. 中尾佳永, 服部玲治, 榎木千春, 角田智彦, 佐藤 正, 今村洋二 (2008) 当院で行った超高齢者(90歳以上)ペースメーカー患者に関する

検討. 第23回日本不整脈学会学術大会, 横浜

11. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 胸腔鏡補助下に肋間筋弁を使用し難治性肺癭を閉鎖しえた1例. 第31回日本呼吸器内視鏡学会, 大阪
12. 岡田隆之, 服部玲治, 上能寛之, 中尾佳永, 角田智彦, 榎木千春, 今村洋二 (2008) 大動脈狭小弁輪を伴う大動脈4尖弁に多発性乳頭状弾性線維腫を合併した大動脈弁閉鎖不全症の治験例. 第51回関西胸部外科学会学術集会, 富山
13. 岡田隆之, 服部玲治, 上能寛之, 中尾佳永, 角田智彦, 榎木千春, 今村洋二 (2008) 右内胸動脈を使用し左前下行枝へOnlay Patch法を施行したCABG再手術. 第55回近畿心臓外科研究会, 大阪
14. 金田浩由紀, 玉置岳史, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 米津精文, 齊藤幸人 (2008) 化学療法後に完全切除しえた縦隔原発悪性胚細胞性腫瘍の2例. 第183回近畿外科学会, 大阪
15. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人, 坂井田紀子, 植村芳子 (2008) Hepatoid featureを呈した肺悪性腫瘍の1例. 第183回近畿外科学会, 大阪
16. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 難治性肺癭閉鎖に対する治療—肋間筋弁を用いた癭閉鎖の工夫—. 第25回日本呼吸器外科学会, 宇都宮
17. 金田浩由紀, 坪田 優, 松村光一郎, 齊藤朋人, 馬庭知弘, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 耐性を示した後のゲフィチニブ再投与は有効か?. 第20回LKカンファレンス, 大阪
18. 中尾佳永, 服部玲治, 角田智彦, 榎木千春, 上能寛之, 岡田隆之, 今村洋二 (2008) 心臓, 大血管手術後のMRSA感染に対する閉鎖式持続ドレナージ法の治療経験. 第38回日本心臓血管外科学会学術総会, 福岡
19. 金田浩由紀, 馬庭知弘, 齊藤朋人, 南健一郎, 齊藤幸人 (2008) 胸腺腫の術前導入ステロイドパルス治療. 第49回日本肺癌学会総会, 福岡
20. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人, 坂井田紀子, 植村芳子, 岡村明治 (2008) Hepatocytic phenotypeを伴った肺悪性腫瘍の1例. 第88回日本肺癌学会関西支部会, 大阪
21. 中尾佳永, 服部玲治, 角田智彦, 榎木千春, 上能寛之, 岡田隆之 (2008) 下腿浮腫発症を契機に発見された腸骨動静脈瘻の1例. 117回大阪血管外科同好会, 大阪

## 脳神経外科学講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Ryu T, Hosaka N, Miyake T, Cui W, Nishida T, Takaki T, Li M, Kawamoto K and Ikehara S. (2008) Transplantation of newborn thymus plus hematopoietic stem cells can rescue supralethally irradiated mice. *Bone Marrow Transplant* 41(7): 659–666
2. Seno T, Kawaguchi T, Yamahara T, Sakurai Y, Oishi T, Inagaki T, Yamanouchi Y, Asai A and Kawamoto K (2008) An immunohistochemical and electron microscopic study of atypical teratoid/rhabdoid tumor. *Brain Tumor Pathol* 25(2): 79–83
3. Tsukazaki Y, Inagaki T, Yamanouchi Y, Kawamoto K and Oka N (2008) Traumatic subarachnoid hemorrhage associated with acupuncture. *Headache* 48(8): 1240–1241
4. Kato H, Kimura A, Sasaki R, Kaneko N, Takeda M, Hagiwara A, Ogura S, Mizoguchi T, Matsuoka T, Ono H, Matsuura K, Matsushima K, Kushimoto S, Fuse A, Nakatani T, Iwase M, Fudoji J and Kasai T (2008) Cervical spinal cord injury without bony injury: a multicenter retrospective study of emergency and critical care centers in Japan. *J Trauma* 65(2): 373–379
5. Saito F, Nakatani T, Iwase M, Maeda Y, Hirakawa A, Murao Y, Suzuki Y, Onodera R, Fukushima M and Ide C (2008) Spinal cord injury treatment with intrathecal autologous bone mar-

row stromal cell transplantation: the first clinical trial case report. *J Trauma* 64(1): 53-59

6. 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 【がん治療と神経障害】放射線照射による脳障害. *Brain Nerv* 60(2): 123-129
7. 李 強, 大重英行, 甄 云波, 山原崇弘, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, 李 一, 河本圭司 (2008) 巨細胞性脳腫瘍における巨細胞についての形態学的解析. *Neuro-Oncol* 17(1): 22-28
8. 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 【脳・神経系管理Q&A 研修医からの質問288】脊髄損傷の管理. *救急集中治療* 20(1-2): 200-206
9. 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 【実践! 輸液・輸血ガイド】各種病態に対する輸液・輸血 脳血管障害. *救急医* 32(1): 71-76
10. 野村貞宏, 大井静雄, 野村貞宏, 鈴木倫保, 新井 一, 長坂昌登, 白根礼造, 山内康雄, 西本 博, 伊達裕昭 (2008) 脊髄脂肪腫の自然歴と手術適応に関する前方視的多施設共同調査—Japan COE-SB Top 7 Studyの調査開始報告一. *小児の脳神* 33(4): 414-417
11. 稲垣隆介, 山原崇弘, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 【二分脊椎の発生病態と予防および総合医療】異常肥厚終糸の組織学的検討. *小児の脳神* 33(1): 72-73
12. 吉村晋一, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 脳梗塞慢性期の抗血小板療法—当院におけるクロビドグレル (プラビックス) の使用経験一. *新薬と臨* 57(7): 1140-1146

#### 総 説

1. 河本圭司 (2008) サイトメトリーのパイオニア. *Cytometry Res* 18(2): 21-25
2. 河本圭司, 大石哲也, 大重英行, 川口琢也, 瀬野敏孝, 甄 云波, 李 一, 龍 新兵 (2008) 脳腫瘍病理診断のための電子顕微鏡学貢献. *顕微鏡* 43(4): 263-267

#### 症例報告

1. 大重英行, 三木一仁, 河本圭司 (2008) 画像でみる神経疾患 甲状腺眼症. *Clin Neurosci* 26(10): 1150-1151
2. 大重英行, 甄 云波, 沼 義博, 辻 雅之, 清

水俊樹, 河本圭司 (2008) chordoid meningioma の一例. *Neuro-Oncol* 17(1): 31-32

3. 吉村晋一, 上坂達郎, 武田純一, 木下 学, 浅井昭雄, 川口琢也, 櫻井靖夫, 河本圭司, 龍堯志, 小田恭弘 (2008) シロスタゾール(プレタール)投与中に症候性頭蓋内動脈狭窄の狭窄率の改善を認めた2例. *Prog Med* 28(5): 1330-1332

#### 学会発表

1. Kawamoto K and Long X (2008) Neuroimaging and pathology of the primary skull tumors. 2008 Guangzhou International symposium on the progress of the neural tumors, Guangzhou, China
2. Inagaki T and Kawamoto K (2008) The management of the patients with spina bifida. 1st Educational Course of Neurorehabilitation and Reconstructive Neurosurgery of WFNS Interim Meeting of International Society of Reconstructive Neurosurgery (ISRN) Educational Course of Asia Conference of Neurological Surgeons (ACNS), Indonesia
3. Inagaki T, Kawaguchi T, Yamahara T, Uesaka T, Takeda J, Kawamoto K and Kinoshita Y (2008) The management and the outcome of Intraventricular hemorrhage in babies with low birth weight. 36th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Capetown, South Africa
4. Yamanouchi Y, Yamahara T, Sakurai Y, Tsuda K, Numa Y and Kawamoto K (2008) Unilateral hydrocephalus caused by neuroepithelial cyst. 36th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery, Capetown, South Africa
5. Iwase M, Nakatani T, Maeda Y, Hirakawa A, Saito F, Takeda T and Kawamoto K (2008) Penetrating Craniofacial Injury by a Bicycle Umbrella Holder: A Case Report. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
6. Long X, Zhen Y, Li Y, Oishi T, Seno T, Oshige H and Kawamoto K (2008) Neuroimaging and pathology of primary hematopoietic tumors of the

- skull. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
7. Okii Y, Akane A, Kawamoto K, Iwase M, Yoshida M, Mitani T, Yoshimura S, Tokiyasu T and Kobayashi T (2008) The proof of flat-line scalp EEGs of brain death patients by an automatic EEG analysis system. 7th International Symposium, Advances in Legal Medicine, 大阪
  8. Inagaki T, Kawamoto K and Oi S (2008) The definition and classification of congenital hydrocephalus; a proposal based on personal experience. Hydrocephalus 2008, Hannover, Germany
  9. Kushida S, Takemoto T, Kakudo N, Uesaka T, Asai A and Kusumoto K (2008) Subperiosteal hematoma of the orbit with bone resorption. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  10. Inagaki T, Uesaka T, Takeda J and Kawamoto K (2008) The management of tethered spinal cord. 7th Asian Congress of Neurological Surgeons, Beijing, China
  11. Kawamoto K, Oshige H, Zhen Y, Li Y and Zhao S (2008) Analysis of cell cycle for the mechanism of antineoplastic agents in glioma. 7th Asian Congress of Neurological Surgeons, Beijing, China
  12. Zhen Y, Li Y, Oishi T, Oshige H, Yamahara T, Seno T, Kawaguchi T, Senba T, Numa Y and Kawamoto K (2008) Technical methods for light and electron microscopic observation of small amounts of sorted cells by FCM. 第18回日本サイトメトリー学会, 東京
  13. Kawamoto K, Li Q, Oshige H, Zhen Y, Yamahara T, Oishi T, Seno T, Kawaguchi T, Numa Y and Murakami T (2008) T-helper type 1/T-helper type 2 cytokines are produced in brain tumor cysts and are also implicated in cyst formation. XXIV International Congress, International Society for Analytical Cytology, Budapest, Hungary
  14. Zhen Y, Oishi T, Seno T, Kawaguchi T, Numa Y and Yoshimura S (2008) Embolization-induced apoptosis in meningiomas—immunohistochemical and ultrastructural study. 第26回日本脳腫瘍病理学会, 東京
  15. 田中智子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎, 金子一成, 山内康雄 (2008) 硬膜下膿瘍を合併した化膿性髄膜炎の1乳児例. 第180回大阪小児科学会, 大阪
  16. 稲垣隆介 (2008) 世界視野に見た水頭症研究: 日本の水頭症研究の実績—1950~2008年の文献7,000原著論文検索から—. 第1回日本水頭症脳脊髄液学会, 東京
  17. 松島貴志, 楠本健司, 稲垣隆介, 濱田吉則, 高田晃平 (2008) 結合双胎分離症例の経験. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  18. 高見浩数, 浅井昭雄, 上坂達郎, 武田純一, 大重英行, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 転移性脳腫瘍再発症例および認知症進行症例の検討—全脳照射への問題提起—. 第26回日本脳腫瘍学会, 愛媛
  19. 大重英行, 浅井昭雄, 高見浩数, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) Early pseudo-progression と考えられた glioma3 例の検討. 第26回日本脳腫瘍学会, 愛媛
  20. 稲垣隆介, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 前兆を伴う片頭痛様症状で発症した転移性脳腫瘍の一例. 第36回日本頭痛学会総会, 東京
  21. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 院外心肺停止例に対する体性感覚誘発電位を用いた脳機能予後予測. 第38回臨床神経生理学学会, 神戸
  22. 岩瀬正顕, 平川昭彦, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 三次救命センターにおける高齢者脊椎・脊髄損傷の現状. 第56回日本職業・災害医学会, 東京
  23. 河本圭司 (2008) シャレコーベの謎. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  24. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 川上勝弘, 沼 義博, 河本圭司 (2008) 頭皮・頭蓋骨欠損に対する治療—必然と再剣術の選択について—. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  25. 高見浩数, 浅井昭雄, 上坂達郎, 武田純一, 大重英行, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) One-Piece Orbitozygomatic Approach による脳腫瘍摘出7症例の検討. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  26. 沼 義博, 山原崇弘, 瀬野敏孝, 川口琢也, 山

- 内康雄, 河本圭司 (2008) 小脳血管芽腫の手術. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
27. 沼 義博, 山原崇弘, 大石哲也, 川口琢也, 瀬野敏孝, 櫻井靖夫, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) Glioblastomaは全摘できるか—剖検脳から細胞浸潤の検討—. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  28. 川口琢也, 津田 快, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 沼義博, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 三叉神経痛を呈する後頭蓋窩腫瘍に対する外科治療効果. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  29. 大重英行, 浅井昭雄, 高見浩数, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 下垂体腺腫における multiple staged operation に関する考察 (巨大下垂体腫瘍術後腫瘍内出血2例の経験から). 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  30. 大重英行, 浅井昭雄, 高見浩数, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 妊婦下垂体卒中に手術加療を行なった1例. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  31. 大石哲也, 沼 義博, 吉村晋一, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋骨に発生した稀な血管内皮腫の一例. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  32. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 高齢者脊椎・脊髄損傷の現状. 第36回日本救急医学会, 札幌
  33. 山原崇弘, 大石哲也, 川口琢也, 瀬野敏孝, 沼義博, 河本圭司 (2008) 悪性脳腫瘍の画像上の腫瘍周辺部における細胞浸潤—形態とFCMによる検討—. 第40回日本臨床分子形態学会, 博多
  34. 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 長期転帰からみた先天性水頭症の分類と治療方針. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  35. 高見浩数, 浅井昭雄, 上坂達郎, 武田純一, 大重英行, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 転移性脳腫瘍初期治療後再発症例および痴呆進行症例の検討—全脳照射への問題提起—. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  36. 山原崇弘, 沼 義博, 櫻井靖夫, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋内伸展のある鼻腔神経芽腫 (Kadish 分類 stageC) の手術戦略. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  37. 沼 義博, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 大石哲也, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 定位放射線照射後の腫瘍摘出術. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  38. 大重英行, 浅井昭雄, 高見浩数, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 下垂体腫瘍術後腫瘍内出血に関する検討 (3例の経験から). 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  39. 大石哲也, 川口琢也, 瀬野敏孝, 山原崇弘, 吉村晋一, 浅井昭雄, 林 宣秀, 中井國雄, 河本圭司 (2008) 脳動静脈奇形の成因に関する免疫組織学的検討—小児と成人例の比較—. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  40. 浅井昭雄, 吉村晋一, 武田純一, 上坂達郎, 高見浩数, 大重英行, 河本圭司 (2008) 前交通動脈瘤に対する fronto-orbital approach の有用性. 第67回社団法人日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  41. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による臨床試験. 第67回日本脳神経外科学会, 盛岡
  42. 吉村晋一, 武田純一, 上坂達郎, 高見浩数, 大重英行, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 急性期脳梗塞に対するT-PAの使用経験—現在の治療指針における疑問点—. 第67回日本脳神経外科学会総会, 盛岡
  43. 河本圭司 (2008) シャレコーベの文化. 薬業クラブ, 大阪
  44. 河本圭司 (2008) インカ文明の変形頭蓋骨. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
  45. 高見浩数, 稲垣隆介, 大重英行, 浅井昭雄, 高田晃平, 濱田吉則, 大橋 敦, 木下 洋, 金子一成, 河本圭司 (2008) 胎児診断された結合体の1例. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
  46. 山原崇弘, 山内康雄, 稲垣隆介, 河本圭司 (2008) 特異な血管走行を認めたSturge-Weber syndromeと診断された患児の一例. 第26回日

本こども病院神経外科医会, 大阪

47. 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 久徳茂雄, 三木一仁, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 軽度頭蓋縫合早期癒合症の手術適応. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
48. 川口琢也, 沼 義博, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 両側視覚路に沿って拡大した小児視神経膠腫の一例. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
49. 高見浩数, 大重英行, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 外傷性脂肪壊死と診断された眼窩内腫瘍の一例. 第68回近畿脳腫瘍研究会, 大阪
50. 山原崇弘, 沼 義博, 櫻井靖夫, 川口琢也, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋内伸展のある鼻腔神経芽腫 (Kadish分類stage C)の一例. 第68回近畿脳腫瘍研究会, 大阪
51. 川口琢也, 沼 義博, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 両側視覚路に沿って拡大した小児視神経膠腫の一例. 第68回近畿脳腫瘍研究会, 大阪
52. 李 一, 大重英行, 甄 云波, 山原崇弘, 大石哲也, 瀬野敏孝, 川口琢也, 河本圭司 (2008) 巨細胞性脳腫瘍における巨細胞についての多角的解析. 第26回日本ヒト細胞学会大会, 東京
53. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 岩瀬正顕, 辻 裕之, 山内康雄, 河本圭司, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子 (2008) 頭蓋底外科に関わる3つのチーム医療に参加して一頭蓋底外科における形成外科医の使命一. 第20回記念日本頭蓋底外科学会, 東京
54. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2008) Craniosynostosisの手術の適応と特に軽症例での考え方について. 第4回Craniosynostosis研究会, 大阪
55. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 心肺蘇生法一蘇生後のサポートと予後予測因子の検討. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京
56. 河本圭司, 山原崇弘, 大石哲也, 川口琢也, 瀬野敏孝, 沼 義博 (2008) 悪性脳腫瘍の画像上の腫瘍周辺部における細胞浸潤一形態とFCMによる検討一. 第18回日本サイトメトリ学会, 東京
57. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 椎骨動脈閉塞をきたした頸椎片側脱臼骨折の一例. 第23回日本脊髄外科学会, 宮城
58. 河本圭司 (2008) 脳腫瘍の病理. 第25回脳神経外科生涯教育研修会, 東京
59. 稲垣隆介, 河本圭司 (2008) 二分脊椎症に必要な神経発生. 第26回日本二分脊椎研究会, 名古屋
60. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 脊髄損傷に合併する反回神経麻痺の検討. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
61. 山原崇弘, 櫻井靖夫, 大石哲也, 川口琢也, 瀬野敏孝, 沼 義博, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) グリオブラストーマの画像上の腫瘍周辺部における細胞浸潤の検討. 第26回日本脳腫瘍病理学会, 東京
62. 大重英行, 辻 雅之, 清水俊樹, 沼 義博, 河本圭司 (2008) Chordoid meningioma 2例の検討. 第26回日本脳腫瘍病理学会, 東京
63. 津田 快, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 沼 義博, 山内康雄, 甄 云波, 河本圭司 (2008) 稀な転移性眼窩内カルチノイド腫瘍の一例. 第26回日本脳腫瘍病理学会, 東京
64. 稲垣隆介, 川口琢也, 上坂達郎, 武田純一, 依岡寛和, 笠松 敦, 神崎秀陽, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋, 河本圭司 (2008) 当院における中枢神経系奇形の診断の現状と問題点. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
65. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋拡大のための延長器の適応と限界について. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
66. 山原崇弘, 櫻井靖夫, 津田 快, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2008) Ependymal cystによるunilateral hydrocephalusの一症例. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
67. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 椎骨動脈閉塞をきたした頸椎片側脱臼骨折の1例. 第17回河内救急医療懇話会, 東大阪
68. 山原崇弘, 櫻井靖夫, 津田 快, 沼 義博, 山

- 内康雄, 河本圭司 (2008) Neuroepithelial cyst による unilateral hydrocephalus の一症例. 第55回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪
69. 櫻井靖夫, 津田 快, 山原崇弘, 大石哲也, 大重英行, 沼 義博, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋骨腫瘍が疑われたくも膜嚢胞型拡大性頭蓋骨骨折の1成人例. 第55回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪
70. 米田祥子, 村田紘未, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 杉本久秀, 神崎秀陽, 木下 学 (2008) 妊娠終了後自然消退した硬膜動静脈瘻合併妊娠の一例. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
71. 谷口久哲, 日浦義仁, 井上貴昭, 河源, 木下秀文, 松田公志, 吉村晋一 (2008) トルコ鞍空洞症による続発性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の1例. 第133回日本生殖医学会関西支部集談会/第36回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
72. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 虚血性脳卒中の急性期血栓溶解療法の効果について 正中神経刺激 SSEP による検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 京都
73. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 遠位中大脳動脈瘤 (M3) の破裂で発症した多発中大脳動脈瘤 (M1, M2, M3) の1例. 第33回日本脳卒中学会総会, 京都
74. 武田純一, 上坂達郎, 木下 学, 吉村晋一, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 担癌患者に発生した再発性脳梗塞 (特徴的な画像所見と臨床経過を示した2例). 第33回日本脳卒中学会総会, 京都
75. 吉村晋一, 上坂達郎, 武田純一, 木下 学, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) ガンマナイフ治療後に血管撮影上閉塞をみた脳動静脈奇形からの脳内出血に対する一手術例. 第37回日本脳卒中の外科学会, 京都
76. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 骨折を伴う頸椎片側脱臼に対する手術療法. 第57回近畿脊髄外科研究会, 大阪
77. 河 相吉, 岩田亮一, 河本圭司, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) FDG の大脳皮質所見を認めた Fahr 病の一例. 第108回核医学症例検討会, 大阪
78. 大重英行, 上坂達郎, 河本圭司, 瀬野敏孝, 中井三量, 三木一仁 (2008) 甲状腺眼症の神経画像診断-2例の考察. 第31回日本脳神経CI学会, 東京
79. 大重英行, 大石哲也, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 沼義博, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋骨外進展を認めた髄膜腫の画像的検討. 第31回日本脳神経CI学会, 東京
80. 大重英行, 津田 快, 山原崇弘, 櫻井靖夫, 沼義博, 山内康雄, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 経時的観察した兄弟発症 Fahr 病の画像的検討. 第31回日本脳神経CI学会, 東京
81. 大石哲也, 川口琢也, 山原崇弘, 大重英行, 吉村晋一, 岩瀬正顕, 浅井昭雄, 河本圭司 (2008) 脳動静脈奇形の成因に関する画像と免疫組織学的比較検討. 第31回日本脳神経CI学会, 東京
82. 木下 学, 吉村晋一, 武田純一, 上坂達郎, 浅井昭雄, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 脊髄動静脈瘻診断における CE-MRA の有用性. 第31回日本脳神経CI学会, 東京
83. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 頭蓋内出血を発症した慢性維持透析患者治療の動向と急性治療に関する問題. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
84. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 頸椎脱臼骨折を契機に発見された Forestier 病の1例. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
85. 岩田亮一, 鈴木聡史, 藤岡政行, 國澤亜以, 岸本真房, 富野敦稔, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 低血糖ストレス抵抗性であるヒト視床における低血糖昏睡後経時的MRI上の遅発性変化. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
86. 大重英行, 大石哲也, 櫻井靖夫, 沼 義博, 河本圭司, 田中一穂, 横山明嗣 (2008) 外傷性急性硬膜下血腫と考え手術し, 術後精査にて頭蓋内硬膜動静脈瘻 (dAVF) を認めた一例. 第14回日本脳神経外科救急学会, 東京
87. 大重英行, 浅井昭雄, 高見浩数, 上坂達郎, 武田純一, 吉村晋一, 河本圭司 (2008) 頸部筋

- 炎、靱帯炎に起因したと考えられた頸原性頭痛の一例。第36回日本頭痛学会総会，東京
88. 大石哲也，林 宣秀，中井國雄，河本圭司 (2008) 小児脳動静脈奇形の1例の免疫組織学的検討。第55回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会，大阪
89. 武田純一，上坂達郎，木下 学，吉村晋一，淺井昭雄，河本圭司 (2008) 耳鼻咽喉科にて内耳性めまいと診断，治療されたAICA症候群の1例。第55回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会，大阪
- 著 書
1. 神野哲夫，河本圭司 (2008) すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック 1-end, メディカ出版，吹田
2. 沖井 裕，河本圭司 (2008) トピックス 平坦脳波解析。すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック (日本脳神経外科救急学会編) 115頁，メディカ出版，吹田
3. 岩瀬正顕，河本圭司 (2008) 2章 検査と診断 トピックス 経静脈酸素飽和度。すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック 151頁，メディカ出版，吹田
4. 岩瀬正顕，河本圭司 (2008) 3章 緊急治療 外傷 2. 脊椎脊髓損傷 1) 全身管理。すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック 222-229頁，メディカ出版，吹田
5. 沼 義博，河本圭司 (2008) 3章 緊急治療 VI 脳腫瘍。すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック 296-300頁，メディカ出版，吹田

## 整形外科学講座

### 〈研究概要〉

### 〈基礎研究〉

#### 1. 自己免疫疾患

①我々はアロ全骨髄細胞移植を骨髄内に直接投与する「骨髄内骨髄移植法」により，様々な難治性自己免疫疾患モデルマウスの治療を行ってきた。SKG/JclマウスはT細胞シグナル伝達分子の点突然変異を持つマウスであり，滑膜炎や，骨・軟骨破壊がみられる関節リウマチのモデルマウスである。発症前のSKGマウスにアロ全骨髄細胞を骨髄内骨髄移植し，自己免疫疾患のより効果的な治療方法について報告した。これは炎発症後の生後2ヶ月齢の発症前のSKGマウスに，5 Gy×2回の放射線分割照射を行い，翌日にB6マウスの全骨髄細胞を脛骨内に直接投与した。未治療群では生後3ヶ月ごろより足関節の腫脹，発赤が認められたが，骨髄移植群では6ヶ月経過時においても関節炎症状は認められなかった。6ヶ月経過時の骨髄移植群の骨髄内，脾臓内，リンパ節内のリンパ球はドナー由来に置換され，すべての血球系の割合は正常マウスと同程度に回復していた。骨髄移植群の骨を3週間培養し，回収した接着細胞（ストローマ細胞）もすべてドナー由来に置換されていた。MLRを行った結果，骨髄移植群は自己であるB6およびSKGマウスにはトレランスを示し，また，サードパーティであるC3Hマウスには正常な反応を示した。SKGマウスに対し，正常な骨髄細胞を移植することにより，免疫抑制剤などを用いずに治療が可能であった。骨髄内骨髄移植はドナー由来の造血系幹細胞と間葉系幹細胞を同時に置換することが可能であり，その結果，骨免疫系を正常に回復することが可能でと考えられた。以上国内の学会に発表し，Autoimmunity:2009年にacceptされた。

②次に発症後SKG/Jclマウスに放射線照射を行い，B6マウスの全骨髄細胞を脛骨内に直接投与した。その結果，関節炎症状は改善した。また，未治療群では上昇する血中のTHF- $\alpha$ や関節液中のTNF- $\alpha$ は正常レベルまで改善していた。以上国内の学会に発表し，海外論文に投稿中である。

#### 2. 骨壊死疾患

ステロイドは様々な治療に必要な薬剤であるが，その合併症も多数報告されている。合併症のうち大

腿骨頭壊死は大きな問題であるが、今回、ステロイド誘発家兔骨壊死に対する骨髄細胞移植を用いた新しい治療法を開発した。

①ステロイド投与前の骨髄細胞を採取し、methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家兔骨壊死モデルの大腿骨に注入した。結果、大腿骨頭壊死発生率は約70%から0%へ減少していた。骨髄移植群の大腿骨内の骨髄細胞は活性化しており、VEGF染色陽性細胞やTunnel染色陽性細胞は非骨髄移植群に比べ有意に低下していた。

骨髄細胞を直接骨髄内に投与することにより骨髄内局所の活性化、骨髄細胞の脂肪変性抑制、さらに髄内圧の抑制が得られた結果、骨壊死を抑制することが可能と考えられた。さらに血中止血・凝固系も改善しており、ステロイドに暴露されていない骨髄細胞が血管内皮細胞に作用した可能性も考えられた。骨髄内骨髄移植はあらたな治療方法になりうると考えられた。以上国内の学会に発表し、Rheumatology:2008にacceptされた。

②ステロイド投与後骨髄細胞は変性し、骨壊死となる可能性がある。今回ステロイド投与後の骨髄細胞を1週間in vitroで培養し、methylprednisolone (MPSL: 20 mg/kg) を筋注により作成したステロイド誘発家兔骨壊死モデルの大腿骨に注入した。ステロイドを加えた骨髄細胞のBAP(骨型アルカリホスファターゼ)の活性化は1週間の培養によりほぼ正常値に回復していた。この回復した骨髄細胞をステロイド投与後家兔に投与したところ実験①と同様の結果を得た。

ステロイド投与後においてもリフレッシュした骨髄細胞をすることにより骨壊死発症の治療が可能であった。

以上国内の学会に発表し、Modern Rheumatology:2008にacceptされた。

### 3. 脊椎疾患

変性椎間板に対する治療として、動物モデルで椎間板内への遺伝導入やサイトカイン治療が報告され、良好な結果を示している。しかし、長期的な安全性については不明な点が多い。自己椎間板髄核細胞や間葉系幹細胞を用いた椎間板細胞も報告が散見されるが効果が不十分である。従来方法である吸引法で採取した新鮮全骨髄細胞の使用は、末梢リンパ球や赤血球が混入するため、特に椎間板内への使用を考えると、自己免疫反応を引き起こす可能性もあり、その使用は困難であった。今回我々は、末梢血の混入を防ぐことが可能な灌流式骨髄細胞採取法により採取した新鮮全骨髄細胞と椎間板髄核細胞を共培養し、椎間板髄核細胞への影響を検討した。Fisher344/slcラット雄を使用し、灌流法もしくは吸引法で採取した骨髄細胞と椎間板細胞を共培養した。新鮮全骨髄細胞は、培養された間葉系幹細胞に比べ、椎間板髄核細胞の細胞増殖能力と細胞外器質の合成能力を亢進させることが可能であった。また、椎間板細胞の増殖能力と細胞外器質の両方を活性化する因子の1つであるTGF- $\beta$ の産生量が全骨髄細胞群で、有意に亢進していた。培養された間葉系幹細胞に比べ、新鮮全骨髄細胞を用いることにより椎間板髄核細胞の高い活性化が得られた。さらに灌流法より採取した骨髄細胞は、自己免疫反応を引き起こす末梢血の混入が減少するため、直接椎間板内への注入が可能であると考えられた。以上国内の学会に発表し、海Orthopaedic Resach Society:2009にacceptされた。

### 4. 関節疾患

①前十字靭帯(ACL)損傷は高頻度にかかる外傷の一つであるが、自然治癒能力に乏しく再建術が一般に行われている。ACL不全断裂モデルラットを用いて膝関節内骨髄移植を行い、ACL損傷に対する骨髄移植の有効性の確立と靭帯再生のメカニズムを解析し、将来外科的手術の補助的手段の一翼を担う方法を開発する。

Fischerラットを用いてACL不全断裂モデルを作成。このラットに骨髄細胞、間葉系細胞を関節内に投与した。関節内投与後2週後にオートグラフ(SHIMADZU)による力学的評価と組織学的評価を行い、関節内サイトカインを測定した。ACL不全断裂モデルラットに対する膝関節内骨髄細胞移植は有効であり、

間葉系細胞移植に比して力学的強度は高かった。将来、骨髄細胞移植は外科の手術の簡便かつ安全な補助的手段となる可能性がある。以上国内の学会に発表した。

②アキレス腱損傷はスポーツ中のみならず日常生活でも生じやすい腱損傷の一つである。保存的加療では固定期間が長く、強度にも問題があるため手術加療が選択されることが多い。我々はアキレス腱断裂モデルラットを用いて断裂部に骨髄移植を行い、損傷部位に対する骨髄移植の有効性の確立と靭帯再生のメカニズムを解析した。

Fischerラットを用いてアキレス腱断裂モデルを作成。このラットに骨髄細胞、間葉系細胞を断裂部位に投与した。投与後1, 2, 4週後にオートグラフ (SHIMADZU) による力学的評価と組織学的評価を行った。またGrowth factorであるTGF- $\beta$ とVEGFを変化を特殊染色で評価した。さらに線維芽細胞、コラーゲンの変化を組織学的に評価した。その結果、アキレス腱断裂に対す骨髄細胞移植は有効であり、間葉系細胞移植に比して力学的強度は高かった。以上国内の学会に発表した。

## 〈臨床研究〉

### 1. 手の外科

手の外傷や後の機能回復には手術操作の重要性が第1に挙げられる。しかしながら、手術操作と同様に術後の機能回復訓練も重要な役割を担っている。我々は術後の機能訓練についてハンドセラピストと連携をとって治療を行っている。一方、腱の修復後の後療法の常番として長年の間、世界中で行われている「クライナート変法」は理論的には正しいが、問題点も残されている。

以前より我々はこの点に注目し、「クライナート変法」の問題点を改善すべくバイオメカニクスの観点からクライナート器具内での指の動作解析を行ったり、リハビリテーション外力下に発生する爪の変形の解析などを行い学会に発表した。

### 2. 電気生理診断学

電気生理学的手法を用いて、中枢・末梢神経を対象とした基礎的・臨床的研究を行ってきた。臨床面では術中脊髄モニタリングの臨床応用についての臨床的研究を行っている。特に従来誘発波が不安定なため臨床応用の障害となっていた経頭蓋電気刺激筋記録による運動誘発電位を用いたモニタリング法について、従来法に比し約5倍の振幅が得られる新たな刺激法を開発し実用化に向け研究中である。基礎的研究では、末梢神経有連続性損傷に対する端側吻合の原理を引用したbypass移植術の有用性、末梢神経端側吻合後の再生軸索の起源をウサギ腓骨神経損傷モデルを用いて証明し、国内外の末梢神経関連学会、雑誌に発表した。

### 3. 関節疾患

関節炎、関節症に対して、人工関節置換術、主にその術後成績を検討し学会発表、論文投稿を行ってきた。特に人工股関節では新しいインプラントの開発を行い、広く市場で使用されるようになった。全国から10数名の医師を対象に人工関節セミナーを年2回開催し、セメントテクニックや人工股関節手術手技の指導を行っている。また人工関節の成績や抗菌剤入りセメントの物性について研究、発表を行っている。膝関節においては、各種人工膝関節、単関節置換について症例を重ね学会発表を行っている。また、人工関節術後の緩みや感染に広範囲に骨欠損を認める場合、同種骨を併用し様々な角度からの再建を行っている。膝関節、股関節鏡視下手術も行い学会発表を行っている。(手術数は、人工股関節置換術270例/年、人工膝関節置換術160例/年)

### 4. 脊椎外科

枚方病院では、年間約150例の手術を行っている。その内、頸椎疾患は約1/3を占め、独自に開発した可能な限り筋肉と靭帯を温存した低侵襲椎弓形成術を行っている。その手術成績については、国内外の

学会で発表し、高い評価を受けている。その他、以前から行っている頸椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡を用いた後方からの摘出術、術後C5麻痺の発生日防に関する臨床的な追試と研究も継続的に行っている。約2/3を占める腰椎疾患では、顕微鏡を用いた片側進入除圧術による低侵襲手術を積極的に導入し、適応を広げ行っている。われわれの施設では2000年に本手術法をいち早く導入し、現在までに既に300例を超える症例に行っている。その手術の中期成績は *J. Neurosurg. Spine* 2008に掲載された。その他、顕微鏡を用い脊髄腫瘍を安全に摘出しており、近隣の病院から症例の紹介を受けている。特に顕微鏡下の脊椎手術を積極的に行ない、侵襲の少ない術式の開発に取り組んでいる。研究面では、引き続き新しい腰椎前方固定術式のバイオメカニカルな検討を行なっている。

## 5. 膝関節疾患

膝関節疾患は主にスポーツによる半月板、靭帯損傷と高齢化社会に伴って増加する変形性膝関節症で、前者に対しては最先端の内視鏡下の解剖学的な前十字靭帯再建術を行い、複雑な複合靭帯損傷に対しても高度な靭帯再建術を行っている。半月板は将来の変形性膝関節症への移行を減少させるため極力縫合による温存手術を行っている。変形性膝関節症に対しても、より低侵襲でより機能的な治療法を選択している。鏡視下手術から変形を矯正する骨切手術、単顆型人工関節置換術(UKA)、変形が高度な症例には全人工膝関節置換術(TKA)を行っている。TKAは日本でトップクラスの症例数をこなしており、より低侵襲な手術としてのUKAの症例数も増えている。またより正確な手術を行うためナビゲーション手術も行っているところである。各治療法については膝関節学会や人工関節学会(国内外)などで臨床評価を行っている。

### 〈研究業績〉

原著

1. Taniguchi S, Kimura J, Yamada T, Ichikawa H, Hara M, Fujisawa R, Shimizu H and Tani T (2008) Effect of motion imagery to counter rest-induced suppression of F-wave as a measure of anterior horn cell excitability. *Clin Neurophysiol* 119(6): 1346-1352
2. Sasai K, Umeda M, Maruyama T, Wakabayashi E and Iida H (2008) Microsurgical bilateral decompression via a unilateral approach for lumbar spinal canal stenosis including degenerative spondylolisthesis. *J Neurosurg Spine* 9(6): 554-559
3. Matsuya H, Kushida T, Asada T, Umeda M, Wada T and Iida H (2008) Regenerative effects of transplanting autologous mesenchymal stem cells on corticosteroid-induced osteonecrosis in rabbits. *Mod Rheumatol* 18(2): 132-139
4. Asada T, Kushida T, Umeda M, Oe K, Matsuya H, Wada T, Sasai K, Ikehara S and Iida H. (2008) Prevention of corticosteroid-induced osteonecrosis in rabbits by intra-bone marrow injection of autologous bone marrow cells. *Rheumatology*

(Oxford) 47(5): 591-596

5. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, おおえ賢一, 中村知寿 (2008) 髓外ガイドを用いたステム設置の評価. *Hip Joint* 34: 342-346
6. 吉田清和 (2008) DPC 導入と(急性期)リハビリテーション医療 アメリカの現状, 将来の日本. *Jpn J Rehabil Med* 45(5): 275-277
7. 沖井 明, 菅 俊光 (2008) 【後期高齢者はリハのメインターゲット】急性期病院でのリハストラテジー 大学病院では. *J Clin Rehabil* 17(12): 1141-1148
8. 吉田宗人, 川上 守, 赤木繁夫, 飯田寛和, 岩崎幹季, 小田剛紀, 植田百合人, 高倉義典, 大和田哲雄, 金 明博, 阿部宗昭, 中村博亮, 高岡邦夫, 細野 昇, 吉川秀樹, 松田英樹, 松村文典, 浜西千秋, 和田英路, 大阪・奈良・和歌山脊柱管狭窄症研究会 (2008) 腰痛・歩行障害を訴える患者の大規模実態調査報告(第三報) —腰部脊柱管狭窄症と他の腰椎疾患との比較検討. *医のあゆみ* 225(6): 533-541
9. 市川宜弘, 串田剛俊, 梅田真志, 松矢浩暉, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 慢性化膿性骨髄炎に合併した扁平上皮癌の1例. *整・災外* 51(8): 1099-1103

10. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, 大野博史, 大村直人, 澤田 敏 (2008) 股関節関節唇損傷の診断と治療 関節唇損傷のMR関節造影. 整・災外 51(4): 407-414
11. 齋藤貴徳, 串田剛俊, 今田直紀, 小串むつみ, 小川浩司, 谷川暢之 (2008) 【脊髄機能モニタリングの最近の進歩】体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリング. 整・災外 51(3): 251-260
12. 若林 英 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 脊椎術後の硬膜外血腫. 整外看 (2008 春季増刊): 228-230
13. 丸山東勲 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 脊椎術後の髄液漏. 整外看 (2008 春季増刊): 226-227
14. 若林 英 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 頸椎前方固定術後の脱転. 整外看 (2008 春季増刊): 222-225
15. 児島 新 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! コンパートメント症候群. 整外看 (2008 春季増刊): 217-221
16. 丸山東勲 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 脊椎術後の神経麻痺. 整外看 (2008 春季増刊): 212-216
17. 和田孝彦, 加藤充孝, 仲西千春, 松井菜津子, 林えりか, 足立由香里, 中島せい子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える 整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 脱臼. 整外看 (2008 春季増刊): 206-211
18. 和田孝彦, 井上尚美, 岡 紗妃, 宮崎和代, 小篠千明, 足立由香里, 中島せい子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える 整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 感染 (SSI). 整外看 (2008 春季増刊): 199-205
19. 和田孝彦, 住岡 薫, 弘田利恵, 増田朋子, 村井ちひろ, 尾島由美, 中島せい子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える 整形外科ナースの必須看護技術】合併症や急変への対応 合併症の基礎知識と予防法・対処法を身につけよう! 深部静脈血栓症 (DVT). 整外看 (2008 春季増刊): 192-198
20. 若林 英, 中島せい子, 尾島由美, 住岡 薫, 岡田 修, 増田朋子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える 整形外科ナースの必須看護技術】整形外科特有のケア 装具装着時のケアができるようになろう! ハローブレース. 整外看 (2008 春季増刊): 178-181
21. 若林 英, 中島せい子, 坪倉涼子, 岡田 修, 里見亜矢子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】整形外科特有のケア 装具装着時のケアができるようになろう! カラー. 整外看 (2008 春季増刊): 173-177
22. 小室 元, 山中真味, 淵上 望, 坪倉涼子, 中島せい子 (2008) 【見てわかる→すぐ使える整形外科ナースの必須看護技術】整形外科特有のケア 装具装着時のケアができるようになろう! ニーブレース (膝固定装具). 整外看 (2008 春季増刊): 169-172
23. 若林 英, 中島せい子, 福本祥代, 奥山光代, 坪倉涼子, 岡田 修, 井口 彩 (2008) 【見てわかる→すぐ使える 整形外科ナースの必須看護技術】整形外科特有のケア 装具装着時のケアができるようになろう! コルセット. 整外看 (2008 春季増刊): 165-168
24. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2008) N16遠隔電場電位の起源に関する検討. 脊髄機能診断 29(1): 105-110
25. 松矢浩暉, 串田剛俊, 齋藤貴徳, 足立 崇, 石原昌幸, 飯田寛和 (2008) 10歳代で発症した腰椎椎間板ヘルニア例の検討. 中部整災誌 51(5): 971-972
26. おおえ賢一, 串田剛俊, 梅田真志, 浅田 卓, 飯田寛和 (2008) 膝関節内骨髄移植方法を用

いた前十字靭帯不全損傷に対する次世代靭帯修復方法の可能性. 中部整災誌 51(5): 879-880

27. 串田剛俊, 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 市川宜弘, 飯田寛和 (2008) 関節リウマチ患者における骨粗鬆症と骨代謝改善薬の開始時期の検討. 中部整災誌 51(5): 857-858
28. 吉川尚孝, 飯田寛和 (2008) 当院でのXa阻害薬 (フォンダパリヌクス) による下肢人工関節手術後の抗血栓療法の実験. 中部整災誌 51(5): 1025-1026
29. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, 大野博史, おおえ賢一 (2008) 股関節における関節唇損傷の造影MRIについて. 中部整災誌 51(4): 723-724
30. 上田祐輔, 徳永裕彦, 市川宜弘, 松矢浩暉, 齋藤貴徳 (2008) 当科における人工股関節置換術後の在院日数短縮への試み クリニカルパスの変更を通して. 中部整災誌 51(4): 627-628
31. 石田 響, 串田剛俊, 梅田真志, 笹井邦彦, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 頸椎椎弓形成術, 周術期合併症の検討. 中部整災誌 51(3): 509-510
32. 石原昌幸, 齋藤貴徳, 市岡直也, 足立 崇, 松矢浩暉, 飯田寛和 (2008) 手根管症候群にたいするmotor point刺激による伝導速度測定. 中部整災誌 51(3): 485-486
33. 足立 崇, 齋藤貴徳, 市岡直也, 松矢浩暉, 石原昌幸, 飯田寛和 (2008) 大胸筋により生じた胸郭出口症候群の診断と術後成績. 中部整災誌 51(3): 483-484

## 総 説

1. 菅 俊光 (2008) 【呼吸・循環障害のリハビリテーション】呼吸リハビリテーションの実際 胸部・腹部手術前後. J Clin Rehabil (別冊呼吸・循環障害のリハビリテーション): 156-163
2. 沖井 明, 菅 俊光 (2008) 【回復期リハ リスクを超えて取り組もう!】呼吸器疾患があっても行う回復期リハ・アプローチ. J Clin Rehabil 17(7): 649-657
3. 吉田清和 (2008) 症例から学ぶ 新しい痙縮の治療 オーバービュー: アメリカでの痙縮

治療の現状と課題. J Clin Rehabil 17(11): 1038-1041

4. 大野博史 (2008) 【キーワードでカンタン理解 整形外科疾患の病態生理と術前術後ケア】膝関節 病態生理 半月板損傷. 整外看 (2008 秋季増刊): 197-203
5. 吉田清和 (2008) 海外の地域リハビリテーションの実状—発症から在宅支援まで アメリカの地域リハビリテーションの現状. 地域リハ 3(12): 1134-1137

## 学会発表

1. Oe K and Iida H (2008) Salmonella septic arthritis following total knee arthroplasty for rheumatoid arthritis in a patient receiving etanercept. a case report. The 21st Annual Congress of the International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA2008), Seoul, Korea
2. 吉田清和 (2008) Fibromyalgia; Its Diagnosis and Pharmacological Treatment. 30th Annual Meeting of the Bioelectromagnetics Society, San Diego
3. 岡本尚史, 串田剛俊, 飯田寛和, 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿 (2008) 強直股関節を合併した大腿骨転子下骨折の1症例. 第35回日本股関節学会, 大阪
4. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, 大野博史, おおえ賢一, 中村知寿, 浅田 卓 (2008) 股関節唇損傷の造影MRによる診断と鏡視下部分切除術の治療成績. 第35回日本股関節学会, 大阪
5. 加茂智裕, 飯田寛和, 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 浅田 卓 (2008) Surgical dislocation にて治療した大腿骨頭に発生した良性軟骨芽細胞腫の2例. 第35回日本股関節学会, 大阪
6. 松矢浩暉, 徳永裕彦, 上田祐輔, 飯田寛和 (2008) 当科におけるS-ROMセメントレスシステムを用いた両側同時人工股関節置換術の成績. 第35回日本股関節学会, 大阪
7. 中村知寿, 飯田寛和, 和田孝彦, 加藤充孝, 吉川尚孝 (2008) 人工股関節術後白蓋前方における腸腰筋腱炎の治療経験. 第35回日本股関節学会, 大阪

8. 飯田寛和 (2008) 股関節治療雑感. 第35回日本股関節学会, 大阪
9. 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2008) Triple taper polished stem 周囲の骨量変化の検討. 第35回日本股関節学会, 大阪
10. 飯田寛和 (2008) 私の治療方針と機種選択. JMM Hip Forum 2008, 宮崎
11. 飯田寛和 (2008) 臼蓋形成術による臼蓋形成不全の治療. 第36回日本関節病学会, 神戸
12. 大森美和子, 瀧上 望, 林えりか, 諏訪照美, 清水由紀子, 小室 元 (2008) 転倒による大腿骨頸部骨折予防対策—ヒッププロテクター装着条件の検討—. 第3回医療の質・安全学会, 東京
13. 梅田眞志, 若林 英, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2008) 第10胸椎に発生した動脈瘤様骨嚢腫の1例. 第422回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
14. 飯田寛和 (2008) 人工股関節再置換術の手法とPitfall. 第5回関節外科懇話会, 福井
15. 飯田寛和 (2008) 股関節外科学40年の進歩と課題. 京都運動器疾患フォーラム, 京都
16. 小室 元, 大森美和子, 瀧上 望, 林えりか, 諏訪照美, 清水由紀子 (2008) 転倒による大腿骨頸部骨折予防対策—ヒッププロテクター装着条件の検討—. 第10回日本骨粗鬆症学会, 大阪
17. おおえ賢一, 大野博史, 小室 元, 飯田寛和 (2008) 人工膝関節術における深屈曲縫合後の膝蓋骨アライメントと術後可動域の関係. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
18. 岡本尚史, 串田剛俊, おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) アキレス腱断裂ラットモデルにおける局所骨髄移植による再生治療の効果. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
19. 串田剛俊, 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 谷 陽一, 飯田寛和 (2008) 高齢者の腰椎変性すべり症に対するSEXTANT systemを用いたTLIFの有効性. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
20. 坂井田稔, 丸山東勲, 池田一博 (2008) 透折患者の大腿骨頸部病的骨折の1例. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
21. 市川宜弘, 串田剛俊, 足立 崇, 石原昌幸, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 胸椎黄色靱帯骨化症に対する片側進入両側除圧術の術後成績. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
22. 若林 英, 笹井邦彦, 梅田眞志, 丸山東勲, 飯田寛和 (2008) 頸椎症性脊髄症に対する頸半棘筋とC7棘突起を温存した椎弓形成術. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
23. 松矢浩暉, 徳永裕彦, 上田祐輔, 飯田寛和 (2008) 当科におけるS-ROMセメントレスステムを用いた人工股関節再置換術の成績. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
24. 石原昌幸, 串田剛俊, 足立 崇, 松矢浩暉, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 再発により再手術を施行した胸椎部脊髄ヘルニアの1例. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
25. 石田 響, 宮島茂夫, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2008) 当院における人工膝関節置換術後感染の治療経験. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
26. 足立 崇, 串田剛俊, 齋藤貴徳, 石原昌幸, 谷陽一, 飯田寛和 (2008) 腰椎術後神経症状を呈した硬膜外血腫4例の治療経験. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
27. 谷 陽一, 齋藤貴徳, 串田剛俊, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2008) 手術を施行した平山病の1例. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
28. 梅田眞志, 笹井邦彦, 若林 英, 丸山東勲, 飯田寛和 (2008) 頸椎椎弓形成術に使用したHASペーサー周囲の骨癒合. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
29. 齋藤貴徳 (2008) 最近の小侵襲腰椎固定術の光と陰. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
30. 齋藤貴徳, 串田剛俊, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 谷 陽一 (2008) X-tubeを用いた腰椎の除圧・固定術. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
31. 齋藤貴徳, 串田剛俊, 足立 崇, 石原昌幸, 谷陽一 (2008) Dynamization rodを用いたPLIF. 第111回中部日本整形外科災害外科学会, 金沢
32. 齋藤貴徳, 串田剛俊, 足立 崇, 石原昌幸, 谷陽一 (2008) A new approach of spinal fusion

- using Dynamization rod. 第17回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, 名古屋
33. おおえ賢一, 串田剛俊, 梅田眞志, 浅田 卓, 飯田寛和 (2008) 膝関節内骨髄細胞移植方法を用いた前十字靭帯不全損傷ラットモデルの治療効果と次世代靭帯修復方法の可能性. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都
  34. 岡本尚史, 串田剛俊, 浅田 卓, 飯田寛和 (2008) 骨髄内骨髄移植を用いた発症後 SKG/Jc1 マウス(関節リウマチモデル)の新しい治療方法. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都
  35. 串田剛俊, 浅田 卓, 梅田眞志, おおえ賢一, 岡本尚史, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 関節リウマチ性骨粗鬆症 (SKG/Jc1 マウス) に対する骨髄内骨髄移植を用いた予防効果の検討. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都
  36. 浅田 卓, 串田剛俊, 梅田眞志, おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) 骨髄内骨髄幹細胞移植を用いたステロイド誘発家兎骨壊死に対する予防効果. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都
  37. 梅田眞志, 串田剛俊, 笹井邦彦, 浅田 卓, おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) 新鮮全骨髄細胞を用いた椎間板再生の検討. 第23回日本整形外科学会基礎学術集会, 京都
  38. 小室 元 (2008) ヒッププロテクターの力学的性能条件の検討. 第5回日本転倒予防学会, 東京
  39. 小室 元, 中島せい子, 清水由紀子 (2008) 高齢者大腿骨頸部骨折予防の新たなヒッププロテクター開発経過. 第5回日本転倒予防学会, 東京
  40. 大森美和子, 瀧上 望, 林えりか, 諏訪照美, 清水由紀子, 小室 元 (2008) 転倒による大腿骨頸部骨折予防対策—ヒッププロテクター装着条件の検討—. 第5回日本転倒予防学会, 東京
  41. 大野博史 (2008) 人工膝関節術後 MRSA 感染の一例. 第1回天の川骨・関節感染症研究会, 門真
  42. 若林 英, 笹井邦彦, 梅田眞志, 飯田寛和 (2008) 胸椎に発生した動脈瘤様骨嚢腫の1例. 第30回脊椎外科を学ぶ会, 大阪
  43. 小林穂高, 杉本博是, 菅 俊光, 田中智子, 岡本真道, 石崎優子, 鈴川純子, 荒木 敦, 高屋淳二, 谷内昇一郎 (2008) 咳症状を欠き, 診断と治療に苦慮した誤嚥による化膿性胸膜炎. 第35回大阪小児呼吸器談話会, 大阪
  44. 井上 豪, 徳永裕彦, 上田祐輔, 串田剛俊, 松矢浩暉, 齋藤貴徳, 濱田 彰 (2008) アルコール多飲歴を有する多発性骨壊死に対し両大腿骨回転骨切り術及び両脛骨高位骨切り術を行った一例. 第421回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
  45. 飯田寛和 (2008) 股関節の関節唇損傷. 第8回西播磨整形外科医会, 姫路
  46. 飯田寛和 (2008) 棚形成術による臼蓋形成不全の治療. 第17回近整会夏期研究会, 西宮
  47. 若林 英, 笹井邦彦, 梅田眞志, 飯田寛和 (2008) 胸椎に発生した動脈瘤様骨嚢腫の1例. 第41回脊椎外科同好会, 群馬
  48. 梅田眞志, 笹井邦彦, 若林 英, 飯田寛和 (2008) 頸椎棘突起に発生した腫瘍の1例. 第41回脊椎外科同好会, 群馬
  49. 小室 元, 菅 俊光, 佐々木万弓, 吉田清和, 飯田寛和 (2008) 高齢者大腿骨頸部骨折を予防する新しいヒッププロテクターの開発. 日本褥創学会, 神戸
  50. 飯田寛和 (2008) 股関節治療雑感. 北海道臨床整形外科医会, 札幌
  51. 畔 熱行, 王 毅彪, 堀尾 修, 鈴木健司, 谷川暢之, 日原正勝, 松島貴志, 楠本健司 (2008) 関節欠損を伴った再接着症例. 第27回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
  52. 谷 陽一 (2008) 手術を施行した平山病の一例. 天の川整形外科, 枚方市
  53. おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) 当科での感染人工関節置換術に対する治療成績. 第31回日本骨・関節感染症学会, 水戸
  54. 大野博史, 飯田寛和, 戸口田淳也 (2008) 膝関節近傍に発生した骨巨細胞腫の再々発例に対する治療経験. 第33回日本膝関節学会学術集会, 東京
  55. 加茂智裕, 児島 新, 浅田 卓, 飯田寛和 (2008) プレート骨接合に伴いチタンインプラントの部分破損を生じた4例. 第34回日本骨折治療学会, 福岡

56. 池浦 淳, 児島 新, 飯田寛和, 植村芳子 (2008) 生後7ヶ月の乳児に発生した肘部仮性動脈瘤の一例. 第420回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
57. 佐々木万弓, 小室 元, 藤本宗徳, 中尾光孝, 沖井 明, 柴田斉子, 菅 俊光, 飯田寛和, 吉田清和 (2008) 下腿義足における健側ミラーイメージによる外観形状再現方法の検討. 第45回日本リハビリテーション医学会, 横浜
58. 佐々木万弓, 小室 元, 藤本宗徳, 中尾光孝, 沖井 明, 柴田斉子, 菅 俊光, 飯田寛和, 吉田清和 (2008) 下腿義足における皮膚色の新しい再現方法の検討. 第45回日本リハビリテーション医学会, 横浜
59. 小室 元, 菅 俊光, 佐々木万弓, 吉田清和, 飯田寛和 (2008) 虚弱高齢者の転倒骨折予防の対策—新しいヒッププロテクターの装着感の検討—. 第45回日本リハビリテーション医学会, 横浜
60. 小室 元, 菅 俊光, 佐々木万弓, 吉田清和, 飯田寛和 (2008) 高齢者大腿骨頸部骨折を予防する新しいヒッププロテクターの開発. 第45回日本リハビリテーション医学会, 横浜
61. 菅 俊光, 沖井 明, 柴田斉子, 佐々木万弓, 吉田清和 (2008) 下肢運動リハビリテーションシステム. 第45回日本リハビリテーション医学会, 横浜
62. 吉田清和 (2008) 膝関節拘縮—超音波による評価・病態解明・予後. 第45回日本リハビリテーション医学会総会, 横浜
63. おおえ賢一, 和田孝彦, 加藤充孝, 中村知寿, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2008) 強直股関節に対する人工関節置換術の治療経験. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
64. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, おおえ賢一, 中村知寿 (2008) 人工股関節置換術後の脱臼. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
65. 笹井邦彦, 梅田眞志, 丸山東勲, 若林 英, 飯田寛和 (2008) 腰椎変性すべり症に対する顕微鏡下片側進入両側除圧術の手術成績とX線学的変化: 2年以上経過例の後ろ向き比較検討. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
66. 小室 元, 飯田寛和, 植田勝彦, 中島聖子, 見寺貞子 (2008) 乳幼児モデルを用いた高齢者大腿骨頸部骨折の再現—転倒骨折のバイオメカニクス—. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
67. 和田孝彦 (2008) バンコマイシン混入骨セメントの特性—力学的強度と気孔率の検討—. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
68. 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2008) 成人化膿性股関節炎に対して行ったTHAの治療成績. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
69. 齋藤貴徳 (2008) 体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリングの有用性の検討. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
70. 齋藤貴徳 (2008) 体性感覚誘発電位による梨状筋症候群の診断と術後成績. 第81回日本整形外科学会学術総会, 札幌
71. 飯田寛和 (2008) 人工股関節置換術の合併症—その予防と治療—. 山梨整形外科合同カンファレンス, 甲府
72. 大野博史 (2008) 膝の痛み. 市民公開講座 (枚方病院), 枚方
73. おおえ賢一, 串田剛俊, 梅田眞志, 浅田 卓, 飯田寛和 (2008) 膝関節内骨髄移植方法を用いた前十字靭帯不全損傷に対する次世代靭帯修復方法の可能性. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
74. 加藤充孝, 児島 新, 飯田寛和 (2008) 右下肢に生じた多発性神経症腫の1例. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
75. 加藤充孝, 和田孝彦, 大野博史, おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) 股関節における関節唇損傷の造影MRIについて. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
76. 吉川尚孝, 中村知寿, 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) 当院でのXa阻害薬 (フォンダパリヌクス) による下肢人工関節手術後の抗血栓療法の実験. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
77. 串田剛俊, 宮島茂夫, 市川宜弘, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 関節リウマチ患者における骨粗鬆症と骨代謝改善薬の開始時期の検討. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
78. 若林 英, 笹井邦彦, 丸山東勲, 飯田寛和, 赤

- 木繁夫 (2008) 頸椎砂時計腫の外科的治療. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
79. 松矢浩暉, 齋藤貴徳, 足立 崇, 石原昌幸 (2008) 10才代で発症した腰部椎間板ヘルニア例の検討. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
80. 上田祐輔, 徳永裕彦, 市川宜弘, 松矢浩暉, 齋藤貴徳 (2008) 当科における人工股関節置換術後の在院日数短縮への試み クリニカルパスの変更を通して. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
81. 谷川暢之, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 腸骨採取後の生じた *meralgia paraesthetica* の1例. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
82. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2008) Sextant を用いた小侵襲 TLIF. 第110回中部日本整形外科災害外科学会, 大津
83. 笹井邦彦, 梅田眞志, 丸山東勲, 若林 英, 飯田寛和 (2008) 腰椎変性すべり症に対する顕微鏡下片側進入両側除圧術の手術成績と X 線学的変化: 2年以上経過例の後ろ向き比較検討. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京
84. 梅田眞志, 串田剛俊, 笹井邦彦, 飯田寛和 (2008) ラット椎間板髄核細胞の新鮮全骨髄細胞との共培養下における活性化の検討. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京
85. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 谷陽一, 中川琢磨, 小川浩司 (2008) Dynamyzation rod を用いた後方進入椎体間固定術. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京
86. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸, 谷陽一, 飯田寛和, 笹井邦彦 (2008) 体性感覚誘発電位と経頭蓋電気刺激筋誘発電位を用いた術中脊髄機能モニタリングの有用性の検討. 第37回日本脊椎脊髄病学会, 東京
87. 児島 新, 飯田寛和, 吉川尚孝, 菅 俊光, 中村誠也 (2008) 外力による爪の動態観察 (Kleinert法改善への基礎研究). 第51回日本手の外科学会, つくば
88. 児島 新, 飯田寛和, 森裕之, 中村誠也, 岡村泰三 (2008) マレット骨折の治療経験 (閉鎖的骨螺子固定法). 第51回日本手の外科学会, つくば
89. 谷川暢之, 中村誠也, 齋藤貴徳 (2008) 中手骨頸部骨折に対する経皮的ピンニング法の工夫. 第51回日本手の外科学会, つくば
90. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 谷川暢之, 飯田寛和 (2008) 腕神経叢損傷に対する横隔神経移行による肘屈曲再建術後の横隔膜機能の電気生理学的検討. 第51回日本手の外科学会, つくば
91. おおえ賢一, 和田孝彦, 大野博史, 小室 元, 串田剛俊, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2008) 関節リウマチに対する Etanercept 投与中に発症した人工膝関節置換術後サルモネラ菌感染の1例. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
92. 宮島茂夫, 和田孝彦, 串田剛俊, 小室 元, 市川宜弘, 飯田寛和, 尾崎吉郎, 孫 珠洙, 安室秀樹, 嶋元佳子, 伊藤量基 (2008) 関節リウマチに対するタクロリムスの使用経験. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
93. 串田剛俊, 宮島茂夫, 市川宜弘, おおえ賢一, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 骨髄内骨髄移植による SKG/Jclマウスの関節リウマチ性骨粗鬆症の治療方法. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
94. 市川宜弘, 宮島茂夫, 串田剛俊, 齋藤貴徳, 濱田 彰 (2008) 関節リウマチ (RA) に対する非拘束型人工肘関節 (KUDO elbow) を用いた人工肘関節置換術の中期成績. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
95. 小室 元, 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 和田孝彦 (2008) クラミジア腸炎に合併した膝関節炎の一例. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
96. 和田孝彦, 尾崎吉郎, 小室 元, 嶋元佳子 (2008) 関節リウマチ患者におけるエタネルセプトの骨代謝への効果. 第52回日本リウマチ学会総会, 札幌
97. 宮島茂夫, 和田孝彦, 串田剛俊, 小室 元, 市川宜弘, 飯田寛和, 尾崎吉郎, 孫 瑛洙, 安室秀樹, 嶋元佳子, 伊藤量基 (2008) 関節リウマチに対するタクロリムスの使用経験. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
98. 小室 元, 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 和田孝彦 (2008) クラミジア腸炎に合併した膝関節炎の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
99. 尾崎吉郎, 嶋元佳子, 安室秀樹, 孫 瑛洙, 小

- 室 元, 伊藤量基, 和田孝彦, 福原資郎 (2008) 重篤な肝障害と高サイトカイン血症に対して血漿交換が奏功した成人発症スティル病の一例. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
100. 和田孝彦, 尾崎吉郎, 小室 元, 嶋元佳子 (2008) 関節リウマチ患者におけるエタネルセプトの骨代謝への効果. 第52回日本リウマチ学会総会・学術集会, 札幌
101. 石原昌幸, 足立 崇, 松矢浩暉, 串田剛俊, 齋藤貴徳, 飯田寛和 (2008) 再発により再手術を施行した胸椎部脊髄ヘルニアの1例. 第419回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
102. 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 足立 崇, 石原昌幸 (2008) N16 遠隔電場電位の起源と至適記録部位の検討. 脊髄機能診断研究会, 東京
103. 吉田清和 (2008) 米国リハ医療における筋・骨格・神経疾患と痛みの管理. 第22回日本リハ医学会中部・東海地方会, 名古屋
104. おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) KTプレート併用人工股関節置換術の中期成績. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
105. おおえ賢一, 和田孝彦, 加藤充孝, 岡本尚史, 中村知寿, 徳永裕彦, 飯田寛和 (2008) 強直股関節に対する人工関節置換術の治療成績と問題点. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
106. 岡本尚史, 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2008) 当科におけるK-MAX HS-3 型ステムを使用したセメント人工股関節置換術の短期臨床成績の検討. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
107. 岡本尚史, 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和, 植村芳子, 鷹巢晃昌, 大江知里 (2008) 皮下吸収系(VICRYL)が原因と考えられる両側THA後に発症した縫糸膿瘍2症例. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
108. 加藤充孝, 和田孝彦, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2008) 人工股関節置換術後の脱臼. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
109. 小室 元, 大野博史, おおえ賢一, 飯田寛和 (2008) 当科における人工膝単顆置換術の適応の再検討. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
110. 松矢浩暉, 徳永裕彦, 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) アナトミック人工股関節の長期成績. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
111. 足立 崇, 齋藤貴徳, 松矢浩暉, 石原昌幸, 飯田寛和 (2008) 人工膝関節術後に発症したFabella症候群. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
112. 大野博史, 小室 元, 宮島茂夫, 飯田寛和 (2008) Hi Flex インサートを用いたGenesis2人工膝関節置換術の短期臨床成績. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
113. 中村知寿, 吉川尚孝, 岡本尚史, おおえ賢一, 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) 当院でのXa阻害薬(フォンダパリヌクス)使用による合併症の経験. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
114. 徳永裕彦, 松矢浩暉, 宮島茂夫, 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) S-ROM人工股関節の術後成績. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
115. 飯田寛和 (2008) MIS THAに対する私見. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
116. 飯田寛和 (2008) Current Concepts of Cemented Total Hip Arthroplasty. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
117. 和田孝彦, 加藤充孝, おおえ賢一, 中村知寿, 飯田寛和 (2008) Triple taper polished stem (C-stem) の短期成績. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
118. 和田孝彦, 飯田寛和 (2008) バンコマイシン混入骨セメントの特性—力学的強度の気孔率の検討—. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
119. 齋藤貴徳, 徳永裕彦, 足立 崇, 宮島茂夫, 松矢浩暉, 石原昌幸, 飯田寛和 (2008) 股関節術後に発症した梨状筋症候群. 第38回日本人工関節学会, 沖縄
120. 飯田寛和 (2008) C-CTEM挿入のコツとPitfall—チャンレーコンセプトからC-CTEMへの歩み—. Intelligent Surgery Summit in 滋賀, 大津
121. 鑄谷敏夫, 橋谷 実, 梶野弘毅, 市岡直也 (2008) 咽後腫瘍と鑑別を要したRetropharyngeal tendinitisの1例. 第418回整形外科集談会京阪神地方会, 大阪
122. Komuro H (2008) A Report on a Visit to France Report on a Visit to France. 第13回日仏整形外科合同会議, 東京

## 著 書

1. 吉田清和 (2008) リハビリテーション患者デー

タバンク (DB) の開発に関する研究 UDSMR (Uniform Data System for Medical Rehabilitation) システムの概要. 厚生労働科学研究費補助金 疾病・障害対策研究分野 長

寿科学総合研究 平成 19 (2007) 年度 リハビリテーション患者データバンク (DB) の開発 (近藤克則編) 36-39頁, 厚生労働省, 東京

## 形成外科学講座

### 〈研究業績〉

原著

1. Kakudo N, Shimotsuma A, Miyake S, Kushida S and Kusumoto K (2008) Bone tissue engineering using human adipose-derived stem cells and honeycomb collagen scaffold. *J Biomed Mater Res A* 84(1): 191-197
2. Kakudo N, Kusumoto K, Takemoto T, Tanaka Y, Kurokawa I and Ogawa Y (2008) Dumbbell-formed lipomas under the zygomatic arch. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 61(1): 107-110
3. Kakudo N, Minakata T, Mitsui T, Kushida S, Notodihardjo FZ and Kusumoto K (2008) Proliferation-promoting effect of platelet-rich plasma on human adipose-derived stem cells and human dermal fibroblasts. *Plast Reconstr Surg* 122(5): 1352-1360
4. 覚道奈津子, 鈴木健司, 櫛田哲史, 楠本健司 (2008) ヒト脂肪組織由来幹細胞の分離と脂肪・骨・軟骨への分化—幹細胞の供給源としての脂肪組織—. *関西医大誌* 59(2-4): 169-176
5. 覚道奈津子, 下間重由子, 楠本健司, 小川豊 (2008) 過去 19 年間に経験した基底細胞癌の臨床統計学的検討. *日形会誌* 28(4): 245-252

総説

1. 楠本健司 (2008) 【皮膚腫瘍 外来治療のコツ】黄色腫, 汗管腫. *PEPARS* (21): 70-77
2. 楠本健司 (2008) 【外科系医師のための『創傷外科』update】創傷外科各論 特殊な原因による創傷 医原性創傷. *形成外科* 51(増刊): S223-S228
3. 楠本健司 (2008) 【耳介変形の治療update】耳介変形の分類と治療. *形成外科* 51(7): 745-

754

4. 國吉京子, 山本一郎, 楠本健司 (2008) 【口蓋裂二次修正術】口蓋裂術後の諸問題とその解決 言語治療の観点から. *形成外科* 51(12): 1383-1390

症例報告

1. 大西早百合, 福田 智, 井口有子, 三宅ヨシカズ, 久徳美樹, 三井秀也, 楠本健司 (2008) 糖尿病性足壊疽に対する maggot debridement therapy(MDT)の1例. *形成外科* 51(5): 583-588
2. 鈴木健司, 南方竜也, 三宅省吾, 覚道奈津子, 楠本健司 (2008) 逆行性広背筋皮弁を利用した胸椎部褥瘡の1例. *褥瘡会誌* 10(4): 542-545
3. 三宅ヨシカズ (2008) 仙骨部褥瘡に対する手術後ドレッシング, 体位変換に関する一工夫. *褥瘡会誌* 10(4): 556-560

学会発表

1. Kakudo N, Kushida S, Suzuki K and Kusumoto K (2008) Regeneration of adipose tissue by transplantation of human adipose-derived stem cell. The 6th Annual Meeting of the International Federation for Adipose Therapeutics and Science, Toulouse, France
2. 櫛田哲史, 覚道奈津子, Frederik Zefanya Notodihardjo, 鈴木健司, 楠本健司 (2008) Effects of the combined use (PRP-F) of PRP and FGF-2 on the growth of human adipose tissue-derived stem cells and human fibroblasts. The 6th Annual Meeting of the International Federation for Adipose Therapeutics and Science, Toulouse, France
3. フレデリック・ゼファニャ, 覚道奈津子, 鈴木健司, 櫛田哲史, 楠本健司 (2008) Bone formation with BMP-2 and/or hydroxyapatite at

- rat calvarial full-thick defect. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
4. Kakudo N, Minakata T, Mitsui T, Kushida S, Notodiharjo FZ and Kusumoto K (2008) Proliferation-promoting effect of PRP on human ASCs and DFs. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  5. Kurooka S, Watanabe N, Kato A and Kusumoto K (2008) A dermoid cyst penetrating the temporal bone. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  6. Kushida S, Takemoto T, Kakudo N, Uesaka T, Asai A and Kusumoto K (2008) Subperiosteal hematoma of the orbit with bone resorption. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  7. Minakata T, Kusumoto K, Shimotsuma A, Matsushima T, Fukuda S and Onishi S (2008) Two cases of idiopathic orbital inflammation. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  8. Mitsui T, Shimotsuma A, Suzuki K, Horio O, Minakata T, Kakudo N, Miyake S and Kusumoto K (2008) Analysis of orbital tumors for ten years in K.M.U. hospital. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  9. Suzuki K, Horio O, Minakata T, Kakudo N, Kuro A, Ogura T and Kusumoto K (2008) "Z-lid-incision" approach for zygoma fracture reduction. The XIXth Congress of the European Association for Cranio-Maxillofacial Surgery, Bologna, Italy
  10. 黒岡定浩 (2008) A Dermoid Cyst Penetrating the Temporal Bone into the Intra-Cranial Space under the Temporal Muscle. 第9回日韓形成外科学会, 沖縄
  11. 三宅ヨシカズ (2008) The Treatment with PRP(Platelet-Rich Plasma) for Pressure Ulcer Pocket. 第9回日韓形成外科学会, 沖縄
  12. 日原正勝 (2008) Reconstruction with Flaps for Wide Full-Thick Defect Including the Nasal Ala. 第9回日韓形成外科学会, 沖縄
  13. 南方竜也, 鈴木健司, 堀尾 修, 覚道奈津子, 畔 熱行, 小倉常敬, 楠本健司 (2008) 四肢外傷患者に対するPRP(多血小板血漿)の使用経験. 第1回日本創傷外科学会総会・学術集会, 東京
  14. 櫛田哲史, 覚道奈津子, 楠本健司 (2008) ヒト線維芽細胞に対するPRPとFGF-2の併用添加時の相乗効果. 第38回日本創傷治癒学会, 東京
  15. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 富野祐里, 楠本健司 (2008) 当センターでのマゴット(無菌ウジ)を使用した難治性下腿潰瘍治療の現状と問題点. 第38回日本創傷治癒学会, 東京
  16. 福田 智, 三宅ヨシカズ, 富野祐里, 楠本健司 (2008) AQUACEL Agの使用経験. 第38回日本創傷治癒学会, 東京
  17. 伊藤文人, 田中義人, 夏山ゆず子 (2008) 睫毛を温存した睫毛乱生の治療. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  18. 奥野涼子, 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 米本由美子 (2008) "Reading Man" flap 7例の経験. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  19. 光井俊人, 久徳美樹 (2008) 摘出術後に確認された比較的大きな残存異物の5例. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  20. 笹尾卓史, 森 雄大, 畔 熱行, 楠本健司 (2008) 指骨骨癒合不全にPRPを併用した1例. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  21. 松島貴志, 楠本健司, 稲垣隆介, 濱田吉則, 高田晃平 (2008) 結合双胎分離症例の経験. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  22. 田中伸子, 田辺敦子, 山本純, 奥きくお, 大野博司, 俵 望, 加川隆三郎, 野村英明 (2008) フルニエ壊疽の2症例とフルニエ壊疽と鑑別を要した1症例の経験. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  23. 日野沙衣子, 竹本剛司, 楠本健司 (2008) 足底に発生した腱鞘巨細胞腫の1例. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
  24. 堀尾 修, 畔 熱行, 鈴木健司, 田中保子, 楠

- 本健司 (2008) Expanded LDMC flap を用いて再建した足部デグロウピング損傷の1例. 第91回日本形成外科学会関西支部学術集会, 京都
25. 鈴木健司, 南方竜也, 覚道奈津子, 櫛田哲史, 大西早百合, 井口有子, 三宅省吾, 楠本健司, 福田 智, 三宅ヨシカズ, 富野祐里 (2008) 多血小板血漿 (PRP) を用いた難治性潰瘍. 褥瘡の新しい治療. 第32回大阪府医師会医学会総会, 大阪
  26. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋, 奥野涼子, 井上唯史 (2008) 岸和田市民病院における再接着術の統計と術後管理の工夫について. 第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟
  27. 仲野雅之, 松島貴志, 楠本健司, 日原正勝, 三宅良平, 畔 熱行 (2008) 骨髄炎に対する遊離筋皮弁移植における工夫. 第35回日本マイクロサージャリー学会学術集会, 新潟
  28. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 川上勝弘, 沼義博, 河本圭司 (2008) 頭皮・頭蓋骨欠損に対する治療—必然と再創術の選択について—. 第13回日本脳腫瘍の外科学会, 大阪
  29. 覚道奈津子, 櫛田哲史, 楠本健司 (2008) ヒト脂肪組織由来幹細胞の移植による脂肪組織再生. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
  30. 覚道奈津子, 南方竜也, 光井俊人, 櫛田哲史, Frederik Zefanya Notodihardjo, 楠本健司 (2008) Platelet-Rich Plasma (多血小板血漿) によるヒト脂肪組織由来幹細胞とヒト線維芽細胞に対する細胞増殖効果. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
  31. 櫛田哲史, 覚道奈津子, Notodihardjo Frederik Zefanya, 鈴木健司, 楠本健司 (2008) PRP と FGF-2 の併用 (PRP-F) によるヒト脂肪組織由来幹細胞およびヒト線維芽細胞の増殖効果. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
  32. 櫛田哲史, 覚道奈津子, 楠本健司 (2008) ヒト線維芽細胞に対する PRP と FGF-2 の併用添加時の相乗効果. 第17回日本形成外科学会基礎学術集会, 東京
  33. 伊藤文人, 田中義人, 夏山ゆず子 (2008) 瞼板に着目した老人性眼瞼下垂内反症治療. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  34. 笠井千尋, 久徳茂雄, 大谷一弘, 奥野涼子, 米本由美子, 三木正毅 (2008) われわれの行っている涙嚢鼻腔吻合術について—過去11年間 One flap DCR 60例の検討—. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  35. 櫛田哲史, 堀尾 修, 秋岡二郎, 楠本健司 (2008) LeClerc変法 (V字切痕法) による習慣性顎関節脱臼の治療. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  36. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 富野祐里, 楠本健司 (2008) バルーンカテーテルを用いた眼窩内上壁骨折に対する治療経験. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  37. 三宅省吾, 田中保子, 楠本健司 (2008) インプラント体が上顎洞内に迷入した1例. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  38. 畔 熱行, 鈴木健司, 國吉京子, 伊藤文人, 楠本健司 (2008) X染色体長腕と14番染色体長腕の均衡型相互転座46, X, t(X;14)(q26;q24)症例の軟口蓋裂治療の経験. 第26回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 盛岡
  39. 國吉京子, 城本修, 木戸直博, 一色信彦 (2008) カニユレ抜去困難症の小児の音声習得. 第53回日本音声言語医学会総会・学術講演会, 三原
  40. 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 久徳茂雄, 三木一仁, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 軽度頭蓋縫合早期癒合症の手術適応. 第26回日本こども病院神経外科医会, 大阪
  41. 松島貴志 (2008) 指尖部損傷における当科の治療戦略. 第29回大阪形成外科医会総会, 大阪
  42. 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子, 山本文平, 永田佳子, 北川智美, 河崎一久, 小野由美 (2008) 当院におけるポケットを利用した褥瘡治療. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 神戸
  43. 笠井千尋, 大谷一弘, 久徳茂雄, 奥野涼子, 東森倫子, 加藤裕子, 佐藤美香, 北野らん子, 狩谷佳寛 (2008) 4度褥瘡から大腿骨頭切除を余儀なくされた2例. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 神戸
  44. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 加藤裕子, 佐藤美香, 北野らん子, 中村 彩 (2008) 急性期病院での「持ち出し」褥瘡と病

- 診連携について. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 神戸
45. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 富野祐里, 井口有子, 楠本健司 (2008) 脊損後の対麻痺患者に対する褥瘡治療～患者のQOLを考えて. 第10回日本褥瘡学会学術集会, 神戸
  46. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 岩瀬正顕, 辻 裕之, 山内康雄, 河本圭司, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子 (2008) 頭蓋底外科に関わる3つのチーム医療に参加して～頭蓋底外科における形成外科医の使命～. 第20回記念日本頭蓋底外科学会, 東京
  47. 畔 熱行, 王 毅彪, 堀尾 修, 鈴木健司, 谷川暢之, 日原正勝, 松島貴志, 楠本健司 (2008) 関節欠損を伴った再接着症例. 第27回大阪マイクロサージャリー研究会, 大阪
  48. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2008) Craniosynostosis の手術の適応と特に軽症例での考え方について. 第4回Craniosynostosis研究会, 大阪
  49. 久徳美樹, 松島貴志, 北澤康秀, 富野敦稔, 菅豊明 (2008) 過去2年の熱傷患者の統計－形成外科・救急医学科の連携を中心に－. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋
  50. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 松浪勝俊, 市川耕一, 梅井菜央, 松尾吉郎 (2008) 熱傷外科治療における院内チーム医療の必要性について. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋
  51. 仲野雅之, 松島貴志, 菅 豊明, 楠本健司 (2008) 尺骨神経麻痺を伴った前腕ヒートプレス損傷の一例. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋
  52. 田中保子, 鈴木健司, 楠本健司 (2008) 過去10年間の当院での小児熱傷についての検討. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋
  53. 山下理絵, 松尾由紀, 安斎浩子, 唐仁原陽子, 蔦 幸子 (2008) 美容医学でのアンチエイジング治療: UP DATE. 第8回日本抗加齢医学会総会, 東京
  54. 松尾由紀, 山下理絵, 蔦 幸子, 矢沢慶史, 安斎浩子, 唐仁原陽子 (2008) 眉毛ケアによるアンチエイジング効果. 第8回日本抗加齢医学会総会, 東京
  55. 井口有子, 松島貴志, 菅 豊明, 三宅良平, 楠本健司 (2008) 血管付き遊離神経移植にて尺骨神経再建を行った2例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  56. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 富野祐里, 大久保修和, 加藤雅明, 楠本健司 (2008) 他院他科との連携による重症虚血肢治療. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  57. 三宅省吾, 田中保子, 堀尾 修, 鈴木健司 (2008) 糖尿病性足趾壊死に対してPRP治療を行った一例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  58. 山本 純, 田辺敦子, 田中伸子, 奥毅公雄 (2008) 真皮脂肪移植術の3症例の検討. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  59. 小倉常敬, 堀尾 修, 南方竜也, 覚道奈津子, 畔 熱行, 鈴木健司, 楠本健司 (2008) 臍ケロイドの一例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  60. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋, 奥野涼子, 大槻文悟 (2008) 膝下外傷の4例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  61. 田中義人, 伊藤文人, 藤井ゆず子 (2008) 静脈外膜囊腫様の形態を示したガングリオンの一例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  62. 田中伸子, 笹尾卓史, 森 雄大, 大島 茂, 楠本健司 (2008) 再発を繰り返し治療に難渋したBCCの一例. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  63. 富野祐里, 福田 智, 三宅ヨシカズ (2008) AQUACEL Agの使用経験. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  64. 國吉京子, 楠本健司, 鈴木健司, 一色信彦 (2008) 軽度鼻咽腔閉鎖機能不全に対するチューブ発声指導－構音時頭部X線規格撮影計測による軟口蓋運動の検討－. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  65. 國吉京子, 楠本健司, 一色信彦 (2008) 軽度鼻咽腔閉鎖機能不全に対するチューブ発声指導－構音時頭部X線規格撮影計測による軟口蓋運動の検討－. 第32回日本口蓋裂学会総会・

学術集会, 広島

66. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 瀬野敏孝, 稲垣隆介, 山内康雄, 河本圭司 (2008) 頭蓋拡大のための延長器の適応と限界について. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
67. 長尾靖子, 荒木 敦, 金子一成, 國吉京子, 楠本健司 (2008) 自閉症スペクトラム診断までの期間短縮の試みと診断後の児の経過. 第50回日本小児神経学会総会, 東京
68. 覚道奈津子, 小川 豊, 下間亜由子, 楠本健司 (2008) 基底細胞癌の再発例について一特に再発危険因子としての組織型の検討一. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
69. 久徳美樹, 松島貴志, 菅 豊明, 南方竜也, 仲野雅之 (2008) 再建外科医が携わるチーム医療のあり方と問題点. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
70. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子, 魚川亨資, 佐藤正人, 六尾 哲, 葛西健一郎 (2008) 小児血管奇形の治療方針一とくに頭頸部, 四肢病変について一. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
71. 櫛田哲史, 田辺敦子, 笹尾卓史 (2008) 過去3年間の当院における動物咬傷の統計. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
72. 三宅ヨシカズ, 福田 智, 井口有子, 楠本健司 (2008) しわに対するPRP (多血小板血漿) 注入の効果と評価. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
73. 三宅良平, 竹本剛司, 菅 豊明, 井上唯史, 中邨智之, 楠本健司 (2008) 背部弾性線維腫の2症例およびその分子生物学的検討. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
74. 大西早百合, 久徳美樹, 松島貴志, 伊藤文人, 田中義人, 藤井ゆず子, 楠本健司 (2008) 出血制御に難渋した半身静脈性血管奇形例. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
75. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋, 奥野涼子, 加藤裕子, 佐藤美香 (2008) 地方都市急性期型病院における創傷治療センターの役割と方向～当院で直面した問題とその対処の経験～. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
76. 田中義人, 伊藤文人, 藤井ゆず子 (2008) 当院4年間における脂肪腫の統計. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
77. 畔 熱行, 松島貴志, 楠本健司, 王 毅彪, 日原正勝 (2008) 複合組織移植を要した再接着症例の検討. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
78. 福田 智, 三宅ヨシカズ, 井口有子, 楠本健司 (2008) 当院の創傷治療センターで進めている難治性潰瘍・褥瘡に対する治療体系と医療体系. 第51回日本形成外科学会総会・学術集会, 名古屋
79. 南方竜也, 鈴木健司, 下間亜由子, 堀尾 修, 加藤典子, 振角明恵 (2008) 弾性ストッキングによる下肢褥瘡について. 第5回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会, 大阪
80. 覚道奈津子, 小川 豊, 鈴木健司, 下間亜由子, 楠本健司 (2008) 関西医科大学形成外科における眼瞼部基底細胞癌の検討一20年間の統計的観察一. 第19回眼瞼・義眼床手術研究会, 京都
81. 大谷一弘, 久徳茂雄, 笠井千尋, 法師山至, 高山弘平 (2008) 眼瞼脂腺癌拡大切除後再発の2例. 第19回眼瞼・義眼床手術研究会, 京都
82. 福田 智, 三宅ヨシカズ, 井口有子, 大久保修和, 加藤雅昭, 楠本健司 (2008) 当科における抹消血管虚血性下腿潰瘍に対する治療方針. 第1回マゴットセラピー症例検討会, 岡山
83. 久徳美樹, 三宅良平, 田中保子, 富野敦稔, 北澤康秀 (2008) “児童虐待”が疑われた家庭における熱傷児の治療. 第16回日本熱傷学会近畿地方会, 奈良
84. 久徳茂雄, 大谷一弘, 笠井千尋, 松浪勝俊, 市川耕一, 梅井菜央, 松尾吉郎 (2008) 広範囲熱傷治療における病病連携の必要性, 問題点と課題～3例の治療経験から～. 第16回日本熱傷学会近畿地方会, 奈良
85. 藤井ゆず子, 田中義人, 伊藤文人 (2008) 消防活動中のアルカリ製剤による化学損傷の1例. 第16回日本熱傷学会近畿地方会, 奈良

## 皮膚科学講座

## 〈研究業績〉

原著

1. Kawachi Y, Xu X, Taguchi S, Sakurai H, Nakamura Y, Ishii Y, Fujisawa Y, Furuta J, Takahashi T, Itoh K, Yamamoto M, Yamazaki F and Otsuka F (2008) Attenuation of UVB-induced sunburn reaction and oxidative DNA damage with no alterations in UVB-induced skin carcinogenesis in Nrf2 gene-deficient mice. *J Invest Derm* 128(7): 1773-1779
2. Adachi Y and Horio T (2008) Chronic actinic dermatitis in a patient with adult T-cell leukemia. *Photodermatol Photoimmunol Photomed* 24(3): 147-149

総説

1. 岡本祐之, 上津直子 (2008) 【光アレルギー】日光蕁麻疹. *アレルギーの臨* 28(7): 545-551
2. 岡本祐之 (2008) シリカ肉芽腫とサルコイドーシス. *サルコイドーシス* 28(1): 80

症例報告

1. 藤川彩香, 水野可魚, 北條友里子, 山本典雅, 岡本祐之 (2008) 【肉芽腫症】四肢の筋病変, 高カルシウム血症, そう痒を伴う苔癬様型皮疹を生じたサルコイドーシスの1例. *皮膚臨床* 50(9): 1069-1072
2. 大江秀一, 為政大幾, 梅原真紀子, 野田佳織, 岡本祐之, 坂井田紀子 (2008) 乳児線維性過誤腫 fibrous hamartoma of infancy の1例. *日小児皮会誌* 27(2): 209-212
3. 加藤典子, 為政大幾, 山本典雅, 大貫雅子, 岡本祐之, 堀尾 武 (2008) 悪性黒色腫の膀胱転移の1例. *皮の科* 7(2): 226-229
4. 加藤典子, 為政大幾, 大貫雅子, 松村康洋, 岡本祐之, 堀尾 武 (2008) 皮膚子宮内膜症の2例. *皮の科* 7(2): 205-208
5. 北條友里子, 水野可魚, 加藤典子, 藤川彩香, 岡本祐之 (2008) 先天性股関節変形症の術後に下肢に生じた脈管肉腫の1例. *皮膚臨床* 50(7): 911-914
6. 野田佳織, 山崎文和, 水野可魚, 岡本祐之, 藤

井弘史 (2008) 【膝の皮膚病】臨床例 人工血管周囲膿瘍. *皮膚診療* 30(9): 995-998

7. 谷村裕嗣, 杉原 昭, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) 【人名のついた皮膚病】臨床例 Basedow病 匙状爪により発見された例. *皮膚診療* 30(12): 1373-1376

学会発表

1. 太田安紀, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) Blue rubber-bleb syndrome. 日中合同皮膚科学術会議, 杭州 (中国)
2. 光井千慧, 水野可魚, 岡本祐之, 立花暉夫 (2008) C型肝炎に対するインターフェロン治療が誘因となったサルコイドーシス. 第59回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋
3. 曾和三恵子, 水野可魚, 岡本祐之, 小倉睦美 (2008) プドウ膜炎と顔面の丘疹を伴った再発性多発性軟骨炎の1例. 第59回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋
4. 大江秀一, 為政大幾, 野田佳織, 谷村裕嗣, 北條友里子, 岡本祐之 (2008) 原発不明悪性黒色腫の1例. 第59回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 名古屋
5. 井上和加子, 水野可魚, 山崎文和, 岡本祐之 (2008) 塩酸ミノサイクリンの投与に連動してけっせいAEC値, リゾチーム値の低下と臨床症状の軽快を認めたサルコイドーシス. 第60回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 福岡
6. 谷村裕嗣, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) 尋常性乾癬とサルコイドーシスを併発した2例. 第23回日本乾癬学会, 旭川
7. 光井千慧, 為政大幾, 太田 馨, 岡本祐之 (2008) 背部弾性線維腫の2例. 第409回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
8. 岩阪浩志, 山崎文和, 太田安紀, 加藤典子, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) 皮膚症状より診断し得たPOEMS症候群の一例. 第72回日本皮膚科学会頭部支部学術大会, 秋田
9. 松尾智央, 為政大幾, 藤川彩香, 白木美保, 岡本祐之 (2008) 右母趾顆粒細胞腫の1例. 大101回近畿皮膚科集談会, 神戸
10. 谷村裕嗣, 大江秀一, 為政大幾, 岡本祐之

- (2008) 悪性抹消神経腫瘍に1例. 第24回日本皮膚悪性腫瘍学会, 岐阜
11. 岩阪浩志, 為政大幾, 岡本祐之 (2008) 中央部にSyrbgocystacelenocarcinoma papilliferumを認めた乳房外paget病の1例. 第24回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 岐阜
  12. 藤川彩香, 太田 馨, 為政大幾, 岡本祐之, 大江知里, 植村芳子, 伊藤健人 (2008) 小児の前腕に生じた顆粒細胞腫の1例. 日本小児皮膚科学会, 東京
  13. 光井千慧, 為政大幾, 岡本祐之 (2008) Acne keloidalisの一例. 第407回大阪地方会, 大阪
  14. 岩阪浩志, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) 唾石症の1例. 第407回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪
  15. 加藤典子, 杉原 昭, 岡本祐之 (2008) 足底に生じた基底細胞癌の1例. 第107回日本皮膚科学会総会学術大会, 京都
  16. 谷村裕嗣, 杉原 昭, 山崎文和, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) 菌状息肉症に対する紫外線療法に再発した水疱性類天疱瘡. 第107回日本皮膚科学会総会学術大会, 京都
  17. 藤川彩香, 太田 馨, 大江秀一, 岡本祐之 (2008) 潰瘍性大腸炎をともなった全身に多発した壊疽性膿皮症. 第107回日本皮膚科学会総会学術大会, 京都
  18. 大澤 学, 大江秀一, 為政大幾, 岡本祐之 (2008) 眼瞼に生じ皮角様の外観を呈した汗孔腫の1例. 第406回大坂地方会, 大阪
  19. 谷村裕嗣, 山崎文和, 水野可魚, 岡本祐之 (2008) Unilateral nevoid telangiectasiaの1例. 第406回大阪地方会, 大阪
  20. 南方竜也, 鈴木健司, 下間亜由子, 堀尾 修, 加藤典子, 振角明恵 (2008) 弾性ストッキングによる下肢褥瘡について. 第5回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会, 大阪
  21. 松尾智央, 速水淳史, 為政大幾, 植村芳子, 寺嶋 亨, 岡本祐之 (2008) 圧痛を伴ったAngiomatoid fibrous histiocytomaの1例. 第405回大阪地方会, 大阪

#### 著 書

1. 岡本祐之, 山崎文和, 水野可魚 (2008) 光免疫. 1冊でわかる光皮膚科: 皮膚科医に必須のPhotodermatology (森田明理, 宮地良樹, 清水宏編) 40-43頁, 文光堂, 東京

## 泌尿器科学講座

### 〈研究業績〉

原 著

1. Kuroda N, Sakaida, N, Kinoshita H, Matsuda T, Hes O, Michal M, Okamoto S, Nagashima Y and Tanaka Y (2008) Carcinosarcoma arising in mixed epithelial and stromal tumor of the kidney. APMIS 116(11): 1013-1015
2. 木下秀文, 松田公志 (2008) 腹腔鏡下膀胱摘除術 Laparoscopic Partial Cystectomy. Jpn J Endourol ESWL 21(2): 110-116
3. 小角幸人, 高原史郎, 奥山明彦, 勝岡洋治, 上田陽彦, 仲谷達也, 山口誓司, 江左篤信, 金卓, 植村天受, 石井徳味, 秋山隆弘, 松田公志 (2008) 大阪府で行われた腎移植に関する実態調査. 大阪透析研会誌 26(2): 241-252
4. 巴ひかる, 加藤久美子, 大口尚基, 武井実根雄, 児玉浩一, 関口由紀, 嘉村泰邦, 井上裕美 (2008) Monarcを使用したTOT(transobturator tape)手術に関する前向き多施設共同研究. 日排尿機能会誌 19(2): 228-233
5. 松田公志 (2008) 泌尿器腹腔鏡手術の基本手技. 日本泌尿器科学会 2008年 卒後教育テキスト 13(1): 243-247
6. 河 源 (2008) LOH 症候群および男性更年期障害診療の実際. 日本泌尿器科学会 2008年卒後教育テキスト 13(1): 144-148
7. 河 源, 谷口久哲, 木下秀文, 松田公志, 浦上昌也, 榎木 勇 (2008) 健康中年男性におけるテストステロンとADAMおよびAMS質問紙の妥当性に関する検討. 日泌会誌 99(5): 645-651
8. 井上貴昭, 佐藤仁彦, 森井英一, 松田公志 (2008) 陰茎に発生した神経鞘腫の1例. 泌紀 54(8): 569-572

9. 田岡利宜也, 島田 治, 北村悠樹, 岡添 誉, 谷口 進, 常森寛行, WU Xiuxian, 乾 政志, 杉元幹史, 笥 善行 (2008) 前立腺全摘除術前後の排尿機能の変化:高齡女性との比較を交えて. 泌紀 54(11): 717-722

### 総 説

1. 河 源, 谷口久哲, 松田公志 (2008) 【家庭医のためのメンズ・ヘルス読本】ライフステージごとのアプローチ 男性更年期障害. JIM 18(2): 144-148
2. 松田公志, 伊藤直樹, 川喜田睦司, 繁田正信, 三股浩光 (2008) 腎盂尿管癌に対する腹腔鏡下腎尿管摘除術のガイドライン. Jpn J Endourol ESWL 21(1): 25-35
3. 山本奈恵, 松田公志 (2008) 【副腎腫瘍Update】副腎骨髄脂肪腫の診断と手術適応 自然史を含めて. Urol View 6(6): 106-109
4. 松田公志 (2008) 【日本の内分泌外科発展のために】日本の内分泌外科発展のために 泌尿器科領域の立場から. 内分泌外科 25(4): 222-226
5. 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 【腎癌に対する腎部分切除術の検証】根治と低侵襲を目指した術式の追究 腹腔鏡下腎部分切除術. 泌外 21(11): 1493-1498
6. 六車光英, 松田公志 (2008) 男性不妊症に対するマイクロサージェリー精管再建術. 臨泌 62(8): 551-556

### 症例報告

1. Kohei N, Kinoshita H, Kamoto T, Terai A, Kakehi Y and Ogawa O (2008) Late relapse of testicular cancer 21 years after first complete remission: a case report. 泌紀 54(1): 39-42
2. 津田雅庸, 足立 靖, 新宅 洋, 下戸 学, 矢西正明, 高木孝士, 西田晃久, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌の1剖検例. 診断病理 25(4): 298-302
3. 杉 素彦, 矢西正明, 島田 治, 川喜多繁誠, 室田卓之, 四方伸明 (2008) ホルモン療法中にNeuroendocrine differentiationをきたし脳幹, 眼窩, 舌根部に転移を認めた前立腺癌の1例. 泌紀 54(5): 373-376

4. 井上貴昭, 六車光英, 福井勝也, 地崎竜介, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2008) 対側停留精巣と同側腎無形成を伴った中腎管遺残の1例. 泌紀 54(4): 309-312
5. 谷口久哲, 六車光英, 日浦義仁, 井上貴昭, 河原, 木下秀文, 松田公志, 吉村晋一 (2008) トルコ鞍空洞症に伴った後天性ゴナドトロピン性 性腺機能低下症の1例. 泌紀 54(12): 791-793

### 学会発表

1. Mishima T, Watanabe M, Oguchi N, Kawa G, Kinoshita H and Matuda T (2008) Urinary retention after laparoscopic prostatectomy: relations between the date of removing the catheter and retention rate. 11th World Congress of Endoscopic Surgery, Yokohama
2. Matsuda T, Ono Y, Baba S, Iwamura M, Terachi T, Naito S, Hattori R and Elspeth M McDugal (2008) Positive correlation between motion analysis data on the lapmentor virtual reality laparoscopic surgical simulator and the results from video tape assessment of real laparoscopic surgeries. AUA Annual Meeting, orlando florida, USA
3. Matsuda T (2008) The endoscopic surgical skill qualification system in urological laparoscopy: A novel system in Japan. 2nd international Urology Forum Meeting-Clinical Based Urology, inter-laken, Swiss
4. 秦健一郎, 河 源, 谷口久哲, 三島崇生, 矢西正明, 増田朋子, 大口尚基, 木下秀文, 松田公志, 飯田寛之, 杉 素彦, 地崎竜介 (2008) 骨盤骨折と契機として発症した難治性骨盤内脳腫の1例. 第205回日本泌尿器科学会関西西地方会, 大阪
5. 堀越幹人, 駒井資弘, 福井勝也, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 室田卓之, 四方伸明 (2008) 左腎癌摘除後, 大腸転移を認めた1例. 第205回日本泌尿器科学会関西西地方会, 大阪
6. 西田幸代, 木下秀文, 三島崇生, 谷口久哲, 矢西正明, 増田朋子, 大口尚基, 河 源, 松田公志 (2008) 前立腺全摘標本でいわゆる insignificant cancer であった症例の生検および臨床

- 所見に関する臨床的検討. 第24回前立腺シンポジウム, 東京
7. 松田公志 (2008) 手術の傷が小さく回復が早い～泌尿器科での腹腔鏡手術～. テレビドクター第1696回, 録画=大阪
  8. 齊藤朋人, 竹越一博, 馬庭知弘, 金田浩由紀, 南健一郎, 坂井田紀子, 植村芳子, 河 源, 山本奈恵, 松田公志, 齊藤幸人 (2008) 術後7年目に肺転移を認めた SDHB 遺伝子変異陽性パラガングリオーマの一例. 第1回臨床副腎フォーラム, 枚方
  9. 岡村菊夫, 長谷川友紀, 田中良典, 川喜多繁誠, 住吉義光, 服部良平, 荒井陽一, 松田公志, 内藤誠二 (2008) DPC データに基づく根治的前立腺摘除術 (RP) 周術期管理のベンチマーク. 第22回Endourology-ESWL学会総会, 大阪
  10. 河 源, 三島崇生, 谷口久哲, 増田朋子, 大口尚基, 木下秀文, 松田公志 (2008) DMSA腎シンチグラフィからみた動脈阻血による腹腔鏡下腎部分切除における腎機能の変動. 第22回Endourology-ESWL学会総会, 大阪
  11. 河 源, 西田幸代, 井上貴昭, 矢西正明, 増田朋子, 大口尚基, 木下秀文, 松田公志 (2008) 腹腔鏡下前立腺全摘除術におけるサージレックスエンシールシステムの使用経験. 第22回Endourology-ESWL学会総会, 大阪
  12. 井上貴昭, 大口尚基, 三島崇生, 谷口久哲, 矢西正明, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 当院にて緊急選択的動脈塞栓術を施行し救命した4症例. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  13. 乾 秀和, 堀越幹人, 福井勝也, 駒井資弘, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 室田卓之, 松田公志 (2008) 当院における膀胱腫瘍の臨床的検討. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  14. 駒井資弘, 堀越幹人, 福井勝也, 乾 秀和, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2008) 膀胱全摘症例における臨床的検討. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  15. 谷口久哲, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 男性更年期外来患者に対するホルモン補充療法 (ART) 終了後の予後調査. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  16. 木下秀文, 松田公志 (2008) 根治的前立腺全摘除術後の生化学的再発 (PSA再発) の診断. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  17. 矢西正明, 増田朋子, 杉 素彦, 大口尚基, 河 源, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2008) 当院における腎細胞癌治療成績. 第58回日本泌尿器学会中部総会, 大津
  18. 谷口久哲, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) アンドロゲン補充療法 (ART) が有効であった患者の予後に関する検討. 第8回日本Men's Health医学会, 東京
  19. 木下秀文, 増田朋子, 松田公志 (2008) 「HOLEPの経験と初期成績」. 平成20年度大阪泌尿器科臨床医会第54回学術集会, 大阪
  20. 松田公志 (2008) 泌尿器腹腔鏡手術のトレーニング法. 第1回鏡視下手術研究会南大阪部会, 大阪
  21. 谷口久哲, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 男性更年期外来におけるアンドロゲン補助療法 (ART) 後の予後に関する検討. 第37回アンドロロジーカンファレンス, 大阪
  22. 西田幸代 (2008) 関西医大における前立腺多数カ所生検の臨床的検討. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
  23. 木下秀文 (2008) 前立腺癌全摘出術術後再発における Kattan nomogram による予想の有用性に関する検討. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
  24. 宮城博恵, 下井華代, 馬場真有美, 岡田英孝, 小野淑子, 岡田園子, 神崎秀陽, 日浦義仁, 松田公志 (2008) カウンセリング・看護Ⅲ 大学病院での産婦人科と泌尿器科による生殖医療センター共同運用について～1症例報告～. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会, 神戸
  25. 大久保和俊, 市岡健太郎, 宗田 武, 西山博之, 奥野 博, 小倉啓司, 松田公志 (2008) 男性不妊Ⅰ 閉塞の原因から見た精路再建術の成績の検討. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会, 神戸
  26. 日浦義仁, 六車光英, 谷口久哲, 松田公志, 岡田英孝, 神崎秀陽, 宮城博恵, 下井華代, 辻陽子, 森本義晴 (2008) 男性不妊Ⅳ 射精障害に対する精子回収法の検討. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会, 神戸

27. 馬場真有美, 川畑仁美, 下井華代, 宮城博恵, 岡田英孝, 小野淑子, 岡田園子, 松岡 進, 安田勝彦, 神田秀陽, 日浦義仁, 松田公志 (2008) カウンセリング・看護Ⅲ 女性患者の意識調査～医師の説明の理解度に関する要請とサポートのあり方の検討. 第53回日本生殖医学会総会・学術講演会, 神戸
28. 飯田剛嗣, 原田二郎, 三島崇生, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志, 大江千里, 坂井田紀子, 植村芳子 (2008) 両側尿管腫瘍に対して自家腎移植により腎機能を温存し得た1例. 第204回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
29. 堀越幹人, 駒井資弘, 福井勝也, 乾 秀和, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 室田卓之, 坂 貴, 四方伸明, 溝上友美, 松田公志 (2008) 右腎癌摘除後, 8年後に左卵巣・子宮転移を認めた1例. 第204回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
30. 鈴木啓悦, 沖原功治, 三宅秀明, 藤澤正人, 三好 進, 松本哲朗, 藤井元廣, 松田公志, 大園誠一郎, 武田正之, 碓井 亞, 公文裕巳, 市川智彦, 三木恒治 (2008) アンチアンドロゲン交替療法の臨床的意義. 【シンポジウム】再燃進行前立腺がんの治療の現状と展望, 日本
31. 原田二郎, 山本奈恵, 渡邊仁人, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2008) 両側副腎褐色細胞腫に対して一期的腹腔鏡下左副腎全摘・右副腎部分切除を行った1例. 第20回日本内分泌外科学会総会, 仙台
32. 山本奈恵, 三島崇生, 佐藤 尚, 六車光英, 平塚拓也, 豊國伸哉, 松田公志, 笹野公伸, 成瀬光栄 (2008) sub-clinical Cushing症候群を合併した褐色細胞腫の1例. 第20回日本内分泌外科学会総会, 仙台
33. 松田公志 (2008) 日本の内分泌外科発展のために必要なこと (泌尿器科関係). 第20回日本内分泌外科学会総会, 仙台
34. 松田公志 (2008) 泌尿器腹腔鏡手術のトレーニングプログラム. 第6回大分泌尿器病態研究会, 大分
35. 徳本隆博, 原田二郎, 渡邊仁人, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 尿管外溢流を生じた尿管腫瘍の1例. 第203回日本泌尿器科学会関西地方会, 奈良
36. 鳥前 円, 下村加奈子, 日下華世, 田邊奏絵, 松川久美子, 桃壽淳子, 大口尚基, 松田公志 (2008) 腹腔鏡下根治的前立腺全摘術後の骨盤底筋体操の有効性に関する検討. 第21回日本老年泌尿器科学会, 北九州
37. 木村美穂, 足立清美, 富田麻里子, 日下美保子, 川喜多繁誠, 福井勝也, 杉 素彦, 室田卓之 (2008) 前立腺密封小線源永久挿入療法を受けた患者と家族の意識調査～日常生活上の被爆に対する患者, 家族の不安の相異について～. 第21回日本老年泌尿器科学会, 北九州
38. 西田晃久, 保坂直樹, 崔 文旻, 高木孝士, 稲葉宗夫, 池原 進 (2008) 胸腺移植を併用した骨髄内骨髄移植の利点. 第97回日本病理学会総会, 金沢
39. 河 源, 谷口久哲, 木下秀文, 松田公志 (2008) 本邦中年男性におけるテストステロンとメタボリックシンドローム構成要素に関する検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
40. 荒井陽一, 井川幹夫, 高橋 悟, 武井実根雄, 野々村克也, 馬場志郎, 羽瀧友則, 松田公志, 中川晴夫, 海法康裕 (2008) 人口括約筋(AMS800)埋込み手術に関する実態調査. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
41. 三島崇生, 大口尚基, 吉田健志, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 下部尿路症状を有する患者に対する干渉低周波刺激療法のQOL調査. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
42. 山本奈恵, 地崎竜介, 渡邊仁人, 島田 治, 川喜多繁誠, 杉 素彦, 日浦義仁, 大口尚基, 河源, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2008) 関西医科大学における副腎摘除術の検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
43. 川喜多繁誠, 杉 素彦, 島田 治, 矢西正明, 福井勝也, 室田卓之, 志賀淑子, 播磨洋子, 木下秀文, 松田公志 (2008) 前立腺癌密封小線源永久挿入治療後の下部尿路障害の検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
44. 増田朋子, 木下秀文, 谷口久哲, 渡邊仁人, 河源, 松田公志 (2008) HoLEP手術初期の経験. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
45. 大口尚基, 三島崇生, 吉田健志, 谷口久哲, 井上貴昭, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008)

- 当教室でのメッシュ手術における合併症の検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
46. 谷口久哲, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) LOH症候群に対するアンドロゲン補充療法(ART)によりQOLは向上し, 維持される. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  47. 渡邊仁人, 松田公志 (2008) ケーススタディ1 「診断の難しい尿管疾患」. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  48. 島田 治, 安田鐘樹, 室田卓之, 木下秀文, 松田公志 (2008) 関西医大附属滝井病院と附属香里病院において経験した精巣腫瘍の臨床統計的検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  49. 福井勝也, 木下秀文, 河 源, 日浦義仁, 大口尚基, 檀野祥三, 松田公志 (2008) 前立腺全摘除術後のPSA再発に対するsalvage radiotherapyの有用性. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  50. 木下秀文, 河 源, 松田公志 (2008) Goserelin投与時の疼痛軽減の工夫. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  51. 矢西正明, 木下秀文, 増田朋子, 乾 秀和, 河 源, 松田公志 (2008) 腎細胞癌有転移症例の臨床的検討. 第96回日本泌尿器科学会総会, 横浜
  52. 谷口久哲, 日浦義仁, 井上貴昭, 河 源, 木下秀文, 松田公志, 吉村晋一 (2008) トルコ鞍空洞症による続発性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症の1例. 第133回日本生殖医学会関西支部集談会/第36回関西アンドロロジーカンファレンス, 大阪
  53. 原田二郎, 渡邊仁人, 木下秀文, 松田公志 (2008) 前立腺全摘後の尿失禁. 第7回KANSAI-KAGAWA Urological Conference(KKUC), 高松
  54. 三島崇生, 吉田健志, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 下部尿路症状を有する患者に対する干渉低周波刺激療法のQOL調査. 第7回KANSAI-KAGAWA Urological Conference(KKUC), 高松
  55. 川喜多繁誠, 福井勝也, 島田 治, 矢西正明, 杉 素彦, 室田卓之 (2008) 前立腺癌ヨウ素125密封小線源永久挿入療法後の排尿障害の検討. 第7回KANSAI-KSAGAWA Urological Conference(KKUC), 高松
  56. 山本奈恵, 佐藤 尚, 六車光英, 平塚拓也, 豊國伸哉 (2008) Pre-clinical Cushing症候群を合併した褐色細胞腫の1例. 第202回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
  57. 増田朋子, 谷口久哲, 地崎竜介, 徳本隆博, 原田二郎, 三島崇生, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志 (2008) 経過観察中に残存腫瘍が著明に縮小した性腺外胚細胞腫の1例. 第202回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
  58. 原田二郎, 山本奈恵, 渡邊仁人, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2008) 両側副腎褐色細胞腫に対して一期的腹腔鏡右副腎部分切除・左副腎全摘を行った1例. 第27回泌尿器科手術研究会, 大阪
  59. 原田二郎, 山本奈恵, 渡邊仁人, 日浦義仁, 木下秀文, 松田公志 (2008) 両側副腎褐色細胞腫に対して一期的腹腔鏡右副腎部分切除・左副腎全摘を行った1例. 第20回日本内分泌外科学会, 仙台
- 著 書
1. 檀野祥三, 松田公志 (2008) 陰茎の組織構造と勃起・射精の機序. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 115頁, 日本医事新報社, 東京都
  2. 檀野祥三, 松田公志 (2008) 勃起・射精障害. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 118-120頁, 日本医事新報社, 東京都
  3. 松田公志 (2008) 精巣の組織構造と精子形成の過程. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 121-123頁, 日本医事新報社, 東京
  4. 松田公志 (2008) 精巣機能障害. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 124-126頁, 日本医事新報社, 東京
  5. 松田公志 (2008) 男性不妊症. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 127-129頁, 日本医事新報社, 東京
  6. 松田公志 (2008) 陰嚢内腫瘍, 急性陰嚢症. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 130-132頁, 日本医事新報社, 東京
  7. 木下秀文 (2008) 前立腺肥大症. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 101-

- 105頁, 日本医事新報社, 東京
8. 木下秀文 (2008) 前立腺癌. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 106-110頁, 日本医事新報社, 東京
  9. 松田公志 (2008) 男性生殖器の構造と機能. 発育の過程. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 112-114頁, 日本医事新報社, 東京
  10. 木下秀文 (2008) 精巣癌. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 133-137頁, 日本医事新報社, 東京
  11. 木下秀文 (2008) 前立腺の形態と機能. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 92-96頁, 日本医事新報社, 東京
  12. 木下秀文 (2008) 前立腺の画像診断. よくわかる病態生理 11 泌尿器疾患 (松田公志編) 97-100頁, 日本医事新報社, 東京
  13. 松田公志 (2008) 膀胱・尿道・陰茎損傷. 今日の治療指針 2008年度版 50,839-840頁, 医学書院, 東京
  14. 地崎竜介, 松田公志 (2008) 男性不妊症 (精索静脈瘤を含む). 最新 泌尿器科診療指針 246-253頁, 永井書店, 大阪
  15. 松田公志 (2008) テストステロン補充療法終了後に症状再燃しなかった2症例. 男性更年期障害 179頁, 新興医学出版社, 東京
  16. 河 源 (2008) 関西医科大学附属枚方病院一男性更年期外来の現状と問題点, 今後の展望一. 男性更年期障害 239-241頁, 新興医学出版社, 東京
  17. 河 源, 松田公志 (2008) 男性更年期障害診断用各種質問紙の有用性. 男性更年期障害 42-46頁, 新興医学出版社, 東京
  18. 日浦義仁, 河 源, 松田公志 (2008) 男性ホルモン補充療法における性機能改善因子. 男性更年期障害 63-65頁, 新興医学出版社, 東京
  19. 松田公志 (2008) 尿路結石症. 内科診断学 1003-1004頁, 医学書院, 東京
  20. 松田公志 (2008) 副腎腫瘍. 内科診断学 1004-1005頁, 医学書院, 東京
  21. 松田公志 (2008) 腎腫瘍 (腎細胞癌). 内科診断学 1005-1006頁, 医学書院, 東京
  22. 松田公志 (2008) 水腎症. 内科診断学 1006-1007頁, 医学書院, 東京
  23. 松田公志 (2008) 嚢胞腎 (常染色体優性嚢胞腎). 内科診断学 1007-1009頁, 医学書院, 東京
  24. 室田卓之, 松田公志 (2008) 前立腺肥大症. 内科診断学 1010-1012頁, 医学書院, 東京
  25. 六車光英, 松田公志 (2008) 前立腺炎. 内科診断学 1012-1013頁, 医学書院, 東京
  26. 木下秀文 (2008) 前立腺癌. 内科診断学 1013-1015頁, 医学書院, 東京
  27. 大口尚基, 松田公志 (2008) 膀胱腫瘍. 内科診断学 1015-1016頁, 医学書院, 東京
  28. 松田公志 (2008) 尿道炎. 内科診断学 1017-1018頁, 医学書院, 東京
  29. 松田公志 (2008) 精巣上体炎. 内科診断学 1019-1020頁, 医学書院, 東京
  30. 松田公志 (2008) 神経因性膀胱. 内科診断学 1020-1021頁, 医学書院, 東京
  31. 松田公志 (2008) 膀胱炎. 内科診断学 1016-1017頁, 医学書院, 東京

## 眼科学講座

### 〈研究業績〉

原 著

1. Inatani M, Iwao K, Kawaji T, Hirano Y, Ogura Y, Hirooka K, Shiraga F, Nakanishi Y, Yamamoto H, Negi A, Shimonagano Y, Sakamoto T, Shima C, Matsumura M and Tanihara H (2008) Intraocular Pressure Elevation after Injection of Triamcinolone Acetonide: A Multicenter Retrospective Case-Control Study. *Am J Ophthalmol* 145(4): 676-681
2. Mukaide H, Adachi Y, Taketani S, Iwasaki M, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Shi M, Yanai S, Yoshioka K, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) FKBP51 expressed by both normal epithelial cells and adenocarcinoma of colon suppresses proliferation of colorectal adenocarcinoma. *Can-*

- cer Invest 26(4): 385–390
3. Koike-Kiriyama N, Adachi Y, Iwasaki M, Amou Y, Shigematsu A, Koike Y, Minamino K, Mukaide H, Shi M, Yanai S, Matsumura M and Ikehara S (2008) High mortality rate of (NZW x BXSb)F1 mice induced by administration of lipopolysaccharide attributes to high production of tumour necrosis factor- $\alpha$  by increased numbers of dendritic cells. *Clin Exp Immunol* 154(2): 285–293
  4. Shigematsu A, Adachi Y, Matsubara J, Mukaide H, Koike-Kiriyama N, Minamino K, Shi M, Yanai S, Imamura M, Taketani S and Ikehara S (2008) Analyses of expression of cytoglobin by immunohistochemical studies in human tissues. *Hemoglobin* 32(3): 287–296
  5. Suzuki Y, Adachi Y, Zhang Y, Minamino K, Iwasaki M, Mukaide H, Shi M, Nakano K, Koike Y, Wang J, Koike-Kiriyama N, Shigematsu A, Yanai S and Ikehara S. (2008) Administration of granulocyte colony-stimulating factor to recipients followed by intra-bone marrow transplantation accelerates acceptance of allogeneic bone marrow cells in mice. *Immunobiology* 213(5): 427–435
  6. Kiuchi K, Matsuoka M, Wu JC, Lima E, Silva R, Kengatharan M, Verghese M, Ueno A, Yokoi K and Khu (2008) Mecamylamine suppresses Basal and nicotine-stimulated choroidal neovascularization. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 49(4): 1705–1711
  7. Matsuyama K, Kunitomi K, Taomoto M and Nishimura T (2008) Early-onset endophthalmitis caused by methicillin-resistant *Staphylococcus epidermidis* after 25-gauge transconjunctival sutureless vitrectomy. *Jpn J Ophthalmol* 52(6): 508–510
  8. Shima C, Ogata N, Minamino K, Yoshikawa T, Matsuyama K and Matsumura M. (2008) Posterior sub-Tenon injection of triamcinolone acetonide as pretreatment for focal laser photocoagulation in diabetic macular edema patients. *Jpn J Ophthalmol* 52(4): 265–268
  9. Kobayashi A, Ando A, Tagami N, Kitagawa M, Kawai E, Akioka M, Arai E, Nakatani T, Nakano S, Matsui Y and Matsumura M (2008) Severe Optic Neuropathy Caused by Dichloromethane Inhalation. *J Ocul Pharmacol Ther* 24(6): 607–612
  10. Matsuyama K, Ogata N, Matsuoka M, Shima C, Wada M, Jo N and Matsumura M (2008) Relationship between pigment epithelium-derived factor (PEDF) and renal function in patients with diabetic retinopathy. *Mol Vis* 14(5): 992–996
  11. Higuchi A, Yamada H, Yamada E, Jo N and Matsumura M. (2008) Hypericin inhibits pathological retinal neovascularization in a mouse model of oxygen-induced retinopathy. *Mol Vis* 14(2): 249–254
  12. Takagi K, Okuda-Ashitaka E, Mabuchi T, Katano T, Ohnishi T, Matsumura S, Ohnaka M, Kaneko S, Abe T, Hirata T, Fujiwara S, Minami T and Ito S. (2008) Involvement of stem cell factor and its receptor tyrosine kinase c-kit in pain regulation. *Neuroscience* 153(4): 1278–1288
  13. Nishikawa M, Matsunaga H, Takahashi K and Matsumura M (2008) Indocyanine Green Angiography in Experimental Choroidal Circulatory Disturbance. *Ophthalmic Res* 41(1): 53–58
  14. Matsunaga N, Chikaraishi Y, Izuta H, Ogata N, Shimazawa M, Matsumura M and Hara H (2008) Role of Soluble Vascular Endothelial Growth Factor Receptor-1 in the Vitreous in Proliferative Diabetic Retinopathy. *Ophthalmology* 115(11): 1916–1922
  15. Shi M, Adachi Y, Shigematsu A, Koike-Kiriyama N, Feng W, Yanai S, Yunze C, Lian ZX, Li J and Ikehara S (2008) Intra-Bone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells Suspended in Collagen Gel Retains Injected Cells in Bone Marrow, Resulting in Rapid Hemopoietic Recovery in Mice. *Stem Cells* 26(9): 2211–2216
  16. 安藤 彰, 嶋千絵子, 福井智恵子, 松山加耶子, 桑原敦子, 松原敬忠, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2008) 眼圧日内変動の評価. *あたらしい眼科* 25(5): 701–704
  17. 下妻晃二郎, 福原俊一, 湯澤美都子, 藤田京子, 大橋靖雄, 山口拓洋, 鈴嶋よしみ, 高橋

- 寛二, 高橋奈津子 (2008) 加齢黄斑症 (ARM) に起因する視力障害を有する高齢者の QOL とロービジョンケアの需要に関する研究—ロービジョンケアが QOL とレスポンスシフトに及ぼす影響. 大和証券ヘルス財団研業 31: 111-113
18. 田野保雄, 市立札幌病院眼科, 福島県医大眼科, 群馬大医眼科, 順天堂大医順天堂浦安病院眼科, 慶応大医眼科学, 日本大医視覚科学系眼科分野, 杏林大医眼科, 名古屋大大学院医学系研究科眼科, 滋賀医大医眼科, 京大大学院医学研究科眼科学, 関西医大医眼科, 香川大医眼科, 九大大学院医学研究院眼科学分野 (2008) 脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性を対象としたベガブタニブナトリウム 1 年間投与試験. 日眼会誌 112(7): 590-600
19. 高橋寛二, 石橋達朗, 小椋祐一郎, 湯澤美都子, 厚生労働省 網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 加齢黄斑変性診断基準作成ワーキンググループ (2008) 加齢黄斑変性の分類と診断基準. 日眼会誌 112(12): 1076-1084
20. 安藤 彰, 尾辻 剛, 福井智恵子, 桑原敦子, 嶋千絵子, 松山加耶子, 松原敬忠, 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2008) ラタノプロスト点眼投与中の正常眼圧緑内障に追加したニブラジロール点眼の眼圧と視野への効果. 臨眼 62(3): 329-333
21. 加賀郁子, 黒田真一郎, 木村英也, 永田 誠 (2008) 血管新生緑内障に対する非穿孔性線維柱帯切除術変法の効果. 臨眼 62(10): 1769-1773
- Advanced Techniques PCV の II 型脈絡膜新生血管様所見. 眼プラクティス 21: 180-183
5. 正健一郎 (2008) 【眼底画像所見を読み解く】 Advanced Techniques 実験的 CNV の OCT・病理所見・造影所見の比較. 眼プラクティス 21: 156-157
6. 安藤 彰 (2008) IV 緑内障の治療 C レーザー治療・手術治療 17. 隅角癒着解離術の適応とポイントは? あたらしい眼科 25(臨時増刊号): 179-181
7. 高橋寛二 (2008) 【加齢黄斑変性】加齢黄斑変性の薬物治療 光線力学療法. 医薬ジャーナル 44(6): 1561-1567
8. 綾木雅彦, 谷口重雄, 小出良平, 高木康, 松村美代, 上野聡樹, 松橋正和, 加藤 聡, 木下 茂 (2008) 新しい臨床研修制度における眼科志向者の現況. 眼科 50(2): 209-213
9. 南部裕之 (2008) 【眼科薬物治療 A to Z】疾患別治療戦略と処方の実例 緑内障 血管新生緑内障. 眼プラクティス 23: 118-121
10. 松村美代 (2008) 日本眼科学会総集会プログラム委員会評価委員会から. 日眼会誌 112(3): 345-348
11. 松村美代 (2008) 平成 19 年眼科医数動向調査報告. 日眼会誌 112(1): 78-82
12. 高橋寛二 (2008) 【網膜硝子体診療 update】注目の疾患 加齢黄斑変性 網膜血管腫状増殖の概念と治療. 臨眼 62(11 増刊号): 250-261
13. 高橋寛二 (2008) 地図状脈絡膜炎の診断と治療. 日眼会誌 112(4): 357-359

## 総 説

1. 高橋寛二 (2008) 【加齢黄斑変性】加齢黄斑変性および関連疾患の診断 蛍光眼底造影の読み方. あたらしい眼科 25(9): 1205-1213
2. 高橋寛二 (2008) 新しい治療と検査シリーズ 183. 加齢黄斑変性に対するステロイド併用光線力学的療法. あたらしい眼科 25(8): 1111-1113
3. 高橋寛二 (2008) 【眼底画像所見を読み解く】中心性漿液性脈絡網膜炎とその類縁疾患 網膜色素上皮症. 眼プラクティス 21: 212-223
4. 高橋寛二 (2008) 【眼底画像所見を読み解く】

## 症例報告

1. Matsuyama K, Ogata N, Takahashi K, Matsumura M and Nishimura T (2008) Case of retin-ochoroiditis associated with porcine ascarids diagnosed by antibodies in Subretinal fluid. Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 246(7): 1065-1067
2. 山田英里, 山田晴彦, 柳原順代, 山田日出美 (2008) 中心性漿液性脈絡網膜炎を生じた糖尿病網膜炎の 1 例. 臨眼 62(9): 1539-1544
3. 木内克治, 山田真未, 木内克治, 正健一郎, 三木克朗 植村芳子, 天津弥生, 松村美代 (2008)

眼症状を契機に明らかとなった胸腺原発の転移性脈絡膜腫瘍の1例. 臨眼 62(3): 291-295

4. 松山加耶子, 埜本 慎, 西村哲哉, 萩原実早子, 松村美代 (2008) 経時的な病巣の移動が観察された眼トキシカラ症の1例. 臨眼 62(2): 173-178
5. 山田晴彦, 星野 健, 松村美代 (2008) アトピー性皮膚炎患者に発症した内因性感染性眼内炎の1例. 臨眼 62(10): 1667-1671
7. Ogata N, Matsuyama K, Matsuoka M, Shima C, Tajika A, Nishiyama T, Wada M, Jo N and Matsumura M (2008) Plasma Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) Levels and Diabetic Status in Patients with Diabetic Retinopathy. World Ophthalmology Congress, Hong Kong
8. Matsuyama K, Ogata N, Jo N, Wada M, Shima C, Matsuoka M and Matsumura M (2008) Levels of Vascular Endothelial Growth Factor and Pigment Epithelium-Derived Factor in Human Eyes Before and After Intravitreal Injection of Bevacizumab. Association for Research in Vision and Ophthalmology, Florida, USA

#### 学会発表

1. Kimura M, Ogata N, Takahashi K, Shima C and Nishimura T (2008) Case of Choroidal Melanoma with Massive Extraocular Extension through Sclera. European Association for Vision and Eye Research, Portoroz, Slovenia
2. Ogata N, Shima C, Minamino K, Yoshikawa T, Matsuyama K and Matsumura M (2008) Posterior Sub-Tenon Injection of Triamcinolone Acetonide as a Pretreatment of Focal Laser Photocoagulation for Diabetic Macular Edema. European Association for Vision and Eye Research, Portoroz, Slovenia
3. Kimura M, Amano M, Kimoto T, Yamaki K, Baum GL and Matsumura M (2008) Localization of Galectin-1, -3, and -9 in the Retina of Rats with Experimental Autoimmune Uveoretinitis. World Ophthalmology Congress, Hong Kong
4. Kuboki K, Nagai Y, Arisawa A, Sho K, Otsuji T and Takahashi K (2008) A Complicated Case of Polypoidal Choroidal Vasculopathy and Retinal Angiomatous Proliferation. World Ophthalmology Congress, Hong Kong
5. Matsuyama K, Ogata N, Jo N, Wada M, Shima C, Matsuoka M and Matsumura M (2008) Levels of Vascular Endothelial Growth Factor and Pigment Epithelium-Derived Factor in Human Eyes Before and After Intravitreal Injection of Bevacizumab. World Ophthalmology Congress, Hong Kong
6. Nagai Y, Takahashi K, Sho K, Tsumura A and Uyama M (2008) Clinical findings of malattia levantine in Japanese. World Ophthalmology Congress, Hong Kong
9. Ogata N, Matsuyama K, Matsuoka M, Shima C, Tajika A, Nishiyama T, Wada M, Jo N and Matsumura M (2008) Plasma Pigment Epithelium-Derived Factor (PEDF) Levels and Diabetic Status in Patients with Diabetic Retinopathy. Association for Research in Vision and Ophthalmology, Florida, USA
10. Yamada H, Jo N, Kaneko S, Ohtsu Y, Tateno H, Wada M, Matsumura M, Yamada E and Yamada H (2008) Intensive HMGCoA-reductase inhibitor therapy suppresses hard exudates in diabetic macula edema patients. Association for Research in Vision and Ophthalmology, Florida, USA
11. Ando A, Tsuda M, Kaneko S, Ohnaka M, Okuda-Ashitaka E, Ito Se, Nishimura T, Taomoto Makoto and Matsumura M (2008) Controllable Urokinase Gene Expression Into Cultured Porcine Trabecular Meshwork Cells. Association for Research in Vision and Ophthalmology, Florida, USA
12. Ando A, Kobayashi A, Tagami N, Kitagawa M, Kawai E, Akioka M, Arai E, Nakatani T, Matsui Y and Matsumura M (2008) Severe Optic Neuropathy Caused by Dichloromethane Inhalation—Case Report. 7th International Symposium on Ocular Pharmacology and Therapeutics, Budapest, Hungary
13. Tsuda M, Ando A, Fukui C, Matsuyama K, Kuwahara A, Nishimura T, Nambu H and Matsumura M (2008) Intraocular Pressure Reduction by Latanoprost for Normal Tension Glaucoma:

- Results over Five Years Compared between High-tension and Low-tension Japanese Patients. 7th International Symposium on Ocular Pharmacology and Therapeutics, Budapest, Hungary
14. Matsuyama K, Ogata N, Wada M and Nishimura T (2008) Case of ischemic retinopathy induced by chemotherapy with Paclitaxel and Carboplatin. European Association for Vision and Eye Research, Portoroz, Slovenia
  15. Kimura M, Amano M, Kimoto T, Yamaki K, Baum GL and Matsumura M (2008) Localization of Galectin-1, -3, and -9 in the Retina of Rats with Experimental Autoimmune Uveoretinitis. Association for Research in Vision and Ophthalmology, Florida, USA
  16. Yanai S, Adachi Y, Shi M, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) 骨髄細胞は正常の発育における臓器の発育に寄与しない. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
  17. 吉田秀之, 安藤 彰, 河合江実, 秋岡真砂子, 新井英子, 西村哲哉, 高木峰夫, 田中恵子 (2008) 若年発症の抗アクアポリン-4抗体陽性視神経炎の一例. 第367回大阪眼科集談会, 大阪
  18. 武田信彦, 西川真生, 岩下憲四郎, 高橋寛二 (2008) 原因不明のぶどう膜炎に網膜中心動脈閉塞症を併発した小児例. 第367回大阪眼科集談会, 大阪
  19. 木内克治, 北川チエミ, 宮代美樹 (2008) linezolidによる中毒性視神経症の1例. 第367回大阪眼科集談会, 大阪
  20. Shi M, Adachi Y, Yanai S, Shima C, Imai Y and Ikehara S (2008) コラーゲン・ゲルを用いた骨髄内骨髄移植法は早期の造血回復を誘導する. 第38回日本免疫学会総会・学術集会, 京都
  21. Kanji Takahashi (2008) Polypoidal lesion with hyperpermeability in polypoidal choroidal vasculopathy. 第3回アジア太平洋網膜硝子体学会, 釜山
  22. 緒方奈保子 (2008) 糖尿病網膜症とPEDF. 第1回RRM(Retina Research Meeting), 東京
  23. 吉川匡宣, 緒方奈保子, 和田光正, 尾辻 剛, 松岡雅人, 松山加那子, 高橋寛二 (2008) 糖尿病網膜症に併発した滲出型加齢黄斑変性. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会 合同学会, 京都
  24. 吉田秀之, 尾辻 剛, 木村元貴, 西村哲哉 (2008) 若年者にみられた両眼性乳頭上網膜細動脈瘤の1例. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  25. 高橋寛二 (2008) ①光凝固治療のDONT ②眼循環で頭の体操! ~専門バカになるな! - PART II 画像診断を中心に. 第47回日本網膜硝子体学会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  26. 小林かおる, 桑田満喜, 平本裕盛, 大津弥生, 松原 孝 (2008) 虹彩毛様体炎を併発した内頸動脈閉塞に伴う血管新生緑内障. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  27. 正健一郎 (2008) 新時代の加齢黄斑変性治療 - 加齢黄斑変性 occult CNV. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  28. 有澤章子, 埜本 慎, 杉山千晶, 高橋寛二, 西村哲哉 (2008) 術後良好な視力を得た黄斑円孔・網膜下出血を伴う網膜細動脈瘤の1例. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  29. 西川真生, 有澤章子, 永井由巳, 久保木香織, 尾辻 剛, 正健一郎, 高橋寛二 (2008) 滲出型加齢黄斑変性に分類される大型の漿液性網膜色素上皮剥離の臨床経過. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会合同学会, 京都
  30. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性の診断. 第4回 Three arrowsの会, 大阪
  31. 岩田 岳, 赤堀正和, 関 麻子, 岡本はる, 皆見正好, 尾羽澤実, 木村 至, 寺内直樹, 野田 徹, 溝田 淳, 本田美樹, 田中 稔, 林他孝彰, 緒方奈保子, 斉藤善博, 高木郁江, 谷戸正樹 (2008) 感覚器障害の克服を目指して眼疾患バイオマーカーの探索とモデル動物を用いた予防・治療薬の開発. 第62回国立病院総合医学界会, 東京
  32. 高橋寛二 (2008) マクジェンの国内臨床試験成績. Macugen 発売記念講演会, 大阪
  33. 田中春花, 二階堂潤, 西川真生, 城 信雄, 南

- 部裕之, 高橋寛二, 安藤 彰, 松村美代 (2008) 早発型発達緑内障の兄妹発症例. 第366回大阪眼科集談会, 大阪
34. 有澤章子, 埤本 慎, 杉山千晶, 高橋寛二, 西村哲哉 (2008) 術後良好な視力を得た黄斑円孔・網膜下出血を伴う網膜細動脈瘤の1例. 第366回大阪眼科集談会, 大阪
35. 埤本 慎 (2008) 関西医大眼科での網膜剥離手術 (バックリングを中心に). 第40回大阪眼科手術の会, 東京
36. 安藤 彰, 吉田秀之, 河合江実, 秋岡真砂子, 新井英子, 西村哲哉 (2008) パクリタキセルとカルボプラチンを併用中に発症した視神経炎1例と球後視神経炎1例. 第46回日本神経眼科学会総会, 新潟
37. 高橋寛二 (2008) みんなで考えよう! 黄斑疾患の診断とスキルアップ. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
38. 山田晴彦, 山田英里 (2008) 同一術者による20, 23, 25ゲージ硝子体手術の比較. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
39. 杉山千晶, 有澤章子, 久保木香織, 長央由里子, 西川真生, 永井由巳, 高橋寛二 (2008) 小児に認められた傍中心窩毛細血管拡張症の2例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
40. 西川真生, 埤本 慎, 城 信雄, 松村美代, 高橋寛二 (2008) 画鋏による穿孔性眼外傷で増殖硝子体網膜症を発症した1例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
41. 津田メイ, 尾辻 剛, 木村元貴, 中内正志, 木本高志, 西 麗子, 西村哲哉 (2008) 増殖糖尿病網膜症に原田病が合併した1例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
42. 尾辻 剛, 津村晶子, 正健一郎, 永井由巳, 有澤章子, 久保木香織, 高橋寛二 (2008) 網膜血管腫状増殖の拡大概念としてのType3neovascularizationの検討. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
43. 木村元貴, 緒方奈保子, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉, 四方伸明 (2008) 強膜外浸潤をきたした脈絡膜悪性黒色腫の1例. 第62回日本臨床眼科学会 (眼科臨床病理組織研究会), 東京
44. 永井由巳, 正健一郎, 有澤章子, 長央由里子, 津村晶子, 尾辻 剛, 高橋寛二 (2008) 光線力学的療法後, レーザー照射野一致して拡大した脈絡膜新生血管をみた2症例. 第62回日本臨床眼科学会総会, 東京
45. 久保木香織, 永井由巳, 有澤章子, 正健一郎, 西川真生, 高橋寛二 (2008) 網膜表層に網目状血管をみとめる網膜血管腫状増殖様病変の2例. 第62回臨床眼科学会, 東京
46. 永井由巳, 高橋寛二 (2008) 網膜血管腫状増殖に対して行った薬物併用の光線力学的療法. Japan Macula Club第10回総会, 東京
47. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性の診断と新しい治療. 倉敷眼科コロシウム, 倉敷
48. 安藤 彰 (2008) 薬物と眼一全身薬の副作用と使い方. 大東・四条暁医師会9月度学術講演会, 大阪
49. 加賀郁子, 黒田真一郎, 永田 誠 (2008) 線維柱帯切開術眼に対する線維柱帯切開術再施行後の成績. 第19回日本緑内障学会, 大阪
50. 城 信雄, 南部裕之, 安藤 彰, 松村美代 (2008) 非穿孔性トラベクトミー術後の濾過不全に対するneedling. 第19回日本緑内障学会, 大阪
51. 南部裕之, 桑田満喜, 城 信雄, 安藤 彰, 南野桂三, 松原敬忠, 福井智恵子, 尾辻 剛, 桑原敦子, 萩原実早子, 松村美代 (2008) 下半周で行ったサイヌソトミー併用トラベクトミー (LOT+SIN) の長期成績. 第19回日本緑内障学会, 大阪
52. 埤本 慎, 松村美代 (2008) 原因不明のRPE障害による長期黄斑浮腫の1例. Japan Macula Club第10回総会, 東京
53. 安藤 彰, 福井智恵子, 嶋千絵子, 南野桂三, 松岡雅人, 桑原敦子, 西村哲哉 (2008) 浅前房に対する周辺虹彩切除術後に増悪した虹彩分離症の一例. 第365回大阪眼科集談会, 大阪
54. 吉田秀之, 尾辻 剛, 木村元貴, 西村哲哉 (2008) 若年者にみられた両眼性乳頭上網膜細動脈瘤の1例. 第365回大阪眼科集談会, 大阪
55. 小林 敦, 今泉正仁, 藤關義人, 高橋寛二 (2008) マンチャク型シリコンチューブ留置術に涙道ファイバースコープを使用した1例. 第365回大阪眼科集談会, 大阪
56. 城 信雄, 南部裕之, 安藤 彰, 松村美代, 高橋寛二 (2008) 非穿孔性トラベクトミー

- 術後の濾過不全に対する needling. 第365回大阪眼科集談会, 大阪
57. 西川真生, 埴本 慎, 高橋寛二, 山田晴彦, 松村美代 (2008) Group G溶血連鎖球菌による内因性細菌性眼内炎の1例. スリーサム イン 福岡(第45回日本眼感染症学会), 福岡
  58. 山田晴彦, 星野 健, 松村美代 (2008) アトピー性皮膚炎患者に発症した内因性感染性眼内炎の1例. スリーサム イン 福岡 (第42回日本眼炎症学会), 福岡
  59. 高橋寛二 (2008) ポリープ状脈絡症 (症例呈示). 加齢黄斑変性治療へのアプローチ, 大宮
  60. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性の診断と治療. 関西医科大学寝屋川会, 守口
  61. 緒方奈保子 (2008) 糖尿病網膜症の病態と治療. 第139回和歌山眼科集談会, 和歌山
  62. 高橋寛二 (2008) 難治例に学ぶ! 加齢黄斑変性治療のポイント. 第16回大阪市眼科研究会, 大阪
  63. 永井由巳 (2008) PDT 最近の話題 ... PCV + classic CNV. 第5回 Nova Macula Club, 岡山
  64. 山田晴彦 (2008) 眼内血管新生とその制御. 第114回京都眼科学会, 京都
  65. 木村元貴, 緒方奈保子, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉 (2008) 強膜外浸潤をきたした脈絡膜悪性黒色腫の1例. 第114回京都眼科学会, 京都
  66. 松永 望, 力石裕一, 伊豆田洋志, 緒方奈保子, 嶋澤雅光, 松村美代, 原 英彰 (2008) 増殖糖尿病網膜症患者の硝子体内におけるsVEGFR-1の役割. 第28回眼薬理学会, 東京
  67. 杉山千晶, 有澤章子, 久保木香織, 長央由里子, 西川真生, 永井由巳, 高橋寛二 (2008) 小児に認められた傍中心窩毛細血管拡張症の2例. 第364回大阪眼科集談会, 大阪
  68. 高橋寛二 (2008) 眼底レーザー光凝固の基礎と実際. 第70回東京医科大学眼科臨床懇話会, 東京
  69. 西村哲哉 (2008) 網膜・硝子体疾患, 最近の手術適応. 尼崎眼科医会総会, 尼崎
  70. 埴本 慎 (2008) 教育セミナー 眼科手術教育の理想と現実 眼科手術教育システムとその後. 日本眼内レンズ屈折手術学会, 東京
  71. 高橋寛二 (2008) 眼科 PDT の現状. 日本光線力学療法学会, 名古屋
  72. 高橋寛二 (2008) 難治例に学ぶ! 加齢黄斑変性治療のポイント. 北海道黄斑研究会, 札幌
  73. 南部裕之 (2008) 原発閉塞隅角緑内障の治療方針. 堺壮眼会, 堺
  74. 高橋寛二 (2008) Session3:治療部位の確定. 第12回眼科PDT講習会, 東京
  75. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性に対する PDT の適応と限界. 第2回四国Eyeランドセミナー, 高松
  76. 西村哲哉 (2008) 網膜・硝子体手術, 最近の話題. 紀の国眼疾患研究会, 紀伊田辺
  77. 館野寛子, 星野 健, 高橋寛二, 松村美代 (2008) 急速に進行した肝細胞癌からの転移性脈絡膜腫瘍の一例. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  78. 久保木香織, 永井由巳, 有澤章子, 正健一郎, 西川真生, 高橋寛二 (2008) 光線力学的療法後, 大量出血を生じた網膜血管腫状増殖の4例. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  79. 高橋寛二 (2008) 摘出眼におけるポリープ状脈絡膜眼症の臨床病理相関. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  80. 緒方奈保子 (2008) 全身因子と糖尿病網膜症. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  81. 松山加耶子, 緒方奈保子, 松岡雅人, 和田光正, 嶋千絵子, 西村哲哉, 松村美代 (2008) 糖尿病網膜症患者の血清 PEDF 濃度と前房水 PEDF 濃度. 第112回日本眼科学会総会, 東京
  82. 城 信雄, 松村美代, 西村一晃, Anthony P. Adamis, David T. Shima, Carolina Mailhos (2008) 抗denature collagen type4抗体による脈絡膜新生血管の抑制効果. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  83. 木村元貴, 天野麻穂, 木本高志, 山木邦比古, Linda G.Baum, 松村美代 (2008) 実験的ぶどう膜炎における Galectin-1, -3, -9 の発現についての検討. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  84. 永井由巳, 五味 文, 沢 美喜, 辻川元一, 正健一郎, 有澤章子, 高橋寛二 (2008) 網膜血管腫状増殖に対して行った薬物併用の光線力学的療法. 第112回日本眼科学会総会, 横浜
  85. 安藤 彰, 尾辻 剛, 嶋千絵子, 松山加耶子, 福井智恵子, 桑原敦子, 西村哲哉, 松原敬忠,

- 城 信雄, 南部裕之, 松村美代 (2008) 正常眼圧緑内障に対するニブラジロールの眼圧, 視野, 視神経乳頭形態への影響. 第11回オプタルモニューロプロテクション研究会, 東京
86. 松岡雅人, 木本高志, 木村元貴, 緒方奈保子, 松村美代 (2008) 放射線治療が著効した眼内悪性リンパ腫の2例. 第363回大阪眼科集談会, 大阪
87. 尾辻 剛, 和田光正, 木本高志, 西村哲哉, 松村美代 (2008) 網膜中心静脈閉塞症に伴う黄斑浮腫に対する硝子体手術. 第363回大阪眼科集談会, 大阪
88. 松村美代 (2008) 開放隅角緑内障の治療の現況. 第117回神奈川眼科集談会, 横浜
89. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性の診断基準. 第14回日本糖尿病眼学会, 東京
90. 山田晴彦, 城 信雄, 金子志帆, 大津弥生, 館野寛子, 松村美代, 和田光正, 山田英里, 山田日出美 (2008) 糖尿病黄斑症に対するスタチン増量の効果. 第14回日本糖尿病眼学会総会, 東京
91. 大津弥生, 館野寛子, 金子志帆, 城 信雄, 山田晴彦, 松山加耶子, 嶋千絵子, 松岡雅人, 和田光正, 緒方奈保子, 西村哲哉, 松村美代 (2008) 血管新生緑内障に対する bevacizumab 投与後の濾過手術併用硝子体手術. 第14回日本糖尿病眼学会総会, 東京
92. 嶋千絵子 (2008) 糖尿病網膜症に高度な黄斑部滲出性網膜剥離を認めた2例. 第14回日本糖尿病眼学会総会, 横浜
93. 山田晴彦 (2008) ぶどう膜疾患について. 第2回枚方眼疾患フォーラム, 枚方
94. 南部裕之 (2008) 眼圧日内変動について. 第2回枚方眼疾患フォーラム, 枚方
95. 埜本 慎 (2008) 当科における角膜移植手術. 第2回枚方眼疾患フォーラム, 枚方
96. 緒方奈保子 (2008) 教育セミナー 網膜光凝固術の適応と限界: 糖尿病網膜症に対する光凝固. 第31回日本眼科手術学会, 横浜
97. 高橋寛二 (2008) 難治例に学ぶ! 加齢黄斑変性治療のポイント. 第4回九州黄斑研究会, 福岡
98. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性について. 枚方市医師会総会, 枚方
99. 埜本 慎 (2008) 25G 経結膜硝子体手術後に発生した眼内炎の1例. MIVS (極小切開硝子体手術シンポジウム), 横浜
100. 安藤 彰 (2008) トラベクロトミー強化作戦! 線溶系蛋白のスイッチ付き遺伝子導入はどうか? 第12回眼科分子生物学研究会, 静岡
101. 安藤 彰, 南部裕之, 尾辻 剛, 田辺晶代, 松村美代 (2008) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略 隅核癒着解離術のノウハウ. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
102. 高橋寛二 (2008) 教育セミナー 加齢黄斑変性のレーザー治療: FA-guided PDT—PDTガイドライン—. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
103. 松村美代 (2008) 教育セミナー 原発緑内障手術トラブルシューティング: トラベクロトミー手技上のトラブルシューティング. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
104. 松村美代 (2008) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 閉塞隅角緑内障の治療戦略. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
105. 津田メイ, 木村元貴, 上田義朗, 埜本 慎, 西村哲哉 (2008) 裂孔原性網膜剥離に対する25G システム経結膜硝子体手術の成績. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
106. 南部裕之 (2008) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 原発閉塞隅角緑内障の診療の進め方. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
107. 南部裕之 (2008) 極小切開白内障手術による同時手術—緑内障手術—. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
108. 尾辻 剛 (2008) 教育セミナー 原発閉塞隅角緑内障の治療戦略: 隅核癒着解離術の術後管理と術後成績. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
109. 埜本 慎 (2008) 教育セミナー バックリング手術 ジアテルミー凝固を用いたエクソプラント. 第31回日本眼科手術学会総会, 横浜
110. 吉川匡宣, 松永裕史, 寺井実知子, 國富 薫, 武田丹音 (2008) 再発を繰り返したトリウムシノロンテノン嚢下注入が著効した原田病の一例. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
111. 三間由美子, 新井英子, 松村美代 (2008) ビ

- タミンA欠乏症に伴った重症ドライアイの1例. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 112.西村哲哉 (2008) ミニレクチャー「網膜剥離の手術治療」. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 113.大津弥生, 館野寛子, 金子志帆, 城 信雄, 山田晴彦, 松山加耶子, 嶋千絵子, 松岡雅人, 和田光正, 緒方奈保子, 西村哲哉, 松村美代 (2008) 血管新生緑内障に対する bevacizumab 投与後の濾過手術併用硝子体手術. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 114.嶋千絵子, 緒方奈保子, 松山加耶子, 松岡雅人, 和田光正, 高橋寛二, 松村美代 (2008) 糖尿病網膜症に高度な黄斑部滲出性網膜剥離の併発を認めた2例. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 115.萩原実早子, 寺内博夫, 星野 健, 西川真生, 北川誠彦, 松岡雅人, 樋口暁子, 松村美代 (2008) 関西西大における最近10年間の未熟児網膜症の検討. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 116.木内克治, 北川チエミ, 宮代美樹 (2008) 重篤な視力障害を生じたインターフェロンによる両眼性前部虚血性視神経症. 第362回大阪眼科集談会, 大阪
- 117.高橋寛二 (2008) 膠原病と眼の病気. 膠原病友の会枚方支部勉強会, 枚方
- 118.高橋寛二, 永井由巳, 埴本 慎, 金子志帆 (2008) 摘出眼でのポリープ状脈絡膜血管症の臨床病理相関. 厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班 平成19年度班会議, 福岡
- 119.南部裕之 (2008) 開放隅角緑内障に対する流出路手術. 第2回甲子園眼科オープンカンファレンス, 西宮
- 120.松山加耶子, 緒方奈保子, 和田光正, 松岡雅人, 西村哲哉 (2008) Bevacizumab投与前後の血中 VEGF 濃度. 第47回日本網膜硝子体学会総会/第25回日本眼循環学会 合同学会, 京都
- 121.松山加耶子, 和田光正, 安藤 彰, 緒方奈保子, 西村哲哉 (2008) 抗がん剤投与中に見られた虚血性網膜症の一例. 第62回日本臨床眼科学会, 東京
- 122.飯島裕幸, 今澤光宏, 佐藤 拓, 永井由巳 (2008) 加齢黄斑変性と類緑疾患の診療. 第62回日本臨床眼科学会総会, 東京
- 123.三間由美子, 新井英子, 松村美代 (2008) 全身性ビタミンA欠乏症に合併した重症ドライアイの1例. 第62回臨床眼科学会, 東京
- 124.木本高志 (2008) ベーチェット病による難治性網膜ぶどう膜炎の新しい治療法 抗 TNF- $\alpha$  抗体療法の検討. 京阪地区眼科勉強会, 大阪
- 125.南野桂三, 安藤 彰, 松山加耶子, 嶋千絵子, 福井智恵子, 尾辻 剛, 桑原敦子, 緒方奈保子 (2008) 柱帯形成術の治療成績中隊. 第19回日本緑内障学会, 大阪
- 126.山田晴彦 (2008) 教育講演 —レーザー光凝固— レーザー装置. 第112回日本眼科学会総会, 東京
- 127.木本高志 (2008) 実験的ぶどう膜炎におけるガレクチン発現についての検討. 第10回ボーダーレス眼科臨床研究会, 大阪
- 著 書
1. 西村哲哉 (2008) 真菌性眼内炎の治療. 眼科診療のコツと落とし穴4 薬物療法 (樋田哲夫, 江口秀一郎編) 128-130頁, 中山書店, 東京
2. 西村哲哉 (2008) 穿孔性眼外傷の硝子体手術. 眼科診療のコツと落とし穴 2 手術 (樋田哲夫, 江口秀一郎編) 24-25頁, 中山書店, 東京
3. 西村哲哉 (2008) 網膜剥離の硝子体手術. 眼科診療のコツと落とし穴 2 手術 (樋田哲夫, 江口秀一郎編) 43-45頁, 中山書店, 東京
4. 緒方奈保子 (2008) 糖尿病黄斑浮腫の治療法選択. 眼科診療のコツと落とし穴 3 検査・診断 (樋田哲夫, 江口秀一郎編) 85頁, 中山書店, 東京
5. 緒方奈保子 (2008) 糖尿病黄斑浮腫にたいする治療—トリアムシノロンとレーザー治療. 眼科診療のコツと落とし穴 4 薬物療法 (樋田哲夫, 江口秀一郎編) 104-105頁, 中山書店, 東京
6. 高橋寛二 (2008) 加齢黄斑変性. 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次夫編) 2008年度版, 1077頁, 医学書院, 東京

## 耳鼻咽喉科学講座

## 〈研究業績〉

原著

1. Arai S, Harada N, Kubo N, Shen J, Nakamura A, Ikeda H, Tsuji H and Yamashita T (2008) Induction of inducible nitric oxide synthase and apoptosis by LPS and TNF- $\alpha$  in nasal microvascular endothelial cells. *Acta Otolaryngol* 128(1): 78–85
2. Ogura M, Furukawa M, Tada N, Ikeda H and Yamashita T. (2008) Platelet-activating factor (PAF) induced cytokine production and otitis media with effusion (OME) in the rat middle ear. *Auris Nasus Larynx* 35(3): 338–343
3. Iwai H, Yukawa H, Nagata M, Inoue T, Omae M and Yamashita T (2008) Preoperative concurrent chemoradiotherapy versus pre- and postoperative radiotherapy for advanced hypopharyngeal carcinoma: A single-center study. *Auris Nasus Larynx* 35(2): 235–241
4. Iwai H, Baba S, Omae M, Lee S, Yamashita T and Ikehara S (2008) Maintenance of systemic immune functions prevents accelerated presbycusis. *Brain Res* 1208: 8–16
5. Izumikawa M, Batts SA, Miyazawa T, Swiderski DL and Raphael Y (2008) Response of the flat cochlear epithelium to forced expression of Atoh1. *Hear Res* 240(1-2): 52–56
6. Ando Y, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Quan GK, Omae M, Okazaki K and Ikehara S (2008) Subcutaneous adipose tissue-derived stem cells facilitate colonic mucosal recovery from 2,4,6-trinitrobenzene sulfonic acid (TNBS)-induced colitis in rats. *Inflamm Bowel Dis* 14(6): 826–838
7. Omae M, Inaba M, Sakaguchi Y, Tsuda M, Miyake T, Fukui J, Iwai H, Yamashita T and Ikehara S (2008) Long-term maintenance of donor-derived hematopoiesis by intra-bone marrow-bone marrow transplantation. *Stem Cells Dev* 17(2): 291–302
8. Guo K, Inaba M, Li M, An J, Cui W, Song C, Wang J, Cui Y, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Ando Y, Li Q, Wang X, Feng W and Ikehara S (2008) Long-Term Donor-Specific Tolerance in Rat Cardiac Allografts by Intrabone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells. *Transplantation* 85(1): 93–101
9. Konishi M, Kawamoto K, Izumikawa M, Kuriyama H and Yamashita T (2008) Gene transfer into guinea pig cochlea using adeno-associated virus vectors. *J Gene Med* 10(6): 610–618
10. 友田幸一, 山本純平 (2008) 副鼻腔疾患の治療—保存的か観血的か・その決断の時—. *ENTONI* 90: 61–68
11. 宗本由美, 新井昇治, 栗山博道, 濱田聡子, 清水順一, 久保伸夫, 山下敏夫 (2008) 顔面神経麻痺症例における高感度CRPの検討. *Facial Nerv Res* 27: 138–140
12. 友田幸一, 村田英之, 山本純平 (2008) 内視鏡下鼻副鼻腔手術のための支援機器 ナビゲーションシステム. *JOHNS* 24(2): 173–177
13. 今野昭義, 久保伸夫 (2008) 花粉症治療における第2世代抗ヒスタミン薬の患者満足度と受療意識の向上—大規模花粉症患者アンケート調査からみた薬剤選択—. *Prog Med* 28(9): 2285–2296
14. 久保伸夫 (2008) 耳鼻咽喉科領域からのレポート 自臭症診療に有用な無臭ガス測定. *アポロニア* 21 (177): 076–079
15. 金子敏彦 (2008) 哺乳類蝸牛の外有毛細胞における膜輸送. *関西医大誌* 50(2-4): 185–189
16. 岩井 大 (2008) 口腔・咽頭領域における他科との境界と連携 唾液腺疾患における他科との境界と連携. *口腔咽頭科* 20(2): 211–213
17. 清水順一, 宗本由美, 久保伸夫 (2008) 耳鼻咽喉科領域における, においガス測定とその意義 特に, 自臭症診療に有用なガス測定器について. *口鼻臭臨研会記録集* (2): 34–38
18. 楠山敏行, 森 有子, 宮本 真, 中川秀樹, 田村悦代, 新美成二, 福田宏之 (2008) 声門閉鎖不全に対する声帯内ヒアルロン酸注入術の治療経験. *喉頭* 20(2): 133–137
19. 濱田聡子, 朝子幹也, 宗本由美, 久保伸夫, 山下敏夫, 高橋伯夫 (2008) 突発性難聴における高感度CRPの検討. *耳鼻臨床* 101(11): 829–833

20. 井上美保子, 北條恵子, 松尾康史, 中河いよ  
う, 澤本好克, 中島 充, 小西将矢, 土井  
直 (2008) Mondini型内耳奇形に伴う反復性化  
膿性髄膜炎の1幼児例. 小児臨 61(3): 467-472
21. 友田幸一 (2008) 金沢医科大学耳鼻咽喉科に  
おけるナビゲーション手術の実態. 第9回 耳  
鼻咽喉科ナビゲーション研究会 51(5 別冊):  
94-98
22. 友田幸一 (2008) 耳鼻咽喉科ナビゲーション  
手術の現状-2003年, 2007年全国アンケート  
調査結果報告-. 第9回 耳鼻咽喉科ナビゲ  
ーション研究会 51(5 別冊): 100-106
23. 馬場一泰, 古川昌幸, 友田幸一 (2008) ナビ  
ゲーションシステムが有効であった前頭洞炎  
に対する鼻内内視鏡手術の一例. 通信医  
60(5): 287-289
24. 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 小椋 学, 八  
木正夫, 藤澤琢郎, 宮本 真, 近野哲史, 竹  
村博一, 山下敏夫, 辻 裕之 (2008) 進行下  
咽頭癌における術前化学放射線療法に対する  
病理学的効果の検討. 頭頸部癌 34(4): 544-  
547
25. 小西将矢, 河本光平, 泉川雅彦, 栗山博道, 山  
下敏夫 (2008) AAVによる内耳遺伝子導入の  
試み. 頭頸自律神 22: 47-48
26. 友田幸一 (2008) 手術ナビゲーションでの臨  
床での使用実態に関するアンケート調査結果  
報告 (2). JSCAS 10(1): 53-67
27. Staumont-Sallé D, Abboud G, Brénuochon C,  
Kanda A, Roumier T, Lavogiez C, Fleury S,  
Rémy P, Papin JP, Bertrand-Michel J, Tercé F,  
Staels B, Delaporte E, Capron M and Dombrowicz  
D (2008) PPAR- $\alpha$  regulates skin inflammation  
and humoral response in atopic dermatitis. J  
Allergy Clin Immunol 121: 962-968
28. Verhasselt V, Milcent V, Cazareth J, Kanda A,  
Fleury S, Dombrowicz D, Glaichenhaus N and  
Julia V. (2008) Breast milk-mediated transfer of an  
airborne antigen induces immune tolerance and  
protection from allergic airway disease in mice.  
Nat Med 14: 170-175
- とのコミュニケーション. 耳鼻臨床 101(7):  
560-561
2. 久保伸夫, 金子一成 (2008) PFAPA と自己炎  
症疾患. 耳鼻臨床 101(5): 395-407
3. 久保伸夫 (2008) 【小児耳鼻咽喉科をめぐる最  
近の話題】小児耳鼻咽喉科疾患治療の最前線  
鼻閉への対応. 小児診療 71(10): 1735-1740
4. 永田基樹 (2008) 耳下腺多形腺腫手術とその  
問題点. 頭頸部癌 34(3): 355-359
5. 久保伸夫 (2008) 【花粉症の最新情報】花粉症  
の治療 外科的療法. 日医師会誌 136(10):  
1990-1991
6. 泉川雅彦, 河本光平, 八木正夫, Raphael  
Yehoash, 山下敏夫, 友田幸一 (2008) 内耳疾  
患の治療をめざして-基礎研究の最前線-遺伝  
子導入法 (蝸牛有毛細胞の再生と聴覚の回復)  
一. 日耳鼻会報 111(12): 727-733
- 学会発表
1. Baba S, Iwai H, Nakae K, Konishi M, Sakaguchi  
M, Kaneko T, Izumikawa M, Ikegami T, Kitajiri  
M, Tomoda K and Amakawa R (2008) Regres-  
sion of Parotid MALT Lymphoma after Eradica-  
tion Therapy of Helicobacter Pylori in the Stom-  
ach. THE 25th CONGRESS OF PAN-PACIFIC  
SURGICAL ASSOCIATION JAPAN CHAPTER,  
Bangkok, Thailand
2. Ikegami T, Izumikawa M, Doi T and Tomoda T  
(2008) A case of cerebellar infarction with facial  
palsy after vertigo and acute sensorineural hear-  
ing loss. THE 25th CONGRESS OF PAN-  
PACIFIC SURGICAL ASSOCIATION JAPAN  
CHAPTER, Bangkok, Thailand
3. Iwai H, Suzuki K, Baba S, kaneko T, Sakaguchi  
M, Izumikawa M, Ikegami T, Kitajiri M and  
Tomoda K (2008) Inflammation in Parotid War-  
thin's Tumor as a Complication of Fine-Needle  
Aspiration. THE 25th CONGRESS OF PAN-  
PACIFIC SURGICAL ASSOCIATION JAPAN  
CHAPTER, Bangkok, Thailand
4. Izumikawa M, Kawamoto K, Yamashita T and  
Raphael Y (2008) Auditory hair cell replacement  
and hearing improvement by Atoh1 gene therapy  
in deaf mammals, Symposium 3, Genetics,
- 総 説
1. 久保伸夫 (2008) 感覚異常疾患における患者

- Development and Regeneration. the XXV Bárány Society Meeting, Kyoto International Conference Center, Kyoto
5. Kubo N (2008) Endoscopic septorhinoplasty for patients with chronic nasal obstruction. 35th Korean Rhinology Society, Daegu, Korea
  6. Ooka H, Kanda S, Suzuki H, Nishiyama T and Yamasita T (2008) Identification of Tissue Specific Stem/progenitor Cells in Auditory Pathway. 31st Association for Research in Otolaryngology (ARO), Arizona, USA
  7. 朝子幹也 (2008) 耳鼻咽喉科における抗ヒスタミン薬の使い方. グラクソスイスクライン社内研修会, 大阪
  8. 阪上智史, 竹村博一, 近野哲史, 藤澤琢郎, 湯川尚哉, 永田基樹, 井上俊哉, 友田幸一 (2008) 口腔内での花火破裂を契機とした咽頭外傷の1例. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  9. 池田浩己, 山西美映, 芝埜 彰, 竹林慎治, 三浦 誠 (2008) 当科に於ける鼻副鼻腔手術ナビゲーションシステムの使用経験. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  10. 竹田浩子, 馬場 奨, 河本光平, 友田幸一 (2008) めまいを主訴に救急外来を受診したWallenberg症候群の2例. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  11. 朝子幹也, 友田幸一 (2008) 鼻副鼻腔新手術器具ballon sinuplastyの経験. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  12. 馬場一泰, 柴田清児ブルース, 古川昌幸, 友田幸一 (2008) 当院での鼻副鼻腔手術におけるナビゲーションシステムの使用状況-手術手技向上のツールとしての可能性-. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  13. 福井英人, 朝子幹也, 友田幸一 (2008) 脳外科用ナビゲーションシステムのみ利用可能な状況下で施行した鼻内内視鏡手術の経験. 第307回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  14. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 斉藤一郎, 西山利正 (2008) 聴覚伝導路(下丘)における組織幹細胞の同定. 第31回日本分子生物学会年会・第81回日本生化学会大会合同大会, 神戸
  15. 池田浩己, 山西美映, 芝埜 彰, 竹林慎治, 三浦 誠 (2008) 再発性前頭洞嚢胞の1例. 第85回日本耳鼻咽喉科学会和歌山地方部会, 和歌山
  16. 友田幸一 (2008) 「自分の手術はどれくらい正確か? -行動工学に基づく鼻科手術の新しい評価-」. 湘北耳鼻咽喉科医学会学術講演会, 神奈川
  17. 下雅意学, 池田浩己, 伊良波浩, 畑埜義雄, 榎本雅夫 (2008) ラテックス特異的IgE抗体価と口腔アレルギー症候群(OAS)の検討. 第58回日本アレルギー学会秋季学術大会, 東京
  18. Stefan Trifonov, 宝谷剛志, 濱田聡子, 加瀬政彦, 丸山正人, 杉本哲夫 (2008) Expression of ChAT mRNA splice variants in mouse CNS. 第84回日本解剖学学会近畿支部学術集会, 大阪
  19. 大櫛哲史, 朝子幹也 (2008) 内視鏡下鼻内手術における新しい手術手技-Ballon Sinuplasty-. 第10回耳鼻咽喉科ナビゲーション研究会/手術支援システム研究会, 東京
  20. 福井英人, 朝子幹也, 友田幸一 (2008) 脳外科用ナビゲーションシステムのみ利用可能な状況下で施行した鼻内内視鏡手術の経験. 第10回耳鼻咽喉科ナビゲーション研究会/手術支援システム研究会, 東京
  21. 朝子幹也 (2008) 花粉症治療 Up to Date. 鳥取県東部耳鼻咽喉科医学会, 鳥取
  22. 池田浩己 (2008) 医学的見地から見たシックハウス症候群. 健康な住まいとくらしを考える会, 神戸
  23. 朝子幹也 (2008) 2008年スギヒノキ花粉症患者実態調査とプラシラカスト初期療法の有用性について. 大阪アレルギー性鼻炎フォーラム2008, 大阪
  24. 北尻雅則 (2008) 「耳のしくみ」と「難聴」. 第13回「補聴器の上手な選び方使い方」の会, 堺
  25. 金子敏彦, 土井 直, 古川昌幸, 河本光平, 北尻雅則 (2008) 中耳に原発した乳頭腫の1例. 第18回日本耳科学会・学術講演会, 神戸
  26. 泉川雅彦, 河本光平, 八木正夫, 土井 直, 古川昌幸, 北尻雅則, 友田幸一 (2008) 蝸牛扁平上皮におけるAtoh1遺伝子導入の効果. 第18回日本耳科学会・学術講演会, 神戸
  27. 土井 直, 古川昌幸, 泉川雅彦, 宗本由美, 金子敏彦, 小西将矢, 北尻雅則. (2008) 鼓室形

- 成術における聴力改善不成功例の検討. 第18回日本耳科学会・学術講演会, 神戸
28. 濱田聡子, 杉本哲夫, 友田幸一, 山下敏夫 (2008) 聴性中継核におけるコリン線維とムスカリン性受容体サブタイプ発現の相関. 第18回日本耳科学会・学術講演会, 神戸
29. 原田成信 (2008) P2Y1受容体刺激によって惹起されたヘンゼン細胞のカルシウムウェーブ. 第18回日本耳科学会総会・学術集会, 神戸
30. 下出祐造, 辻 裕之, 友田幸一, 中川 淳, 伊藤順庸 (2008) 小児甲状腺癌の検討. 第41回日本甲状腺外科学会学術集会, 東京
31. 池田浩己, 山西美映, 芝埜 彰, 竹林慎治, 三浦 誠, 榎本雅夫 (2008) 鼻副鼻腔内視鏡手術ナビゲーションシステムの使用経験. 第44回日本赤十字社医学会総会, 釧路
32. 井上俊哉, 岡崎はるか, 永田基樹, 湯川尚哉, 友田幸一 (2008) ハイリスク下咽頭癌症例に対する双茎遊離空腸移植の経験. 第46回日本癌治療学会総会, 名古屋
33. 藤澤琢郎, 永田基樹, 湯川尚哉, 小椋 学, 竹村博一, 井上俊哉, 友田幸一 (2008) 嗅神経芽細胞8症例の検討. 第46回日本癌治療学会総会学術集会, 名古屋
34. 間三千夫, 田村直子, 北原智子, 小野智子, 池田浩己, 萩原 晃, 西山信宏, 河口幸江, 古瀬寛子, 山田哲也, 三浦 誠, 河野 淳, 鈴木 衛 (2008) 医療的視点から見た耳掛け・耳穴防水型補聴器の有効性. 第53回日本聴覚医学会総会・学術大会, 東京
35. 濱田聡子, 朝子幹也, 久保伸夫 (2008) 花粉症と咳嗽 2008年度スギヒノキ花粉症患者実態調査と初期療法の有用性について. 第62回臨床アレルギー研究会(関西), 大阪
36. 友田幸一 (2008) 「自分の手術はどれくらい正確か?—行動工学に基づく鼻科手術の新しい評価—」. 第6回山陰耳鼻科集談会, 鳥取(米子)
37. 朝子幹也 (2008) 2008年スギヒノキ花粉症患者実態調査とブランルカスト初期療法の有用性について. 八戸耳鼻咽喉科医会, 八戸
38. 近野哲史, 永田基樹, 井上俊哉, 湯川尚哉, 小椋 学, 藤澤琢郎, 八木正夫, 竹村博一, 友田幸一 (2008) 3年後に原発部位が硬口蓋と判明した原発不明癌の1例. 第21回日本口腔咽頭科学会総会, 鹿児島
39. 藤澤琢郎, 湯川尚哉, 近野哲史, 竹村博一, 永田基樹, 井上俊哉, 友田幸一 (2008) Plummer vinson 症候群に舌癌を伴った一症例. 第21回日本口腔咽頭科学会総会, 鹿児島
40. 鈴木健介, 岩井 大, 八木正夫, 足立真理, 中出多子, 坂口麻理子, 北尻雅則 (2008) FNAにより急性炎症所見を示した耳下腺ワルチン腫瘍の検討. 第21回日本口腔咽頭科学会総会, 鹿児島
41. 高橋弘毅, 岸本真房, 竹村博一, 金田浩由紀, 伊藤昭裕, 櫻本和人, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 斉藤幸人 (2008) 口腔内での火花破裂を契機とした咽頭穿孔による頸部腫瘍に対し, 頸部・縦隔ドレナージ術が奏効した一例. 第23回日本救命医療学会総会・学術集会, 東京
42. 阪上智史, 湯川尚哉, 永田基樹, 藤澤琢郎, 竹村博一, 近野哲史, 井上俊哉, 友田幸一, 小椋 学, 八木正夫 (2008) 両側顎下腺腫大から診断された, 自己免疫性肺炎の1例. 第306回日耳鼻大阪地方会, 大阪
43. 上野幸恵, 朝子幹也, 友田幸一 (2008) 2008年度スギヒノキ花粉症と咳嗽. 第306回日耳鼻大阪地方会, 大阪
44. 馬場 奨, 河本光平, 竹田浩子, 土井 直, 友田幸一, 藤原 享, 舟木克江, 辻美代子 (2008) 髄膜炎にて発見された内耳奇形の1例. 第306回日耳鼻大阪地方会, 大阪
45. 福井英人, 朝子幹也, 古川昌幸, 友田幸一 (2008) TTF-1陽性の nasopharyngeal papillary adenocarcinoma の1例. 第306回日耳鼻大阪地方会, 大阪
46. 鈴木健介, 朝子幹也, 泉川雅彦, 河本光平, 古川昌幸, 友田幸一 (2008) 鼻内から摘出し得た若年性鼻咽腔血管線維腫の1例. 第306回日耳鼻大阪地方会, 大阪
47. 河本光平, 金子敏彦, 大前麻理子, 小西将矢, 中出多子, 鈴木健介, 朝子幹也, 北尻雅則 (2008) 視力障害を伴った鼻副鼻腔疾患の5症例. 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会, 名古屋
48. 池田浩己, 山西美映, 芝埜 彰, 竹林慎治, 三浦 誠 (2008) 鼻内から摘出した若年性血管

- 織維腫の一例. 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会, 名古屋
49. 池田浩己, 山西美映, 芝埜 彰, 竹林慎治, 三浦 誠 (2008) 当科に於ける鼻副鼻腔内視鏡手術ナビゲーションシステムの使用経験. 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会, 名古屋
  50. 朝子幹也, 古川昌幸, 岡崎はるか, 高田洋平 (2008) 当科における鼻副鼻腔 Inverted Papilloma 症例の検討. 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会, 名古屋
  51. 北尻雅則 (2008) 本学のチュートリアル教育の歩み—今後の方向性を探る—. 第26回関西医科大学医学教育ワークショップ, 大阪
  52. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 丸山正人, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫, 友田幸一, 山下敏夫 (2008) 中枢聴覚路におけるコリン線維とムスカリン性受容体サブタイプ発現の解析. 第26回頭頸部自律神経研究会, 大阪
  53. 北尻雅則 (2008) 「必見! こんなめまいに要注意」. テレビ大阪「健康手帳」, 大阪
  54. 久徳茂雄, 稲垣隆介, 岩瀬正顕, 辻 裕之, 山内康雄, 河本圭司, 大谷一弘, 笠井千尋, 奥野涼子 (2008) 頭蓋底外科に関わる3つのチーム医療に参加して—頭蓋底外科における形成外科医の使命—. 第20回記念日本頭蓋底外科学会, 東京
  55. Izumikawa M and Raphael Y (2008) Forced expression of Atoh1 gene in mammalian cochlea 感覚器再生研究最前線—内耳有毛細胞・神経再生—. 第31回日本神経科学大会, 東京 (東京国際フォーラム)
  56. 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 濱田聡子, 加瀬政彦, 杉本哲夫 (2008) マウス線条体lateral zoneにGAD1 mRNA 発現ニューロンが集中する. 第31回日本神経科学大会, 東京
  57. 榎本雅夫, 畠田猛真, 中原 啓, 福辻賢治, 芝埜 彰, 池田浩己, 山西美映 (2008) スギ花粉症に対する第2世代抗ヒスタミン役の臨床効果の検討. 第20回春季臨床アレルギー学会, 東京
  58. 近野哲史, 永田基樹, 井上俊哉, 湯川尚哉, 小椋 学, 藤澤琢郎, 竹村博一 (2008) 3年後に原発部位が硬口蓋と判明した原発不明癌の1例. 第305回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  59. 池上智子, 泉川雅彦, 土井 直, 岡崎はるか, 宮本 真, 古川昌幸 (2008) めまいと急性感音難聴で発症後, 顔面神経麻痺が出現した小脳梗塞の例. 第305回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  60. 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 小椋 学, 藤澤琢郎, 宮本 真, 近野哲史, 岩井 大, 山下敏夫, 辻 裕之 (2008) 進行下咽頭癌における術前化学放射線療法に対する病理学的効果の検討. 第32回日本頭頸部癌学会, 東京
  61. 藤澤琢郎, 永田基樹, 井上俊哉, 湯川尚哉, 小椋 学, 八木正夫, 宮本 真, 近野哲史, 辻裕之, 山下敏夫 (2008) 嗅神経芽細胞7症例の検討. 第32回日本頭頸部癌学会, 東京
  62. 八木正夫, 永田基樹, 湯川尚哉, 井上俊哉, 小椋 学, 藤澤琢郎, 岩井 大, 中川浩伸, 近野哲史, 宮本 真, 竹村博一, 山下敏夫 (2008) 過去10年間における耳下腺癌症例の検討. 第32回日本頭頸部癌学会, 東京
  63. 宮本 真, 小椋 学, 池上智子, 阪上智史, 山下敏夫 (2008) 喉頭気管分離術後に著明な呑気症をきたした1症例. 第70回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 長崎
  64. 池上智子, 泉川雅彦, 土井 直, 岡崎はるか, 宮本 真, 古川昌幸 (2008) めまいと急性感音難聴で発症した後に顔面神経麻痺が出現した小脳梗塞の2症例. 第70回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 長崎
  65. 朝子幹也, 高田洋平, 河本光平, 岡崎はるか, 古川昌幸 (2008) 当科における鼻副鼻腔 Inverted Papilloma 症例の検討. 第70回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会, 長崎
  66. 井上俊哉 (2008) 上側壁型中咽頭癌切除後再建の長期的成績の検討. 第90回日本形成外科学会関西支部学術集会, 奈良
  67. 朝子幹也 (2008) 大学病院からみた短期滞在手術. 第5回耳鼻咽喉科短期滞在手術研究会
  68. 友田幸一, 村田英之, 石 政寛, 山下樹里 (2008) ハイパーミラーを用いた鼻科内視鏡手術の遠隔スキルトレーニングシステム. 日本外科系連合学会, 千葉
  69. 井上俊哉, 辻 裕之, 南 豊彦, 山下敏夫 (2008) 当科における遊離移植の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
  70. 榎本雅夫, 畠田猛真, 中原 啓, 福辻賢治, 山

- 西美映, 池田浩己, 芝埜 彰 (2008) 花粉暴露室を使用した第2世代抗ヒスタミン役のスギ花粉症に対する臨床効果の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
71. 岡崎はるか, 八木正夫, 湯川尚哉, 近野哲史, 宮本 真, 藤澤琢郎, 井上俊哉, 山下敏夫 (2008) 内視鏡的静脈瘤結紮術後食道穿孔・動脈性出血及び反回神経麻痺を認めた一例. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
72. 宮澤 徹, 泉川雅彦, 友田幸一, Raphael Y (2008) 正常および障害モデル聴上皮におけるアデノウイルスを介した遺伝子発現パターン. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
73. 近野哲史, 永田基樹, 湯川尚哉, 八木正夫, 藤澤琢郎, 宮本 真, 井上俊哉, 山下敏夫 (2008) 当科における顎下腺癌の臨床検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
74. 坂口麻理子, 岩井 大, 馬場 奨, 李 進隆, 山下敏夫 (2008) 加齢性聴覚機能における全身免疫の関与の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
75. 柴田清児ブルース, 河本光平, 泉川雅彦, 八木正夫, 朝子幹也, 山下敏夫 (2008) Bovine adeno associated virusによるモルモット蝸牛内遺伝子導入. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
76. 宗本由美, 久保伸夫, 清水順一, 山下敏夫 (2008) 当科で経験したPFAPA症候群の1例—病態・診断を中心に—. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
77. 小西将矢, 河本光平, 泉川雅彦, 栗山博道, 山下敏夫 (2008) AAVによる内耳への遺伝子導入の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
78. 清水順一, 宗本由美, 久保伸夫, 山下敏夫 (2008) 消化器由来と思われる口鼻臭症患者に対する呼気中水素濃度の経時的自己測定. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
79. 泉川雅彦 (2008) 遺伝子導入法 (内耳再生と聴覚回復) シンポジウム1「内耳疾患の治療をめざして—基礎研究の最前線」. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
80. 大岡久司, 神田靖士, 西山利正, 山下敏夫 (2008) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
81. 池田浩己, 竹田浩子, 藤澤琢郎, 圓藤洋子, 榎本雅夫, 山下敏夫 (2008) 耳鼻咽喉科アレルギー外来におけるシックハウス症候群・化学物質過敏症の現状. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
82. 中原 啓, 碓田猛真, 嶽良博, 芝埜 彰, 池田浩己, 福辻賢治, 山西美映, 北野博也, 榎本雅夫 (2008) 中耳両側同時手術例の利点について. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
83. 中出多子, 岩井 大, 金子敏彦, 河本光平, 泉川雅彦, 北尻雅則, 山下敏夫 (2008) 喉頭原発の混合型小細胞癌の1例. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
84. 朝子幹也, 古川昌幸, 山下敏夫 (2008) 当科における鼻副鼻腔内視鏡手術後成績—前頭洞病変を中心に—. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
85. 土井 直, 古川昌幸, 泉川雅彦, 宗本由美, 金子敏彦, 北尻雅則, 山下敏夫 (2008) 当科における鼓室形成術の検討. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
86. 土井 直, 古川昌幸, 泉川雅彦, 宗本由美, 金子敏彦, 北尻雅則, 山下敏夫 (2008) 当科における鼓室形成術の手術成績. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
87. 島野卓史, 朝子幹也, 山下敏夫 (2008) 聴覚路におけるChannel Rhodopsin-2(ChR2)導入の評価. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
88. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫, 山下敏夫 (2008) 脳幹聴性中継核におけるムスカリン性受容体サブタイプ発現とコリン線維の分布局在. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, 大阪
89. 芝埜 彰, 榎本雅夫, 碓田猛真, 池田浩己, 中原 啓, 福辻賢治, 山西美映 (2008) 睡眠時無呼吸症候群におけるQOLと胃酸逆流症状との関連. 第109回日本耳鼻咽喉科総会・学術講演会, 大阪

- 演会, 大阪
90. 山西美映, 池田浩己, 南方高志, 森下正彦, 榎本雅夫 (2008) 飛散ヒノキ科花粉による農産物被害の予測. 第61回臨床アレルギー研究会 (関西), 大阪
  91. 濱田聡子, 宝谷剛志, Stefan Trifonov, 加瀬政彦, 堤 俊之, 杉本哲夫 (2008) 脳幹のムスカリン性受容体サブタイプ発現 コリン線維との相関. 第113回日本解剖学会総会, 大分
  92. 榎本雅夫, 畠田猛真, 中原 啓, 福辻賢治, 芝埜 彰, 池田浩己, 山西美映 (2008) 花粉暴露室を使用した第2世代抗ヒスタミン役のスギ花粉症に対する臨床効果の検討. 第20回春季臨床アレルギー学会, 東京
  93. 榎本雅夫, 畠田猛真, 芝埜 彰, 池田浩己, 中原 啓, 福辻賢治, 山西美映 (2008) スギ花粉入りカプセル服用後にアナフィラキシーショックを起こした症例. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  94. 岡崎はるか, 湯川尚哉, 近野哲史, 宮本 真, 藤澤琢郎, 井上俊哉, 山下敏夫, 八木正夫 (2008) 内視鏡的静脈瘤結紮術後に食道穿孔より動脈性出血及び反回神経麻痺を認めた1例. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  95. 宮田恵里, 宮本 真, 小椋 学, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 藤澤琢郎, 近野哲史, 山下敏夫 (2008) 頭頸部癌術後患者における摂食・嚥下機能評価について. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  96. 宮本 真, 宮田恵里, 鈴木健介, 山下敏夫, 八木正夫 (2008) 皮膚筋炎に対する内視鏡下バルーン拡張の試み. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  97. 山西美映, 畠田猛真, 池田浩己, 中原 哲, 福辻賢治, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2008) 当科で経験した組織型が異なる4重癌の1例. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  98. 小西将矢, 河本光平, 泉川雅彦, 山下敏夫 (2008) アデノ随伴ウィルスによる内耳遺伝子導入. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  99. 朝子幹也, 高田洋平, 岡崎はるか, 古川昌幸, 山下敏夫 (2008) 当院における Inverted Papilloma 症例についての検討. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  100. 福辻賢治, 池田浩己, 中原 啓, 山西美映, 芝埜 彰, 畠田猛真, 榎本雅夫 (2008) Mohs' 軟膏が効果的であった巨大な耳下腺悪性腫瘍症. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  101. 濱田聡子, 堤 俊之, 山下敏夫, 宝谷剛志, 杉本哲夫 (2008) ムスカリン性受容体とコリン線維の聴覚路局在. 第304回日耳鼻大阪地方会, 大阪
  102. 大岡久司, 神田靖士, 鈴木裕子, 美島健二, 齊藤一郎, 西山利正 (2008) 聴覚伝導路における組織幹細胞の同定. 第7回日本再生医療学会総会, 名古屋市
  103. 谷 陽一, 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 高田洋平, 井上俊哉, 永田基樹, 山下敏夫 (2008) 墜落による頭頸部挫創で奇跡的に中枢動脈の損傷を回避しえた1例. 第97回近畿救急医学会, 和歌山
  104. 朝子幹也 (2008) 花粉症治療 Up to Date. 高松医師会, 高松
  105. 近野哲史, 井上俊哉, 朝子幹也, 永田基樹, 高田洋平, 山下敏夫 (2008) 顔面を貫通した頸部刺創の1例. 第18回日本頭頸部外科学会, 京都
  106. 山西美映, 福辻賢治, 中原 啓, 池田浩己, 畠田猛真, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2008) シックハウス症候群・化学物質過敏症患者のアンケート調査. 第26回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 大阪
  107. 山西美映, 福辻賢治, 中原 啓, 池田浩己, 畠田猛真, 芝埜 彰, 榎本雅夫 (2008) 飛散ヒノキ花粉観測の活用. 第26回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 大阪
  108. 朝子幹也 (2008) 2008年度花粉症対策におけるロイコトリエン拮抗剤の有用性について. 大東四条啜医師会, 大阪
  109. 宮本 真, 井上俊哉, 永田基樹, 湯川尚哉, 小椋 学, 八木正夫, 藤澤琢郎, 近野哲史, 山下敏夫 (2008) 下咽頭癌術後に, 頸部の感染から空気塞栓をきたした1症例. 第18回日本頭頸部外科学会, 京都
  110. 酒井あや, 下出祐造, 村田英之, 辻 裕之, 友田幸一 (2008) 甲状腺腫瘍における FDG-PET 検査の有用性について. 第18回日本頭頸

部外科学会総会, 京都

111. 友田幸一 (2008) 副鼻腔膿毒性疾患手術—外切開術—. 第18回日本頭頸部外科学会総会, 京都
  112. 鈴木健介, 朝子幹也, 泉川雅彦, 河本光平, 古川昌幸, 友田幸一 (2008) 鼻内から摘出し得た若年性鼻咽腔血管線維腫の1例. 第47回日本鼻科学会総会・学術講演会, 名古屋
  113. 碓田猛真, 森實理恵, 池田浩己, 野坂彩, 中原 啓, 福辻賢治, 山西美映, 芝埜 彰, 榎本雅夫, 北野博也 (2008) 放射線併用5-FU先行型MTX enhanced 5-FU CGDP療法の効果. 第109回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会, 大阪
  114. 朝子幹也, 高田洋平, 岡崎はるか, 古川昌幸, 山下敏夫 (2008) 当院におけるInverted Papilloma症例についての検討. 第304回耳鼻鼻大阪地方会, 大阪
  115. 池田浩己 (2008) 鼻副鼻腔疾患へのアプローチ～鼻内内視鏡手術を中心に～. 第4回泉州・和歌山耳鼻科連絡会, 大阪
  116. Eric Mosconi, Rekima Akila, Akira Kanda, Sébastien Fleury, David Donbrowicz, Valérie Julia, Nicolas Glaichenhaus and Valerie Verhasselt (2008) Breastsfeeding mediated transfer of an antigen protects from asthma , XXXIII MEETING OF THE BRAZILIAN SOCIETY FOR IMMUNOLOGY, October 20–25, Brazil
  117. Shibata SB, Di Pasquale G, Cortez SR, Chiorini JA and Raphael Y (2008) Gene Transfer with Bovine Adeno-Associated Virus Efficiently Transduces the Cochlea in Guinea Pigs in vivo. ASSOCIATION FOR RESEARCH IN OTOLARYNGOLOGY 31<sup>st</sup> MIDWINTER RESEARCH MEETING, Phoenix, Arizona, USA
  118. Shibata SB (2008) Bovine adeno-associated virus and siRNA in the cochlea. LAWRENCE-HAWKINS LECTURES, Ann Arbor, Michigan, USA
  119. Shibata SB (2008) Achieving neuronal growth in severely traumatized cochlear epithelium. TAUBMANN TALK SERIES, Ann Arbor, Michigan, USA
  120. 柴田清児ブルース, 河本光平, 泉川雅彦, 八木正夫, 朝子幹也, 山下敏夫 (2008) Bovine adenoassociated virus によるモルモット蝸牛内遺伝子導入. 第109回日本耳鼻咽喉科学会総会, 大阪
- 著 書
1. 久保伸夫 (2008) 小児スギ・ヒノキ花粉症に対するレーザー手術の効果とQOL評価および通年性アレルギー性鼻炎にたいするラジオ波凝固装置の効果. 厚生労働科学研究費補助金 免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書 リアルタイムモニター飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発 平成19年度 総合研究報告書 (主任研究者: 大久保公裕) 252–255頁, 厚生労働省, 東京
  2. 岩井 大 (2008) フライ症候群. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版 (森山 寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之編) 314頁, 医学書院, 東京
  3. 井上俊哉 (2008) 頭頸部領域の血管腫. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版 (森山 寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之編) 490頁, 医学書院, 東京
  4. 北尻雅則 (2008) 6 口腔・咽頭疾患, 178 急性・慢性咽頭炎. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版 (森山 寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之編) 347頁, 医学書院, 東京
  5. 友田幸一 (森山 寛, 岸本誠司, 小林俊光, 川内秀之) (2008) 口内乾燥. 今日の耳鼻咽喉科・頭頸部外科治療指針 第3版 (友田幸一編) 57頁, 医学書院, 日本

## 放射線科学講座

## 〈研究業績〉

原 著

1. Ueno Y, Ikeda K, Maehara M, Sakaida N, Omura N, Kurokawa H and Sawada S (2008) Traumatic neuroma of the bile duct. *Abdom Imaging* 33(5): 560–562
2. Sakata K, Sakurai H, Suzuki Y, Katoh S, Ohno T, Toita T, Kataoka M, Tanaka E, Kaneyasu Y, Uno T, Harima Y and Nakano T (2008) Results of concomitant chemoradiation for cervical cancer using high dose rate intracavitary brachytherapy: Study of JROSG (Japan Radiation Oncology Study Group). *Acta Oncol* 47(3): 434–441
3. Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Tokuda T, Ueno Y, Kuwata S, Fujita A, Terada J and Sawada S (2008) Improvement in respiratory function by percutaneous vertebroplasty. *Acta Radiol* 49(6): 638–643
4. Sugimoto T, Tanigawa N, Ikeda K, Ohmura N, Maehara M, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Ha-Kawa SK, Saito Y, Tajika A, Kinoshita T and Sawada S (2008) Diffusion-weighted imaging for predicting new compression fractures following percutaneous vertebroplasty. *Acta Radiol* 49(4): 419–426
5. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T, Nomura M, Terada J, Kamata M and Sawada S (2008) Intraosseous Venography with Carbon Dioxide in Percutaneous Vertebroplasty: Carbon Dioxide Retention in Renal Veins. *Cardiovasc Intervent Radiol* 31(6): 1174–1177
6. Komemushi A, Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T, Nomura M, Terada J, Kamata M and Sawada S (2008) Biochemical markers of bone turnover in percutaneous vertebroplasty for osteoporotic compression fracture. *Cardiovasc Intervent Radiol* 31(2): 332–335
7. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Uchida Y, Ishizaki M, Saito T, Matsui K, Hirohara J, Tanaka K and Kamiyama Y (2008) Liver Regeneration in Donors Evaluated by Tc-99m-GSA Scintigraphy after Living Donor Liver Transplantation. *Dig Dis Sci* 53(3): 850–855
8. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Sugimoto T, Horiuchi M, Ueno C, Maehara M, Omura N, Kurokawa H, Ikeda K, Tanigawa N, Sawada S and Kinoshita T (2008) Corpus callosum in patients with obsessive-compulsive disorder: diffusion-tensor imaging study. *Radiology* 246(2): 536–542
9. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Matsui K, Saito T and Kamiyama Y. (2008) Usefulness of Tc-99m GSA liver scintigraphy for the evaluation of liver regeneration in donors after living-donor liver transplantation. *Transplant Proc* 40(8): 2457–2459
10. Kaibori M, Ha-Kawa SK, Ishizaki M, Matsui K, Saito T, Kwon AH and Kamiyama Y (2008) HA/GSA-Rmax Ratio as a Predictor of Postoperative Liver Failure. *World J Surg* 32(11): 2410–2418
11. 米虫 敦, 谷川 昇, 香田 渉, 安竹秀俊, 小林 健, 下山恵司, 滝澤謙治, 田中法瑞, 内藤 晃, 沼口雄治, 小林信雄, 澤田 敏 (2008) 【整形外科領域のIVR】骨粗鬆症性圧迫骨折に対する経皮的椎体形成術 本邦の現況. *IVR* 23(1): 20–24
12. 加藤充孝, 飯田寛和, 和田孝彦, 大野博史, 大村直人, 澤田 敏 (2008) 股関節関節唇損傷の診断と治療 関節唇損傷のMR関節造影. *整・災外* 51(4): 407–414
13. 嶽北佳輝, 吉田常孝, 西田圭一郎, 河相吉, 坂井志帆, 分野正貴, 加藤正樹, 奥川 学, 木下利彦 (2008) Paroxetine投与により前頭葉症状の改善をみた前頭側頭方認知症 (frontotemporal dementia) の1例. *精神* 13(2): 165–172
14. 森 薫, 米田義英, 宮坂昇一, 中村 剛, 江森未記, 山本江里奈, 片上和敏, 西村茂樹, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 澤田 敏 (2008) IVRにおけるAngio/CT装置の仕様改善. *日放技会近畿会誌* 14(2): 13–18
15. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) 18F-FDG 脾集積の画像所見と臨床的意義. *臨放*

53(12): 1723-1729

16. 上埜泰寛, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 大腸癌, 卵巣癌腹膜転移の治療選択におけるFDG-PET/CTの有用性. 臨放 53(12): 1717-1722
17. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 河 相吉, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) 【頭頸部の診断と治療update】画像診断 唾液腺 唾液腺疾患. 臨放 53(11): 1467-1476

### 総 説

1. 清水 洋, 宇田光伸, 澤田 敏 (2008) 【Virtual Human & Analysis ボリュームデータ解析の宇宙】次世代の画像解析ソフトウェア 前立腺がん描出に有用なMRI拡散強調画像とT2強調画像のフュージョンイメージ. INNERVISION 23(6付録): 8-9
2. 池田耕士, 坂井田紀子, 澤田 敏 (2008) 【Case-based review 教訓症例から学ぶ】頭頸部. 画像診断 28(13): 1422-1423
3. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 野村基雄, 池田耕士, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) 【IVRの画像評価】経皮的椎体形成術の画像評価. 断層映像研究会誌 35(3): 161-166

### 症例報告

1. Kaibori M, Ha-Kawa SK and Kamiyama Y (2008) Usefulness of TC-99M GSA Liver Scintigraphy for the Assessment of Recurrent Hepatitis C After Living-Donor Liver Transplantation: A Case Report. Transplant Proc 40(8): 2837-2839
2. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) MRI Clinical Poster Session 症例3 多形腺腫. Rad Fan 6(5): 8-9
3. 池田耕士, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) MRI Clinical Poster Session 症例4 耳下腺内顔面神経鞘腫. Rad Fan 6(5): 10-11
4. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) 18F-FDG-PETが, 初期診断と効果判定に有用であった脾原発悪性リンパ腫の1例. 核医症例検討会症例集 29(1): 1-2
5. 河 相吉, 池田茂樹, 上埜泰寛, 小島博之, 澤

田 敏 (2008) 99mTc-HSAD 肝プー ルシンチ グラフィにて肝血管腫の所見を呈した肝異物肉芽腫の1例. 核医症例検討会症例集 28(2): 36-37

6. 海堀昌樹, 石崎守彦, 斎藤隆道, 松井康輔, 池田広記, 大村直人, 権 雅憲, 上山泰男 (2008) 広範な肝右葉被膜下膿瘍を呈した急性胆嚢炎の1例. 消外 31(11): 1709-1715
7. 藤井弘史, 中尾佳永, 岡田隆之, 徳田貴則, 北澤康秀 (2008) 90歳以上の高齢者の大動脈緊急症例の検討. 日血管外会誌 17(3): 439-445

### 学会発表

1. Nomura M, Komemushi A, Kamata M, Tanigawa N, Kojima H and Sawada S (2008) Effect of percutaneous vertebroplasty combined with intensity-modulated radiotherapy: a phantom study. Radiological Society of North America 94th Scientific Assembly and Annual Meeting 2008, Chicago, U.S.A.
2. Kojima H, Tanigawa N, Kariya S, Tokuda T, Shomura Y and Sawada S (2008) Use of NBCA in transcatheter arterial embolization for various hemorrhagic lesions. AOCR (12th Asian Oceanian Congress of Radiology), Seoul, Korea
3. Shomura Y, Tanigawa N, Kojima H, Tokuda T, Kariya S and Sawada S (2008) Comparison of embolic behavior and absorption process between gelatin sponge microspheres and water-soluble polyvinyl alcohol (PVA) microspheres in pig liver model. AOCR (12th Asian Oceanian Congress of Radiology), Seoul, Korea
4. Suzuki S, Kitazawa Y, Kojima H, Kariya S, Tanigawa N and Sawada S (2008) Posterior reversible encephalopathy syndrome after uterine artery embolization for myoma uterus. AOCR (12th Asian Oceanian Congress of Radiology), Seoul, Korea
5. Shomura Y, Tanigawa N, Shibutani M, Tokuda T, Terada J, Kariya S, Kojima H, Komemushi A and Sawada S (2008) Comparison of embolic behavior and absorption process between gelatin sponge microspheres and water-soluble polyvinyl alcohol (PVA) microspheres in pig liver model. 23th

- the annual scientific and postgraduate educational meeting of Cardiovascular and interventional radiological society of Europe, Copenhagen, Denmark
6. Tokuda T, Tanigawa N, Shomura Y, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Terada J, Sawada S and Shiraiishi T (2008) Transcatheter arterial embolization of visceral and peripheral pseudoaneurysms. 23th the annual scientific and postgraduate educational meeting of Cardiovascular and interventional radiological society of Europe, Copenhagen, Denmark
  7. Harima Y, Kamata M, Komemushi A, Ikeda K and Sawada S (2008) Prediction of Metastasis of Advanced Cervical Cancers after Radiotherapy According to Genes Expression Profiles. 27th European Society for Therapeutic Radiology and Oncology (ESTRO), Goteborg, Sweden
  8. Kariya S, Tanigawa N, Kojima H, Komemushi A, Shomura Y, Shiraisi T, Kawanaka T and Sawada S (2008) A prospective evaluation of percutaneous transluminal angioplasty with fistulography using carbon dioxide for hemodialysis access failure. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  9. Kojima H, Tanigawa N, Kariya S, Komemushi A, Shomura Y, Tokuda T, Terada J, Shiraiishi T and Sawada S (2008) Clinical result of transcatheter arterial embolization with N-butyl-2-cyanoacrylate-lipiodol mixture for acute arterial hemorrhage. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  10. Nomura M, Komemushi A, Kamata M, Tanigawa N, Hori Y, Arakawa M, Nakasuji M, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T, Terada J and Sawada S (2008) To clarify spatial dose distribution of the irradiation bone cement injected to the vertebrae by percutaneous vertebroplasty. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  11. Shomura Y, Tanigawa N, Shibutani M, Wakimoto S, Tsuji K, Tokuda T, Terada J, Kariya S, Kojima H, Komemushi A and Sawada S (2008) Water-soluble polyvinyl alcohol (PVA) particles for temporary arterial occlusion: Embolic behavior and absorption process in pig liver model. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  12. Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Komemushi A, Tokuda T, Terada J and Sawada S (2008) Prospective analysis of respiratory function following percutaneous vertebroplasty. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  13. Tokuda T, Tanigawa N, Shomura Y, Kariya S, Kojima H, Komemushi A, Terada J, Shiraiishi T and Sawada S (2008) Transcatheter arterial embolization of visceral and peripheral pseudoaneurysms. ISIR & JSIR 2008 (Joint Meeting of The 10th International Symposium on Interventional Radiology & New vascular Imaging and The 37th Annual Meeting og the Japanese Society of Interventional Radiology), Nagano
  14. Tanigawa N, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Komemushi A, Tokuda T, Terada J and Sawada S (2008) Percutaneous radiofrequency ablation for painful metastatic bone tumors. ISIR&JSIR2008, Nagano
  15. Harima Y (2008) Predictive Cancer-related Genes for Effectiveness of Hyperthermia Oncology. 10th International Congress on Hyperthermic Oncology (ICHO), Munich, Germany
  16. Saito Y, Nobuhara K, Okugaaw G, Takase K,

- Tajika A, Sugimoto T, Maehara M, Kurokawa H, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2008) White matter abnormalities in obsessive-compulsive disorder: A diffusion tensor imaging study. 16th AEP European Congress of Psychiatry, Nice, France
17. Nomura M, Komemushi A, Kamata M, Tanigawa N, Hori Y, Sawada S, Arakawa M, Nakashuji M, Kariya S, Kojima H, Shomura Y, Tokuda T and Terada J (2008) Does Bone Cement Injected to Vertebra Affect Radiotherapy Dose Distribution? SIR (33rd Annual Scientific Meeting of The Society of International Radiology, Washington DC, U.S.A.
  18. 河 相吉, 上埜泰寛, 宇都宮啓太, 澤田 敏 (2008) 脊髄神経周囲進展の FDG-PET/CT 所見. 第290回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
  19. 田中聖道, 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 池田茂樹, 広川雄三, 前原さおり, 川口あすか, 上埜泰寛, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 腎カルチノイドの1例. 第290回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪
  20. 米虫 敦, 徳田貴則, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 池田耕土, 播磨洋子, 澤田 敏, 山田 斉, 二階堂任, 島野直人, 滝澤謙治, 嶋本 裕, 小川普久, 吉松美佐子, 中島康雄 (2008) 面露出型乳癌に対するリザーバー療法の初期経験. 第33回リザーバー研究会, 福岡
  21. 是枝ちづ, 関 寿人, 岡崎和一, 河 相吉 (2008) 肝シンチグラフィはNASH経過観察に有用かーBMI変化からみた検討ー. 第12回日本肝臓学会大会, 東京
  22. 米虫 敦, 谷川 昇, 徳田貴則, 川喜多繁誠, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 野村基雄, 寺田次郎, 澤田 敏 (2008) 非透析非移植腎のMRSA性腎盂腎炎からの腎出血に対して, 経動脈的塞栓術を施行した一例. 第18回救急放射線研究会, 福島
  23. 播磨洋子 (2008) 関西医科大学放射線科における子宮癌の治療成績. 第21回日本放射線腫瘍学会, 札幌
  24. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 小島博, 狩谷秀治, 谷川昇, 澤田 敏 (2008) 重症急性膵炎に対するbiapenem (商品名オメガシン) を用いた膵局所動注療法の検討. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌
  25. 澤田 敏 (2008) "インターベンショナルラジオロジー ~最近の話題を中心として~". 第3回泉州消化管疾患研究会, 大阪
  26. 池田耕土, 河 相吉, 川口あすか, 前原さおり, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) FDG-PET 検査で偶然認められた耳下腺集積の臨床的意義. 第44回日本医学放射線学会秋季臨床大会 第21回頭頸部放射線研究会, 福島
  27. 播磨洋子, 池田耕土, 米虫 敦, 鎌田 実, 澤田 敏 (2008) Real-time PCR法を用いた進行期子宮頸癌の放射線治療予後予測因子の検討. 第46回日本癌治療学会, 名古屋
  28. 播磨洋子 (2008) 放射線治療子宮頸癌の予後因子としてのバイオマーカーの再現性評価. 第67回日本癌学会学術総会, 名古屋
  29. 野村基雄, 米虫 敦, 鎌田 実, 谷川 昇, 小島博之, 澤田 敏 (2008) 経皮的椎体形成術で使用されるバリウム含有骨セメントが線量分布に及ぼす影響. 日本放射線腫瘍学会第21回学術大会, 札幌
  30. 林 謙治, 鎌田 実, 野村基雄, 小島博之, 澤田 敏 (2008) 初回治療で原発巣への照射を行わなかった遠隔臓器転移を有する食道がん症例に対する治療戦略. 日本放射線腫瘍学会第21回学術大会, 札幌
  31. 播磨洋子, 池田耕土, 米虫 敦, 志賀淑子, 鎌田 実, 澤田 敏 (2008) 進行期子宮癌の放射線治療効果予測因子としての血清バイオマーカー探索. 日本放射線腫瘍学会第21回大会, 札幌
  32. 池田耕土, 谷川 昇, 杉本達哉, 米虫 敦, 播磨洋子, 前原 稔, 大村直人, 黒川弘晶, 池田茂樹, 澤田 敏 (2008) 経皮的椎体形成術後の再発骨折を拡散強調像が予測できるか?. 第36回日本磁気共鳴医学会大会, 旭川
  33. 杉本達哉, 谷川 昇, 池田耕土, 大村直人, 前原 稔, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 河相吉, 齋藤幸子, 田近亜蘭, 木下利彦, 澤田

- 敏 (2008) 椎体拡散強調画像による椎体形成術後の新たな圧迫骨折の予測. 第4回椎体形成術研究会, 京都
34. 小島博之, 谷川 昇, 庄村裕三, 狩谷秀治, 徳田貴則, 寺田次郎, 澤田 敏, 米虫 敦 (2008) 生体吸収性高分子化合物を用いた肺癆修復剤開発の試み. 第9回RFA談話会, 沖縄
35. 播磨洋子, 志賀淑子, 米虫 敦, 池田耕士, 鎌田 実, 澤田 敏 (2008) 進行期子宮頸癌に対する温熱抗癌剤放射線治療の有害事象. 日本ハイパーサーミア学会第25回大会, 名古屋
36. 河 相吉 (2008) 症例検討6. PET サマーセミナー2008, 郡山
37. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) 99mTc-GSAと18F-FDGが興味ある所見を呈した門脈血栓の一例. 第109回核医学症例検討会, 大阪
38. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) バスキュラーアクセス不全に対する末梢血管ステント留置の適応と開存率の評価. 第13回バスキュラーアクセスインターベンション治療(VAIVT)研究会, 東京
39. 野村基雄, 米虫 敦, 谷川 昇, 鎌田 実, 堀泰滋, 荒川真紀子, 中筋正行, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 寺田次郎, 澤田 敏 (2008) 放射線治療の空間線量分布に対して, 経皮的椎体形成術の骨セメントがおよぼす影響. 第4回椎体形成術研究会, 京都
40. 河 相吉 (2008) FDG-PETの有用性 -治療との関連で-. 第8回京都機能画像談話会, 京都
41. 米虫 敦 (2008) 集学的オンコロジー: 緩和医療に活かせる最新の技: 経皮的椎体形成術~脊椎転移の痛みを骨セメント注射で緩和. 第13回日本緩和医療学会学術大会, 静岡県
42. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) 肝左葉の門脈閉塞とCT低吸収, 18F-FDGの集積増強を認め, 悪性腫瘍が疑われた一例. 第41回日本核医学会近畿地方会, 京都
43. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 鎌田 実, 野村基雄, 白石友邦, 澤田 敏 (2008) 超音波および透視ガイドによるトンネル型中心静脈カテーテル留置の成績. 日本IVR学会第24回関西地方会(第45回関西IVR研究会), 京都
44. 野村基雄, 鎌田 実, 小島博之, 林 謙治, 澤田 敏 (2008) 遠隔臓器転移を有する食道がん症例に対する治療戦略~原発巣に対する照射について~. JROG 若手放射線治療医の会, 大阪
45. 播磨洋子 (2008) 進行期子宮頸癌の放射線治療効果予測因子としてのバイオマーカー. 第12回がん分子標的治療研究会総会, 東京
46. 播磨洋子, 池田耕士, 米虫 敦, 志賀淑子, 鎌田 実, 澤田 敏 (2008) 進行期子宮頸癌の放射線治療効果予測因子としてのバイオマーカー検索. 第14回癌治療増感研究会, 鈴鹿
47. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) バスキュラーアクセスへのステント留置の有効性の評価. 第53回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸
48. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) トンネル型血液透析カテーテルのインターベンションによる留置と管理. 第53回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸
49. 池田耕士, 川口あすか, 前原さおり, 前原稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 坂井田紀子, 植村芳子, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) T2強調像低信号の耳下腺多形腺腫症例. 第37回頭頸部・胸部画像研究会, 東京
50. 狩谷秀治, 谷川 昇, 池田茂樹, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 白石友邦, 澤田 敏 (2008) 血管造影が診断に有用であった腎腫瘍. 関西アンギオ・IVR研究会, 大阪
51. 上埜泰寛, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 18F-FDG PETが治療方針の選択に寄与した大腸癌, 卵巣癌腹膜転移例の検討. 第27回日本医学放射線学会総会, 横浜
52. 竹花一哉, 奥 真也, 神宮司公二, 巽 光朗, 宮内 勉, 河邊讓二, 對間博之, 渡邊 淳, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 5大学病院核医学部

- 門の業務分析によるIHE-J等標準化技術適合度の再検討 保存データの範囲と態様. 第67回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
53. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) FF-FDG 脾集積の臨床的検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
54. 黒川弘晶, 野村基雄, 桑田さおり, 藤田あすか, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 澤田敏, 大江知里, 坂井田紀子 (2008) Cardiac coilを用いたMRIにおける前立腺癌病巣の描出能: 病理標本との比較検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
55. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 徳田貴則, Mahbube Khoda, 寺田次郎, 白石友邦, 澤田 敏 (2008) バスキュラーアクセス不全に対する抹消血管ステント留置の臨床成績. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
56. 小島博之, 谷川 昇, 狩谷秀治, 庄村裕三, 徳田貴則, 寺田次郎, 澤田 敏, 米虫 敦, 白石友邦 (2008) 動脈性出血に対する経カテーテル的動脈塞栓術におけるNBCAの使用成績. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
57. 庄村裕三, 谷川 昇, 渋谷光夫, 脇本信也, 辻和俊, 徳田貴則, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫敦, 澤田 敏 (2008) ブタ肝動脈塞栓における水溶性ポリビニルアルコール (PVA) 粒子の一時的血管塞栓効果. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
58. 清水 洋, 宇田光伸, 北野大作, 瀧本秀一, 小森芳秋, 澤田 敏 (2008) 女性骨盤MRI検査におけるBLADEの有用性(T2強調画像でのモーションアーティファクト低減)の検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
59. 大村直人, 前原 稔, 黒川弘晶, 池田茂樹, 池田耕土, 桑田さおり, 藤田あすか, 澤田 敏 (2008) PACSシステムにおけるツインサーバの運用. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
60. 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 徳田貴則, 寺田次郎, 藤田あすか, 桑田さおり, 澤田 敏 (2008) 経皮的椎体形成術による呼吸機能の改善. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
61. 池田耕土, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) 耳下腺内顔面神経鞘腫のMRI: 多形腺腫との鑑別診断. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
62. 徳田貴則, 谷川 昇, 庄村裕三, 狩谷秀治, 小島博之, 寺田次郎, 米虫 敦, 白石友邦, 澤田 敏 (2008) 内臓動脈および抹消動脈領域の仮性動脈瘤に対する経カテーテル的塞栓術. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
63. 播磨洋子, 池田耕土, 米虫 敦, 志賀淑子, 鎌田 実, 澤田 敏 (2008) 進行期子宮頸部扁平上皮癌の放射線治療効果予測因子としてのバイオマーカー. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
64. 上埜泰寛, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 18F-FDG PET が治療方針の選択に寄与した大腸癌, 卵巣癌腹膜転移例の検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
65. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 野村基雄, 寺田次郎, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) 胸郭出口症候群7例の半座位鎖骨下動脈造影の検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜
66. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 鎌田 実, 徳田貴則, 寺田次郎, 澤田 敏, 白石友邦 (2008) 超音波ガイド下穿刺透視下誘導法を用いたトンネル型中心静脈カテーテル留置の成績. 第67回日本医学放射線学会総会学術集会, 横浜
67. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾, 澤田 敏 (2008) バスキュラーアクセスへのステント留置の評価: パルーンPTAとの比較. 第70回大阪透析研究会, 大阪
68. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) 長期留置用トンネル型透析カテーテルのインターベンションによる留置と管理. 第13回バスキュラーアクセスインターベンション治療(VAIVT)研究会, 東京
69. 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦稔, 國澤亜以, 山

- 木 壮, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 小島博之, 狩谷秀治, 谷川 昇, 澤田 敏 (2008) 臍局所動注療法における biapenem (オメガシン) の有用性について. 第44回日本腹部救急医学会総会, 横浜
70. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 小島博之, 谷川 昇, 澤田 敏 (2008) 内視鏡的クリッピング止血術により穿破した胃十二指腸動脈瘤に対し経皮的動脈塞栓術により止血しえた1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 横浜
71. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 澤田 敏, 白石友邦, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 川中俊明, 坂口典子 (2008) 中心静脈狭窄によるシャント不全に対する経皮的血管形成術の成績. 第66回大阪透析研究会, 大阪
72. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 米虫 敦, 庄村裕三, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾, 澤田 敏 (2008) トンネル型バスキュラーアクセスカテーテルのインターベンションによる留置と交換. 第70回大阪透析研究会, 大阪
73. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 澤田 敏, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) トンネル型バスキュラーアクセスカテーテルのインターベンションによる留置と交換. 第70回大阪透析研究会, 大阪
74. 狩谷秀治, 谷川 昇, 小島博之, 澤田 敏, 白石友邦, 川中俊明, 山越恭雄, 渡邊美博, 江崎和芳, 尼木純子, 坂口典子, 岩本広二, 香川圭爾 (2008) バスキュラーアクセスへのステント留置の評価: バルーンPTAとの比較. 第70回大阪透析研究会, 大阪
75. 黒川弘晶 (2008) 中枢神経のMRI拡散強調像, MR スペクトロスコピーを併用した鑑別診断. 第五回北大阪脳神経画像症例検討会, 大阪
76. 河 相吉, 岩田亮一, 河本圭司, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) FDG の大脳皮質所見を認めたFahr病の一例. 第108回核医学症例検討会, 大阪
77. 播磨洋子, 志賀淑子, 鎌田 実, 米虫 敦, 池田耕士, 澤田 敏 (2008) 進行期子宮頸癌の放射線治療抵抗性に関与する遺伝子. 第10回癌治療増感研究シンポジウム, 奈良
78. 谷川 昇 (2008) 経皮的椎体形成術のための画像診断, 臨床評価, 適応とその考え方, テクニック. 第1回脊椎IVRフォーラム, 東京
79. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 澤田 敏 (2008) 経皮的椎体形成術における術者被曝. 第1回脊椎IVRフォーラム, 東京
80. 河 相吉, 上埜泰寛, 澤田 敏 (2008) FDG-PET 脾異常集積の臨床的検討. 第27回日本画像医学会, 東京
81. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2008) 前立腺癌のMRI-Cardiaccoilを用いた描出能-. 第27回日本画像医学会, 東京
82. 寺田次郎, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 藤田あすか, 米虫 敦, 藤井弘史, 澤田 敏 (2008) 起始破格を伴う脾動脈瘤のコイル塞栓術の一例. 第27回日本画像医学会, 東京
83. 前原 稔, 黒川弘晶, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕士, 澤田 敏 (2008) 網膜剥離に対する術後3年で発症した腫瘍様病変の1例. 第27回日本画像医学会, 東京
84. 大村直人, 河 相吉, 黒川弘晶, 池田茂樹, 池田耕士, 前原 稔, 澤田 敏 (2008) 肺硬化性血管腫の2例. 第27回日本画像医学会, 東京
85. 池田耕士, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 耳下腺内顔面神経鞘腫のMRI所見. 第27回日本画像医学会, 東京
86. 池田茂樹, 谷川 昇, 河 相吉, 狩谷秀治, 黒川弘晶, 大村直人, 前原 稔, 池田耕士, 澤田 敏, 白石友邦 (2008) 診断に苦慮した腎血管筋腫の一例. 第27回日本画像医学会, 東京
87. 米虫 敦, 谷川 昇, 狩谷秀治, 小島博之, 庄村裕三, 徳田貴則, 野村基雄, 寺田次郎, 池田耕士, 播磨洋子, 澤田 敏 (2008) 炭酸ガスによる椎体静脈造影: 造影後の腎門部ガス貯留日本Interventional Radiology学会よる椎体静脈造影: 造影後の腎門部ガス貯留. 第27回日本画像医学会, 東京
88. 上埜泰寛, 河 相吉, 澤田 敏 (2008) 18F-

FDG PET が治療方針の選択に寄与した大腸癌，卵巣癌腹膜転移例の検討. 第288回日本医学放射線学会関西地方会，大阪

89. 成田基良，田橋賢也，住本貴美，鈴木 亮，星野勝一，若松隆宏，段原直行，島谷昌明，森茂生，松下光伸，竹内幸俊，河島祥彦，岡崎和一，小島博之，谷川 昇 (2008) 部分的脾動脈塞栓術 (PSE) が有効であった高度の貧血を伴う門脈圧亢進性胃症 (PHG) の一例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会，大阪

90. 播磨洋子 (2008) 子宮頸がんへの放射線治療—外部照射—. 日本放射線腫瘍学会第6回がん放射線治療看護セミナー，大阪

#### 著 書

1. 播磨洋子 (2008) ハイパーサーミア がん温熱療法ガイドブック-婦人科腫瘍—子宮頸がん—. ハイパーサーミア がん温熱療法ガイドブック 96-97頁，神稜文庫，神戸

## 産科学・婦人科学講座

### 〈研究業績〉

#### 原 著

1. Kato J, Hisha H, Wang XL, Mizokami T, Okazaki S, Li Q, Song CY, Maki M, Hosaka N, Adachi Y, Inaba M and Ikehara S (2008) Contribution of neural cell adhesion molecule (NCAM) to hemopoietic system in monkeys. *Ann Hematol* 87(10): 797-807
2. Song C, Hisha H, Wang X, Li Q, Li M, Cui W, Guo K, Okazaki S, Mizokami T, Kato J, Cui Y, Feng W, Zhang Y, Shi M, Inaba M, Fan H and Ikehara S. (2008) Facilitation of hematopoietic recovery by bone grafts with intra-bone marrow transplantation. *Immunobiology* 213(6): 455-468
3. Okazaki S, Hisha H, Mizokami T, Takaki T, Wang X, Song C, Li Q, Kato J, Kamiyama Y and Ikehara S (2008) Successful acceptance of adult liver allografts by intra-bone marrow-bone marrow transplantation. *Stem Cells Dev* 17(4): 629-639
4. Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Kanzaki H, Kitada M, Horikoshi Y et al. (2008) Fish and fat intake and prevalence of allergic rhinitis in Japanese females: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Journal of the American College of Nutrition* 26(3): 279-287
5. 堤 明裕，岡田英孝，小野淑子，松尾 泉，松岡 進，神崎秀陽 (2008) 当院で経験した早発卵巣不全 8 症例の検討. *産婦の進歩* 60(1):

16-18

6. 小野淑子，岡田英孝，下井華代，宮城博恵，神崎秀陽 (2008) Sperm Motility Analysis System (SMAS) と一般精液検査との比較検討. *日受精着床会誌* 25(1): 57-60
7. 依岡寛和，神崎秀陽 (2008) 【勃興しつつある新たな画像診断】胎児MRIによる出生前診断. *日小児放線会誌* 24(1): 11-17
8. 吉賀正亨，小宮山豊，寺内里恵，寺岡安津子，宗像眞智子，安田勝彦，尼川龍一，正木浩哉，高橋伯夫 (2008) 検査室での異常フィブリノゲン症診断における単純免疫拡散法の有用性. *臨病理* 56(5): 379-382

#### 総 説

1. 安田勝彦 (2008) 【平滑筋臓器の分子病態と新しい治療戦略】分娩異常と子宮収縮関連物質. *Med Bio* 5(2): 58-62
2. 岡田英孝，堤 明裕，中元 剛，神崎秀陽 (2008) 【子宮内膜の機能と生殖医療 その最前線】プロゲステロンによる子宮内膜分化に関する話題. *産婦の実際* 57(2): 163-168
3. 堤 明裕，岡田英孝，神崎秀陽 (2008) 産婦人科ホルモン療法マニュアル [I. 生殖内分泌・不妊] 3. 機能性出血. *産と婦* 75(Suppl.): 16-22
4. 神崎秀陽 (2008) 【産科婦人科サブスペシャリティ領域の動向】生殖医療 日本受精着床学会. *産婦の実際* 57(7): 1065-1070
5. 岡田英孝 (2008) 生殖医療と先天異常について

て。産婦の進歩 60(4): 335-336

6. 岡田英孝, 小野淑子, 神崎秀陽 (2008) 産婦人科臨床の難題を解く一私はこうしている II 不妊治療【一般不妊治療 6】薄い子宮内膜を発育させるには? 産婦人科 62(4): 469-473
7. 神崎秀陽 (2008) 解説 医療費の問題が解決できればウイルス検査の意義は大きい. MMJ 4(3): 195
8. 末原則幸, 朝倉寛之, 池田智明, 中村博昭, 依岡寛和 他 (2008) 多胎妊娠に関する大阪府医師会の取り組み. 産婦人科の進歩 60(3): 257-272
9. 斉藤淳子 (2008) クリニカルカンファレンスー決定される子宮頸部細胞診報告書とはークラス分類から記述式用語への変更と HPV テストの導入へ. 大阪産婦人科医会生涯セミナーテキスト
10. 依岡寛和, 神崎秀陽 (2008) 産科出血 診断・治療のポイント「前置胎盤」. 臨床婦人科産科 63(1): 49-51
11. 神崎秀陽 (2008) ホルモン Q&A プロゲステンの世代分類と臨床的意義について教えて下さい. Horm Front Gynecol 15(2): 165-168
12. 依岡寛和 (2008) EXIT(Ex Utero Intrapartum Treatment)について. 産婦の進歩 60(2): 162

#### 症例報告

1. 奥野茜子, 依岡寛和, 中嶋達也, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 子宮腺筋症術後に妊娠し, 帝王切開時に胎盤剥離困難となり子宮全摘に至った1例. エンドメトリオーシス研究会誌 29: 130-132

#### 学会発表

1. Saito J (2008) Human papillomavirus testing in Japanese women with cervical cytological abnormalities. UICC World Cancer Congress 2008, Geneva, Switzerland
2. 斉藤淳子 (2008) クリニカルカンファレンス「改定された子宮がん細胞診報告とはークラス分類から記述式用語への変更と HPV テストの導入へー」. 大阪産婦人科医会平成20年度生涯研修セミナー, 大阪
3. 稲垣隆介, 川口琢也, 上坂達郎, 武田純一, 依

- 岡寛和, 笠松 敦, 神崎秀陽, 大橋 敦, 北村直行, 木下 洋, 河本圭司 (2008) 当院における中枢神経系奇形の診断の現状と問題点. 第36回日本小児神経外科学会, 東京
4. 田村和夫, 依岡寛和, 神崎秀陽, 谷内昇一郎, 大橋 敦, 北村直行, 蓮井正史, 木下 洋, 金子一成 (2008) 母乳栄養児における新生児高張性脱水 (母乳性高 Na 血症) の検討. 第111回日本小児科学会, 東京
5. 安田勝彦, 金森千春, 堤明 裕, 中元 剛, 吉村智雄, 生田明子, 杉本久秀, 堀越順彦, 中嶋達也, 岡田英孝, 神崎秀陽 (2008) 子宮筋収縮に対する塩酸ピペリドレートの抑制効果ー塩酸ピペリドレートは塩酸リトドリン抵抗性子宮収縮を抑制できるかー. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
6. 小野淑子, 岡田英孝, 米田祥子, 村田紘未, 笠松 敦, 松尾 泉, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 精子運動機能解析装置SMASを用いた新たな精子機能評価の検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
7. 斉藤淳子, 神崎秀陽, 生田明子, 中元 剛, 山口昌美 (2008) 若年者子宮頸癌における HPV 感染と p53 蛋白発現の検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
8. 中嶋達也, 米田祥子, 村田紘未, 吉田桃子, 奥野茜子, 角玄一郎, 笠松 敦, 岡田英孝, 斉藤淳子, 榎木 晋, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 当院における卵巣癌の予後の検討. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
9. 堤 明裕, 岡田英孝, 金森千春, 中元 剛, 中嶋達也, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 女性ステロイドホルモンによるヒト子宮内膜間質細胞での VEGF 産生調節について. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
10. 米田祥子, 村田紘未, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 杉本久秀, 神崎秀陽, 木下 学 (2008) 妊娠終了後自然消退した硬膜動静脈瘻合併妊娠の一例. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
11. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物療法の現状と展望. 平成19年度家族計画・母体保護法指導者講習会伝達講演, 佐賀
12. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物療法の現状

と将来展望. 第292回岡山四水会, 岡山

13. 吉田 彩, 村田絳未, 曹 寿勇, 都築朋子, 久松洋司, 米田祥子, 中嶋達也, 岡田英孝, 松尾 泉, 神崎秀陽 (2008) 出血性ショックを主訴に救急搬送となった閉経後女性の子宮筋腫の1例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 吹田
14. 久松洋司, 岡田英孝, 曹 寿勇, 土井田瞳, 吉田 彩, 渡邊 恵, 石原美由希, 伊藤亜希子, 都築朋子, 笠松 敦, 角玄一郎, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) 細胞遺伝学的解析により診断した胎児共存奇胎の1例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 吹田
15. 渡邊 恵, 角玄一郎, 土井田瞳, 伊藤亜希子, 石原美由希, 中嶋達也, 斉藤淳子, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) 診断に苦慮した卵管原発漿液性腺癌の1例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 吹田
16. 土井田瞳, 吉田 彩, 渡邊 恵, 伊藤亜希子, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽, 石井桂介, 村越 毅 (2008) MD 双胎にてTTTS 発症後, 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術 (Fetoscopic Laser Photocoagulation: FLP) にて2児の生児を得た1症例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 吹田
17. 曹 寿勇, 土井田瞳, 吉田 彩, 伊藤亜希子, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) 妊娠10週で診断した結合体を伴った一絨毛膜性二羊膜性胎産を周産期管理した1症例. 第119回近畿産科婦人科学会学術集会, 吹田
18. 久松洋司 (2008) 分娩時にPIH・HELLP症候群を発症し, その後様々な合併症を呈した1例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
19. 都築朋子 (2008) 胎児頸部腫瘍に対するEXITの1例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
20. 曹 寿勇 (2008) 妊娠10週で診断した結合体を伴った1絨毛膜性二羊膜性胎産を周産期管理した1症例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
21. 奥野茜子 (2008) 臨床的に悪性と鑑別を要したstromal carcinoidの1例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
22. 吉田 彩 (2008) 出血性ショックを主訴に救急搬送となった閉経後女性の子宮筋腫の1例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
23. 久松洋司 (2008) 子宮内膜症の経過観察中に卵巣癌 (漿液性腺癌) を発症した症例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
24. 渡邊 恵 (2008) 診断に苦慮した卵管原発漿液性腺癌の1例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
25. 土井田瞳 (2008) MD 双胎にてTTTS 発症後, 胎児鏡下胎盤吻合血管レーザー凝固術 (Fetoscopic Laser Photocoagulation: FLP) にて2児の生児を得た1症例. 第25回大阪産婦人科医会河北地区産婦人科研修会, 守口
26. 岡田英孝 (2008) シンポジウム5「子宮内膜機能障害による着床不全の基礎と臨床」性ステロイドホルモンに制御される子宮内膜機能調節因子. 第53回日本生殖医学会, 神戸
27. 宮城博恵, 岡田英孝, 小野淑子, 岡田園子, 下井華代, 馬場真有美, 日浦義仁, 松田公志, 神崎秀陽 (2008) 大学病院での産婦人科と泌尿器科による生殖医療センター共同運用について～1症例報告～. 第53回日本生殖医学会, 神戸
28. 日浦義仁, 六車光英, 谷口久哲, 松田公志, 岡田英孝, 神崎秀陽, 宮城博恵, 下井華代, 辻陽子, 森本義晴 (2008) 射精障害に対する精子回収法の検討. 第53回日本生殖医学会, 神戸
29. 馬場真有美, 川畑仁美, 下井華代, 宮城博恵, 岡田英孝, 小野淑子, 岡田園子, 松岡 進, 安田勝彦, 神崎秀陽, 日浦義仁, 松田公志 (2008) 女性患者の意識調査～医師の説明の理解度に関連する要素とサポートのあり方の検討～. 第53回日本生殖医学会, 神戸
30. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物療法の現状と展望. 桜山子宮内膜症セミナー, 名古屋
31. 角玄一郎, 笠松 敦, 小野淑子, 中嶋達也, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 複式子宮筋腫核出術で手術時間, 出血量と関係する因子の検討. 第19回近畿エンドメトリオーシス研究会, 大阪

32. 生田明子 (2008) 産婦人科領域の応急処置. 関西医大滝井病院応急診療講習会, 守口
33. 小野淑子, 岡田英孝, 伊藤亜希子, 村田紘未, 笠松 敦, 依岡寛和, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 不妊治療後にfirst-trimester discordanceのあったDDtwinにおける1児の全前脳胞症を認めた症例. 第26回日本受精着床学会学術講演会, 福岡
34. 村田紘未, 岡田英孝, 笠松 敦, 小野淑子, 依岡寛和, 松岡 進, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) 当院における流産症例の絨毛染色体検査結果の検討. 第26回日本受精着床学会学術講演会, 福岡
35. 安田勝彦 (2008) 思春期の問題点. 聖母女学院講演会 (国際ソロプチミスト大阪-北東), 寝屋川
36. 依岡寛和, 笠松 敦, 神崎秀陽, 大橋敦, 竹安晶子, 木下 洋, 金子一成, 高田晃平, 濱田吉則 (2008) 胎児頸部腫瘤に対しEXITを施行した1症例. 第44回日本周産期・新生児学会, 横浜
37. 笠松 敦, 依岡寛和, 米田祥子, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) amniotic sheetsの1症例. 第44回日本周産期・新生児学会, 横浜
38. 石原美由希, 久松洋司, 米田祥子, 笠松 敦, 榎木 晋, 神崎秀陽, 夫 律子 (2008) 出生前より羊膜索症候群を強く疑った二絨毛膜二羊膜性双胎の1症例. 第44回日本周産期・新生児学会, 横浜
39. 辻 祥子, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽, 竹安晶子, 中島純一, 木下 洋, 金子一成 (2008) 妊娠28週で診断した頭蓋内出血の1例. 第44回日本周産期・新生児学会, 横浜
40. 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 妊娠時の子宮筋収縮調節機構とそれに及ぼす喫煙の影響. 平成19年度喫煙科学研究財団助成研究発表会, 東京
41. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物治療における新しいプロゲスチン製剤の意義. 北勢地区産婦人科医会, 四日市
42. 都築朋子, 笠松 敦, 依岡寛和, 榎木 晋, 神崎秀陽, 大橋 敦, 竹安晶子, 金子一成, 阪本幸世, 池田栄浩, 新宮 興, 高田晃平, 濱田吉則 (2008) 胎児頸部奇形腫に対しEXITを施行した1症例. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 守口
43. 伊藤亜希子, 依岡寛和, 石原美由希, 都築朋子, 久松洋司, 米田祥子, 村田紘未, 笠松敦, 角玄一郎, 小野淑子, 榎木 晋, 神崎秀陽, 夫 律子 (2008) 出生前より羊膜索症候群を強く疑った二絨毛膜二羊膜性双胎の1症例. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 守口
44. 吉村智雄, 安田勝彦, 杉本久秀, 生田明子, 村田紘未, 堀越順彦 (2008) 永久型IVCフィルター挿入を要した2症例. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 守口
45. 石原美由希, 笠松 敦, 久松洋司, 伊藤亜希子, 都築朋子, 米田祥子, 村田紘未, 角玄一郎, 依岡寛和, 中嶋達也, 岡田英孝, 榎木晋, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 腹膜偽粘液腫状態を呈し虫垂由来と推定された腺癌合併妊娠の1例. 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 守口
46. 米田祥子, 安田勝彦, 村田紘未, 吉田桃子, 奥野茜子, 笠松 敦, 岡田英孝, 松尾 泉, 松岡 進, 神崎秀陽 (2008) 子宮筋腫および卵巣線維腫の摘出後に正常月経周期となった肥満女性の1症例 (内分泌・生殖研究部会). 第118回近畿産科婦人科学会学術集会, 守口
47. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物療法のトピックス. 第5回北海道生殖医療カンファレンス, 札幌
48. 安田勝彦 (2008) 子宮内膜症の病態と治療戦略. 枚方市薬剤師会生涯教育研修会, 枚方
49. 安田勝彦 (2008) 子宮内膜症薬物治療における新しいプロゲスチン製剤の意義. 紀南プロゲスチン研究会, 和歌山
50. 斉藤淳子 (2008) クリニカルカンファレンス「改定された子宮がん細胞診報告とは—クラス分類から記述式用語への変更とHPVテストの導入へ—」. 大阪産婦人科医会平成20年度生涯研修セミナー, 大阪
51. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症薬物治療における新しいプロゲスチン製剤の意義. 第1回新潟子宮内膜症研究会, 新潟
52. 依岡寛和, 笠松 敦, 奥野茜子, 吉田桃子, 米田祥子, 村田紘未, 榎木 晋, 神崎秀陽, 川

- 滝元良 (2008) Left pulmonary arterial sling の出生前診断. 第60回日本産科婦人科学会学術講演会, 横浜
53. 村田紘未, 岡田英孝, 笠松 敦, 小野淑子, 依岡寛和, 松岡 進, 榎木 晋, 神崎秀陽 (2008) 反復流産の絨毛染色体検査により判明したロバートソン転座保因カップルの一例. 大阪産婦人科医会集談会, 大阪
54. 溝上友美, 斉藤淳子, 生田明子, 米田祥子, 神崎秀陽 (2008) 子宮体癌ホルモン療法による内膜細胞像の変化について. 第33回日本臨床細胞学会大阪府支部学術集会, 枚方
55. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症の薬物治療. 美ら島薬学ネットワーク, 那覇
56. 安田勝彦 (2008) 経口子宮内膜症治療薬ジェノゲスト 基礎と臨床. 産婦人科フォーラム, 大阪
57. 神崎秀陽 (2008) 子宮内膜症の薬物治療. 東灘・灘・芦屋3地区合同産婦人科研修会, 神戸
58. 西垣明実, 富仲正丈, 山口賢一, 山元拓也, 杉山修正, 宮崎和典, 岡田英孝, 神崎秀陽 (2008) 当院における悪性腫瘍治療前の精子凍結保存の現状. 第13回日本臨床エンブリオロジスト学会学術集会, 群馬
59. 奥野茜子, 依岡寛和, 中嶋達也, 岡田英孝, 安田勝彦, 神崎秀陽 (2008) 子宮腺筋症術後に妊娠し, 帝王切開時に胎盤剥離困難となり子宮全摘に至った1例. 第29回エンドメトリオーシス研究会, 高知

## 著書

1. 末原則幸, 杉本 壽, 中谷壽男, 小倉裕司, 鍛冶有登, 松岡哲也, 木村 正, 荻田和秀, 依岡寛和, 松尾重樹, 塩田 充, 池田智明, 桂木真司 (2008) 乳幼児死亡と妊産婦死亡の分析と提言に関する研究 周産期医療システムと救命救急システムの協力体制に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研究事業 乳幼児死亡と妊産婦死亡の分析と提言に関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書 (池田智明編) 149-154頁, 国立循環器病センター, 東京
2. 田中文平, 堀越順彦, 光田信明 (2008) 産婦人科社会保険診療要覧 (近畿産科婦人科学会編), 京都

## 麻酔科学講座

## 〈研究業績〉

## 原著

1. Asai T, Enomoto Y, Shimizu K, Shingu K and Okuda Y (2008) The Pentax-AWS video-laryngoscope: the first experience in one hundred patients. *Anesth Analg* 106(1): 257-259
2. Nishi K, Oda T, Takabuchi S, Oda S, Fukuda K, Adachi T, Semenza G, Shingu K and Hirota K. (2008) LPS induces hypoxia-inducible factor 1 activation in macrophage-differentiated cells in a reactive oxygen species-dependent manner. *Antioxid Redox Signal* 10(5): 983-996
3. Kimura M, Takabuchi S, Tanaka T, Murata M, Nishi K, Oda S, Oda T, Kanai M, Fukuda K, Kizaka-Kondoh S, Adachi T, Takabayashi A, Semenza GL and Hirota K (2008) n-Propyl galate activates hypoxia-inducible factor 1 by modulating intracellular oxygen-sensing systems. *Biochem J* 411(1): 97-105
4. Okuda Y, Kamishima K, Arai T and Asai T. (2008) Combined use of ultrasound and nerve stimulation for phrenic nerve block. *Canadian Journal of Anesthesia* 55(3): 195-196
5. Kubo K, Nakao S, Kawabata Y, Nishimae H, Masuko S and Shingu K (2008) An unusual case of airway obstruction at the tip of an endotracheal tube caused by insertion of a nasogastric tube. *J Anesth* 22(1): 52-54
6. Oda S, Oda T, Nishi K, Takabuchi S, Wakamatsu T, Tanaka T, Adachi T, Fukuda K, Semenza G-L and Hirota K (2008) Macrophage migration inhibitory factor activates hypoxia-inducible factor in a p53-dependent manner. *PLoS ONE* 3(5): 21 May 2008, Article number e2215

7. Umegaki T, Asai T, Kojima K, Murao K and Shingu K (2008) Emergency airway management of an extremely low-birth-weight infant with subglottic stenosis. *Paediatr Anaesth* 18(10): 991-992
8. Asai T, Nagata A and Shingu K (2008) Awake tracheal intubation through the laryngeal mask in neonates with upper airway obstruction. *Paediatr Anaesth* 18(1): 77-80
9. 稲田武文 (2008) 免疫の基礎. *Anesthesia 21 Century* 10(1): 4-11
10. 榎本善朗, 清水恵子, 橋本雄一, 神島啓一郎, 新井丈郎, 井上 久, 浅井 隆, 奥田泰久 (2008) ファインビュービデオ喉頭鏡とエアウェイスコープビデオ硬性挿管用喉頭鏡との声門視野の比較検討. *麻酔* 57: 1498-1501
11. 上嶋浩順, 浅井 隆, 新宮 興, 井上 久, 橋本雄一, 榎本善朗, 奥田泰久 (2008) エアウェイスコープにブジーを併用し気管挿管が可能であった症例. *麻酔* 57(1): 82-84
12. 弓削孟文, 村川雅洋, 石山忠彦, 土肥修司, 新宮 興, 畑埜義雄, 石部裕一, 澄川耕二, 宮川博司, 佐藤重仁 (2008) 長時間作用性局所麻酔薬 塩酸レボブピバカイン (MR8A2) 7.5 mg/mL の硬膜外麻酔における臨床的評価ーロピバカイン塩酸塩水和物を対照薬とした二重盲検比較試験 (第 III 相臨床試験) ー. *麻酔と蘇生* 44(Suppl.): 135-149
13. 弓削孟文, 福田和彦, 新宮 興, 畑埜義雄, 野口隆之, 宮川博司 (2008) 長時間作用性局所麻酔薬 塩酸レボブピバカイン (MR8A2) の硬膜外麻酔における推奨用量の検討ー II 相臨床試験ー. *麻酔と蘇生* 44(Suppl.): 103-118

## 総 説

1. 中尾慎一, 宮本悦子, 阪本幸世, 上村幸子, 増澤宗洋, 久保古寿江, 叶多知子, 新宮 興 (2008) 急性脳虚血における脳白質保護の重要性. *蘇生* 27(1): 1-6
2. 浅井 隆 (2008) 喘息・気道過敏症を有する症例への麻酔ー気管支痙攣と喉頭痙攣ー. *麻酔* 57(増刊): S126-S140

## 症例報告

1. 浅井 隆, 新宮 興 (2008) エアウェイスコープ喉頭鏡を用いた気管チューブ交換. *麻酔* 57(8): 990-992
2. 角 千里, 浅井 隆, 名和照晃, 新宮 興, 河嶋 朗 (2008) 麻酔器のカニスタの取り違えからエアリークを生じた1症例. *麻酔* 57(11): 1427-1430
3. 梅垣岳志, 新庄泰孝, 奥村典仁, 坂口元一, 米位昭智 (2008) 巨大前縦隔腫瘍患者の麻酔経験. *臨麻* 32(4): 725-727

## 学会発表

1. Asai T (2008) Airway management during CPR. Airway management during CPR, Singapore
2. Asai T (2008) Anaesthetic strategies for known difficult airways. The Difficult Airway Course, Singapore
3. Asai T (2008) Videolaryngoscopes-our future. Mainly on the Pentax AWS. The Difficult Airway Course, Singapore
4. Asai T (2008) Suxamethonium: is it still necessary? 14th World Congress of Anaesthesiologists, Cape Town
5. 宮崎秀行, 浅井 隆, 永田 厚, 廣瀬卓治, 新宮 興 (2008) 挿管困難症例でのエアウェイスコープを用いた経鼻挿管. 第28回日本臨床麻酔学会大会, 京都
6. 玉井辰弥, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2008) エアウェイスコープTMが有用であった巨大声帯ポリープの一例. 第28回日本臨床麻酔学会大会, 京都
7. 中村友美, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本義聡, 新宮 興 (2008) 先天性無汗無痛症患者に対するレミフェンタニルによる麻酔経験. 第28回日本臨床麻酔学会大会, 京都
8. 永田 厚 (2008) 平成20年度心肺蘇生法実技講習会/大阪府教育委員会・独立行政法人日本スポーツ振興センター依頼. 心肺蘇生法実技講習会, 大阪
9. 岩井鉄平 (2008) 関西医科大学附属枚方病院におけるレミフェンタニルの使用状況. 第4回大阪レミフェンタニル研究会, 大阪
10. 岩井鉄平, 北野正悟, 杉田久美子, 岡本明久,

- 西憲一郎, 中尾慎一, 新宮 興 (2008) 気管食道瘻に対する気管内Dumonステント留置術の麻酔経験. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
11. 金沢武哲, 浅井 隆, 永田 厚, 廣瀬卓治, 新宮 興 (2008) エアウエイスコープ喉頭鏡を用いた気管チューブ交換. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
  12. 松井博義, 廣瀬卓治, 稲田武文, 浅井 隆, 永田 厚, 増澤宗洋, 新宮 興 (2008) 未治療の甲状腺機能亢進症患者において術中・術後に甲状腺クリーゼを来した一例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
  13. 中嶋麻里, 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2008) 気管チューブ抜去後に生じた気道閉塞の診断と再挿管にエアウエイスコープが有用であった一例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
  14. 里井明子, 村尾浩平, 井上昌子, 中尾みどり, 新宮 興 (2008) エアウエイスコープと気管支ファイバースコープを使用し経鼻気管挿管しえた巨大喉頭蓋のう胞の一症例. 第54回日本麻酔科学会関西支部学術集会, 大阪
  15. 増澤宗洋, 永田 厚, 大石敬子, 松本英夫, 中尾みどり, 中尾浅香, 田口仁士 (2008) ガバペンチンにて薬疹の出現が疑われた症例. 第7回難治性疼痛研究会, 大阪
  16. 増澤宗洋, 田口仁士, 大石敬子, 松本英夫, 中尾みどり, 永田 厚, 新宮 興 (2008) 心療内科的治療が疼痛の急性増悪に有効であったアレルギー性肉芽腫性血管炎の一症例. 日本ペインクリニック学会第42回大会, 福岡
  17. 中尾浅香, 田口仁士, 増澤宗洋, 大石敬子 (2008) 胸椎転移による癌性疼痛に対して2年間で計18回のくも膜下ベタメタゾン投与を行った1例. 日本ペインクリニック学会第42回大会, 福岡
  18. 浅井 隆 (2008) ラリンジアルマスクの役割と適応症例. 第2回LMAセミナー, 大阪
  19. 山崎悦子, 西憲一郎, 濱野宣行, 小島研太郎, 福井淳一, 中尾慎一, 新宮 興 (2008) ティコプラニンの投与量と血中濃度の比較. 第53回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪
  20. 宮崎秀行, 浅井 隆, 永田 厚, 新宮 興 (2008) 頸部可動域制限による挿管困難が予測された症例でのエアウエイスコープによる気管挿管 (The tracheal intubation with the Pentax Airway Scope in patients with difficult airway due to limited neck movement). 第55回日本麻酔科学会, 横浜
  21. 尾田聖子, 広田善一, 高淵聡史, 西憲一郎, 若松拓彦, 田中具合, 福田和彦 (2008) カルシウム拮抗薬 cilnidipine は低酸素誘導性因子1の活性を血管由来細胞特異的に抑制する. 日本麻酔・薬理学会第30回学術大会, 京都
  22. 榎本善朗, 奥田泰久, 浅井 隆, 新井丈郎, 久野裕一郎, 寺内知也 (2008) 頸椎固定状態でエアウエイスコープとマッキントッシュ型喉頭鏡での比較検討. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  23. 角 千里, 中尾慎一, 波多野貴彦, 池田栄浩, 増澤宗洋, 新宮 興 (2008) セボフルランおよびプロポフォール麻酔下における制吐量のドロペリドールの投与はQT時間を延長しない. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  24. 岸井 幹, 永田 厚, 浅井 隆, 新宮 興 (2008) プジーを用いて気管チューブの交換が困難な際に, エアウエイスコープが有用であった一症例. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  25. 久保古寿江, 上村幸子, 中尾慎一, 宮本悦子, 阪本幸世, 新宮 興 (2008) ラットの心肺停止再灌流モデルでは, 海外CA1領域で神経細胞が障害され, B-amyloid precursorprotein (BAPP) の蓄積も亢進する. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  26. 阪本幸世, 池田栄浩, 叶田知子, 山崎悦子, 新宮 興 (2008) 妊娠37週で胎児の巨大頸部腫瘍が判明した症例に対するEXITの麻酔経験. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  27. 松本早苗, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2008) エアウエイスコープに比しTruViewEVO2が有用であった気道確保困難症例の経験. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
  28. 松本早苗, 田口仁士, 浅井 隆, 呉本善聡, 新宮 興 (2008) 術後鎮痛としてケタミン持続静注が有効であったクローン病の1例. 日本麻

酔科学会第55回学術集会, 横浜

29. 上嶋浩順, 浅井 隆, 波多野貴彦, 永田 厚, 新宮 興 (2008) 白昼野外および暗闇での気管挿管の検討—エアトラックとエアウェイスコープとの比較—. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
30. 神原知子, 稲田武文, 久保古寿江, 新宮 興 (2008) プロポフォルがヒト単球株THP-1のプロスタグランジンE2産生に及ぼす影響. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
31. 浅井 隆 (2008) 喘息・気道過敏症の麻酔: 喉頭痙攣と気管支痙攣 (60分). 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
32. 増澤宗洋, 田口仁士, 大石敬子, 永田 厚, 新宮 興 (2008) 頸椎後縦靭帯骨化症手術後に軽快し Doule Crush Syndrome と考えられた上肢 CRPS(type2) の一症例. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
33. 波多野貴彦, 中尾慎一, 角 千里, 岸井 幹, 池田栄浩, 新宮 興 (2008) セボフラン麻酔

単独もしくはセボフラン麻酔下のドロペリドール投与は高齢者(70歳以上)でQT時間を延長する. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜

34. 名和照晃, 河嶋 朗, 新宮 興 (2008) 低コリンエステラーゼ(ChE)血症にロクロニウムを使用した一例. 日本麻酔科学会第55回学術集会, 横浜
35. 田口仁士, 増澤宗洋, 大石敬子, 橋 和哉 (2008) ペインクリニックにおける医療事故. 第15回近畿ペインクリニック症例検討会, 大阪
36. 浅井 隆 (2008) 特別講演: 救急初療における気道確保の現状と未来. 第19回広島救急初療研究会, 広島

#### 著 書

1. 廣瀬卓司, 新宮 興 (2008) II. 症候・検査編 8. ショック. わかりやすい内科学 第3版(井村裕夫編) 1134-1143頁, 文光堂, 東京

### 臨床検査医学講座

#### 〈研究業績〉

原 著

1. Kuroda N, Sakaida, N, Kinoshita H, Matsuda T, Hes O, Michal M, Okamoto S, Nagashima Y and Tanaka Y (2008) Carcinosarcoma arising in mixed epithelial and stromal tumor of the kidney. *APMIS* 116(11): 1013-1015
2. Isono T, Kamihata H, Sutani Y, Motohiro M, Yamamoto S, Kyoui S, Iharada Y, Kurimoto K, Hara K, Takahashi H and Iwasaka T. (2008) Nicorandil suppressed myocardial injury after percutaneous coronary intervention. *Int J Cardiol* 123(2): 123-128
3. Nishimura M, Tokoro T, Nishida M, Hashimoto T, Kobayashi H, Yamazaki S, Imai R, Okino K, Takahashi H and Ono T (2008) Myocardial fatty acid imaging identifies a group of hemodialysis patients at high risk for cardiac death after coronary revascularization. *Kidney Int* 74(4): 513-520

4. Masuda M, Amano K, Shi HY, Nishimura N, Fukui M, Yoshika M, Komiyama Y, Masaki H, Iwasaka T and Takahashi H (2008) Soluble FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> levels in plasma correlate with carotid maximum intima-media thickness (IMT) in subjects with annual medical checkup. *Mol Med* 14(7-8): 436-442
5. Nishimura M, Tokoro T, Nishida M, Hashimoto T, Kobayashi H, Yamazaki S, Imai R, Okino K, Takahashi H and Ono T (2008) Association of insulin resistance with de novo coronary stenosis after percutaneous coronary artery intervention in hemodialysis patients. *Nephron Clin Pract* 109(1): c9-c17
6. 濱田聡子, 朝子幹也, 宗本由美, 久保伸夫, 山下敏夫, 高橋伯夫 (2008) 突発性難聴における高感度CRPの検討. *耳鼻臨床* 101(11): 829-833
7. 大倉ひろ枝, 鈴木玲子, 夏目聖子, 上農寛子, 吉岡秀樹, 高橋伯夫 (2008) CRP 測定試薬,

CRP—ラテックス X2「生研」NX の基礎的検討. 日臨檢自動化会誌 33(3): 247-252

8. 清水千裕, 中村竜也, 笠原麻友美, 奥田和之, 中田千代, 藤本弘子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) 市販の薬剤感受性試験用プレート4種類を用いた Haemophilus influenzae の薬剤感受性測定結果の比較. 日臨微生物誌 18(2): 90-99

## 総説

1. 高橋伯夫 (2008) 腎不全とホルモン 1. 慢性腎臓病 (CKD) の増悪・進展に関与するホルモン 内因性ジギタリス様物質. ホルモンと臨 56(4): 387-395
2. 池田耕士, 坂井田紀子, 澤田 敏 (2008) 【Case-based review 教訓症例から学ぶ】頭頸部. 画像診断 28(13): 1422-1423
3. 小宮山豊, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2008) PT 正常で APTT 延長の症例に遭遇した場合にどうするか. 検と技 36(3): 273-275
4. 原 克子, 朴 幸男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 心筋梗塞と炎症. 検と技 36(11): 1284-1287
5. 小宮山豊 (2008) ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) 検査診断の現状と将来. 体液代謝管理 24(1): 75-77
6. 高橋伯夫 (2008) 塩を巡って. 医事新報 4367: 75
7. 小宮山豊 (2008) 【血栓止血の臨床 臨床医のために】臨床検査室から臨床へ(データとともに情報を). 日血栓止血会誌 19(4): 474-477
8. 小宮山豊, 吉賀正亨, 高橋伯夫 (2008) 血栓止血異常に対する臨床検査室からの臨床化学的アプローチ. 日血栓止血会誌 19(3): 430-435
9. 小宮山豊 (2008) 臨床検査部で遭遇する凝固異常と検査の進め方 臨床現場を活かす凝固検査をめざして. 日検血会誌 9(1): 52-59
10. 小宮山豊 (2008) ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) 検査診断の現状と将来. 体液・代謝管理 24(1): 75-77
11. 高橋伯夫 (2008) 【臨床検査 現状と展望】特定健診 (メタボ健診) と臨床検査. 日内会誌 97(12): 2904-2912

12. 高橋伯夫 (2008) 高血圧性心不全一病態と診断・治療の現状 高血圧性心不全と交感神経系. 血圧 15(2): 140-143
13. 高橋伯夫 (2008) 軽症高血圧の病態 交感神経活動の亢進. 日臨 66(8): 1495-1502
14. 高橋伯夫 (2008) <ジャーナルトピックス2> アディポネクチンによる血管内皮細胞からの CRP 産生抑制. 臨化 37(3): 329-330
15. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック 「肝機能検査」. 笑顔 39 巻 10 号 24 頁, 保健同人社, 東京
16. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック. 笑顔 39 巻 4 号 24 頁, 保健同人社, 東京
17. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック. 笑顔 39 巻 5 号 24 頁, 保健同人社, 東京
18. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック. 笑顔 39 巻 6 号 24 頁, 保健同人社, 東京
19. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック. 笑顔 39 巻 7 号 24 頁, 保健同人社, 東京
20. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック 「脂質検査」. 笑顔 39 巻 8 号 24 頁, 保健同人社, 東京
21. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック 「血糖検査」. 笑顔 39 巻 9 号 24 頁, 保健同人社, 東京
22. 高橋伯夫 (2008) あなたもメタボ? 健診チェック 「診察」. 笑顔 (12 月号) 39 巻 13 号 24 頁, 保健同人社, 東京

## 症例報告

1. 中矢桂子, 大西修司, 鈴木 敏, 正木浩哉 (2008) 高度黄疸を呈し対応抗原 (C, e) 陰性 RC-MAP 輸血が適応となった遅発性溶血性輸血副作用の 1 症例. 医学検査 57(11): 1346-1349
2. 津田雅庸, 足立 靖, 新宅 洋, 下戸 学, 矢西正明, 高木孝士, 西田晃久, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌の 1 剖検例. 診断病理 25(4): 298-302
3. 酒井康裕, 足立 靖, 植村芳子, 重松明男, 石明, 矢内勢司, 鷹巢晃昌, 青笹克之, 池原進 (2008) ポリープ様肉眼形態を呈し, 組織学的に follicular colonization が認められた回腸末端 MALT lymphoma の 1 症例. 診断病理

25(2): 88-92

4. 大江秀一, 爲政大幾, 梅原真紀子, 野田佳織, 岡本祐之, 坂井田紀子 (2008) 乳児線維性過誤腫 fibrous hamartoma of infancy の1例. 日小児皮会誌 27(2): 209-212
5. 木内克治, 山田真未, 木内克治, 正健一郎, 三木克朗, 植村芳子, 大津弥生, 松村美代 (2008) 眼症状を契機に明らかとなった胸腺原発の転移性脈絡膜腫瘍の1例. 臨眼 62(3): 291-295
6. 吉賀正亨, 小宮山豊, 寺内里恵, 寺岡安津子, 宗像眞智子, 安田勝彦, 尼川龍一, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 検査室での異常フィブリノゲン症診断における単純免疫拡散法の有用性. 臨病理 56(5): 379-382

#### 学会発表

1. Masuda M and Takahashi H (2008) Measurement of soluble FcγRIIIa and soluble FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> in urine. 38th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, Kyoto
2. Yokoi T, Wada Y, Koshiyama H, Masaki H and Takahashi H (2008) "Ursodeoxycholic acid inhibits endothelial cell plasminogen activator inhibitor-1 expression induced by high glucose depend on transforming growth factor signalling". 44th European Association for the Study of Diabetes(EASD), Roma, Italy
3. Yokoi T, Iekushi K, Sanada F, Yoshika M, Komiyama Y, Masuda M, Taniyama Y, Masaki H and Takahashi H (2008) Ursodeoxycholic acid inhibits endothelial cell plasminogen activator inhibitor-1 expression induced by high glucose. Hypertension2008, Berlin, Deutschland
4. Yoshika M, Komiyama Y and Takahashi H (2008) Evidence of an Endogenous Digitalis, Marinobufotoxin, in the Sodium Metabolism. 13th International SHR Symposium, Czech Republic
5. Yoshika M, Komiyama Y and Takahashi H (2008) Hypertensive Activity of the Endogenous Digitalis, Marinobufotoxin in Spontaneous Hypertensive Rat. 72th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Fukuoka
6. 小宮山豊 (2008) 採血を安全に行うための基礎と応用 -採血室は事業所の顔です-. 財

団法人近畿健康管理センター滋賀事業部採血実務者研修会 教育講演, 栗東

7. 中村竜也, 清水千裕, 高橋伯夫 (2008) MRSA に対する抗 MRSA 薬の抗菌力と有効性について. 第56回日本化学療法学会西日本支部総会, 広島
8. 宇山 研, 木村祐樹, 熊谷雄治, 高橋伯夫, 千葉 勉, 眞弓忠範, 宮田久嗣, 吉村 功, 中島光好 (2008) タール値が異なる紙巻たばこの喫煙によるたばこ煙中成分への曝露量の検討. 日本臨床薬理学会第29回年会, 東京
9. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2008) 高血圧・食塩代謝におけるマリノブフォトキシンの役割の検討-高血圧自然発症ラットにナトリウム負荷とアンジオテンシン2受容体遮断薬を用いて-. 第12回日本心血管内分泌代謝学会, 熊本
10. 小宮山豊, 吉賀正亨, 正木浩哉, 小笹亮太郎, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎, 高橋伯夫 (2008) ADAMTS13活性等の分子マーカーが有用であった血栓性血小板減少性紫斑病の一例. 第31回日本血栓止血学会学術集会, 大阪
11. 松永志保, 木下勇一, 李 重煥, 濱口記久子, 坂 貴司, 足立 靖, 鷹巣晃昌, 四方伸明 (2008) 嚢胞様構造を呈した肝カルチノイドの一例. 第47回日本臨床細胞学会, 東京
12. 原 克子, 小宮山豊, 平川昭彦, 中谷壽男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 注射用メシル酸ナファモスタット製剤の先発品と後発医薬品の比較分析. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋
13. 榎田 緑, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 尿中可溶性 FcγRIIIa および可溶性 FcγRIIIa<sup>Mφ</sup> の測定. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋
14. 簀下りよ子, 小宮山豊, 寺岡安津子, 大河内宏幸, 宗像眞智子, 小笹亮太郎, 伊藤量基, 尼川龍一, 福原資郎, 吉賀正亨, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) における ADAMTS13 活性および破碎赤血球検出の実際. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋
15. 角坂芳彦, 吉賀正亨, 大倉ひろ枝, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 手術直後のグルコース濃度

- と在院日数の関連性について. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
16. 小森敏彦, 井辻泰子, 角坂芳彦, 大倉ひろ枝, 山ノ下宇佐美, 正木浩哉, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 便潜血測定における Haptoglobin の影響. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
  17. 大倉ひろ枝, 東 良子, 吉岡秀樹, 宮内拓史, 藤井 賢, 吉賀正亨, 木村 稔, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 全自動マイクロプレート EIA 測定装置を用いた人血清高分子量アディポネクチン・レプチン測定法の検討と有用性について. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
  18. 大倉ひろ枝, 東 良子, 吉岡秀樹, 宮内拓史, 藤井 賢, 木村 稔, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 生活習慣病患者における肥満改善の臨床検査値による評価. 第55回日本臨床検査医学会総会, 名古屋
  19. 木村 讓, 宮内拓史, 田嶋佐和子, 高尾奈那, 中山英恵, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) 高分子量アディポネクチンによる運動時脂肪燃焼効果の検討. 第29回日本肥満学会学会, 大阪
  20. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2008) 副腎髄質における内因性ジギタリス様物質であるマリノプフォトキシンとアンジオテンシンについての検討. 第31回日本高血圧学会総会, 札幌
  21. 伊藤寛子, 吉岡秀樹, 鈴木玲子, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) AU5421による亜鉛測定の検討. 第40回日本臨床検査自動化学会, 横浜
  22. 佐野 一, 堀井邦寿, 東 良子, 高橋敦子, 鈴木玲子, 吉岡秀樹, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) 全自動マイクロプレート EIA 分析装置 Evolis を用いた sIL-2R 測定試薬「セルフリー IL-2R メデックス」の基礎的検討. 第40回日本臨床検査自動化学会, 横浜
  23. 中村竜也, 清水千裕, 平川 要, 乾佐知子, 奥田和之, 中田千代, 大倉ひろ枝, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 自動細菌同定感受性測定機器における ESBL 産生腸内細菌検出の精度及び迅速同定に関する検討. 第40回日本臨床検査自動化学会, 横浜
  24. 坂 貴司, 横井 崇, 頼 彦長, 鷹巢晃昌, 螺良愛郎. (2008) 癌腫ならびに肉腫成分の形態学的・免疫組織化学的検討. 第40回日本臨床分子形態学会, 福岡
  25. 山根景次, 高田厚照, 杉林幸代, 平山優子, 大倉ひろ枝, 宮坂陽子, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 僧帽弁輪形成術後の遠隔期に高度な僧帽弁逆流が認められた一症例. 第48回近畿医学検査学会, 神戸
  26. 東 良子, 大倉ひろ枝, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 全自動マイクロプレート EIA 分析装置 Evolis を用いた抗 ds-DNA 抗体の基礎的検討. 第48回近畿医学検査学会, 神戸
  27. 平井雅美, 小宮山豊, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 中西孝尚, 森真一郎, 田嶋健一郎, 岸本裕司, 福原資郎, 吉賀正亨, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) 骨髄異形成症候群の臍帯血移植後に発症したTMAにおけるADAMTS13活性と破碎赤血球. 第51回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 神戸
  28. 木村元貴, 緒方奈保子, 高橋寛二, 嶋千絵子, 西村哲哉, 四方伸明 (2008) 強膜外浸潤をきたした脈絡膜悪性黒色腫の1例. 第62回日本臨床眼科学会 (眼科臨床病理組織研究会), 東京
  29. 小笹亮太郎, 伊藤量基, 小宮山豊, 横井 崇, 正木浩哉, 尼川龍一, 高橋伯夫, 福原資郎 (2008) 多発性脳梗塞を合併した血栓性血小板減少性紫斑病の1例. 第70回日本血液学会総会, 京都
  30. 森真一郎, 中西孝尚, 藤田真也, 田嶋健一郎, 岸本裕司, 尼川龍一, 植村芳子, 福原資郎 (2008) 未治療進行期 Nodular lymphocyte predominant Hodgkin lymphoma に対するリツキシマブ療法. 第70回日本血液学会総会, 京都
  31. 藤田真也, 岸本裕司, 坂井田紀子, 中西孝尚, 田嶋健一郎, 森真一郎, 尼川龍一, 大江知里, 植村芳子, 福原資郎 (2008) ランゲルハンス細胞肉腫を合併した骨髄異形成症候群の一例. 第70回日本血液学会総会, 京都
  32. 横井豊彦, 和田良春, 真田文博, 家串和真, 吉賀正亨, 榊田 緑, 小宮山豊, 谷山義明, 正木浩哉, 越山裕行, 高橋伯夫 (2008) ウルソデオキシコール酸による血管内皮由来 Plasminogen Activator Inhibitor-1 (PAI-1) の抑制作用. 日本高血圧学会総会, 札幌
  33. 小宮山豊 (2008) 臨床検査学—その基礎と応用—. 平成19年度運動療法機能訓練技能講習

- 会 教育講演, 尼崎
34. 四方伸明, 頼 彦長, 螺良愛郎. (2008) 妊娠期を模倣する短期エストロゲン/プロゲステロン処置によるラット乳腺脂肪酸組成の変動. 第17回日本脂質栄養学会, 大阪
  35. 小宮山豊, 原 克子, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 救急医療における薬毒物中毒分析の現状—関西医科大学附属滝井病院 臨床検査部では— 第1回関西中毒分析研究会集会「薬毒物鑑定の関連領域における現状と対策」, 吹田
  36. 飯田剛嗣, 原田二郎, 三島崇生, 渡邊仁人, 日浦義仁, 大口尚基, 河 源, 木下秀文, 松田公志, 大江千里, 坂井田紀子, 植村芳子 (2008) 両側尿管腫瘍に対して自家腎移植により腎機能を温存し得た1例. 第204回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪
  37. 原 克子, 小宮山豊, 宗像眞智子, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) GC/MS 分析によるパラコート・ジクワットの簡易定量法. 第48回日本臨床化学会年次学術集会, 浜松
  38. 原 克子, 小宮山豊, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) トライエージ: 中毒セミナー 薬・毒物分析. 第30回日本中毒学会, 和歌山
  39. 小宮山豊, 原 克子, 高橋伯夫, 津田紀子, 丸山克之, 坂田育弘, 穂坂直美, 八尋美保子, 秀島里沙, 眞名子順一 (2008) 西日本3施設における薬毒物分析機器稼働の現状と課題. 第30回日本中毒学会, 和歌山
  40. 中村竜也, 高橋伯夫 (2008) 1つの発見から得た大きな財産. 第53回臨床検査医学会支部例会, 大阪
  41. 小宮山豊, 寺岡安津子, 五十嵐裕子, 藪下りよ子, 寺内里恵, 宗像眞智子, 吉賀正亨, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 完璧な血液検査報告を目指して—止血・凝固検査—. 第9回日本検査血液学会学術集会, 津
  42. 小宮山豊, 寺岡安津子, 山野井三起, 藪下りよ子, 宗像眞智子, 吉賀正亨, 伊藤量基, 尼川龍一, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 抗第XII因子抗体が示唆された右腎癌の1症例. 第9回日本検査血液学会学術集会, 津
  43. 池田耕造, 梅原秀人, 井口亮輔, 川股聖二, 福島慎太郎, 関 寿人, 岡崎和一, 辻 勝成, 権雅憲, 鷹巢晃昌, 四方伸明 (2008) 肝細胞癌: Fibrolamellar carcinoma でしょうか?. 大阪肝穿刺生検治療研究会, 大阪
  44. 坂 貴司, 足立 靖, 鷹巢晃昌, 四方伸明, 松永志保, 木下勇一, 濱口記久子, 赤松孝子, 螺良愛郎. (2008) 甲状腺低分化癌の一例. 第49回日本臨床細胞学会, 東京
  45. 足立 靖, 松波光代, 田中喜寿, 松永志保, 坂貴司, 鷹巢晃昌 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌(小細胞癌)の1症例. 第49回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 東京
  46. 清水千裕, 中村竜也, 笠原麻友美, 平川 要, 奥田和之, 中田千代, 大倉ひろ枝, 植村芳子, 高橋伯夫 (2008) Real time PCRを用いた *Mycoplasma pneumoniae* の検出および治療に関する検討. 第56回日本化学療法学会, 岡山
  47. 中村竜也, 清水千裕, 高橋伯夫 (2008) Monte Carlo Simulation を使用した各種臨床分離株に対するキノロン系薬の有効性評価. 第56回日本化学療法学会, 岡山
  48. 藤川彩香, 太田 馨, 為政大幾, 岡本祐之, 大江知里, 植村芳子, 伊藤健人 (2008) 小児の前腕に生じた顆粒細胞腫の1例. 日本小児皮膚科学会, 東京
  49. 池田耕士, 川口あすか, 前原さおり, 前原稔, 大村直人, 池田茂樹, 黒川弘晶, 坂井田紀子, 植村芳子, 米虫 敦, 播磨洋子, 澤田敏 (2008) T2 強調像低信号の耳下腺多形腺腫症例. 第37回頭頸部・胸部画像研究会, 東京
  50. 新宅 洋, 足立 靖, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 高木孝士, 池原 進 (2008) 膀胱原発小細胞癌の一部検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  51. 矢内勢司, 足立 靖, 槇政彦, 植村芳子, 坂井田紀子, 石 明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 前立腺原発小細胞癌の1剖検例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  52. 大江知里, 坂井田紀子, 植村芳子 (2008) 稀な組織形態を示した腎腫瘍の一例. 第97回日本病理学会総会, 金沢
  53. 大江知里, 坂井田紀子, 植村芳子 (2008) 鼻腔腫瘍の一例. 日本病理学会近畿支部第41回学術集会, 大阪
  54. 黒川弘晶, 野村基雄, 桑田さおり, 藤田あすか, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 澤田敏, 大江知里, 坂井田紀子 (2008) Cardiac coil

を用いたMRIにおける前立腺癌病巣の描出能: 病理標本との比較検討. 第67回日本医学放射線学会総会, 横浜

55. 吉賀正亨, 小宮山豊, 高橋伯夫 (2008) DICを併発したセラチア感染による敗血症性ショックの治療過程で遷延する血小板減少をきたし治療に難渋した症例. 第82回日本感染症学会総会, 松江
56. 小宮山豊 (2008) 採血を安全に行うための基礎と応用—採血室は臨床検査室の顔です—, 滋賀県臨床検査技師会 第1回滋賀県情報管理分野研修会 教育講演, 草津
57. 小宮山豊, 吉賀正亨, 原 克子, 鈴木聡史, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2008) HIT抗体検査のカットオフ値は適正か. —2社の結果が乖離するHIT疑い症例の経験と文献的考察—. 第8回TTMフォーラム, 東京
58. 鈴木聡史, 八木理絵, 豊嶋敦彦, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 平川昭彦, 小宮山豊 (2008) 診断・治療に難渋した溶血性尿毒症症候群の一例. 第97回近畿救急医学会, 和歌山
59. 高橋伯夫 (2008) 降圧治療の標的としてのアルドステロン—なぜアルドステロンなのか—. 田辺市医師会学術講演会, 田辺
60. 黒川弘晶, 野村基雄, 前原 稔, 大村直人, 池田茂樹, 池田耕土, 澤田 敏, 坂井田紀子 (2008) 前立腺癌のMRI-Cardiaccoilを用いた描出能—. 第27回日本画像医学会, 東京
61. 松尾智央, 速水淳史, 為政大幾, 植村芳子, 寺嶋 亨, 岡本祐之 (2008) 圧痛を伴ったAngiomatoid fibrous histiocytomaの1例. 第405回大阪地方会, 大阪
62. 清水千裕, 中村竜也, 平川 要, 乾佐知子, 奥田和之, 中田千代, 大倉ひろ枝, 植村芳子, 高

橋伯夫 (2008) ESBL産生菌スクリーニング培地 chrom ID ESBL の性能評価と糞便検体からのESBL産生菌検出に関する検討. 第19回日本臨床微生物学会総会, 東京

63. 小宮山豊 (2008) 「血小板減少症の診断と治療」—ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) 検査診断の現状と将来—. 第23回体液・代謝管理研究会, 泉佐野
64. 馬庭知弘, 齊藤朋人, 金田浩由紀, 南健一郎, 齊藤幸人, 坂井田紀子, 植村芳子, 岡村明治 (2008) Hepatocytic phenotype を伴った肺悪性腫瘍の1例. 第88回日本肺癌学会関西支部会, 大阪

#### 著 書

1. 小宮山豊 (2008) 複合凝固因子の検査. スタンダード検査血液学 (日本検査血液学会編) 第2版, 160–161頁, 医歯薬出版株式会社, 東京
2. 小宮山豊 (2008) 凝固因子活性定量. スタンダード検査血液学 第2版, 161–162頁, 医歯薬出版, 東京
3. 高橋伯夫 (2008) “メタボ”と検査がよく分かる専門医のはなし [17] メタボリックシンドロームと交感神経活性. ラボ 6頁, 日本衛生検査所協会, 東京
4. 高橋伯夫ほか (2008) 最新臨床検査項目辞典 (伊藤機一, 宮地勇人, 前川真人, 池田 斉, 山田俊幸, 松本哲也編) 1–805頁, 医歯薬出版株式会社, 東京
5. 小宮山豊, 原 克子, 高橋伯夫 (2008) 薬毒物検査. 災害医療と臨床検査—診療現場での簡易型迅速検査を中心に— (♢谷直人, 松尾収二編) 155–161頁, 宇宙堂八木書店, 東京

## 救急医学科

### 出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果とアポトーシス発現に関する実験的研究

- 1) 出血性ショックにおける高張食塩液の免疫賦活作用に関する研究—アポトーシスとiNOSの関連について—

出血性ショック後の蘇生に成功しても, その後にARDS (急性呼吸窮迫症候群) やMOF (多臓器不全) が発生し, 死亡する症例がしばしば見られる. これには, 出血性ショック後の免疫抑制状態が深く関与していると考えられ, 高張食塩液の抗アポトーシス作用が免疫抑制状態を回復または回避するメカニズ

ムの解明を行い、治療に役立てることを目標とする。

高張食塩液蘇生が免疫担当臓器の胸腺および脾臓のCD4<sup>+</sup>CD25<sup>+</sup>制御性T細胞とγδT細胞にどの程度影響を及ぼし、またiNOSとアポトーシスが関与しているかを検討している。wild typeとしてのC57BL6/JマウスとiNOSノックアウトマウス(B6.129P2(NOS2))を用いた。全身麻酔下に左大腿動脈にPE10のカテーテルを挿入し、ヘパリン100 U/Kgを投与後脱血し血圧を40±5 mmHgに60分保つ。蘇生液として4 ml/Kgの7.5%NaClとSB(Shed blood:脱血血液); HS群と脱血血液の2倍量のラクテートリンゲル液と脱血血液; 2LR群を作製し、無処置のControl群とHS群と2LR群の蘇生後2 h, 6 h, 24 h, 48 hの時点でのCD4<sup>+</sup>CD25<sup>+</sup>制御性T細胞とγδT細胞の脾臓及び胸腺での蘇生後の変化をフローサイトメトリーを用いて検討している。出血性ショックはCD4<sup>+</sup>CD25<sup>+</sup>制御性T細胞, γδT細胞を介する免疫抑制に影響を及ぼし、iNOSが関与していると考えている。

2) 出血性ショックにおける高張食塩液蘇生の臓器障害防御効果をアポトーシスとiNOSとの関連について、肺障害、小腸障害の程度を判定し、それらがどの程度関与しているかを測定する。

3) 上記に基づいて、臨床研究に入るべく、倫理委員会に申請中である。

## 臨床研究

1) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の検討 第I-II相臨床試験

急性期脊髄損傷患者を対象にした培養自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の臨床効果および安全性を評価する。

脊髄損傷重症例では、生涯に対麻痺のために車椅子で、あるいは四肢麻痺のためにベッド上での生活が強いられる。さらに呼吸筋麻痺のために人工呼吸器すら外せない場合もある。平成13年6月1日に厚生労働省がおこなった調査において、18歳以上の脊髄損傷患者は約10万人で毎年5,000人の患者が発生している。脊髄損傷患者の多くは介護を必要とするため、その治療法の発展は、当事者のQOLや社会参加を大きく向上させるだけでなく、介護の社会的コストを大きく削減することに繋がるものと考えられる。

従来、何らかの外傷により損傷を受けた中枢神経組織は再生せず、その機能回復は不可能とされてきた。急性期にはその損傷の程度をできるだけ小範囲にとどめるためメチルプレドニゾロンが投与されている。また、慢性期にはその残存した神経機能をできるだけ引き出すリハビリテーションが行われている。

新しい治療法の可能性として、最近、骨髄間質細胞を移植することによって中枢神経の損傷部を修復させようとする試みが報告された。共同で研究を行う京都大学の研究グループもラットから採取した骨髄から間質細胞を分離培養し、胸髄Th 8-9レベルに挫滅損傷を加えた別のラットへ移植する実験を行ってきた。損傷後急性期に損傷部へ直接移植を行った群で歩行運動の著明な改善を認めた。しかし、ヒトへの応用を考えた場合には、脊髄の実質内に細胞を注入するのは危険性が高く、注入操作そのものにより新たな損傷が発生する可能性がある。一つの解決案として、細胞を脳脊髄液中に投与することが考えられる。ラット骨髄間質細胞を第四脳室内に投与する実験で、移植した群では神経学的な回復が認められており、組織学的にも脊髄損傷の程度が軽く損傷部位の空洞の形成が少ない結果が認められた。この回復は移植細胞からの活性物質によるものと考えられるが、その詳細は未だ不明である。移植された細胞は、初期には損傷部位内部に認められるが、1か月以上生存する細胞はごく少数しか存在せず、移植された細胞が長期間生着することが神経機能の回復にとって必須でないことが示唆される。また、移植された細胞は初期には脊髄の表面に広く分布していたが、それは時間とともに減少傾向にあったので、ES細胞移植時に問題となっているような腫瘍化などの危険性もほとんど考えられない。

骨髄間質細胞移植以外の脊髄損傷治療として諸外国においても細胞治療の開発が行われている。脳由来神経幹細胞を用いた治療法については、動物実験で、移植細胞が神経系の細胞に分化したという報告がある。臨床的な利用を考えると、本人からの中枢神経由来の幹細胞の採取は現実的には難しい。また中絶ヒト胎児由来の幹細胞や胚性幹細胞(ES cell)を利用する場合には、倫理的問題や拒絶反応の間

題は避けられず、免疫抑制薬が必要となれば二次的な副作用も生じうる。またウィルス、プリオン等の感染の危険性もある。また、患者自身のマクロファージを培養し活性化してから骨髄損傷部へ直接移植する方法や、鼻粘膜より採取し培養した嗅球の神経細胞を取り巻くグリア細胞(OEG)を骨髄損傷部へ直接移植する方法が、実際にヒトへの臨床応用として行われている。これらの治療法はまだ実験段階であり、有効性および安全性が検証されたものではない。加えて、これらの細胞の移植には、損傷部位の脊椎の椎弓切除を行って損傷部の脊髄実質内に直接、細胞を注入する方法が不可欠である。

一方、今回われわれが提案する骨髄間質細胞の移植は、“脳脊髄液中への培養細胞の投与が有効である”というこれまで京都大学の研究グループで行ってきた研究結果をふまえて、通常腰椎穿刺の手法を使って脳脊髄液中に細胞を投与するため、諸外国で行われている臨床実験と比較しても、患者への侵襲が少なく、より危険性の少ない優れた方法であると考えている。

臨床応用に向けて、脊損ラットでの効果確認と健常サルでの安全試験は行ったものの、ヒトでの安全試験や当然ながら効果は未確認であることなどの倫理的な問題などを注意深く検討し、患者団体とも接触して膨大な計画書を作成してきた。倫理委員会の承認が2005年7月1日に得られたことから、患者団体への説明会などを経て、すでに臨床試験を開始している。

本方法による脊髄再生治療の試みは、世界初の方法であるが、これまでに5例に対して実施した。現在のところ著効3名無効2名である。特に第2症例においては、細胞移植後、急激な改善を示し、全く動きの見られなかった下肢が、二ヶ月で歩行可能なまでに回復している。全症例ともに安全性には全く問題が見られていない。今後も症例を重ねて医療として定着させたい。

## 〈研究業績〉

原著

- Kato H, Kimura A, Sasaki R, Kaneko N, Takeda M, Hagiwara A, Ogura S, Mizoguchi T, Matsuoka T, Ono H, Matsuura K, Matsushima K, Kushimoto S, Fuse A, Nakatani T, Iwase M, Fudoji J and Kasai T (2008) Cervical spinal cord injury without bony injury: a multicenter retrospective study of emergency and critical care centers in Japan. *J Trauma* 65(2): 373-379
- Saito F, Nakatani T, Iwase M, Maeda Y, Hirakawa A, Murao Y, Suzuki Y, Onodera R, Fukushima M and Ide C (2008) Spinal cord injury treatment with intrathecal autologous bone marrow stromal cell transplantation: the first clinical trial case report. *J Trauma* 64(1): 53-59
- Asai T, Nomura S, Ishii K, Ichikawa K, Umei N, Matsunami K, Matsuo Y and Kitazawa Y (2008) Therapeutic efficacy of leukocytapheresis for procoagulant microparticles during hemophagocytic syndrome. *Pathophysiol Haemost Thromb* 36(2): 98-101
- 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 【カラーで診る臨床現場で役立つ 病棟必携! 心不全診療マニュアル】急性心不全 急性心不全の初期対応
- まず、最初に何をすべきか? ショックの患者(収縮期血圧 < 90mmHg)の初期対応. *CIRC Up-to-Date* 3(増刊): 33-41
- 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 【脳・神経系管理Q&A 研修医からの質問288】脊髄損傷の管理. *救急集中治療* 20(1-2): 200-206
- 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 【実践! 輸液・輸血ガイド】各種病態に対する輸液・輸血 脳血管障害. *救急医* 32(1): 71-76
- 杉本達哉, 岩瀬正顕, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 木下利彦, 中谷壽男 (2008) 2ヵ月間フォローアップした一酸化炭素中毒集団発生事例の報告. *産業医ジャーナル* 31(1): 18-22
- 北澤康秀 (2008) クリティカルケア領域の輸液管理のポイント① 開始輸液の考え方 まずは脱水対策から. *重症集中ケア* 7(1): 080-085
- 平川昭彦, 下戸 学, 津田雅庸, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 【腹部実質臓器損傷の治療戦略 手術か, IVR か, 保存的治療か, 私はこうして決めている】外傷性脾損傷における診断と治療. *日腹部救急医学会誌* 28(6): 819-823
- 津田雅庸, 稲葉宗夫, 中谷壽男, 池原 進 (2008) 樹状細胞による顆粒球の活性化. *臨免*

疫・アレルギー科 49(2): 203-209

## 総説

1. 中谷壽男 (2008) 再生医療:臨床応用が進む細胞治療 脊髄損傷に対する自己骨髄間質細胞の髄液内投与による治療. *Clinical Engineering* 20(1): 19-26
2. 北澤康秀, 鈴木聡史 (2008) 【実践!輸液・輸血ガイド】各種病態に対する輸液・輸血 電解質異常. *救急医* 32(1): 109-113
3. 北澤康秀 (2008) クリティカルケア領域の輸液管理のポイント⑤特殊輸液療法と第3グループの輸液製剤. *重症集中ケア* 7(5): 106-110
4. 北澤康秀 (2008) クリティカルケア領域の輸液管理のポイント④ 電解質異常の原因と輸液療法. *重症集中ケア* 7(4): 103-109
5. 北澤康秀 (2008) 苦手克服!根拠に基づく超急性期の代謝・栄養管理 重症急性期患者の栄養アセスメント. *重症集中ケア* 7(4): 018-024
6. 北澤康秀 (2008) クリティカルケア領域の輸液管理のポイント③ インアウトバランス. *重症集中ケア* 7(3): 081-087
7. 北澤康秀 (2008) クリティカルケア領域の輸液管理のポイント② 維持のための輸液. *重症集中ケア* 7(2): 48-53

## 症例報告

1. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 急性期脊髄損傷に対する自家骨髄間質細胞移植. *Jpn J Rehabil Med* 45(6): 349-352
2. 津田雅庸, 足立 靖, 新宅 洋, 下戸 学, 矢西正明, 高木孝士, 西田晃久, 四方伸明, 鷹巢晃昌, 池原 進 (2008) 膀胱原発神経内分泌癌の1剖検例. *診断病理* 25(4): 298-302
3. 藤井弘史, 中尾佳永, 岡田隆之, 徳田貴則, 北澤康秀 (2008) 90歳以上の高齢者の大動脈緊急症例の検討. *日血管外会誌* 17(3): 439-445
4. 鈴木聡史, 北澤康秀, 岸本真房, 富野敦稔, 山本 透, 田中夏貴, 河本 泉, 今村正之 (2008) 重篤な水様性下痢にて救急外来を受診した膵VIP産生腫瘍の1例. *日臨救急医会誌* 11(6): 480-485
5. 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 山本 透, 北

澤康秀, 小切匡史 (2008) 鈍的腹部外傷後の遅発性小腸狭窄の1例. *日臨救急医会誌* 11(6): 475-479

## 学会発表

1. Fujiwara H, Iwase M, Tsuchiya H, Miyazaki H, Tsuda M, Maeda Y, Murao Y and Nakatani T (2008) Report of a Full Recovery Case after CPA due to Traumatic Ashpyxia Buried under Sand Masses. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
2. Hirakawa A, Tsuchiya H, Shimoto M, Tsuda M, Murao Y and Nakatani T (2008) Heparin Induced Thrombocytopenia in Nine Patients Receiving Low-Dose Heparin in ICU. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
3. Isayama K, Murao Y, Hirakawa A and Nakatani T (2008) iNOS Promotes CD4+CD25+ Foxp3+ Regulatory T Cells after Hemorrhagic Shock Model in Mice. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
4. Iwase M, Nakatani T, Maeda Y, Hirakawa A, Saito F, Takeda T and Kawamoto K (2008) Penetrating Craniofacial Injury by a Bicycle Umbrella Holder: A Case Report. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
5. Murao Y, Isayama M, Hirakawa A and Nakatani T (2008) Effect of Hypertonic Saline Resuscitation on CD4+CD25+ Foxp3+ Regulatory T Cells and  $\gamma\delta$ T Cells in Relation to iNOS and Apoptosis after Hemorrhagic Shock Model in Mice. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
6. Nakatani T (2008) A Story of Meeting Again after an Interval of 17 Years with an Iranian Soldier Victim Who was Treated in Japan for Mustard Gas Exposure during the Iran-Iraq War. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
7. Saito F, Nakamura M, Tanigawa N, Tsuchiya H,

- Shimoto M, Miyazaki H, Tsuda M, Fujiwara H, Maeda Y, Hirakawa A, Iwase M, Murao Y and Nakatani T (2008) Morphological Investigation for the Application of M—Shaped Transiliac Plate in Vertically Unstable Sacral Fractures. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
8. Tsuda M, Tsuchiya H, Shimoto M, Miyazaki H, Fujiwara Y, Maeda Y, Hirakawa A, Iwase M, Murao Y and Nakatani T (2008) Analysis of Diagnosis and Treatment of Diaphragmatic Injury Cases Hospitalized in our Emergency and Critical Care Center. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
  9. Maeda Y, Ishii N, Iwase M, Nakatani T and Saito F (2008) Spinal Cord Injury Treatment with Intrathecal Autologous Bone Marrow Stromal Cell Transplantation A Case Report. 5th European Congress on Emergency Medicine 3rd Annual Meeting of the DGINA, Munich Germany
  10. Kunizawa A, Fujioka M, Mishima K, Asai A, Kawamoto K, Kitazawa Y, Guntram W. Ickenstein and Bo K. Siesjö (2008) Selective neuronal death in the cerebral cortex due to migrainous vasospasm revealed by magnetic resonance angiography. 6th world stroke congress, Vienna, Austria
  11. Kunizawa A, Fujioka M, Suzuki S, Mishima K, Kitazawa Y, Asai A, Kawamoto K, Guntram W. Ickenstein and Bo K. Siesjö (2008) Delayed cellular edema in pulvinar and medial dorsal nuclei of human thalami after hypoglycemia may be caused by remote effect of axonal and transsynaptic mechanisms. 6th world stroke congress, Vienna, Austria
  12. Murao Y, Isayama K, Saito F, Hirakawa A and Nakatani T (2008) Effect of hypertonic saline resuscitation on CD4+CD25+regulatory T cell and  $\gamma\delta$  T cells after hemorrhagic shock and resuscitation in relation to apoptosis and iNOS. American Association for the Surgery of Trauma 67th Meeting, Maui, USA
  13. Saito F, Nakatani T, Iwase M, Hirakawa A, Murao Y, Matsumoto K, Sakamoto T, Suzuki Y and Ide C (2008) Two-year follow-up of the effects of intrathecal bone marrow stromal cell administration treatment in a patient with spinal cord injury. American Association for the Surgery of Trauma 67th Meeting, Maui, USA
  14. Kunizawa A, Fujioka M, Suzuki S, Mishima K, Asai A, Kawamoto K, Guntram W. Ickenstein, Kitazawa Y and Bo K. Siesjö (2008) Delayed cellular edema in pulvinar and medial dorsal nuclei of human thalami after hypoglycemia may result from remote effect of axonal and transsynaptic mechanisms. The 4th European – Japanese Joint Conference on Stroke Surgery, Helsinki
  15. Kunizawa A, Fujioka M, Ryu T, Suzuki S, Mishima K, Asai A, Kawamoto K, Guntram W. Ickenstein and Kitazawa Y (2008) Posterior spontaneous spinal epidural hematoma leading to anterior spinal cord syndrome. The 4th European – Japanese Joint Conference on Stroke Surgery, Helsinki
  16. Kunizawa A, Suzuki S, Asai A, Kawamoto K, Kitazawa Y, Guntram W. Ickenstein, Bo K. Siesjö and Fujioka M (2008) Migrainous Incomplete Infarction. 18th Meeting of the European Neurological Society, Nice, France
  17. Kunizawa A, Suzuki S, Ryu T, Asai A, Kawamoto K, Guntram W. Ickenstein, Kitazawa Y and Fujioka M (2008) Spontaneous spinal epidural hematoma inducing acute anterior spinal cord syndrome. 18th Meeting of the European Neurological Society, Nice, France
  18. Kunizawa A, Suzuki S, Kitazawa Y, Asai A, Kawamoto K, Guntram W. Ickenstein, Bo K. Siesjö and Fujioka M (2008) Delayed neurodegeneration in the pulvinar and medial dorsal nuclei of the human thalami on diffusion-weighted MRI after hypoglycemic injury. 18th Meeting of the European Neurological Society, Nice, France
  19. Kunizawa A, Fujioka M, Suzuki S, Iwata R, Asai A, Kawamoto K, Kitazawa Y and Bo K. Siesjö (2008) Migrainous incomplete infarction: adult

- onset hemiplegic migraine with cerebral vasospasm leading to selective cortical neuronal death. 17th European Stroke Conference, Nice, France
20. Suzuki S, Kunizawa A, Kishimoto M, Tomino A, Ueda S, Iwata R, Yamamoto T, Kitazawa Y, Mishima K, Bo K, Siesjö and Fujioka M (2008) Delayed cytotoxic edema in the human thalamus after hypoglycemic injury. Society of Critical Care Medicine 37th Critical Care Congress, Honolulu, Hawaii, USA
  21. Saito Y, Nobuhara K, Okugawa G, Takase K, Tajika A, Sugimoto T, Maehara M, Kurokawa H, Ikeda K, Sawada S and Kinoshita T (2008) White matter abnormalities in obsessive-compulsive disorder: A diffusion tensor imaging study. 16th AEP European Congress of Psychiatry, Nice, France
  22. Kishimoto M, Fujioka M, Fujii H, Kunizawa A, Suzuki S, Tomino A, Ueda S, Kaneda H, Yamamoto T and Kitazawa Y (2008) Intestinal Ischemia in Patients with Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm: predicting factors of its occurrence and early diagnosis by colonoscopy. 37th Critical Care Congress, Hawaii, USA
  23. Kishimoto M, Fujioka M, Fujii H, Kunizawa A, Suzuki S, Tomino A, Ueda S, Kaneda H, Yamamoto T and Kitazawa Y (2008) Intestinal ischemia in patients with ruptured abdominal aortic aneurysm: predicting factors of its occurrence and early diagnosis by colonoscopy. Society of Critical Care Medicine 37th Critical Care Congress, Honolulu, Hawaii, USA
  24. Maeda Y, Fujiwara H, Iwase M, Tsuchiya H, Miyazaki H, Tsuda M, Murao Y and Nakatani T (2008) Report of a Case of Forestier's Disease with Reversible Laryngeal Paralysis after Traumatic Spinal Cord Injury. The Second Japanese-Korean Joint Session of 36th Annual Meeting of JAAM, Sapporo, Japan
  25. Kunizawa A, Fujioka M, Ryu T, Suzuki S, Mishima K, Asai A, Kawamoto K, Kitazawa Y, Guntram W. Ickenstein and Bo K. Siesjö (2008) Anterior spinal cord syndrome caused by posterior spontaneous spinal epidural hematoma. 6th world stroke congress, Vienna, Austria
  26. 岩瀬正顕 (2008) 頭頸部疾患. 第23回日本救命医学会, 東京
  27. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 院外心肺停止例に対する体性感覚誘発電位を用いた脳機能予後予測. 第38回臨床神経生理学学会, 神戸
  28. 原 克子, 小宮山豊, 平川昭彦, 中谷壽男, 正木浩哉, 高橋伯夫 (2008) 注射用メシル酸ナファモスタット製剤の先発品と後発医薬品の比較分析. 第55回日本臨床検査医学会学術集会, 名古屋
  29. 岩瀬正顕, 平川昭彦, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 三次救命センターにおける高齢者脊椎・脊髄損傷の現状. 第56回日本職業・災害医学会, 東京
  30. 土屋洋之, 下戸 学, 津田雅庸, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 冬場のサウナ入浴中に生じた高齢者の重症熱中症の2例. 第56回日本職業・災害医学会, 東京
  31. 山本 透 (2008) 外傷・熱傷に起因する感染症～病態と診断・治療と予防～. 第112回感染防止研究会, 大阪
  32. 下戸 学, 土屋洋之, 平川昭彦, 津田雅庸, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 来院時心肺停止患者に対する負荷分散バンド式自動胸郭圧迫装置の検討. 第36回日本救急医学会, 札幌
  33. 諫山憲司, 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後早期における高張食塩液蘇生のCD4+CD25+制御性T細胞に及ぼす影響 (iNOS とアポトーシスの関連について). 第36回日本救急医学会, 札幌
  34. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 高齢者脊椎・脊髄損傷の現状. 第36回日本救急医学会, 札幌
  35. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 津田雅庸, 中谷壽男, 平川昭彦, 藤原弘佳, 村尾佳則, 宮崎秀行, 下戸 学, 土屋洋之 (2008) 自家骨髄間質細胞移植による脊髄再生治療の開始第2報. 第36回日本救急医学会, 札幌
  36. 津田雅庸, 稲葉宗夫, 下戸 学, 齊藤福樹, 藤原弘佳, 前田裕仁, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 池原 進, 中谷壽男 (2008) 感染初

期における免疫応答. 第36回日本救急医学会, 札幌

37. 藤原弘佳, 村尾佳則, 宮崎秀行, 下戸 学, 土屋洋之, 津田雅庸, 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 当救命センターにおける75歳以上の後期高齢者症例の検討. 第36回日本救急医学会, 札幌
38. 平川昭彦, 土屋洋之, 下戸 学, 板東宏樹, 杉本達哉, 宮崎秀行, 齊藤福樹, 津田雅庸, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 本院高度救命救急センターにおける身体合併症のある精神疾患患者の検討. 第36回日本救急医学会, 札幌
39. 齊藤福樹, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 津田雅庸, 前田裕仁, 平川昭彦, 村尾佳則, 鈴木義久, 井出千束 (2008) 人工コラーゲンをを用いた脊髄再生の試み. 第36回日本救急医学会, 札幌
40. 岸本真房, 富野敦稔, 櫻本和人, 上田創平, 山本 透, 島谷昌明, 森 茂生, 田崎賢也, 北澤康秀, 岡崎和一 (2008) 当院における出血性胃十二指腸潰瘍症例の検討. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌
41. 高橋弘毅, 岸本真房, 伊藤昭裕, 笛木孝明, 櫻本和人, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 自傷行為により敗血症から播種性血管内凝固症候群(DIC)を生じたMunchausen症候群の1例. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌
42. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 小島 博, 狩谷秀治, 谷川 昇, 澤田 敏 (2008) 重症急性膵炎に対するbiapenem (商品名オメガシン) を用いた膵局所動注療法の検討. 第36回日本救急医学会総会・学術集会, 札幌
43. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 急性期脊髄損傷に対する培養自家骨髄間質細胞移植による臨床試験. 第67回日本脳神経外科学会, 盛岡
44. 村尾佳則, 諫山憲司, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後免疫抑制状態におけるCD4+CD25+制御性T細胞と $\gamma\delta$ T細胞に対するiNOSとアポトーシスの影響. 第23回救命医療学会総会, 東京
45. 高橋弘毅, 岸本真房, 竹村博一, 金田浩由紀, 伊藤昭裕, 櫻本和人, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 齊藤幸人 (2008) 口腔内での花火破裂を契機とした咽頭穿孔による頸部腫瘍に対し, 頸部・縦隔ドレナージ術が奏効した一例. 第23回日本救命医療学会総会・学術集会, 東京
46. 平川昭彦, 下戸 学, 板東宏樹, 杉本達哉, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 当センターにおける身体合併症のある精神疾患患者への対応. 第30回日本中毒学会, 和歌山
47. 下戸 学, 平川昭彦, 土屋洋之, 杉本達哉, 板東宏樹, 中谷壽男 (2008) 家庭用品中毒と精神疾患との関連について. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 和歌山
48. 富野敦稔, 岸本真房, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 塩酸服用による重症腐蝕性上部消化管炎の1例. 第30回日本中毒学会総会・学術集会, 和歌山
49. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 心肺蘇生法一蘇生後のサポートと予後予測因子の検討. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京
50. 藤原弘佳, 村尾佳則, 宮崎秀行, 下戸 学, 津田雅庸, 前田敏樹, 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 当救命センターで経験した頸部感染症例. 第11回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 東京
51. 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 椎骨動脈閉塞をきたした頸椎片側脱臼骨折の一例. 第23回日本脊髄外科学会, 宮城
52. 久徳美樹, 松島貴志, 北澤康秀, 富野敦稔, 菅豊明 (2008) 過去2年の熱傷患者の統計一形成外科・救急医学科の連携を中心に一. 第34回日本熱傷学会総会・学術集会, 名古屋
53. 前田裕仁, 宮崎秀行, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 輪状甲状間膜穿刺にて対処した脊髄損傷後に発症したForestier病による嚥下障害の1例. 第53回日本集中治療医学会近畿地方会, 京都
54. 宮崎秀行, 浅井 隆, 永田 厚, 新宮 興 (2008) 頸部可動域制限による挿管困難が予測された症例でのエアウェイスコープによる気管挿管(The tracheal intubation with the Pentax Airway Scope in patients with difficult airway

- due to limited neck movement). 第55回日本麻酔科学会, 横浜
55. 諫山憲司, 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後早期において高張食塩液蘇生が $\gamma\delta$ T細胞とアポトーシスに及ぼす影響. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  56. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 脊髄損傷に合併する反回神経麻痺の検討. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  57. 村尾佳則, 諫山憲司, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後の高張食塩液蘇生が制御性T細胞とアポトーシスに及ぼす影響について. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  58. 津田雅庸, 平川昭彦, 前田敏樹, 藤原弘佳, 村尾佳則, 齊藤福樹, 中谷壽男 (2008) 右横隔膜損傷を伴う肝損傷症例 (当センターにおける横隔膜破裂の検討を加えて). 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  59. 藤原弘佳, 村尾佳則, 下戸 学, 宮崎秀行, 津田雅庸, 前田敏樹, 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男 (2008) 鈍的外傷により右室破裂を生じた一治験例. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  60. 齊藤福樹, 中村誠也, 前田敏樹, 津田雅庸, 下戸 学, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 前田裕仁, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) M-Shped Transiliac Plate 設置に難渋した一例. 第22回日本外傷学会, 宜野湾
  61. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 椎骨動脈閉塞をきたした頸椎片側脱臼骨折の1例. 第17回河内救急医療懇話会, 東大阪
  62. 中谷壽男 (2008) いま, 救命救急センターは“最後の砦”たりうるか?. 第17回河内救急医療懇話会, 東大阪
  63. 諫山憲司, 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後のCD4+CD25+Foxp3+制御性T細胞を介した免疫抑制状態に高張食塩液とiNOSが及ぼす影響. 第125回関西医科大学学内学術集談会, 枚方
  64. 鈴木聡史, 藤岡政行, 國澤亜以, 岩田亮一, 岸本真房, 富野敦稔, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 低血糖ストレス抵抗性であるヒト視床における低血糖昏睡後経時的MRI上の遅発性変化. 第33回日本脳卒中学会, 京都
  65. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 虚血性脳卒中の急性期血栓溶解療法の効果について 正中神経刺激SSEPによる検討. 第33回日本脳卒中学会総会, 京都
  66. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 遠位中大脳動脈瘤(M3)の破裂で発症した多発中大脳動脈瘤(M1, M2, M3)の1例. 第33回日本脳卒中学会総会, 京都
  67. 富野敦稔, 岸本真房, 鈴木聡史, 柳本泰明, 豊川秀吉, 里井壮平, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 術前TAEが有効であった外傷性脾断裂の一例. 第44回日本腹部救急医学会, 横浜
  68. 岸本真房, 鈴木聡史, 富野敦稔, 國澤亜以, 山本 壮, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀, 小島博之, 狩谷秀治, 谷川 昇, 澤田 敏 (2008) 脾局所動注療法におけるbiapenem (オメガシン) の有用性について. 第44回日本腹部救急医学会総会, 横浜
  69. 前田敏樹, 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 内腹斜筋断裂を伴う外傷性ヘルニアの1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 横浜
  70. 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 小島博之, 谷川 昇, 澤田 敏 (2008) 内視鏡的クリッピング止血術により穿破した胃十二指腸動脈瘤に対し経皮的動脈塞栓術により止血しえた1例. 第44回日本腹部救急医学会総会, 横浜
  71. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 骨折を伴う頸椎片側脱臼に対する手術療法. 第57回近畿脊髄外科研究会, 大阪
  72. 小宮山豊, 吉賀正亨, 原 克子, 鈴木聡史, 平川昭彦, 北澤康秀, 中谷壽男, 高橋伯夫 (2008) HIT抗体検査のカットオフ値は適正か. -2社の結果が乖離するHIT疑い症例の経験と文献的考察-. 第8回TTMフォーラム, 東京
  73. 岸本真房, 鈴木聡史, 櫻本和人, 富野敦稔, 上田創平, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 関西医科大学付属枚方病院救急センターの開院後2年間の推移. 第97回近畿救急医学会, 和歌山
  74. 谷 陽一, 鈴木聡史, 岸本真房, 富野敦稔, 上

- 田創平, 山本 透, 北澤康秀, 高田洋平, 井上俊哉, 永田基樹, 山下敏夫 (2008) 墜落による頭頸部杖創で奇跡的に中枢動脈の損傷を回避した1例. 第97回近畿救急医学会, 和歌山
75. 鈴木聡史, 八木理絵, 豊嶋敦彦, 富野敦稔, 山本 透, 北澤康秀, 平川昭彦, 小宮山豊 (2008) 診断・治療に難渋した溶血性尿毒症症候群の一例. 第97回近畿救急医学会, 和歌山
76. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 前田敏樹, 下戸 学, 津田雅庸, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 保存的に対処したForestier病による嚥下障害の1例. 第97回近畿救急医学研究会, 和歌山
77. 前田裕仁, 宮崎秀行, 村尾佳則, 中谷壽男, 木村智子, 藤田享子, 野澤ゆかり, 藤田美保, 榎本良枝 (2008) 災害訓練中に過換気症し対処に苦慮した模擬患者スタッフ. 第13回日本集団災害医学会総会, つくば
78. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 前田敏樹, 下戸 学, 宮崎秀行, 藤原弘佳, 齊藤福樹, 平川昭彦, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 動脈圧心拍出量測定 (APCO) モニターにより血行動態を評価したautonomic dysreflexiaの一例. 第35回日本集中治療医学会学術集会, 東京
79. 平川昭彦, 下戸 学, 宮崎秀行, 小宮山豊, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男 (2008) ヘパリン起因性血小板減少症を呈した7例の検討. 第35回日本集中治療学会, 東京
80. 藤原弘佳, 岩瀬正顕, 下戸 学, 高橋弘毅, 高橋弘毅, 杉本達哉, 前田敏樹, 前田裕仁, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 当救命センターにおける院外心停止, 蘇生患者の検討. 日本集中治療学会, 東京
81. 中谷壽男 (2008) 小児の中毒事故への対応. 大阪府医師会, 大阪
82. 岩瀬正顕, 前田裕仁, 齊藤福樹, 平川昭彦, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 頭蓋内出血を発症した慢性維持透析患者治療の動向と急性治療に関する問題. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
83. 前田裕仁, 岩瀬正顕, 齊藤福樹, 村尾佳則, 中谷壽男, 河本圭司 (2008) 頸椎脱臼骨折を契機に発見されたForestier病の1例. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
84. 岩田亮一, 鈴木聡史, 藤岡政行, 國澤亜以, 岸本真房, 富野敦稔, 浅井昭雄, 河本圭司, 山本 透, 北澤康秀 (2008) 低血糖ストレス抵抗性であるヒト視床における低血糖昏睡後経時的MRI上の遅発性変化. 第13回日本脳神経外科救急学会, 東京
85. 久徳美樹, 三宅良平, 田中保子, 富野敦稔, 北澤康秀 (2008) “児童虐待”が疑われた家庭における熱傷児の治療. 第16回日本熱傷学会近畿地方会, 奈良
86. 平川昭彦, 下戸 学, 宮崎秀行, 小宮山豊, 村尾佳則, 北澤康秀, 中谷壽男 (2008) ヘパリン起因性血小板減少症 (HIT) を呈した7例の検討. 第6回南大阪DIC研究会, 大阪
87. 宮崎秀行, 藤原弘佳, 前田裕仁, 下戸 学, 津田雅庸, 平川昭彦, 岩瀬正顕, 村尾佳則, 中谷壽男 (2008) 外傷性窒息による心肺停止後蘇生し得た症例の予後についての検討. 第36回日本救急医学会, 札幌
88. 諫山憲司, 村尾佳則, 平川昭彦, 中谷壽男 (2008) 出血性ショック後早期の胸腺および脾臓において高張食塩液蘇生がCD4+CD25+ 制御性T細胞及び $\gamma\delta$ T細胞とアポトーシスに及ぼす影響. 第124回関西医科大学大学内学術集談会, 守口

## 著 書

- 鈴木聡史, 藤岡政行 (2008) 低血糖症. すぐに役立つ脳神経外科救急ハンドブック (長谷川素美編) 330頁, メディカ出版, 大阪
- 中谷壽男 (2008) 黄疸. 救急診療指針 改訂第3版 (日本救急医学会専門医認定委員会編) 163-166頁, へるす出版, 東京
- 中谷壽男 (2008) 重症患者管理の基本. 救急診療指針 改訂第3版 (日本救急医学会専門医認定委員会編) 547-552頁, へるす出版, 東京
- 末原則幸, 杉本 壽, 中谷壽男, 小倉裕司, 鍛冶有登, 松岡哲也, 木村 正, 荻田和秀, 依岡寛和, 松尾重樹, 塩田 充, 池田智明, 桂木真司 (2008) 乳幼児死亡と妊産婦死亡の分析と提言に関する研究 周産期医療システムと救命救急システムの協力体制に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金 子ども家庭総合研

- 究事業 乳幼児死亡と妊産婦死亡の分析と提言に関する研究 平成19年度 総括・分担研究報告書(池田智明編) 149-154頁, 国立循環器病センター, 東京
5. 中谷壽男(2008) 中毒性疾患の治療の動向. 今日の治療指針(山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 109頁, 医学書院, 東京
  6. 中谷壽男(2008) 家庭用防虫剤中毒. 今日の治療指針(山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 118-119頁, 医学書院, 東京
  7. 山本保博, 中谷壽男(2008) 急性中毒. 今日の治療指針 1233-1264頁, 医学書院, 東京
  8. 中谷壽男(2008) 中毒性疾患. 今日の治療指針(山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 13頁, 医学書院, 東京
  9. 平川昭彦(2008) 動脈穿刺・カテーテル留置法, 観血的血圧測定法. 今日の治療指針(山口 徹, 北原光夫, 福井次矢編) 86頁, 医学書院, 東京

## 輸血部

### 原 著

1. Kaibori M, Saito T, Matsui K, Yamaoka M and Kamiyama Y (2008) Impact of fresh frozen plasma on hepatectomy for hepatocellular carcinoma. *Anticancer Res* 28(3B): 1749-1756

### 症例報告

1. 中矢桂子, 大西修司, 鈴木 敏, 正木浩哉(2008) 高度黄疸を呈し対応抗原(C, e)陰性RC-MAP 輸血が適応となった遅発性溶血性輸血副作用の1症例. *医学検査* 57(11): 1346-1349

### 学会発表

1. 山岡 学, 大西修司, 有元美代子, 市邊明美, 徳永裕彦, 中矢桂子, 藤原通恵(2008) 当院におけるアルブミン製剤一元管理のシステム化とその効果. 第52回日本輸血・細胞治療学会近畿支部総会, 橿原
2. 有元美代子, 山岡 学, 市邊明美, 大西修司,

- 徳永裕彦, 中矢桂子, 藤原通恵(2008) 抗B欠損O型で遺伝子型が異なる体組織を認めた症例. 第48回近畿医学検査学会, 神戸
3. 有元美代子, 山岡 学, 市邊明美, 大西修司, 徳永裕彦, 中矢桂子, 藤原通恵(2008) 自己抗体と汎血球凝集反応の影響により血液型判定と輸血に苦慮した症例. 第57回日本医学検査学会, 札幌
4. 市邊明美, 山岡 学, 有元美代子, 大西修司, 徳永裕彦, 中矢桂子, 藤原通恵(2008) PC-HLA 頻回輸血によりPTRとともに強い副作用が認められた症例. 第56回日本輸血・細胞治療学会, 福岡
5. 大西修司, 山岡 学, 市邊明美, 有元美代子, 徳永裕彦(2008) 当院における貯血式自己血輸血の現状報告と問題点. 第21回日本自己血輸血学会学術総会, 久留米
6. 大西修司(2008) 周術期の輸血検査. 第18回生物試料分析科学会学術集会, 大阪

## 大学医療情報部

### 原 著

1. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二(2008) 看護師の病院情報トラブルコール分析と継続教育の必要性. *医療情報学* 28(Suppl.): 590-592
2. 北村 臣, 石原久美子, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 宮崎浩彰, 仲野俊成,

- 今村洋二(2008) 電子カルテシステム下におけるクリニカルパス運用その後と職員アンケート結果からみた課題. *医療情報学* 28(Suppl.): 549-551
3. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二(2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携から

MFERを用いた施設間連携へ. 医療情報学 28(Suppl.): 539-542

4. 渡辺 淳, 仲野俊成, 新貝欣久, 竹花一哉, 小山武彦, 平井正明, 大澤康弘, 高橋伯夫 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた12誘導心電図の医療施設間相互参照. 医療情報学 28(Suppl.): 535-538
5. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 中村竜也, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) DWHを活用した抗菌薬適正使用情報抽出の試み. 医療情報学 28(Suppl.): 450-452
6. 畑森浩孝, 仲野俊成, 渡辺 淳, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 高橋伯夫 (2008) 電子カルテシステムアクセス履歴からみたクリニカルクラークシップ評価の試み. 医療情報学 28(Suppl.): 414-417
7. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2008) 重症部門システムと電子カルテシステムの処置連携導入による効果. 医療情報学 28(Suppl.): 386-388
8. 仲野俊成, 鶴見由美子, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2008) オーガナイズドセッション2「処方オーダー」処方オーダーエントリーシステムのあるべき姿勢. 医療情報学 28(Suppl.): 241-244
9. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1214-1217
10. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 宮田康央, 小山武彦, 平井正明, 河野 努, 田中雅人, 大澤康弘, 今村洋二 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた医療施設間波形情報相互参照システムの構築. 医療情報学 28(Suppl.): 1208-1213
11. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康央, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFERを用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1204-1207

#### 学会発表

1. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西

村泰典, 今村洋二 (2008) 重症部門システムと電子カルテシステムの処置連携導入による効果. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜

2. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 中村竜也, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) DWHを活用した抗菌薬適正使用情報抽出の試み. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
3. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
4. 仲野俊成, 鶴見由美子, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2008) オーガナイズドセッション2「処方オーダー」処方オーダーエントリーシステムのあるべき姿勢. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
5. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康央, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFERを用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
6. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二 (2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携からMFERを用いた施設間連携へ. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
7. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 宮田康央, 小山武彦, 平井正明, 河野 努, 田中雅人, 大澤康弘, 今村洋二 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた医療施設間波形情報相互参照システムの構築. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
8. 渡辺 淳, 仲野俊成, 新貝欣久, 竹花一哉, 小山武彦, 平井正明, 大澤康弘, 高橋伯夫 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER)を用いた12誘導心電図の医療施設間相互参照. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学

- 術大会), 横浜
9. 畑森浩孝, 仲野俊成, 渡辺 淳, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 高橋伯夫 (2008) 電子カルテシステムアクセス履歴からみたクリニカルクラークシップ評価の試み. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  10. 北村 臣, 石原久美子, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 電子カルテシステム下におけるクリニカルパス運用その後と職員アンケート結果からみた課題. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  11. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 看護師の病院情報トラブルコール分析と継続教育の必要性. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  12. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) パネルディスカッション「診療情報管理士教育の現状と将来」当院での診療情報管理士の新人現場教育について. 第94回近畿病歴管理セミナー, 枚方
  13. 仲野俊成 (2008) 施設紹介「関西医科大学附属枚方病院 病院情報システムの紹介」. 第94回近畿病歴管理セミナー, 枚方
  14. 北村 臣 (2008) 近畿病歴管理セミナープロジェクト 1-A 胃がん (060020XX0200XX). 第93回近畿病歴管理セミナー, 大阪
  15. 廣原淳子, 仲野俊成, 大西三朗 (2008) ワークショップ3: 多臓器病変を呈する消化器疾患: 合併する自己免疫疾患別にみた原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の病態の相違—PBC 全国調査結果から—. 第94回日本消化器病学会総会, 福岡
  16. 仲野俊成 (2008) 医療情報システム系 第1章 総論. 日本医療情報学会 医療情報技師育成事業 2008年度講習会, 東京, 西宮
  17. 竹花一哉, 奥 真也, 神宮司公二, 巽 光朗, 宮内 勉, 河邊讓二, 對間博之, 渡邊 淳, 澤田 敏, 岩坂壽二 (2008) 5大学病院核医学部門の業務分析によるIHE-J等標準化技術適合度の再検討 保存データの範囲と態様. 第67回日本医学放射線学会学術集会, 横浜
  18. 星野勝一, 段原直行, 成田基良, 鈴木 亮, 住本貴美, 森 茂生, 田橋賢也, 若松隆宏, 仲野俊成, 岡崎和一 (2008) 術前化学療法により病理学的にCRを確認した stage IV 進行胃癌の1例. 第88回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪
  19. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変全国調査第28報. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」平成19年度第2回総会, 東京
  20. 廣田美喜子 (2008) 個人PCのウイルス対策の現状調査. 第34回日本看護研究学会, 神戸
  21. 北村 臣, 石原久美子, 西村泰典, 里井壮平, 宮崎浩彰, 仲野俊成 (2008) ワークショップ2 医療従事者の業務分担と職域拡大 電子カルテシステムにおけるクリニカルパス管理とその運用—診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のパス業務負担軽減の試み—. 第9回日本クリニカルパス学会, 大宮
- 著 書
1. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変, わかりやすい内科学 第3版 (井村裕夫, 大井元晴, 尾崎承一, 笹田昌孝, 中井義勝, 福田善弘, 福山秀直, 藤田正俊, 武曾恵理編) 645-649頁, 文光堂, 東京
  2. 仲野俊成 (2008) 医療情報サポート (松村泰志編) 医療情報システム編, 253-281頁, 篠原出版新社, 東京
  3. 仲野俊成 (2008) 解説 医療情報技師能力検定試験問題. 篠原出版新社, 東京
  4. 廣原淳子, 仲野俊成, 関 寿人, 岡崎和一 (2008) 原発性胆汁性肝硬変全国調査 (第28報). 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究 平成19年度 総括・分担研究報告書 33-40頁, 厚生労働科学研究費補助金 (難治性疾患克服研究事業) 難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究班, 東京
  5. 仲野俊成 (2008) 医療情報システム編. 日本

医療情報学会 医療情報技師育成事業 2008  
年度講習会 DVD セッション1, 医療情報技

師育成部会, 東京

## 大学学術部

原著

1. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二 (2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携から MFER を用いた施設間連携へ. 医療情報学 28(Suppl.): 539-542
2. 渡辺 淳, 仲野俊成, 新貝欣久, 竹花一哉, 小山武彦, 平井正明, 大澤康弘, 高橋伯夫 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた12誘導心電図の医療施設間相互参照. 医療情報学 28(Suppl.): 535-538
3. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1214-1217
4. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 宮田康央, 小山武彦, 平井正明, 河野 努, 田中雅人, 大澤康弘, 今村洋二 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた医療施設間波形情報相互参照システムの構築. 医療情報学 28(Suppl.): 1208-1213
5. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康央, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFER を用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1204-1207

学会発表

1. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木

- 村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
2. 仲野俊成, 渡辺 淳, 松本掲典, 新貝欣久, 宮田康央, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 高橋伯夫 (2008) MFER を用いた遠隔診断におけるセキュリティおよびデータ追跡性の検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
3. 仲野俊成, 渡辺 淳, 竹花一哉, 小山武彦, 佐藤恵一, 平井正明, 堀井俊洋, 今村洋二 (2008) 電子カルテと波形情報の連携: 院内連携から MFER を用いた施設間連携へ. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
4. 渡辺 淳, 仲野俊成, 松本掲典, 宮田康央, 小山武彦, 平井正明, 河野 努, 田中雅人, 大澤康弘, 今村洋二 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた医療施設間波形情報相互参照システムの構築. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
5. 渡辺 淳, 仲野俊成, 新貝欣久, 竹花一哉, 小山武彦, 平井正明, 大澤康弘, 高橋伯夫 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた12誘導心電図の医療施設間相互参照. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜

## 大学業務部

原著

1. 畑森浩孝, 仲野俊成, 渡辺 淳, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 高橋伯夫 (2008) 電子カルテシステムアクセス履歴からみたクリニカルクラックシップ評価の試み. 医療情報学 28(Suppl.): 414-417

## 学会発表

1. 畑森浩孝, 仲野俊成, 渡辺 淳, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 高橋伯夫 (2008) 電子カルテシステムアクセス履歴からみたクリニック

ルクラークシップ評価の試み, 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜

## 医療安全管理

## 原著

1. 北村 臣, 石原久美子, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 電子カルテシステム下におけるクリニカルパス運用その後と職員アンケート結果からみた課題. 医療情報学 28(Suppl.): 549-551
2. 仲野俊成, 鶴見由美子, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2008) オーガナイズドセッション2「処方オーダー」処方オーダーエントリーシステムのあるべき姿勢. 医療情報学 28(Suppl.): 241-244

## 総説

1. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 宮崎浩彰, 北出浩章, 松井陽一, 山本智久, 山尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 權 雅憲 (2008) 【癌治療クリニカルパス Update】膵臓癌手術. 外科治療 99(1): 40-47

## 学会発表

1. 仲野俊成, 鶴見由美子, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2008) オーガナイズドセッション2「処方オーダー」処方オーダーエントリーシステムのあるべき姿勢. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
2. 宮崎浩彰, 和西晃寛, 石原久美子, 北村 臣, 廣田美喜子, 西村泰典, 里井壯平, 仲野俊成, 神崎秀陽 (2008) 紙パスと電子パスが関係するインシデント報告に関する検討. 第9回日本クリニカルパス学会学術集会, 大宮
3. 北村 臣, 石原久美子, 西村泰典, 里井壯平, 宮崎浩彰, 仲野俊成 (2008) ワークショップ2 医療従事者の業務分担と職域拡大 電子カルテシステムにおけるクリニカルパス管理とその運用—診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のパス業務負担軽減の試み—. 第9回日本クリニカルパス学会, 大宮

## 処方 総合診療科

## 原著

1. Uchiyama-Tanaka Y, Mori Y, Kosaki A, Kimura T, Moriishi M, Kawanishi H and Matsubara H (2008) Plasma S100A12 concentrations in peritoneal dialysis patients and subclinical chronic inflammatory disease. Ther Apher Dial 12(1): 28-32

## 症例報告

1. 鈴木聡史, 北澤康秀, 岸本真房, 富野敦稔, 山本 透, 田中夏貴, 河本 泉, 今村正之 (2008) 重篤な水様性下痢にて救急外来を受診した膵VIP産生腫瘍の1例. 日臨救急医会誌 11(6): 480-485

## 学会発表

1. 長谷川隆正, 小崎篤志, 城 聡一, 城ひろみ, 野村恵巳子, 田代香織, 浮田千津子, 豊田長興, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 慢性C型肝炎に対してINF $\alpha$ -2b とリバビリン併用療法中に自己免疫性1型糖尿病を発症した1例. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
2. 田代香織, 小崎篤志, 真鍋憲市, 野村恵巳子, 城ひろみ, 城 聡一, 長谷川隆正, 豊田長興, 浮田千津子, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 糖尿病性早期腎症の評価への肝型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の有用性について. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京
3. 田嶋佐和子, 福田正子, 小崎篤志, 木村 穂,

浦上昌也, 岩坂壽二, 西川光重 (2008) 腹囲の減少および HOMA の改善の及ぼす食品群別摂取量の影響～肥満外来における FFQ の結果による検討～. 第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京

4. 豊田長興, 野村恵巳子, 浮田千津子, 田代香織, 城 聡一, 城ひろみ, 長谷川隆正, 小崎篤志, 岩坂壽二, 西川光重 (2008) 甲状腺機能悪化に伴う血糖コントロール悪化に際しイ

ンスリン必要量が1.5倍増加したパセドウ病合併緩徐進行1型糖尿病に1例. 第51回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京

5. 野村恵巳子, 豊田長興, 城 聡一, 城ひろみ, 田代香織, 長谷川隆正, 浮田千津子, 小崎篤志, 西川光重, 岩坂壽二 (2008) 白色脂肪に発現する甲状腺ホルモン活性化酵素に関する検討. 第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会, 東京

## 枚方 輸血部

原 著

1. Furuta RA, Kondo Y, Saito T, Tomita M, Oka K, Kishimoto Y, Tani Y and Shibata T (2008) Transfusions of red blood cells from an occult hepatitis B virus carrier without apparent signs of transfusion-transmitted hepatitis B infection. *Transfus Med* 18(6): 379-381

学会発表

1. 平井雅美, 小宮山豊, 寺内里恵, 大倉ひろ枝, 中西孝尚, 森眞一郎, 田嶋健一郎, 岸本裕司, 福原資郎, 吉賀正亨, 植村芳子, 伊藤量基, 尼川龍一, 高橋伯夫 (2008) 骨髄異形成症候群の臍帯血移植後に発症した TMA における ADAMTS13 活性と破碎赤血球. 第51回日本臨床検査医学会近畿支部総会, 神戸

## 枚方 医療情報部

原 著

1. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 看護師の病院情報トラブルコール分析と継続教育の必要性. *医療情報学* 28(Suppl.): 590-592
2. 北村 臣, 石原久美子, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 電子カルテシステム下におけるクリニカルパス運用その後と職員アンケート結果からみた課題. *医療情報学* 28(Suppl.): 549-551
3. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 中村竜也, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) DWH を活用した抗菌薬適正使用情報抽出の試み. *医療情報学* 28(Suppl.): 450-452
4. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西村泰典, 今村洋二 (2008) 重症部門システムと電子カルテシステムの処置連携導入による

効果. *医療情報学* 28(Suppl.): 386-388

5. 仲野俊成, 鶴見由美子, 宮崎浩彰, 今村洋二 (2008) オーガナイズドセッション2「処方オーダー」処方オーダーエントリーシステムのあるべき姿勢. *医療情報学* 28(Suppl.): 241-244
6. 廣田美喜子 (2008) 記録リンク委員の役割行動と病棟巡回監査の評価. *看護きろくと看護過程* 18(5): 56-59

総 説

1. 廣田美喜子 (2008) 電子カルテの活用・定着のための教育とその実際 (前編). *看護きろくと看護過程* 18(3): 113-118
2. 廣田美喜子 (2008) 電子カルテの活用・定着のための教育とその実際 (後編). *看護きろくと看護過程* 18(4): 55-62

学会発表

1. 西野典宏, 仲野俊成, 北村 臣, 夜野敏明, 西

- 村泰典, 今村洋二 (2008) 重症部門システムと電子カルテシステムの処置連携導入による効果. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
2. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 中村竜也, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) DWHを活用した抗菌薬適正使用情報抽出の試み. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  3. 北村 臣, 石原久美子, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 宮崎浩彰, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 電子カルテシステム下におけるクリニカルパス運用その後と職員アンケート結果からみた課題. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  4. 廣田美喜子, 安田照美, 夜野敏明, 西野典宏, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) 看護師の病院情報トラブルコール分析と継続教育の必要性. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
  5. 石原久美子, 北村 臣, 夜野敏明, 西野典宏, 廣田美喜子, 西村泰典, 仲野俊成, 今村洋二 (2008) パネルディスカッション「診療情報管理士教育の現状と将来」当院での診療情報管理士の新人現場教育について. 第94回近畿病歴管理セミナー, 枚方
  6. 北村 臣 (2008) 近畿病歴管理セミナープロジェクト1-A 胃がん (060020XX0200XX). 第93回近畿病歴管理セミナー, 大阪
  7. 廣田美喜子 (2008) 個人PCのウイルス対策の現状調査. 第34回日本看護研究学会, 神戸
  8. 北村 臣, 石原久美子, 西村泰典, 里井壮平, 宮崎浩彰, 仲野俊成 (2008) ワークショップ2 医療従事者の業務分担と職域拡大 電子カルテシステムにおけるクリニカルパス管理とその運用—診療情報管理士と医療情報技師による医師・看護師のパス業務負担軽減の試み—. 第9回日本クリニカルパス学会, 大宮

### 枚方 健康科学センター

#### 原 著

1. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 稔, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた循環器疾患診断シナリオ／ユースケースに関する検討. 医療情報学 28(Suppl.): 1214-1217
2. 高尾奈那, 上田加奈子, 堤 博美, 宮内拓史, 中山英恵, 田嶋佐和子, 齋藤 瞳, 木村 稔, 岩坂壽二, 齋藤 瞳 (2008) 肥満減量時のインスリン抵抗性の改善度に及ぼす体組成の影響—DEXA法での検討—. 心臓リハ 13(2): 374-376
3. 木村 稔 (2008) 特定健診・特定保健指導で行動変容を成功させる運動・身体活動を増やす. 糖尿診療マスター 6(1): 63-66
4. 佐藤由起子, 田嶋佐和子, 木村 稔 (2008) 特定保健指導の試行的実施—行動科学・性格特性, 自動記録システム効果の検討—. 日遠隔医療会誌 4(2): 365-368
5. 山中 裕, 三宅眞理, 仁木 稔, 西山利正, 田嶋佐和子, 日根かがり, 木下藤寿, 高橋伸佳, 木村 稔 (2008) ヘルスツーリズム「行動変容型旅行」における旅行後のITによる遠隔セルフモニタリングと支援の効果. 日遠隔医療会誌 4(2): 348-350
6. 高尾奈那, 木村 稔, 上田加奈子, 堤 博美, 宮内拓史, 中山英恵, 田嶋佐和子, 齋藤 瞳, 岩坂壽二 (2008) 肥満減量時のインスリン抵抗性の改善度に及ぼす体組成の影響—DEXA法での検討—. 日本心臓リハビリテーション学会誌 13(2): 374-376
7. 木村 稔 (2008) 生活習慣病対策における新しいアプローチ 総論. 臨スポーツ医 25(2): 97-101
8. 木村 稔 (2008) 生活習慣病対策 保健指導のための認知行動療法セミナー: 第1回 基礎編 保健指導のための認知行動療法. 臨スポーツ医 25(10): 1201-1207

## 総説

1. 田嶋佐和子, 木村 穰 (2008) 【スポーツと機能性食品】生活習慣病予防のための運動に対する栄養学的配慮. *Funct Food* 2(3): 288-294
2. 木村 穰 (2008) 呼吸・循環障害のリハビリテーション【心臓リハビリテーションに必要な各種療法 定義とエビデンス 心臓リハビリテーションの安全性確保と緊急時の対応. *J Clin Rehabil* (別冊呼吸・循環障害のリハビリテーション): 249-252
3. 木村 穰 (2008) 【地域医療連携実践ガイドブック 医療連携の地域モデルを疾患別に厳選して収載!】循環器領域 関西メディカルフィットネスネットワーク. *治療* 90 (3月増刊号): 1020-1026
4. 木村 穰 (2008) 【疾患のある人の運動】高血圧由来の脳卒中予防 運動の効果. *体育の科学* 58(8): 536-543
5. 木村 穰 (2008) 【運動と動脈硬化予防】高血圧における運動療法. *動脈硬化予防* 7(2): 9-15
3. 木村 穰, 宮内拓史, 田嶋佐和子, 高尾奈那, 中山英恵, 大倉ひろ枝, 高橋伯夫 (2008) 高分子量アディポネクチンによる運動時脂肪燃焼効果の検討. 第29回日本肥満学会学会, 大阪
4. 岡下さやか, 木村 穰, 岩坂壽二, 上田加奈子, 宮内拓史, 高尾奈那, 中山英恵, 柳田優子, 堤 博美 (2008) レジスタンストレーニングの運動処方による効果—油圧式マシンでの検討—. 第14回日本心臓リハビリテーション学会, 大阪
5. 中山英恵, 木村 穰, 岩坂壽二, 佐野睦夫, 平尾 淳, 家村真理子, 堤 博美 (2008) 冠危険因子としての骨格筋内脂肪評価の検討. 第14回日本心臓リハビリテーション学会, 大阪
6. 岡下さやか, 木村 穰, 柳田優子, 中山刃英恵, 高尾奈那, 宮内拓史, 上田加奈子, 堤博美, 岩坂壽二 (2008) 心臓再同期療法 (CRT) にて運動負荷時換気応答異常 (Oscillation) が著名に改善した1例. *臨床運動療法研究会*, 埼玉県所沢
7. 柳田優子, 木村 穰, 岡下さやか, 中山英恵, 高尾奈那, 堤 博美, 宮内拓史, 上田加奈子, 岩坂壽二 (2008) ウォーキングチェックシートによる歩行指導効果の検討. *臨床運動療法研究会*, 埼玉県所沢

## 学会発表

1. 竹花一哉, 岩坂潤二, 小山武彦, 平井正明, 木村 穰, 仲野俊成, 岩坂壽二, 渡辺 淳 (2008) 医用波形標準化記述規約 (MFER) を用いた循環器疾患診断シナリオ/ユースケースに関する検討. 第28回医療情報学連合大会 (第9回日本医療情報学会学術大会), 横浜
2. 堤 博美, 木村 穰, 上田加奈子, 高尾奈那, 橋本朋子, 岩坂壽二 (2008) 形態、強度の異なる運動が血管スティフネスに及ぼす急性効果の検討. 第19回日本臨床スポーツ医学会, 千葉
8. 中山英恵, 堤 博美, 木村 穰, 江草 豪, 山本浩司 (2008) 高気圧酸素療法による脂肪燃焼効果の検討. 第18回関西臨床スポーツ医・科学研究会, 大阪
9. 堤 博美, 木村 穰, 上田加奈子, 高尾奈那, 宮内拓史, 田嶋佐和子 (2008) 体力指標からみた若年者でのインスリン抵抗性の検討. 第22回日本体力医学会近畿地方会, 大阪

## 男山 内科

## 総説

1. 塚口裕康, 北村明子 (2008) ネフローゼ症候群: 最新の知見 ネフローゼ症候群責任遺伝子の探索. *腎と透析* 64(6): 887-901
2. 小糸仁史 (2008) 【肺動脈性肺高血圧症 基礎研究と臨床の進歩】検査・診断法の進歩 確定診断 画像検査診断 CT/MRI 検査. *日臨* 66(11): 2114-2123

## 男山 小児科

### 症例報告

1. 端 里香, 中村彰利, 杉本健郎, 野田幸弘, 金子一成 (2008) 11年間経過観察を行っていた重

急性硬化性全脳炎の1例 経時的脳波変化の検討. 臨脳波 50(3): 184-189

## 男山 外科

### 総説

1. 里井壯平, 柳本泰明, 豊川秀吉, 道浦 拓, 宮崎浩彰, 北出浩章, 松井陽一, 山本智久, 山

尾 順, 金 成泰, 廣岡 智, 權 雅憲 (2008) 【癌治療クリニカルパス Update】膵臓癌手術. 外科治療 99(1): 40-47

## 男山 整形外科

### 原著

1. Taniguchi S, Kimura J, Yamada T, Ichikawa H, Hara M, Fujisawa R, Shimizu H and Tani T (2008) Effect of motion imagery to counter rest-

induced suppression of F-wave as a measure of anterior horn cell excitability. Clin Neurophysiol 119(6): 1346-1352

## 男山 耳鼻科

### 原著

1. Arai S, Harada N, Kubo N, Shen J, Nakamura A, Ikeda H, Tsuji H and Yamashita T (2008) Induction of inducible nitric oxide synthase and apoptosis by LPS and TNF- $\alpha$  in nasal microvascular endothelial cells. Acta Otolaryngol 128(1): 78-85
2. Guo K, Inaba M, Li M, An J, Cui W, Song C, Wang J, Cui Y, Sakaguchi Y, Tsuda M, Omae M, Ando Y, Li Q, Wang X, Feng W and Ikehara S (2008) Long-Term Donor-Specific Tolerance in Rat Cardiac Allografts by Intrabone Marrow Injection of Donor Bone Marrow Cells. Transplantation 85(1): 93-101
3. 今野昭義, 久保伸夫 (2008) 花粉症治療における第2世代抗ヒスタミン薬の患者満足度と受療意識の向上—大規模花粉症患者アンケート調査からみた薬剤選択—. Prog Med 28(9): 2285-2296

4. 久保伸夫 (2008) 耳鼻咽喉科領域からのレポート 自臭症診療に有用な無臭ガス測定. アポロニア21 (177): 076-079
5. 清水順一, 宗本由美, 久保伸夫 (2008) 耳鼻咽喉科領域における, においガス測定とその意義 特に, 自臭症診療に有用なガス測定器について. 口鼻臭臨研会記録集 (2): 34-38

### 総説

1. 久保伸夫 (2008) 感覚異常疾患における患者とのコミュニケーション. 耳鼻臨床 101(7): 560-561
2. 久保伸夫 (2008) 【小児耳鼻咽喉科をめぐる最近の話題】小児耳鼻咽喉科疾患治療の最前線 鼻閉への対応. 小児診療 71(10): 1735-1740
3. 久保伸夫 (2008) 【花粉症の最新情報】花粉症の治療 外科的療法. 日医師会誌 136(10): 1990-1991

## 関西医科大学雑誌業績目録集記載要領

1. 最初に研究概要（4000字以内）、続いて、原著・総説・学会発表・著書に分け、これらを英文、邦文の順に記載する。
2. 学会発表は全国規模の学会、または国際学会に限る。
3. 雑誌名の省略は、欧文誌は Index Medicus に、和文誌は医学中央雑誌による。その他、下記の例に従う。
4. 用紙は A4 を使用し、見やすいように行間をあける。

### 例

#### 原 著

1. Nakagawa H, Kiyozuka Y, Uemura Y, Senzaki H, Shikata N, Hioki K and Tsubura A (2001) Resveratrol inhibits human breast cancer cell growth and may mitigate the effect of linoleic acid, a potent breast cancer cell stimulator. *J Cancer Res Clin Oncol* 127: 258–264
2. 楊 継紅, 義澤克彦, 中川宏之, 四方伸明, 螺良愛郎 (2001) 周生期 genistein 暴露による ICR マウス乳腺病変への影響. *乳癌基礎研* 10: 7–11

#### 総 説

1. 螺良愛郎, 四方伸明, 仙崎英人, 植村芳子 (2001) 乳腺脂質分泌癌. *病理と臨* 19: 496–499

#### 学会発表

1. Nambu H, Yamada H, Kiuchi K, Matsumura M, Yoshizawa K and Tsubura A (2001) Light inhibition reduces MNU—induced photoreceptor apoptosis. ARVO, Fort Lauderdale, Florida
2. 仙崎英人, 四方伸明, 植村芳子, 清塚康彦, 上田 恵, 螺良愛郎 (2001) 悪性抹消神経鞘腫を多発した神経線維腫症 1 型の一例. 第 90 回日本病理学会, 東京

#### 著 書

1. Mori K, Shingu K, Nakao S (2000) Brain Death. In *Anesthesia* 5th ed (Miller, RD ed) Chapter 76: pp 2560–2573, Churchill Livingstone, Philadelphia
2. 安田勝彦, 神崎秀陽 (2001) 子宮内膜の組織学と生理的变化. *新女性医学大系* 第 1 巻 (藤井信吾編) 103–121 頁, 中山書店, 東京

平成 20 年 (2008) 年 1 月 1 日より、同年 12 月 31 日迄の間に印刷に附せられた業績とするが、それ以前のもので先に刊行された業績目録集 (関西医科大学雑誌第 60 巻第 1 号) に記載もれのものも含む。

## 投 稿 規 定

1. 投稿者は原則として会員に限る。ただし原稿の採否および会員以外の投稿については編集委員に委任する。
2. 原稿の内容は綜説・原著・臨床・症例・経験・速報・業績抄録・寄稿・その他とし特に紙数を制限しない。
3. 原稿は他の雑誌などに未掲載のものに限る。
4. 投稿論文の採否・掲載順位・印刷方法・体裁は編集委員会において決定する。
5. 原著・臨床・症例・経験については必ず欧文抄録を添付する。その他の原稿についても編集委員が必要と認めた場合は欧文抄録の提出を依頼することがある。
6. 原稿の執筆はつぎの要領に従う。
  - a. 原稿は青または黒で楷書、横書きとし、常用漢字、新かなづかいを用いる。欧語はすべて活字体とし、日本語で書く場合にはかたかなを用いる。
  - b. ワードプロセッサを使用する場合は、B5またはA4の大きさの用紙に字間および行間をあけて20字×20行で記すこと。
  - c. 論文の記載順序は①表題②著者名③所属④内容要旨(600字以内)⑤Key Words(5語以内)⑥本文(原著の場合は原則として緒言・材料と方法・成績・考察・結論の順)⑦文献⑧図表およびその説明⑨英文抄録とする。
  - d. 学術用語、諸単位は各学会所定のものに従い、数字は算用数字、数量の単位は下記による。  
m, cm, mm, l, ml, kg, g, °C, %など。
  - e. 表・図・写真などは鮮明なものでなければならない。その種類別の一連番号を記入する。  
表・図・写真は別紙に記入もしくは貼付し、説明をつけて本文原稿の最後にまとめる。アート紙希望のものはその旨記入する。本文の欄外にそれらの挿入箇所を指定する。
  - f. 引用文献は最後に一括し、下の順序に従って書く。  
雑誌については、  
著者名(共著者のある場合は全名を記載する)：

表題、雑誌名(正規の略名)巻数：初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 藤田達士：細胞外液をめぐる諸問題。麻酔、17：1108-1119, 1968.

例 Magoun, H. W.: The ascending reticular activating system. Res Ass Nerv ment Dis, 30: 480-492, 1951.

単行本については、

著者名：表題、書名(編者名)、版数、巻数、発行社名、発行地名、初頁—終頁、西暦年次、とする。

例 木村 淳：神経刺激法と誘発電位。誘発電位と筋電図—理論と応用、医学書院、東京、pp 115-219, 1990.

例 Marty, A. and Neher, E.: Tight-seal whole—cell recording. Single—Channel Recording (Sakmann, B. and Neher, E. eds.), Plenum Press, New York, pp 107-122, 1983.

g. 英文抄録の記載順序は、表題、氏名、所属、内容要旨(500語以内)とする。英文は専門的知識のある人の校正を経たものでなければならない。

7. 原稿の提出は編集委員宛とし、受付順に掲載するのを原則とする。
8. 原稿は原著3部、その他の論文は2部を提出する。
9. 著者による校正は原則として2回とする。校正に際して組版面積に影響を与える改変や極端な組替えは許されない。
10. 原稿の届け先は下記とする。

〒570-8506 大阪府守口市文園町10番15号  
関西医科大学内  
関西医科大学医学会編集委員会宛  
電話 (06) 6992-1001 (大代表)

### 掲載料について

原著及び症例報告等の投稿については、投稿料が必要であるが、その他のものについては原則として無料とする。

1. 和文普通組、欧文、文献組、組表、トレース、凸版、写真版(カラーを含む)等はすべて時価(実費負担)とする。
2. 別刷は30部まで贈呈、それ以上は実費負担。
3. 学内会員については、各頁につき、和文500円、欧文800円の割引を行う。

編集委員 (ABC順)

足立 靖, 藤澤 順一, 稲葉 宗夫, 稲垣 隆介,  
木下 利彦, 中井 吉英, 緒方奈保子, 岡崎 和一,  
高屋 淳二, 螺良 愛郎, 山田 久夫, 山内 康雄  
会費 年間 3,000円

関西医科大学雑誌

第61巻 第1号

平成21年3月16日印刷

平成21年3月21日発行

編集発行所

〒570-8506 大阪府守口市文園町10番15号

関西医科大学医学会

TEL 06-6992-1001 内2216

FAX 06-6992-1409

igakkai@takii.kmu.ac.jp

<http://www3.kmu.ac.jp/igakukai/>

印刷：中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

TEL 075-441-3155 (代)

FAX 075-417-2050

<http://www.nacos.com>